

成塚石橋遺跡

一級河川蛇川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

1988

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

成塚石橋遺跡

一級河川蛇川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 I

1988

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



錐形土製品
89号住居埋没土層



古墳時代中期の土器組成 39号住居

序

太田市は、高崎市・前橋市とともに群馬県の古墳文化が花開いた地として以前よりよく知られた地域であります。東国最大規模を誇る国指定史跡の天神山古墳、国重要文化財である葬送儀礼の埴輪を伴う塚廻り古墳群などが物語るように古代東国的一大中心地であります。

蛇川は八王子丘陵や大間々扇状地からの水流を集め、太田市西部を南北に縦断するように流れています。流路沿いには古墳時代から奈良・平安時代にかけての大集落が検出されています。太田市北部に企業局が計画した成塚住宅団地の造成に先行する発掘調査でも、古墳時代中期の居館址と古墳時代から奈良・平安時代にかけての大集落が発見されています。古代の人々にとって、住み良い場所だったのでと思われます。

この団地造成に並行して県土木部により蛇川の河川改修工事が計画され、この地域の埋蔵文化財の発掘調査を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が昭和61・62年度に実施しました。この調査でも古墳時代中期から奈良・平安時代にかけての100軒余の竪穴住居や土坑、溝等が検出されました。

ここに報告しますのはその成果の一部ですが、発掘調査、整理事業にご協力、ご指導を賜りました県教育委員会文化財保護課、県土木部河川課、並びに関係各位に感謝申し上げるとともに、直接事業に取り組まれた方々の労をねぎらいます。本書が群馬県の原始古代社会の究明に役立てられ、かつ県民の歴史学習資料として活用されることを願いつつ序といたします。

昭和63年12月24日

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は、一級河川蛇川河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書「成塚石橋遺跡」の第一集である。
2. 成塚石橋遺跡は、群馬県太田市成塚字石橋107-2、3、4、7番地他、字川向43-6番地他、字明神前108、109-1番地他、諏訪993、994番地他に所在する。
3. 発掘調査は、群馬県土木部河川課の委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 調査を実施した期間は次の通りである。

調査は、昭和61年度末から昭和62年度前半の2ヶ年度に亘って実施した。

発掘調査 昭和62年2月16日～昭和62年6月30日

整理作業 昭和62年7月1日～昭和63年3月31日

5. 調査組織は次の通りである。

事務担当 白石保三郎、井上唯雄、松本浩一、田口紀雄、上原啓己、定方隆史、住谷進、神保脩史、徳江紀、巾隆之、国定均、笠原秀樹、須田朋子、小林昌嗣、吉田有光、柳岡良宏、野島のふ江、並木綾子、今井もと子、松井美智子、大沢美佐保、大島敬子、小野沢春美

調査担当 昭和61年度 相京建史((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団主任調査研究員)
小島敦子(同 調査研究員)
松村和男(同 上)
昭和62年度 相京建史
麻生敏隆((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)
松村和男

6. 本書作成の担当者は次の通りである。

編 集 小島敦子

本文執筆 徳江紀、相京建史、麻生敏隆、松村和男、小島敦子

遺構写真 相京建史、麻生敏隆、松村和男

遺物写真 佐藤元彦((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)

遺物観察 小島敦子、新井悦子

遺物実測 新井悦子、新谷さか江、高橋とし子、大川明子、長谷川春美、笹尾ヨシ子

図版作成 ((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)、株式会社測研

7. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏より御助言、御協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略・五十音順)

群馬県企業局東毛開発事務所、太田市教育委員会

赤山容造、宮塚義人、小林秀次、小笠原良人

8. 出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財センターに保管してある。

9. なお調査にあたって、作業に従事し、また多くの便宜を図っていただいた地元の方々に記して感謝いたします。

凡 例

1. 本書の挿図に入れた方位記号は座標北を表す。
2. 平面図測量にあたって、5 mグリッドを設定した。グリッドの座標は西側へ広がる63年度調査区も含めているので、北西から南西方向に数字の50から95、南西から北東方向へアルファベットのJからOの記号を用いている。5 m四方のグリッドを呼称するとき、西隣の座標を使用した。

なお、調査に使用したグリッド基準線と国家座標との偏角は45°53'15"である。

3. 本書で使用した地形図は以下の通りである。

図1 国土地理院20万分の1「長野」「宇都宮」

図2 国土地理院2.5万分の1「上野境」「桐生」

4. 今回の調査の原因である河川工事は、隣接する成塚住宅団地の造成工事に関連して計画されたものである。住宅団地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査は県企業局によって同時に実施され、発掘調査区も隣接している。特にM-68-77グリッドの幅3 mの部分は、住宅団地内の調査区(道路部分)であるが、狭い範囲で遺構を分割することは、遺構の内容把握に混乱を来すと考えられるので、本報告書では企業局より資料の提供を受け、併載した。

また、企業局調査区と隣接する部分で重複する遺構のうち、企業局調査分は住居Noの頭にAHを冠した企業局調査時の記号をそのまま用いている。

5. 遺構の記述は、住居、溝、井戸については遺構毎に、土坑は形態分類毎に行っている。

住居の記述 位 置 先述したグリッドであらわしている。

主軸方位 カマドを通り、両側の壁に平行な軸線を想定して、北または南からの偏角であらわしている。

重 複 遺構の新旧関係を中心に述べている。

規 模 主軸方向を縦として、それに直行する方向を横として、上端から下端までの長さを1:20の実測図から計測した。深さは遺構確認面からの壁高である。

埋 没 土 主な挟雑物と、主たる土層の色調、土質を中心に記述している。

掘 り 方 いわゆる床下の構造を記載した。住居構築にあたって最初に掘り込んだ形態がわかるものについて、床面の様子などを中心に記述している。また、床面をつくるための充墳土についても土層の特徴を記述した。

床 面 床面の状況を記述している。特に硬化面の有無や範囲に注意した。

貯蔵穴・周溝・柱穴 それぞれの検出の有無と、位置、規模などを中心に記述した。

遺物出土状態 図示できた遺物の出土状態の概略と、加えて埋没土中の遺物出土状態などの図示できなかった部分に注意して記述した。

カマド カマドを一つの遺構と考え、住居と同じ項目をたてて記述した。
備考 住居に伴うと考えられる遺物から、住居の使用年代を推定している。この時の年代決定は坂口一氏・三浦京子氏の年代観を参考にした。(文献1)

溝・井戸の記述 特別な項目をたてず、位置・規模・出土遺物などについて記述している。特に溝については自然流路かどうかの判断や、溝底面の傾斜などについても記載した。

6. 遺物の記述については、遺物観察表にまとめた。観察基準および各記号は以下の通りである。

- 1) 番号は挿図に付している番号に一致する。
- 2) 項目欄の「口・底・高・類・調」はそれぞれ口径・底径・器高・頸部径・胴部最大径をあらわす。
- 3) 出土位置は上欄に平面的位置、下欄に床面からの比高をあらわした。埋没土中に含まれたものは、その旨のみ記入した。
- 4) 胎土は、相対的にみて特に緻密なものはその旨を記した。また、挟雑物は、その種類を記し、粒度はウェントフォースの粒径区分を用いてあらわした。
- 5) 色調は、「新版標準土色帖」を用いて記載した。
- 6) 焼成は、酸化還元元かを重点に記載しているが、土師器については「酸化焙焼成」の記載を省略している。また、相対的に特に硬質あるいは軟質のものはその旨記載した。さらに内黒やいぶしなどの焼成技法にかかる特徴は、本欄に記載している。
- 7) 成・整形の特徴は、その単位と順序の観察を重点にした。本欄の記述は整形の順序を追って記載している。断面観察は不十分な部分があるが、つとめて図化している。

目 次

序

例言

凡例

I 発掘調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯…………… 3
2. 遺跡の位置と周辺の考古学的環境…………… 5
3. 発掘調査の方法と経過…………… 8
4. 基本層序……………10

II 検出された遺構と遺物

1. 遺構の重複……………11
 - (1)重複する住居群……………11
 - (2)溝と井戸の重複……………20
2. 住居跡……………21
3. 土 坑 ……………199
4. 溝 ……………215
5. 井 戸 ……………235
6. 遺構外の出土遺物 ……………239

III 調査の成果と今後の課題

1. 周辺の地形と遺跡 ……………240
2. 成塚遺跡群の分析に向けて ……………240
3. 出土遺物について ……………241

参考文献

写真図版

付図

挿図目次

図 1	群馬県の地勢と成塚石橋遺跡の遺跡	3	図 60	32号住居	71
2	遺跡の位置と周辺の遺跡	5	61	32号住居の出土遺物	72
3	改修工事と発掘調査区	8	62	33号住居	73
4	遺跡の基本層序	10	63	33号住居の出土遺物	73
5	重複遺構群の位置	11	64	34号住居	74
6	重複遺構群A・Bと埋没土層	12	65	34号住居の出土遺物	75
7	重複遺構群Cと埋没土層(1)	14	66	35号住居のカマドと出土遺物(1)	77
8	重複遺構群Cの埋没土層(2)	15	67	35号住居と出土遺物(2)	78
9	重複遺構群Cの埋没土層(3)	16	68	36号住居と出土遺物	79
10	重複遺構群Dと埋没土層(1)	17	69	37号住居とカマド	81
11	重複遺構群Dと埋没土層(2)	18	70	37号住居の出土遺物	82
12	1号住居のカマド	21	71	38号住居	84
13	1・2・5号住居	22	72	38号住居の出土遺物	84
14	1号住居の出土遺物	23	73	39号住居	86
15	2号住居の出土遺物	24	74	39号住居のカマド	87
16	5号住居のカマド	26	75	39号住居の出土遺物(1)	88
17	5号住居の出土遺物	27	76	39号住居の出土遺物(2)	89
18	3・4号住居	29	77	39号住居の出土遺物(3)	90
19	3号住居のカマド	30	78	39号住居の出土遺物(4)	91
20	4号住居の出土遺物	31	79	40号住居	95
21	6号住居	32	80	40号住居の出土遺物	96
22	6号住居の出土遺物	33	81	41号住居	96
23	7号住居	34	82	41号住居の出土遺物	97
24	7号住居の出土遺物	35	83	43号住居と出土遺物	99
25	8号住居と出土遺物	36	84	44号住居と出土遺物	100
26	9号住居	37	85	45・46号住居と出土遺物	101
27	9号住居カマド	38	86	47号住居の出土遺物	102
28	9号住居出土遺物	38	87	47・48号住居	103
29	10号住居	39	88	48号住居の出土遺物	104
30	10号住居と出土遺物	40	89	49号住居	105
31	11・12号住居と11号住居の出土遺物	42	90	49号住居の出土遺物	107
32	12号住居の出土遺物	43	91	50号住居のカマドと出土遺物	109
33	13号住居と出土遺物	44	92	51号住居と出土遺物	111
34	14・15号住居と出土遺物	45	93	52号住居の変遷	113
35	16号住居のカマドと出土遺物	47	94	52号住居のカマド	114
36	17号住居	48	95	70号住居のカマド	115
37	17号住居の出土遺物	48	96	52・52B・70号住居の出土遺物	116
38	18号住居のカマドと出土遺物	50	97	53・59号住居	117
39	19号住居とカマド	52	98	53号住居の出土遺物	118
40	19号住居の出土遺物	53	99	59号住居の出土遺物	119
41	20号住居	54	100	54号住居とカマド	120
42	20号住居の出土遺物	55	101	54号住居の出土遺物	121
43	21号住居とカマド	57	102	55号住居とカマド	122
44	21号住居の出土遺物	58	103	55号住居の出土遺物	123
45	22号住居	58	104	56号住居とカマド	124
46	22号住居の出土遺物	59	105	56号住居の出土遺物	125
47	23号住居	60	106	57号住居とカマド	126
48	23号住居の出土遺物	60	107	57号住居の出土遺物	127
49	24・25号住居	61	108	58号住居と出土遺物	129
50	24・25号住居の出土遺物	62	109	61号住居	130
51	26号住居	63	110	61号住居の出土遺物	131
52	27号住居	63	111	62号住居	133
53	27号住居の出土遺物	64	112	62号住居の出土遺物	134
54	28号住居	65	113	63号住居	135
55	28号住居の出土遺物	66	114	63号住居の出土遺物	136
56	29号住居	67	115	64号住居	138
57	29号住居の出土遺物	68	116	64号住居の出土遺物	138
58	30号住居と出土遺物	69	117	65号住居と出土遺物	140
59	31号住居の出土遺物	71	118	66号住居	141

図 119	66号住居の出土遺物	142
120	68号住居	143
121	68号住居の出土遺物	143
122	71号住居	144
123	71号住居の出土遺物	145
124	74号住居	145
125	74号住居の出土遺物	146
126	75号住居と出土遺物	147
127	77号住居	148
128	77号住居の出土遺物	149
129	78号住居と出土遺物	151
130	79号住居と出土遺物	152
131	80号住居	153
132	80号住居の出土遺物	154
133	81号住居と出土遺物	155
134	82号住居と出土遺物	158
135	83号住居	159
136	83号住居の出土遺物	160
137	84号住居	161
138	84号住居の出土遺物	162
139	85号住居と出土遺物	165
140	86号住居	166
141	86号住居の出土遺物	167
142	87号住居	169
143	87号住居の出土遺物	170
144	88号住居	171
145	88号住居の出土遺物	172
146	89号住居の出土遺物	172
147	89号住居	173
148	90号住居	174
149	91号住居	175
150	91号住居の出土遺物	176
151	92号住居と出土遺物	177
152	93号住居と出土遺物	179
153	94号住居	180
154	94号住居の出土遺物(1)	181
155	94号住居の出土遺物(2)	182
156	95号住居と出土遺物	184
157	96号住居と出土遺物	185
158	97号住居	186
159	98・99号住居	187
160	98号住居の出土遺物	188
161	99号住居の出土遺物	189
162	100号住居と出土遺物	191
163	101号住居	192
164	101号住居の出土遺物	193
165	102号住居と出土遺物	194
166	103号住居と出土遺物	195
167	104号住居	196
168	105号住居	197
169	105号住居の出土遺物	198
170	土坑の分類	199
171	A類の土坑(1)	202
172	A類の土坑(2)	203
173	A類の土坑(3)	204
174	A類の土坑(4)	205
175	A類の土坑(5)	206
176	B類の土坑	207

図 177	C類の土坑	208
178	D類の土坑(1)	209
179	D類の土坑(2)	210
180	E類の土坑(1)	212
181	E類の土坑(2)	213
182	土坑の出土遺物	213
183	1号溝	215
184	2～11号溝	215
185	12・14～16号溝	217
186	13号溝	220
187	17号溝	221
188	20～22号溝	223
189	溝の出土遺物(1) 1～13号溝	224
190	溝の出土遺物(2) 17号溝	227
191	溝の出土遺物(3) 17号溝	229
192	溝の出土遺物(4) 17号溝	230
193	溝の出土遺物(5) 20号溝	232
194	1号井戸	234
195	2・4号井戸	235
196	3・5号井戸	236
197	井戸の出土遺物	236
198	遺構外の出土遺物	237

写真図版目次

PL 1	1. 免掘区遺景 治良門横敷から東を望む 2. 免掘区全景 東南から		
PL 2	1. 免掘区全景 北から 2. 企業局調査区を望む		
PL 3	1. 1・2・5号住居全景 西から 2. 1号住居カマド 3. 1号住居全景 4. 5号住居カマド 5. 5号住居貯蔵穴遺物出土状態	PL14	1. 39号住居全景 2. 39号住居カマド 3. 39号住居カマド周辺 4. 39号住居家隅遺物出土状態 5. 39号住居南隅遺物出土状態
PL 4	1. 1号住居遺物出土状態 2. 3号住居カマド 3. 3・4号住居全景 4. 4号住居全景 5. 4号住居貯蔵穴	PL15	1. 40号住居全景 2. 41号住居全景 3. 41号住居周辺の遺構分布 4. 43号住居全景 5. 44号住居全景 6. 45号住居全景 7. 46号住居全景 8. 47・48号住居全景
PL 5	1. 6号住居全景 2. 7号住居全景 3. 8号住居全景	PL16	1. 49・60号住居全景 2. 49号住居カマド 3. 50号住居全景 4. 50号住居カマド 5. 51号住居全景 6. 51号住居カマド 7. 52号住居全景 8. 52号住居カマド
PL 6	1. 8号住居遺物出土状態 2. 9号住居全景 3. 9号住居カマド 4. 9号住居掘り方 5. 9・10号住居周辺の遺構分布 6. 10号住居全景 7. 10号住居カマド 8. 13号住居全景	PL17	1. 52B号住居全景 2. 52号住居掘り方 3. 53・59号住居全景 4. 53号住居カマド 5. 54・56号住居全景 6. 54号住居カマド 7. 54号住居掘り方と56号住居 8. 56号住居全景
PL 7	1. 11・12号住居全景 2. 14号住居全景 3. 15号住居全景 4. 16号住居カマド 5. 16号住居全景	PL18	1. 55号住居全景 2. 55号住居カマド 3. 55号住居掘り方光燐土 4. 55号住居掘り方 5. 56号住居カマド 6. 55号住居カマド掘り方 7. 57号住居カマド 8. 57号住居掘り方
PL 8	1. 17号住居全景 2. 18号住居全景 3. 18号住居全景 4. 18号住居全景 5. 18号住居床面遺物出土状態	PL19	1. 57号住居全景 2. 58号住居全景 3. 59号住居全景 4. 61・67号住居全景 5. 61・67号住居掘り方
PL 9	1. 19号住居全景 2. 19・20号住居重複土層 3. 20号住居全景 4. 20号住居カマド 5. 21号住居全景 6. 21号住居カマド 7. 22号住居全景 8. 22号住居掘り方	PL20	1. 61号住居カマド 2. 62号住居カマド 3. 62・73号住居全景 4. 62・73号住居掘り方 5. 63号住居
PL10	1. 23号住居カマド 2. 24・25号住居全景 3. 2425号住居掘り方 4. 26号住居全景 5. 28号住居全景	PL21	1. 64号住居全景 2. 64号住居カマド 3. 65号住居全景 4. 66号住居全景 5. 68号住居全景 6. 68号住居掘り方 7. 70号住居カマド 8. 70号住居掘り方
PL11	1. 29号住居 2. 29号住居カマド 3. 30号住居全景 4. 32号住居全景 5. 33号住居全景		
PL12	1. 34号住居全景 2. 34号住居周辺の遺構分布 3. 34号住居掘り方 4. 35号住居全景 5. 35号住居カマド		
PL13	1. 36号住居全景		

PL22	1. 71号住居カマド 2. 71号住居周辺の遺構分布 3. 75号住居全景 4. 75号住居カマド 5. 77号住居全景	17・18・19号土坑・52号土坑・67号土坑 13号土坑・21号土坑
PL23	1. 78号住居カマド 2. 79号住居全景 3. 80号住居全景 4. 81号住居全景 5. 83号住居全景 6. 81号住居遺物出土状態 7. 82号住居全景 8. 82号住居カマド	PL35 E類土坑の埋没土断面と全景 (1) 1号土坑・14号土坑・20号土坑・51号土坑 21号土坑
PL24	1. 84号住居全景 2. 84号住居カマド 3. 85号住居全景 4. 85号住居カマド 5. 86号住居全景 6. 87号住居全景 7. 88号住居全景 8. 89号住居全景	PL36 54号土坑・59号土坑・57号土坑・58号土坑 PL37 1. 1～5号溝全景 2. 3～5号溝全景 3. 10号溝埋没土断面 4. 14・15号溝全景
PL25	1. 90号住居全景 2. 91号住居全景 3. 92号住居全景 4. 93号住居全景 5. 94号住居全景 6. 94号住居遺物出土状態 7. 95号住居全景 8. 96号住居全景	PL38 1. 12号溝全景 2. 13号溝埋没土断面 3. 13号溝全景 4. 17・18号溝全景
PL26	1. 97・98号住居全景 2. 99・103号住居全景 3. 100号住居全景 4. 103号住居遺物出土状態 5. 102号住居全景 6. 104号住居全景 7. 105号住居全景 8. 105号住居全景	PL39 1. 17号溝埋没土断面 2. 17号溝遺物出土状態 3. 19号溝埋没土断面 4. 20号溝埋没土断面 5. 20・21号溝全景 6. 22号溝全景
PL27	A類土坑の埋没土断面と全景 (1) 11号土坑・23号土坑・15号土坑・24号土坑・ 25号土坑・26号土坑・32号土坑埋没土	PL40 1. 1号井戸全景 2. 1号井戸埋没土断面 3. 2・4号井戸 4. 3号井戸埋没土断面 5. 3号井戸全景
PL28	A類土坑の埋没土断面と全景 (2) 27号土坑・32号土坑・33号土坑・34号土坑 33号土坑	PL41 1・4・5・6・7号住居出土遺物 PL42 7・8・9・10・11・14・17号住居出土遺物 PL43 18・19・20・21・22・23・27・28号住居出土遺物 PL44 28・29・30・34・35・37号住居出土遺物 PL45 37・38・39号住居出土遺物 PL46 39・41・43・48号住居出土遺物 PL47 48・49・50・51・52号住居出土遺物 PL48 54・55・56・57・59・60・61号住居出土遺物 PL49 62・63・64・66・68号住居出土遺物 PL50 74・77・78・81・82・83号住居出土遺物 PL51 84・85・86・87・89号住居出土遺物 PL52 91・82・94・95・96・99号住居出土遺物 PL53 99・100・101・102・103・105号住居出土遺物 PL54 21・23・32・42・51・71・74号土坑出土遺物 1・3・5・12・13・17号溝出土遺物
PL29	存在するA類土坑 A類土坑の埋没土断面と全景 (3) 35号土坑・36号土坑・37号土坑・60号土坑 5号土坑・50号土坑	PL55 17・20号溝出土遺物 PL56 1号井戸出土遺物・遺構外の出土遺物
PL30	A類土坑の埋没土断面と全景 (4) 53号土坑・56号土坑 B類土坑の埋没土断面と全景 (1) 1号土坑	
PL31	B類土坑の埋没土断面と全景 (2) 2号土坑・3号土坑・7号土坑・30号土坑	
PL32	C類土坑の埋没土断面と全景 8号土坑・16号土坑・29号土坑・28号土坑	
PL33	D類土坑の埋没土断面と全景 (1) 6号土坑・9号土坑・10号土坑・18号土坑	
PL34	D類土坑の埋没土断面と全景 (2)	

成塚石橋遺跡

I 発掘調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯

太田市北部、八王子丘陵の西を南流する岡登用水と、同丘陵の東から南へ回りこむように南下する用水(通称新田堀)が、成塚の東武桐生線治良門橋駅西で合流する。そこを基点とする蛇川はそのまま南流し、太田市街地の西辺をかすめ、石田川と合流し、利根川に入る。

成塚の地は、二つの用水の集水地であることから、大雨により水があふれることが多く、治水対策上河川改修が要望されていた。今回、群馬県企業局が成塚に住宅団地造成を行うことになり、それに合わせ住宅団地関連工事として河川改修が行なわれることになった。そのため、蛇川基点を岡登用水の藪塚本町境付近までさかのぼらせ、一級河川蛇川河川改修工事として、治良門橋駅北側延長50mの区間の河川拡幅が県土木部河川課で計画された。

当地域は、周知の埋蔵文化財包蔵地であるため、昭和60年8月、群馬県教育委員会文化財保護課は、住宅団地造成に先立ち、対応を太田市教育委員会と協議するように河川課に指示した。その結果、造成地内の埋蔵文化財については記録保存の方針のもと、企業局と太田市教育委員会が発掘調査を行うことになった。

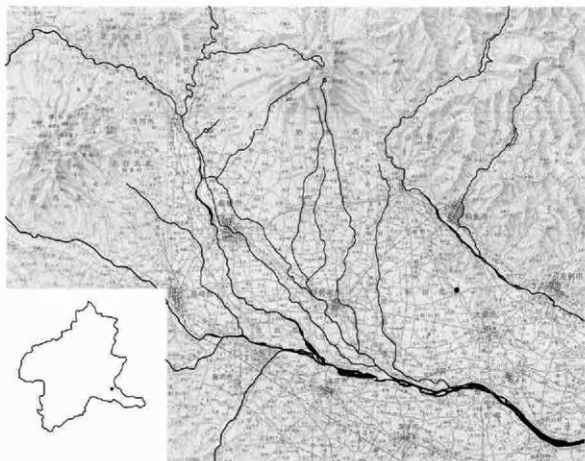


図1 群馬県の地勢と成塚石橋遺跡の遺跡

0 20km

1 発掘調査の経過

一方、造成地の南西部に隣接する蛇川河川改修区間についても、県文化財保護課は記録保存を行うこととし、河川課、太田土木事務所、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団と埋蔵文化財の取り扱いを協議し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を担当することになった。昭和62年2月12日、県文化財保護課を通じて河川課より依頼があり、同年2月16日、依頼契約を締結した。契約にあたっては次のことが確認された。

(1) 改修工事

名称 一級河川蛇川河川改修工事事業

区間 太田市大字成塚字川向42番地の11から北西に500m、5～18mにわたって拡幅する。

面積 約7,500㎡

期間 昭和61年度～昭和64年度

工程 昭和61年度は用地買収・埋蔵文化財発掘調査・その他を行い、以後順次工事を進め、昭和64年度住宅団地の完成とともに河川改修工事も終了する。

(2) 埋蔵文化財の調査

①調査は、昭和61年度～昭和63年度にわたって実施する。

②昭和62年3月1日より下流部約4,000㎡から調査を開始し、順次上流部に移行する。

③調査事務所の設置・排土置場・作業員確保等の問題は、関係機関と協力し調整する。

④整理事業については、別途協議する。

⑤本事業の委託者は河川課、工事担当は太田土木事務所である。

昭和62年3月、調査区間の中央部1,500m部分から昭和61年度調査を開始した。表土除去のうえ、住居跡11、旧河川流路その他を確認し、そのうち住居跡8、土坑10の調査を実施して、昭和62年度の調査に継続することとした。

昭和62年度は、61年度に引き続き中央部から東に調査を進め、61年度分と合わせて約4,000㎡の調査を終了した。遺構は住居跡だけでも97軒と予想以上の密集度であった。この調査区の中には、排水溝敷設のため既に太田市教育委員会が調査した部分や、企業局調査区域と隣接している区域がある。双方にまたがる遺構や遺物の調査をスムーズに行うための調査区域の設定等、県文化財保護課の調整を経て実施された。一方、調査区の東端にある180mほどの地域について、未買収用地が残り63年度調査となった。

以上の調査を受けて、整理事業が行なわれたが、予想以上の遺構・遺物数のため、報告書を二回に分けて刊行することとした。昭和62年度は、61・62年度調査分の整理を行い、63年度に報告書第一集を刊行することとなった。なお、63年度以降の調査分の整理事業は63・64年度に行い、64年度に第二集の報告書刊行を計画している。

本事業を実施するにあたり、県文化財保護課・土木部河川課・太田土木事務所・企業局・企業局東毛開発事務所・シン航空写真株式会社文化財調査室群馬分室をはじめとする諸機関、地元区長、地域の皆様の暖かい御配慮をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

2. 遺跡の位置と周辺の考古学的環境

成塚石橋遺跡は、太田市西北部、東武桐生線の治良門駅東側の東側に位置する。この遺跡が立地する地形は大間々層状地のII面であり、平らな広い古地の東南端にあたる。この層状地は現在桐生から足利へ流れている渡良瀬川につくった層状地で、礫層の上にローム層が堆積する第四紀の地形である。本遺跡で調査した遺

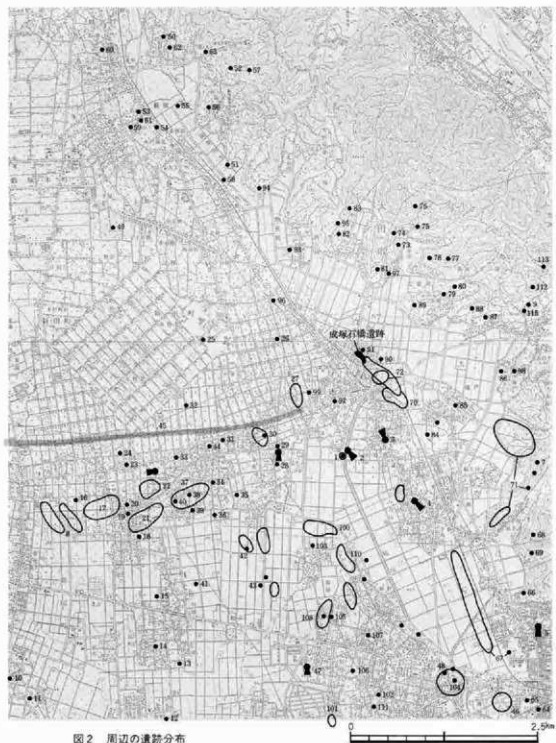


図2 周辺の遺跡分布

構はこのローム層と礫層を掘り込んでつくられている。住居の中では礫層まで掘り方が達しているものもあって、床面はまるで小礫の敷石住居のようであった。

遺跡の周辺の景観をみてみよう。遺跡の東側には沖積地を隔てて八王子丘陵という丘陵がある。更新世に懸水して、現流河川の少ない欠水性の扇状地地域にあって、本遺跡の立地する大間々扇状地東端と八王子丘陵との間には丘陵からの水を集めた水流があり、沖積地を形成している。後に岡登用水が開削される地域である。また、扇状地の南側には利根川の自然堤防に至るまで広い沖積地が広がっている。しかし、この地域の全面的な開発は新田堀や岡登用水の開削を待たなければならなかった。これらの沖積地のなかには生活の場となったであろう微高地や台地が点在している。現在は下流から蛇川の河川改修が進み、蛇川は排水路として整備されつつあるが、遺跡分布と関連づけた旧地形の復元の成果では蛇川も扇状地東端から地下水を流下する自然小河川であった。現在でも扇状地東端付近には用水源として大切にされている湧水池が分布し、農業用水として使われているが、現代のようなポンプアップが不可能な時代にこれらの湧水池の水量だけで水田をつくっていくことはできなかったものと考えられる。大河川灌漑の実施された理由はここにある。

成塚石橋遺跡周辺の遺跡は、図2に示した通りであるが、古墳時代以降の遺跡の分布が顕著である。扇状地の縁辺には、縄文時代の遺跡も立地しているが、扇状地の中央部に居住の場を移すことはない。扇状地東端から湧き出す泉の回りに集まって住んでいるからであろう。昭和55年に調査された矢太神沼遺跡などはその典型的な例である。

弥生時代の遺跡は、本地域で発掘調査された例はほとんどない。しかし、遺跡分布調査の結果では、後期赤井戸式土器の破片が散布する地域があることがわかっている。群馬県遺跡台帳にも数地点の遺跡が記載されている。これらの遺跡は古墳時代へ継続していく初期農耕集落と見られる。これとは別に最近の調査結果では、少し離れたが、利根川の自然堤防の下から弥生時代中期の遺物が検出されている。このことから当時の生活面は川寄りでも標高の低いところであったことが推察される。扇状地以南の沖積地帯の景観は現在とは大きく異なっていたであろう。本地域の弥生時代前中期については今後の調査を待たねばならない。

古墳時代前期の遺跡は、扇状地縁辺や沖積地内の微高地に数多く分布する。新田町で調査された重殿遺跡では石田川式土器を出土する住居が多数検出された。これらの前期の遺跡は周辺に拡大し、前方後円墳や古墳群も分布している。奈良・平安時代の集落はさらに多くなり、扇状地縁辺や微高地に帯状に遺物が散布するほどである。本地域内には推定東山道があり、寺井鹿寺や駅家と言われている入谷遺跡などがあり、群馬県の律令社会を考えていくうえで不可欠な地域である。

中世では新田氏の本拠に近く、館跡の遺跡も数多く残っている。さらに近世に掘られたとされる新田堀、長堀、岡登用水なども現在まで生きている歴史的遺跡である。欠水性の本地域の特性を良く表す遺構といえる。

2. 遺跡の位置と周辺の考古学的環境

周辺の主な遺跡地名表

○住居・集落 △墓 □生産地他 卍寺 凸城館

No.	遺跡	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	中世	文献	No.	遺跡	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	中世	文献
1	八幡遺跡			○			2	58	街道橋古墳			△			
2	福山古墳			△			3	59							
3	龜山古墳			△			4	60	牛之塚					卍	△
4	鳥宗神社古墳			△			5	61							
5	八幡山古墳			△			6	62		○					
6	寺井岡寺跡					卍	63					○			
7	タタラ跡			□			64								
8	重船遺跡		○	○			7	65	稻荷山古墳			△			
9	萩原館跡					凸	66								
10	庚神塚遺跡			○			67			○		○			
11	登戸遺跡			○			68					△			
12	篦子遺跡			○			69		貫石塚古墳群			△			
13	新堀遺跡			○			70		寺裏遺跡			○			
14	反町館跡					凸	8	71						□	
15				○			72			○		○			
16	観音堂遺跡			○		卍	73					△			
17	木町岡々下遺跡			○			74					△			
18	蛇尾敷遺跡					凸	75					△			
19	生品神社南古墓					△	76					△			
20	生品神社						77		北倉井東浦古墳群			△			15
21	赤城遺跡	○		○			78		御旗山古墳			△			16
22	境ヶ谷遺跡			○			9	79	大鷲梅穴古墳群			△			
23	原宿結家						80		大鷲大平古墳群			△			
24	御倉遺跡						81		菅塚山崎古墳群			△			
25	好野遺跡	○					82		菅塚西山古墳群			△			
26	ニッ山古墳			△			10	83	菅塚西人古墳群			△			
27	天長七堂					卍□	84		菅塚五郎塚			△			
28	上原遺跡			○			85					△			
29	松尾神社古墳			○			86		寺山古墳			△			17
30	笠松遺跡		○	○			87		上旗戸古墳群			△			
31	原宿遺跡			○			88		大鷲向山古墳群			△			
32	長者塚					□	89		成塚向山古墳群			△			
33	柿塚八幡			△			90		成塚古墳群			△			
34	萩原宅内古墳			△			91					△			
35	上新井遺跡			○			92		寺井古墳群			△			
36	川島館跡					凸	93		西長岡古墳群			△			
37	上野井遺跡			○			94		西長岡天神山古墳群			△			
38	村田館跡					凸	95		西長岡東山古墳群			△			
39						△	96					△			
40	浜野宅内古墳			△			97					□			
41	香場東遺跡					○	98					□			
42	中溝遺跡			○			99		寺院跡又は城館跡					卍	□
43	深町遺跡			○			100		堂塚遺跡		○	○			18
44	入谷遺跡					□	11	101		○		△			
45	柿定東山道					□	12	102		○		△			
46	舞台A・b遺跡			○			103		オクマン山古墳			△			19
47	茶臼山古墳			△			13	104				○△			
48	藤岡久大造北遺跡						105		観音堂(脇屋義時館跡)					□	
49		○					106		古澤氏館跡					□	
50	つつじ山	○					107					○			
51	岩崎	○					108					○			
52	藤崎山	○					109		深町遺跡		○	○			
53		○					110		釣堂庵寺					卍	
54	榎八幡遺跡			○			111		新田藤興の墓					△	
55	三島神社境内遺跡						112		古沢古墳群			△			
56	西山古墳			△			14	113	萩原遺跡			□			□卍
57	北山古墳			△			114								

3. 発掘調査の方法と経過

一級河川蛇川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、昭和61年度、62年度、63年度の三カ年計画で行われた。昭和61・62年度は県道伊勢崎足利線から工事用杭No.5までの範囲を継続して調査することになったが、県道沿いの最下流部は用地買収が進展せず、昭和63年度の調査に委ねられることになった。また、調査区域には平行して用水路と市道が設置されていたが、用水路と通水路の確保のため一部調査を断念した。さらに調査区には太田市教育委員会や県企業局の調査区と接する部分があり、双方と連絡を密接にとりながら調査を行うことにした。調査を開始するにあたり、昭和62年2月に現場事務所を成塚住宅団地内に設置した。3月にはいり、発掘器材等を搬入し、地元への挨拶、調査計画に基づいた排土の搬出・重機の手配等を行い、3月4日から調査に着手した。また、発掘区域内での事故防止のため、調査区の境に安全柵を設け、看板を設置して、安全を呼びかけた。

本書で報告する昭和61・62年度の調査区は図3のとおりである。調査は61年度に表土の掘削を行い、遺構確認作業後、遺構調査に着手した。遺構の測量にあたっては、5mグリッドを設定し、これを基準とした。

グリッドは細長い発掘区でしかも磁北との偏角が45°であるので、発掘区に平行する任意のグリッドとした。工事用Na.5のセンター杭と幅杭を通る線を基準として任意に5mごとのポイントを設定し、基準線に直行する5mごとのラインをI・J・K・L・M・N・Oラインとした。基準線は50ラインとし、そこから5mごとに95ラインまでを設定した。なお、1から49ラインと95ライン以南は昭和63年度調査部分である。グリッドは北西の杭座標で呼称した。また、グリッド設定が任意であること、隣接した住宅団地内の発掘区の成果と関連付けられるように、幾つかのグリッド座標の国家座標値を測量している。

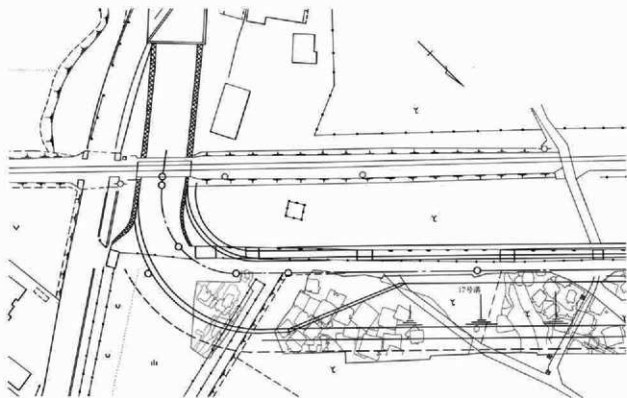


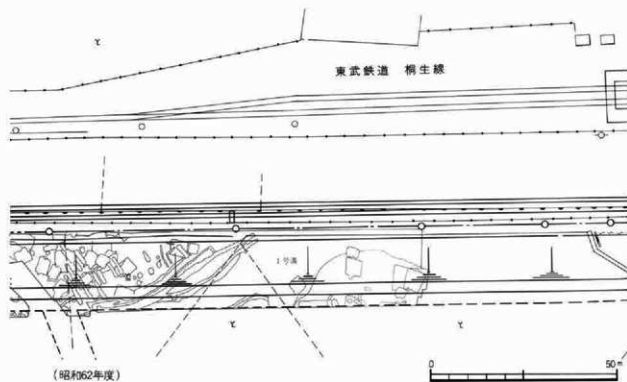
図3 改修工事と発掘調査区

遺構の調査にあたっては、基本土層との関係、遺構の新旧関係等を理解するように努めた。遺構の埋没土中の遺物と遺構の関係を明らかにするために、必要に応じて土層観察用のベルトを残して調査を行った。遺物には、遺跡名・遺構名・グリッド名・出土層位・出土年月日を記録した。遺構内出土遺物のうちで、床面直上の遺物と埋没土中でも必要と考えられる遺物については、平面図を作成し、遺物出土状態を実測して、位置と標高の記録をとって取り上げた。埋没土中の出土遺物は一括して取り上げた。出土遺物の洗浄・注記は雨天の日を利用して現地の調査事務所内で実施した。遺構の記録は、以下の通りである。住居は主として縮尺20分の1の埋没土の土層断面図と平板測量の平面図を作成した他、カマドも縮尺10分の1の埋没土層断面図、平面図、掘り方図を作成した。溝等は縮尺40分の1でコンタ測量を行い、平面図を作成した。土層断面図は、必要に応じて縮尺20分の1で実測図を作成した。

現地における写真による記録は、主として遺跡の全景写真・各遺構の全景写真・埋没状況の土層記録写真・遺物出土状況全景写真の他、住居ではカマド、貯蔵穴等住居内の施設各部分の写真撮影がある。特に住居では住居の掘り方をもつものには、掘り方土層図の他、全景写真、必要に応じて部分写真の撮影を行った。

62年度調査終了に伴い、安全対策のため、調査地域縁に崩落防止のための土羽を施し、枕と安全ロープで柵を設けて撤収した。

本遺跡の調査記録の整理および遺物整理は昭和62年7月1日から昭和63年3月31日まで財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団で実施した。整理方法については必要に応じて凡例に示した。



4. 基本層序

基本となる層序は、昭和61年3月の調査開始時に検出した1号溝の50グリッドラインに設定した東西方向の土層断面の地山部分をあげておく。この層序は昭和62年7月に観察した17号溝の南北方向の土層断面にはほぼ類似する。

第1層は耕作土で、やや砂質を帯びている。土器の破片が攪乱により入り込んでいる。厚さ20cm～40cmである。

第2層は褐色土で浅間Bテフラを含む。厚さ20cmを測る。

第3層は浅間Bテフラの純堆積層である。上部は桃色がかった火山灰、下部は砂状の軽石である。実際には溝の埋没土の中位にしか確認できない。

第4層はローム土で、厚さは20cm～1mで一定でない。地点によってはまったく認められない。

第5層は砂礫で、大間々屑状地の基底礫層である。拳大の円礫を多く含む。その層厚は5号井戸の調査所見からも把握できなかった。

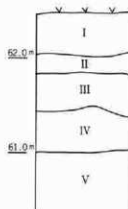


図4 遺構の基本層序

II 検出された遺構と遺物

1. 遺構の重複

本遺跡の発掘調査で、105軒の住居跡、60基の土坑、22条の溝、5基の井戸が検出された。発掘区内のこれらの遺構の分布には粗密があり、特に65ラインより南東は住居の重複が著しかった。したがって遺構の内容を報告する際に、個別に埋没土を説明し、重複関係を述べるのは、繁雑になるので、まとめて本章で述べておこうと思う。重複する遺構には、いくつかのまとまりがあるので、ここではそれを「重複群」と呼び、その群毎に説明を加える。1～3軒の住居の重複は個別に述べるので次章を参照されたい。

(1) 重複する住居群

1) 重複群A

重複群Aは、J～L-66～69グリッドに展開する。11軒の住居と、17基の土坑が重複あるいは隣接する。16号住居は、住居との重複はないが、26号土坑、34号土坑に先行する。24号、25号住居とは近接しており、同時存在は考えられない。出土遺物から、16号住居の方が先行すると思われる。

21号住居は、22号住居、23号住居、26号住居と重複している。この4軒では図6のAセクションからも明らかのように、22号住居が最も新しいとみられるが、出土遺物の検討からは22号住居が7世紀、21号住居が8世紀であり、矛盾する結果となった。他の3軒の住居の新旧関係は、埋没土の観察ができなかったので土層断面からの判断はできない。26号住居の床は21号住居、22号住居、23号住居それぞれに壊されていることから最も古い住居と判断できる。図示できる遺物はなかったが、棒状の高杯形土器脚部の破片が出土している。23号住居からは6世紀初頭と考えられる遺物が出土しており、22号住居に先行する。また22号土坑、23号土坑は23号住居の床面を壊しており、22号住居はこれらの土坑にも先行する。

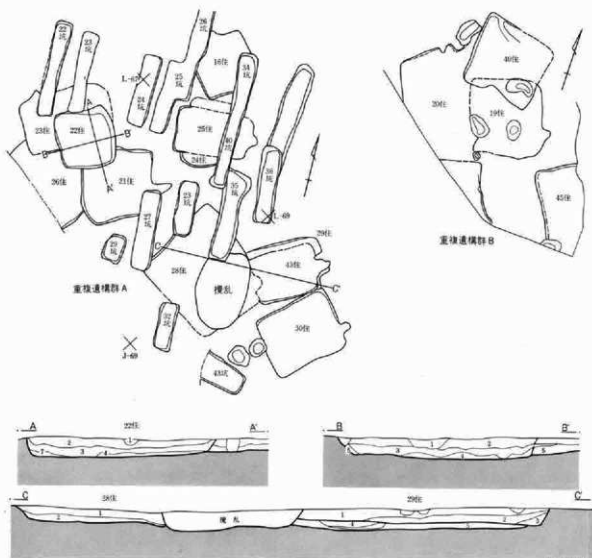
24号住居は25号住居に先行する。土層断面の観察は出来なかったが、25号住居床面は24号住居床面を掘り込んでつくられており、24号住居は北西隅と南壁が僅かに残っているにすぎない。さらに両住居とも北壁は攪乱に、東壁は40号土坑に破壊されている。

28号住居は、西および南の隅は確認しえたが、住居北東半の平面形が明確にとらえられなかった。出土遺物の分布や時期の判断から、L-69Gにあるカマド状の遺構付近まで、28号住居に含まれる可能性が高い。このカマドは、北東部の29号住居に破壊されていることがわかっており、28号住居が29号住居に先行する。



図5 重複遺構群の位置

II 検出された遺構と遺物



- 22住 1層 暗赤褐色土。やや砂質。小礫・炭化物粒を僅かに含む。
 2層 暗褐色土。やや砂質。白色粒子を少量含む。
 3層 暗褐色土。2層に近いが、堅くしまっており、焼土粒・白色粒子も少量含む。
 4層 暗黄褐色土。ローム粒を多量に含む。
 5層 暗黄褐色土。ローム粒を多量に含む。壁の崩落土である。
 6層 暗赤褐色土。焼土粒。赤化した焼土を多く含む。ロームブロックも混じる。
 7層 暗灰褐色土。灰・焼土粒・炭化物粒を多量に含む。ローム粒も少量含む。
- 28住 1層 暗褐色土。白色鉱物粒子をわずかに含む。木炭粒子を少量含む。
 2層 暗褐色土。ローム細粒と木炭粒を少量含む。
 3層 暗褐色土。
 4層 暗褐色土。ローム細粒を少量含む。
 5層 暗褐色土。木炭粒をわずかに含む。
 6層 暗褐色土。ロームが全体に混入している。
- 29住 1層 暗褐色土。やや砂質。白色粒子と焼土粒をわずかに含む。
 2層 暗褐色土。焼土粒・ローム粒を少量含む。カマド周辺では灰も混入している。
 3層 暗褐色土。2層に似るが、灰や焼土の量が多い。
- 43住 4層 暗褐色土。(掘り方埋没土)
 5層 暗黄褐色土。ロームブロックを多く含む。

図6 重複遺構群A・Bと埋没土層

29号住居の下層には、先行して43号住居がつくられている。図6-Cセクションのように、29号住居は43号住居の埋没土を床面としている。しかしながら29号住居の輪郭は不明確で、特に西隅が判然としなかった。43号住居は深く掘り込まれているので、平面形・床面ともに検出できたが、カマドは29号住居のカマドと重なって、その掘り方によって破壊されており、使用面の検出はできなかった。43号住居と28号住居の新旧関係は、28号住居の遺物が5世紀に入るものと考えられるので、8世紀中葉の遺物を出土した43号住居にも先行すると考えられる。

30号住居は、北隅が29号住居の東隅とわずかに重なる。埋没土の堆積状況の観察から、30号住居が後出する。

17基の土坑のうち、細長い短冊形の土坑はすべて、竪穴住居に後出する。出土遺物の陶器から近世以後のものと考えられる。30号住居西壁に位置する41号土坑は、出土遺物の検討から30号住居に後出する。

2) 重複群B

重複群Bは、I・J-70~72Gに展開する。

南と西に発掘区域があり、全掘した住居が少ないので、重複関係の把握は困難であった。東側は、遺水路部分であり、太田市教育委員会が先行して調査している。

20号住居は、19号住居と40号住居に床面を破壊されており、出土遺物も6世紀半ばで19号住居、40号住居に先行する。40号住居は、出土遺物は20号住居と同時期くらいの様相を示しているが、床面の状況から20号住居に後出する。19号住居は出土遺物が7世紀半ばのものであり、最も後出の住居である。

45号住居、46号住居は、土層断面の観察から45号住居が46号住居に先行することがわかっている。しかし、平面的には床面をとらえることができなかったため、出土遺物はすべて掘り方埋没土中の出土である。したがって両住居出土遺物は時期もばらばらで一括性に乏しい。しかし、少なくとも46号住居の北西隅は19号住居に切られているので、46号住居は19号住居に先行することは確実である。

3) 重複群C

重複群Cは、J~M-73~75Gに展開する。

33号住居は、西壁を34号住居のカマドによって破壊されており、34号住居に先行する。また、41号住居の南隅を切っており、41号住居より後出することがわかる。このことは図7のBセクションからも明らかである。

34号住居は、カマドを33号住居の埋没土上につくっており、33号住居に後出する。また、47号住居の床面を切っていることから、47号住居にも後出することがわかる。しかし、34号住居、47号住居の出土遺物はほとんど型式差がなく、時間的にあまり隔たっていないことも判明している。

48号住居は、47号住居に切られており、47号住居に先行する。また、48号住居は62号住居の南西隅を壊して掘られている。したがって62号住居には後出する住居である。

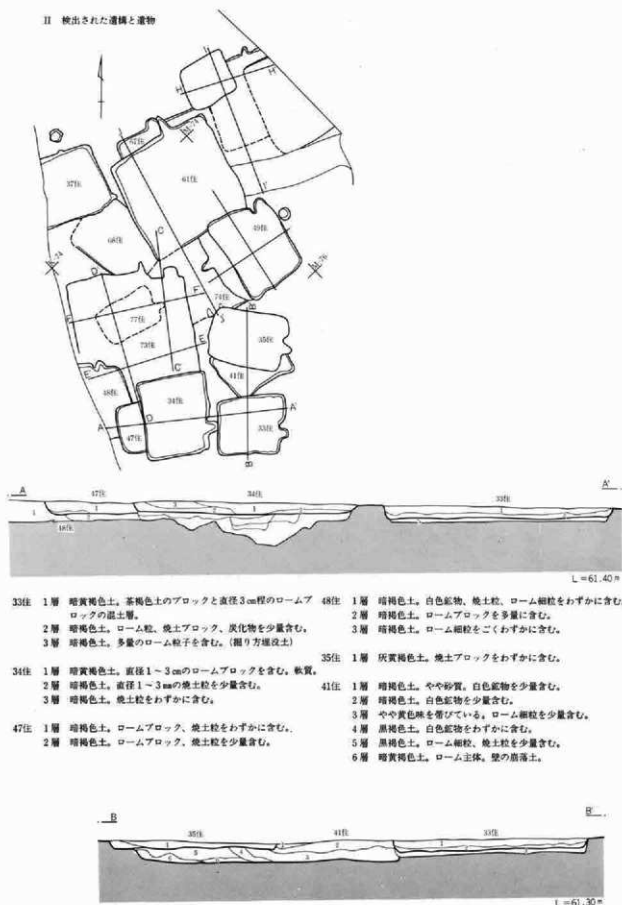
35号住居は41号住居が埋まった後につくられている住居である。

41号住居は33号住居、35号住居に先行する住居である。

37号住居は、68号住居北隅を壊して掘られており、68号住居に後出する住居である。

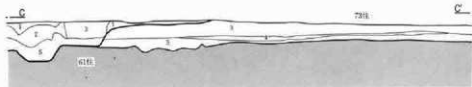
49号住居は、図8のGセクションの観察から61号住居に後出する住居であることがわかっている。また、74号住居の床面を壊して掘っているので74号住居に後出する住居であることがわかっている。

II 検出された遺構と遺物



- | | |
|---|--|
| <p>33住</p> <p>1層 暗黄褐色土。茶褐色土のブロックと直径3cm程のROOMブロックの混土層。</p> <p>2層 暗褐色土。ROOM粒、焼土ブロック、炭化物を少量含む。</p> <p>3層 暗褐色土。多量のROOM粒を含む。(掘り方埋没土)</p> | <p>48住</p> <p>1層 暗褐色土。白色鉱物、焼土粒、ROOM細粒をわずかに含む。</p> <p>2層 暗褐色土。ROOMブロックを多量に含む。</p> <p>3層 暗褐色土。ROOM細粒をごくわずかに含む。</p> |
| <p>34住</p> <p>1層 暗黄褐色土。直径1~3cmのROOMブロックを含む。軟質。</p> <p>2層 暗褐色土。直径1~3cmの焼土粒を少量含む。</p> <p>3層 暗褐色土。焼土粒をわずかに含む。</p> | <p>35住</p> <p>1層 灰黄褐色土。焼土ブロックをわずかに含む。</p> |
| <p>47住</p> <p>1層 暗褐色土。ROOMブロック、焼土粒をわずかに含む。</p> <p>2層 暗褐色土。ROOMブロック、焼土粒を少量含む。</p> | <p>41住</p> <p>1層 暗褐色土。やや砂質。白色鉱物を少量含む。</p> <p>2層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。</p> <p>3層 やや黄色味を帯びている。ROOM細粒を少量含む。</p> <p>4層 黒褐色土。白色鉱物をわずかに含む。</p> <p>5層 黒褐色土。ROOM細粒、焼土粒を少量含む。</p> <p>6層 暗黄褐色土。ROOM主体。壁の崩落土。</p> |

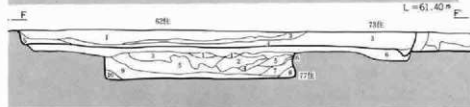
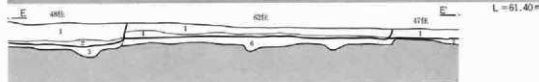
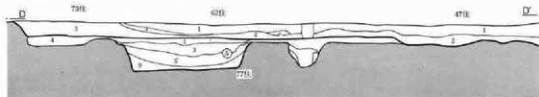
図7 重複遺構群Cと埋没土層(1)



- 61住 1層 暗褐色土、白色鉱物を多量に含む。焼土粒、ロームブロックをわずかに含む。
 2層 暗褐色土。白色鉱物、焼土粒、ロームブロックをわずかに含む。
 3層 暗褐色土。白色鉱物、焼土粒をわずかに含む。ローム細粒を少量含む。
 4層 暗褐色土。ロームブロックを多量に含む。焼土粒をわずかに含む。
 5層 暗褐色土。大小のロームブロックを多量に含む。

- 73住 1層 暗褐色土。白色鉱物を多く含む。
 2層 暗褐色土。白色鉱物とロームブロックを少量含む。
 3層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。
 4層 褐色土。ロームブロックと焼土ブロックを少量含む。
 5層 暗褐色土。ローム細粒を少量含む。

- 77住 1層 黄色土。ロームブロックの層。堅く締まっている。
 2層 黄褐色土。硬質のロームブロックを含む。
 3層 黄褐色土。
 4層 黒褐色土。軟質。
 5層 ロームの二次堆積。
 6層 黒褐色土。砂粒、ローム粒子を含む。
 7層 黄色土。ローム二次堆積。
 8層 ローム二次堆積。砂質。
 9層 黄褐色土。砂粒を含む。
 10層 暗褐色土。砂質。



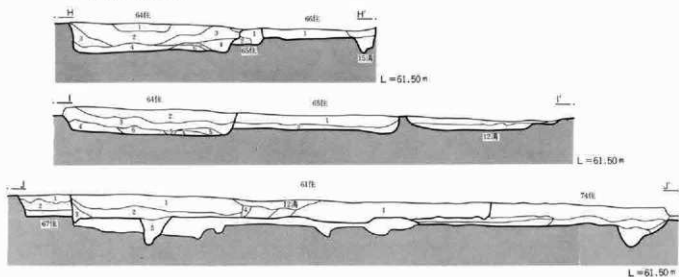
- 62住 1層 暗褐色土。白色鉱物を多く含む。
 2層 暗褐色土。ロームブロックを主体とする。
 3層 黒灰色土。棒状の炭化物を多量に含む。
 4層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。
 5層 白色鉱物をほとんど含まず、ロームブロックを少量含む。
 6層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。焼土粒、ローム細粒をわずかに含む。

- 49住 1層 暗褐色土。白色鉱物を多量に含む。
 2層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。ローム細粒をわずかに含む。
 3層 暗褐色土。白色鉱物をわずかに含む。ローム細粒を少量含む。
 4層 暗褐色土。白色鉱物をわずかに含む。ローム細粒、焼土粒を少量含む。



図8 重複遺構群Cと埋没土層(2)

II 検出された遺構と遺物



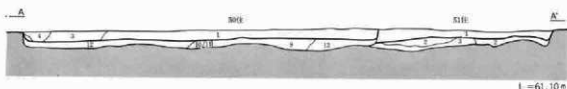
14溝 1層 黒褐色土。やや砂質。

- 64住 2層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。
 3層 暗褐色土。白色鉱物をわずかに含む。
 4層 暗褐色土。白色鉱物、ロームブロックをわずかに含む。
 4'層 暗褐色土。4層に似るが、白色鉱物は含まない。
 5層 暗褐色土。黒色灰を少量含む。
 6層 黒色灰。

65住 1層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。
 2層 暗褐色土。ロームブロックを少量含む。

66住 1層 暗褐色土。白色鉱物を少量含む。黒色土をブロック状に含む。

67住 1層 暗褐色土。白色鉱物を多量に含む。ローム細粒を少量含む。
 2層 暗褐色土。ロームブロックを少量含む。



- 50住 1層 暗褐色土。焼土微細粒子をごく少量含む。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。
 2層 褐色土。1層より明るく、多くのロームブロック、ローム粒を含む。
 3層 暗褐色土。1層より黒味が強い。ロームブロックを少量含む。白色細粒子をわずかに含む。
 4層 黒褐色土。礫を含む。しまりは悪い。
 5層 暗褐色土。ロームブロックを多量に含み、締まりは堅致。
 6層 暗褐色土。ローム粒子、白色細粒をわずかに含む。直径10cmの礫を含む。締まりは悪い。
 7層 暗褐色土。ロームブロック、ローム粒子を極めて多量に含む。締まりは悪い。
 8層 褐色土。直径3cmのロームブロックとローム粒子を多量に含む。
 9層 暗褐色土。直径10cm前後のロームブロックを多く含む。締まりは悪い。
 10層 暗褐色土。ローム溶混と直径1cm前後の小礫を少量含む。
 11層 黒褐色土。締まりは極めて悪い。
 12層 暗黄褐色土。直径1~10cmの礫を多く含む。白色小粒子をわずかに含む。
- 51住 1層 暗褐色土。直径1~5cmの礫を少量含む。白色パピミスと焼土粒をわずかに含む。
 2層 暗褐色土。多量のロームブロックを含む。
 3層 ロームと暗褐色土の混土层。ロームのほうが量は多い。

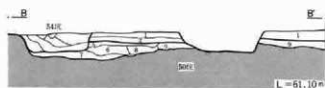
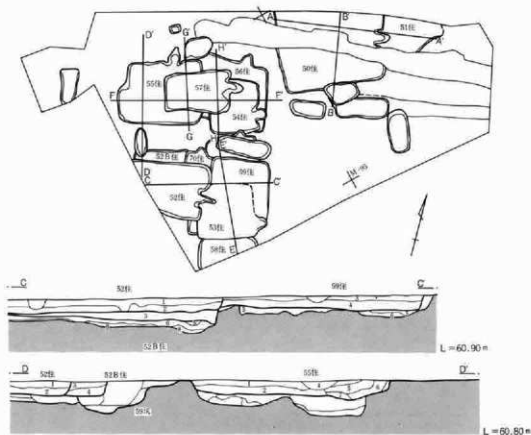
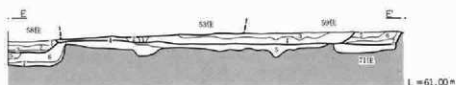


図9 重複遺構群C・Dの埋没土層



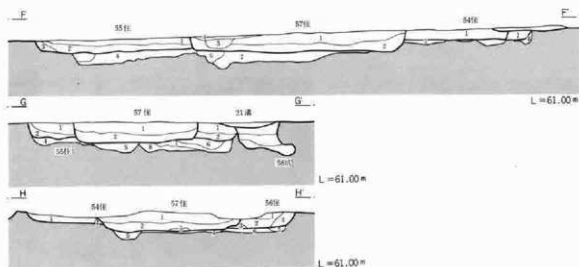
- 52住 1層 暗褐色土。ローム粒子、白色パミスを少量含む。直径5mm前後の炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。締まりは良い。
 2層 暗褐色土。ローム粒子、白色パミスを少量含む。
 52B住 3層 明褐色土。やや黄色味を帯びる。
 4層 明褐色土。3層よりやや暗い色調を呈する。ローム粒を多量に含む。



- 59住 1層 暗褐色土。ロームブロックの溶混を多量に含む。締まりは良い。
 2層 暗褐色土。ロームブロックを多く含む。炭化物粒子と焼土粒を少量含む。締まりは堅致。
 3層 暗褐色土。2層より黒味が強い。直径1~5cmの礫を少量含む。
 4層 上層よりも色調は明るい。長さ1cmの炭化物片と直径1mmの白色粒子を少量含む。締まりは弱い。
 5層 暗青灰色土。多量のロームブロック、少量のパミス、微量の炭化物粒子を含む。締まりは堅致。
 6層 黄褐色土。暗褐色土ブロック、粒子を少量含む。直径1mmの白色粒子、炭化物粒を少量含む。
- 58住 1層 褐色土。ローム粒子、直径3mmの砂粒、白色パミスを少量含む。
 2層 明褐色土。直径1cmのロームブロックを少量含む。直径5mmの小礫を少量含む。締まりは堅致。
 3層 暗褐色土。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。直径1cmの礫、炭化物片を少量含む。締まりは堅致。
 4層 黒褐色土。ローム粒子、焼土粒を少量含む。締まりは良い。
 5層 暗褐色土。ローム粒、礫、茶褐色土ブロックを多く含む。締まりは良好。
 6層 ロームと茶褐色土の混土層。炭化物粒子を微量に含む。堅く締まっている。

図10 重複遺構群Dと埋没土層(1)

II 検出された遺構と遺物



- 54住 1層 暗褐色土。白色細粒子をごく少量含む。直径1~10cmの礫を少量含む。
 2層 暗褐色土。砂質ロームブロック及び直径1cm前後の小礫を含む。締まりは良い。
 3層 暗褐色土。ローム粒子、ロームブロックを多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。締まりは良い。
- 56住 1層 暗褐色土。直径1~3cmの礫をわずかに含む。締まりは弱い。
 2層 暗褐色土。全体に黄色味を帯びている。焼土粒子、炭化物粒子を含むごく少量含む。締まりは良い。
 3層 明褐色土。ロームブロックを多く含む。締まりは堅状。
 4層 暗褐色土。多量のロームを含み、締まりは弱い。
 5層 暗褐色土。直径3~5cmのロームブロックを含む。しまりはやや弱い。
 6層 茶褐色土。白色細粒子、焼土粒子を微量含む。砂質のロームブロックを多く含む。締まりは良い。
- 57住 1層 黒褐色土。焼土粒子、白色粒子を微量含む。直径1~3cmの礫をやや多く含む。
 2層 黒褐色土。1層よりも多くのローム粒子を含む。焼土粒子、白色細粒子を微量含む。直径1~3cmの礫を含む締まりは1層よりも良い。
 3層 暗褐色土。砂質ロームブロックを多量に含む。締まりは良い。
 4層 暗褐色土。砂質。締まりが悪い。小礫と白色細パミスを微量含む。
 5層 暗褐色土。焼土粒子を少量、白色細パミスをおおむね含む。締まりは弱い。
 6層 暗褐色土。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。白色細パミスを微量含む。比較的締まりは弱い。
 7層 暗褐色土。ロームブロック、黒褐色土を多く含む。白色細パミス、焼土粒子を微量含む。
 8層 暗黄褐色土。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。炭化物粒子を微量含む。締まりは極めて堅状。
 9層 黄茶褐色土。締まりは極めて堅状。砂を含む。
- 55住 1層 暗褐色土。白色パミス、焼土粒子。直径1mm以下の炭化物粒子をおおむね含む。締まりは弱い。
 2層 暗褐色土。1層よりやや暗く、締まりも良い。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。白色細粒子、炭化物粒子をおおむね含む。
 3層 褐色土。ロームの溶混を多く含み、全体に黄色味を帯びる。
 4層 黒褐色土。ロームブロックを多く含む。白色細粒子を微量含む。
 5層 黒褐色土。ロームブロックの溶混をおおむね含む。白色細粒、焼土粒をごく少量含む。
 6層 暗褐色土。ロームを多量に含む。炭化物粒、焼土粒を少量含む。締まりは良い。
 7層 黒褐色土。ロームを多く含む。
 8層 黒褐色土。ローム、茶褐色土ブロックを多く含む。白色細粒、焼土粒を少量含む。

図11 重複遺構群Dと埋没土層(D)

61号住居は、図9-Jセクションで明らかなように67号住居・74号住居に後出する大形住居である。68号住居の床面も壊して掘られており、周辺では49号住居に次いで後出の住居である。

62号住居は、68・74号住居の床面を壊して掘られている。図8-Cセクション・Fセクションの観察から68・74・77号住居に後出し、48・34号住居に先行する住居である。

64号住居は、周辺では最も後出する住居である。(H・Iセクション)

65号住居・66号住居は、平面形を明確にできなかった重複住居である。しかし図9-Hセクションの観察から65号住居が先行し、66号住居が後出する住居であることがわかった。検出できたそれぞれの床面のレベル差からも同様に判断できる。

67号住居は、大半を61号住居に壊されており、61号住居に先行する住居である。図9-Jセクションも同様な重複関係を示している。本住居はカマド周辺しか調査できなかった。

68号住居は、37号住居・61号住居・62号住居に先行する古い住居である。周辺の住居に壁の四隅を壊されており、掘り込みも浅かったために住居の平面形を確実にとらえることができなかった。

77号住居は、62号住居の掘り方調査の際に検出された住居である。図8のD・Fセクションで明らかなように深く掘り込まれた住居であるが、62号住居掘削の際にカマドなどは壊されている。

4) 重複遺構群D

重複遺構群Dは、K・M-95グリッドに展開する。

50号住居は、51号住居に後出し、20号溝に先行する住居である。図9-Aセクションからもわかるように51号住居の埋設土を切って掘られている。南壁に重複する45号土坑は、住居に後出するものである。

51号住居は、50号住居に先行する住居であるが、そのほとんどを50号住居に壊されており、カマド周辺の調査となった。

52号住居は、57号住居と並んで周辺では最も新しい住居である。図10のCセクションでは59号住居の埋設土を切って掘られていることがわかる。また、本住居のカマドは53号住居の床面を壊して作られており、53号住居にも後出する。52B号住居や70号住居の床面も切って作られており、これらにも後出する。

53号住居は、表土を除去した遺構確認面で、もう既に床面が露出してしまうほどの浅い掘り込みであった。したがって埋設土の断面観察から隣接する58号住居・59号住居との重複関係を明らかにすることはできなかった。しかし、床の硬化面の広がりやそのレベル差から本住居が後出すると判断した。出土遺物はほとんど同時期と考えられる。

58号住居は、埋設土断面の観察から(図10-Eセクション)59号住居に先行する住居である。

59号住居も図10のEセクションにも示したように58号住居の埋設土を切って掘られているので、58号住居に後出することはあきらかである。また71号住居を壊してつくられており、71号住居に先行する住居である。

54号住居は、図11のF・Hセクションに示したように、57号住居に先行する住居である。また56号住居の大半を壊してつくられており、56号住居に後出する。55号住居との関係は土層断面からは判断できない。

55号住居は54号住居と同様に57号住居に先行し、56号住居に後出する住居である。

56号住居は、周辺の住居のなかでは最も先行する。

(2) 溝と井戸の重複

本遺跡で検出された溝は、後述するように自然の流路から考えられる1号溝・17号溝と、その他の人工的に掘られた溝とに分けられる。1号溝・17号溝は底面の出土遺物から、本遺跡で検出された住居のうち最も古い古墳時代中期の頃には流水があって、溝状となっていたと考えられる。したがってその時期の遺構とは基本的に重複していない。1号溝は、3号住居と75号住居との重複があるが、3号住居は1号溝の埋没土を上面から遺構の平面形を確認することができたので、溝が埋まってからつくられた住居と考えられる。75号住居は、1号溝の掘り下げ途中で平面形を確認した。溝埋積の過程でつくられた住居であろう。住居の年代は出土遺物がほとんどないためにわかっていない。

2号溝から11号溝は、新しい時期の地割りに関係する溝と考えられ、平安時代の住居も壊して掘られている。後述するように、周辺で確認された特定の土坑群との空間的配置に規則性が看取できることから、土坑との同時性も推測させる。

12号溝は重複遺坑群Cを横断するように掘られている。古墳時代後期の大型住居である61号住居を壊して掘られているが、遺構の下限を判断する所見は得られなかった。

13号溝は8世紀の住居を壊して掘られている。また3基の井戸と重複しているのが特徴であるが、井戸と同時に機能していたものでなく、埋没土の断面観察から時期差があることがわかっている。13号溝は、1号井戸・4号井戸に後出し、2号井戸に先行する。

14・15・16号溝はいずれも住居埋積後に掘られた小規模な溝である。

19～22号溝も、重複遺坑群Dの住居に後出して掘られた小規模な溝である。

2. 住居跡

1・2・5号住居

1号住居、2号住居、5号住居は、発掘区の北西端K・L-50・51グリッドに、三軒が重複して検出された。最も古い2号住居の床面を壊して5号住居が掘り込まれている。さらに5号住居の北壁と2号住居の床面を壊して最も新しい1号住居が掘られている。この新旧関係は埋没土の観察の結果とも一致している。

1号住居 (図12・13・14 PL3・4・41)

位置 L-50・51グリッド **主軸方位** N72E **重複** 2号住居、5号住居に検出する。

規模 縦2.6m 横2.75m 深さ0.24m **形状** ややゆがんだ正方形。

埋没土 パミス混りの黒色土が、住居中央部に落ち込んでいた。また、埋没土中に埋積過程で投げ込まれたと思われる礫が数個混入していた。

掘り方 床面と壁の一部に基盤の礫層が確認でき、明確な掘り方は検出されなかった。

床面 貼り床無し。住居中央部には堅く締まった面が検出された。

貯蔵穴 無し **周溝** 無し **柱穴** 無し

遺物出土状態 遺物は、住居全体から出土している。床面直上の出土の土器に加えて、埋没土中の土器の出土も多い。図14-1、2、3の須恵器杯形土器は第一次埋没土中に含まれ、住居に直接伴うと考えられる。9の土師器壺形土器と10の土師器杯形土器は、後者が床面直上の出土状態であるけれども、土器の型式からみて混入遺物と考えられる。2号住居の床面を掘り込む際に落ち込んだものであろう。

カマド **位置** 東壁南寄り

規模 全長2.2m 最大幅0.33+ α m 焚き口幅0.2m

袖 現状ではほとんど残っていない。右袖の芯に自然石を使用している。

煙道 住居東壁を切り出して住居外へ延びる。

遺存状態 カマド袖部は自然石を芯にして、わずかに住居跡内に位置する。燃焼部分および煙道部分は住居外へ出る。燃焼部から煙道部の床は段をもって移行し、煙道部分の掘り込みは浅い。燃焼部には厚さ0.5~0.8cmの暗褐色土があり、わずかに焼土、炭化物粒子を含んでいる。

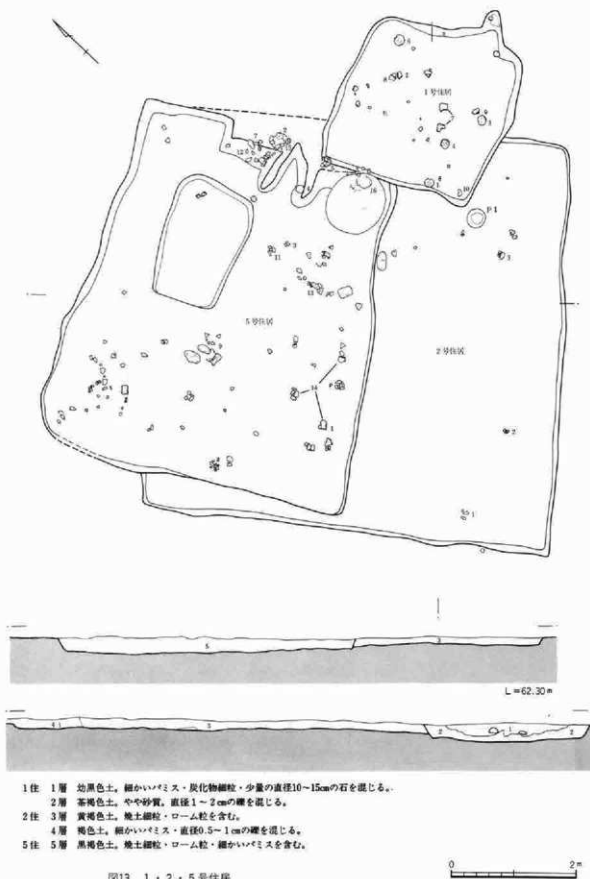
遺物出土状態 煙道部より土師器の破片が一点出土している。

備考 9世紀中頃の住居と考えられる。



図12 1号住居のカマド

II 検出された遺構と遺物



- 1住 1層 幼黒色土。細かいパミス・炭化物細粒・少量の直径10~15cmの石を混じる。
 2層 茶褐色土。やや砂質。直径1~2cmの礫を混じる。
 2住 3層 黄褐色土。焼土細粒・ローム粒を含む。
 4層 褐色土。細かいパミス・直径0.5~1cmの礫を混じる。
 5住 5層 黒褐色土。焼土細粒・ローム粒・細かいパミスを含む。

図13 1・2・5号住居

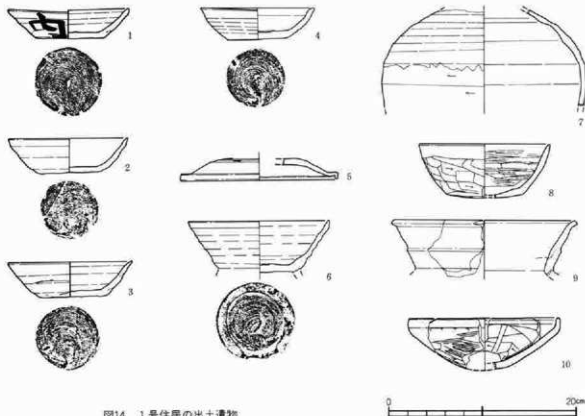


図14 1号住居の出土遺物

1号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器杯	完形 口 12.9cm 底 7.3cm 高 3.1cm	西壁際 床面上直上	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰7.5YR6/1	左回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。体部外面に「内」の墨書がある。
2	須恵器杯	口縁～体部1/2残 口 12.7cm 底 6.2cm 高 3.5cm	中央部 床面上17cm	①微細砂を含む。 ②灰白10Y8/1	左回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。
3	須恵器杯	完形 口 13.2cm 底 7.0cm 高 3.7cm	東南壁際 床面上8cm	①微細砂を含む。 ②灰白10Y8/1 ③いぶし	左回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。
4	須恵器杯	口縁～体部4/5残 口 12.2cm 底 6.4cm 高 3.4cm	南隅 床面上24cm	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰10Y5/1	左回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。
5	須恵器蓋	つまみ欠損 1/6残存 口 (15.8cm)	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰白7.5Y8/1	内面から外面中位にロクロ回転で、外面中央部回転削り。
6	須恵器高台付椀	口縁、高台欠損 口 15.1cm	北西隅 床面上直上	①微細砂を含む。 ②にいぶし赤褐5YR5/4 ③酸化層	左回転ロクロ成形。底部切り難し後、回転削り。付高台。
7	灰輪陶砂壺	体部上半1/2残 胴 (21.7cm)	中央部 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②灰質2.5YR7/2	胴部ロクロで、体部外面中位やや上から下部は回転削り。内面ロクロで、体部中位まで軸が羽毛塗り。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
8	土師器 杯	口縁～底部1/4傾 口 (13.8cm) 底 (8.0cm) 高 (5.6cm)	北隅 床面上19cm	①細砂を含む。 ②にふい巻5YR6/4	外面横方向丸磨り。底部外面丸磨り。内面横方向なで 後、縦かい横方向の丸磨き。口縁部横なで。口唇部や や肥厚し、外反する。
9	土師器 甕	口縁部破片 口 (19.1cm)	埋没土中	①微細砂、石英、白色細粒 物を含む。 ②にふい巻5YR4/3	外反する口唇部には強い面とりがされている。また口 縁中位にはするどい稜が一段差っている。
10	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (15.8cm)	南隅壁際 床面直上	①微細砂、雲母を含む。 ②にふい巻10YR6/4	外面斜方向丸磨り。内面横方向の磨なで。部分的に放射 状の丸磨きが施される。口縁部内外面横なで。底部 の平底はあまり明確でない。

2号住居 (図13 PL3)

位置 K-51グリッド 主軸方位 N50°E 重複 1号住居、5号住居に先行する。

規模 縦6.50m 横6.60m 深さ0.18m 形状 方形

埋没土 埋没土は一層であり、焼土細粒やローム粒、バミス細粒を含む黒褐色土である。

掘り方 遺構確認面より約10cmの深さに掘られている。北西の半分は5号住居に切られており、床面下の掘り込みの確認は十分ではないが、断面の観察では明確な掘り方は検出されていない。

床面 貼り床無し。東半分のみが残存で不明な点が多いが、堅く締まった床面は検出されていない。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 No P1

直径 0.30m

深さ 0.08m

遺物出土状態 床面の深さが確認面から10cmほどであったこともあって、遺物はほとんど床面近くで出土している。図15-2、3の土師器高杯形土器と甕形土器は床面直上の出土である。

カマド カマドは未検出である。北西部半分が壊れているためにカマドも破壊されたのか、本来カマドの無い住居なのかは、判断しがたい。

備考 5世紀中頃の住居と考えられる。

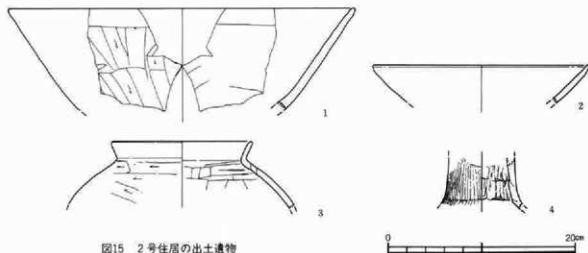


図15 2号住居の出土遺物

2号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 高杯	杯部破片 口(36.6cm)	南西壁際 床面上12cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふい赤褐7.5YR5/3 ③やや軟質	外面縦方向荒削り、内面横方向荒削り、口縁部横削り。
2	土師器 高杯	杯部破片 口(22.7cm)	南隅 床面直上	①微細砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	内外面ともよくなでられている。口縁部内外面横削り。
3	土師器 甕	口縁一休部上位 口(15.0cm)	南東隅 床面直上	①細砂、石英を含む。 ②橙5YR6/6	比較的薄手につくられている。外面斜方向荒削り、内面横方向荒削り、口縁部横削り。
4	土師器 高杯	脚部破片	埋没土中	①微細砂、直径2mmの小石を含む。 ②にふい褐7.5YR5/3 ③やや軟質	外面縦方向荒削り。内面には粘土を絞った跡と思われる縦方向の亀裂が見られる。

5号住居(図13・16・17 PL3・41)

位置 K・L-50グリッド 主軸方位 N65°E

重複 2号住居に後出し、1号住居に先行する。

規模 縦5.70m 横5.10m 深さ0.14m 形状 隅丸方形

埋没土 焼土細粒、ローム粒、細かいバミス粒を含む黒褐色土である。

掘り方 無し

床面 床面は平坦で安定している。床面の一部には基盤層露が顔を出している。住居中央部にわずかに貼り床部分が残存している。なお、カマド左前の方形の掘り込みは5号住居の床面を壊している。遺構確認ではこの遺構の存在を確認できなかった。

貯蔵穴 カマド右側の南東隅に掘られている。長径1.0m、短径0.9mのやや楕円形を呈し、深さは0.45mを計る。図17-6と16の土師器変形土器が出土している。

周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 遺物は住居全体にまばらに分布している。集中しているのは、貯蔵穴周辺と、カマドの左袖基部付近である。貯蔵穴からは先述したように変形土器が出土し、カマド周辺には図17-2の土師器短頸壺形土器、7の土師器高杯形土器、12、15の土師器変形土器が出土している。厨房空間を示した遺物出土状態といえようか。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長0.95m 最大幅1.0m 焚き口幅0.4m

袖 ローム層を掘り残して作られている。

煙道 住居の東壁を利用して立ち上がりをつくり、煙道部分が住居外へ出る構造である。

遺存状態 比較的残存状態は良い。右袖周辺やカマド近くの住居壁際からは多量の焼土が検出されたが、性格は不明である。

遺物出土状態 右袖内面、燃焼部から図17-4の土師器杯形土器が完形で出土した。

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

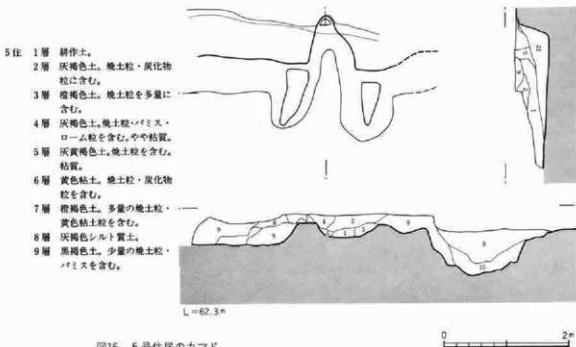


図16 5号住居のカマド

5号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③地成	成・整形の特徴
1	土師器 柄	口縁～体部 口 (7.2cm)	南隅 床面上7cm	①微細砂を含む。 ②にふい煙7.5YR6/4 ③やや軟質	いわゆる手づくね土器。内面とも荒なで指などで整えられている。
2	土師器 短形壺	3/5残存 口 (5.9cm)	カマド左脇	①細砂、直径2mmの小石散 個を含む。 ②煙7.5YR6/6	胴部外面横方向荒削り。内面指押さえの後、横方向荒なで。口縁部横なで。
3	土師器 杯	口縁～体部1/2残 口 (14.6cm) 高 (6.0cm)	カマド前 床面上10cm	①細砂を含む。 ②煙2.5YR6/5	口縁が最大径となる内斜口縁杯。外面底部は荒削りの後、不定方向の荒磨き。内面は横方向の荒なで。
4	土師器 杯	完形 口 14.0cm 高 5.1cm	カマド内	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②煙5YR6/8 ③硬質	丸底。杯部内面は、軽く荒削りの後、指順で押さえられている。内面横方向荒なで。内面にも指順直残る。
5	土師器 小形壺	完形 口 12.6cm 高 14.3cm	カマド右脇	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②煙5YR6/8	やや丸底。外面斜口縁削りの後、上位縦方向荒磨き。中位縦方向荒磨き。内面斜口縁方向荒なで。
6	土師器 小形壺	底部欠損、1/2残 口 (16.2cm)	貯蔵穴脇 床面直上	①細砂を含む。 ②にふい煙5YR5/3	胴部外面荒削り後、横方向の細かい工具によるなで。内面縦方向荒なで。口縁部横なで。
7	土師器 高杯	杯～胴部1/2残 口 (16.9cm)	東壁 床面直上	①微細砂を含む。 ②煙5YR6/8	杯部内面荒なで後、放射状の荒磨き。外面上半指押え後、横なで。下半斜口縁削りが残る。胴部外面縦方向荒削り後、縦方向荒磨き。内面縦方向の指なで。底部内面荒なで。
8	土師器 高杯	胴部3/4残存 底 14.0cm	東壁際 床面上11cm	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②煙5YR6/6	外面細かい工具によるなで。内面荒なで。

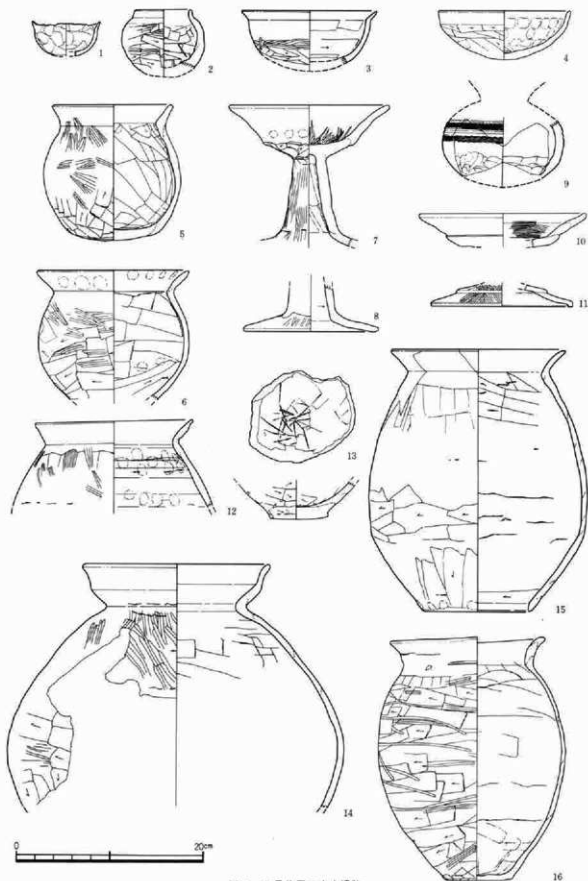


図17 5号住居の出土遺物

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③地成	成・整形の特徴
9	深窓器 鉢	体部破片 割 (13.0cm)	中央部 床面上11cm	①緻密 ②灰N4/ ③還元焰	胴部中に七本程度の縦筋並に二条と三条の凹線文が施される。胴部下位は弱い手持ちなので、内面寛なで。
10	土師器 高杯	体部破片 口 (17.8cm)	埋没土中	①微細砂、石英、白色細粒 物を多く含む。 ②燈5YR6/6	外面なで、内面中位斜方向寛なで、口縁部横なで。
11	土師器 高杯	裾部1/6残存 底 (15.0cm)	カマド前 床面上15cm	①緻密 ②燈7.5YR6/6 ③硬質	外面寛磨き。内面なで。内面整形はあまりきれいではないことから舞部と考えられる。
12	土師器 甕	口縁一体部上位 1/4残存 口 (16.8cm)	カマド左前 床面直上	①細砂を含む。 ②にょい燈5YR7/3	外面縦方向寛磨りの後、細かい工具で縦方向なで。内面弱い寛なで、帯頸圧痕、接合痕が残る。
13	土師器 甕	底部残存 底 6.2cm	東端 床面直上	①微細砂、角閃石を含む。 ②にょい燈7.5YR6/4	外面縦磨り。内面寛なで。放射状の工具痕が残る。
14	土師器 甕	口縁一体部1/4残 口 (19.6cm)	東壁際 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②燈7.5YR6/6	一段屈曲する有段口縁の甕。胴部内面上半縦磨りの後 寛磨き。下半は横および斜方向の寛磨り。部分的に寛 磨き。内面縦方向寛なで。口縁部横なで。
15	土師器 甕	1/2残存 口 (18.0cm) 底 (9.0cm) 高 27.5cm	カマド左脇 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	胴部下半がすぼまる。胴部上半なで。下半上位は横方 向寛磨り。下位は縦方向寛磨り。内面縦方向寛なで。 下半は整形が寛く、接合痕が残る。
16	土師器 甕	完形 口 16.4cm 底 7.3cm 高 25.8cm 割 19.9cm	貯蔵穴内	①微細砂を含む。 ②燈5YR6/6	やや長胴化した変形土器。胴部外面は縦方向寛磨り後 細かい工具で部分的に横方向なで。内面縦方向の寛な で。口縁部横なで。底部寛磨り。

3・4号住居

J-K-53グリッドに検出された重複住居群である。4号住居の西壁に3号住居のカマドがかかっている。3号住居のカマドは4号住居の埋没土の上につくられており、完存しているので4号住居が3号住居に先行することがわかった。

3号住居 (図18・19 PL4)

位置 J-53グリッド 主軸方位 N68°E 重複 4号住居に後出する。

規模 縦4.20m 横3.44m 深さ0.25m 形状 隅丸長方形

埋没土 直径2～20cmの円礫を含む黒色土層である。カマド付近には黒灰色土が、直径2～5cmの礫を含んで堆積している。

掘り方 住居跡の床面や壁には基盤の礫層が見られ、明確な掘り方はない。カマドのある東壁南半にわずかな張り出しがあるが、貯蔵穴としての性格をもつ遺構とは考えにくい。

床面 貼り床無し。住居中央部分がわずかに硬い。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 遺物は二点出土したが、図示しえるものではなかった。埋没土中の遺物も細片数点であった。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長0.94m 最大幅0.88m 焚き口幅0.35m

袖 わずかに住居内に張り出す。

煙道 住居壁を斜めに掘り、住居外へ煙道を延ばしている。

遺存状態 カマド両袖の基部の壁に自然石を芯として袖を取り付けている。袖の大部分は破損している。床面、カマド燃焼部分内面の壁は赤褐色に焼けている。

遺物出土状態 無し。

備考 時期を確定できる遺物が極めて少ないので、推定にとどまるが、埋没土中の破片から判断すれば、平安時代の住居と考えられる。

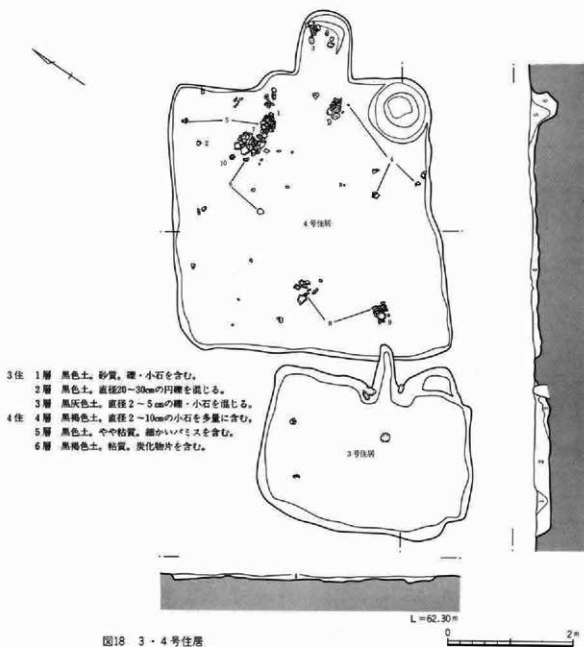


図18 3・4号住居

II 検出された遺構と遺物

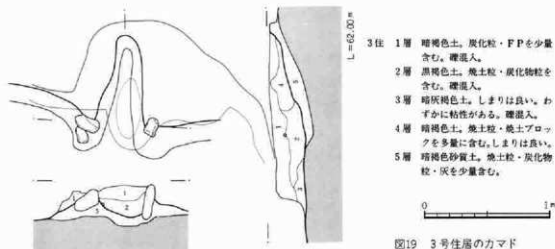


図19 3号住居のカマド

4号住居 (図18・20 PL4・41)

位置 J・K-53グリッド 主軸方位 N57E 重複 3号住居に先行する。

規模 縦4.10m 横4.33m 深さ0.10m 形状 方形

埋没土 直径2～10cmの小石を多量に含む黒褐色土である。貯蔵穴内は炭化物粒を含む粘性の黒褐色土が埋積している。

掘り方 確認面から床面までは非常に浅く、床面や壁にはローム層下の礫層がみえている。カマド左側は住居の壁を一部外側へ掘り出している。

床面 貼り床無し。ローム層下の礫層が床面となっており、床面は不安定な状態である。

貯蔵穴 カマド右脇、東隅に位置する。直径0.9mの円形を呈し、断面形は台形である。

周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 カマドの前周辺に比較的まとまった遺物が出土しているが、破片は全体に散布している。遺物は床面直上出土のものが多く、図20-1、2、3の土師器杯形土器や、5の土師器埴形土器、7、10の土師器甕形土器は住居北隅に集中して出土した。8、9の土師器甕形土器は、南西部で床面からやや浮いた状態で出土した。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長1.3m 最大幅1.4m 焚き口幅0.8m

袖 無し

煙道 住居外にのびる。

遺存状態 熱焼部分には炭化物粒や焼土がわずかに観察できる。煙道は東壁を掘り、立ち上がりをつくっている。袖は自然石や土器を使用した可能性があるが、明確な遺存状態にない。

遺物出土状態 煙道付近に土師器破片が集中している。また、カマド前面右側に甕形土器の破片が出土したが、袖の構築にかかわるものかどうかは不明である。

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

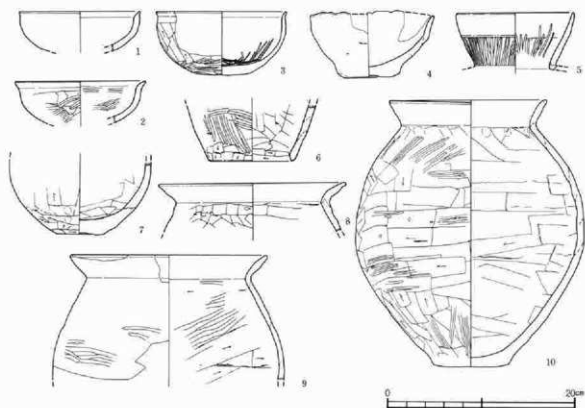


図20 4号住居の出土遺物

4号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③地成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～胴部1/3残 口 (13.0cm)	カマド左前 床面直上	①中砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	内面横方向荒削り後、横方向荒磨き。口縁部横なで。
2	土師器 杯	口縁～胴部1/6残 口 (13.9cm)	北西隅 床面上3cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面横方向荒なで後、斜方向荒磨き。内面横方向荒磨き。口縁部横なで。
3	土師器 碗	口縁～底部破片 口 (14.0cm) 高 6.7cm	カマド内 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面荒削り、体部外面縦方向荒削り後、部分的に荒磨き。内面なでの後、放射状の荒磨き。口縁部内外面横なで。
4	土師器 碗	定形 口 13.0cm 深 5.0cm 高 7.0cm	カマド前 床面直上	①細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	あまり整形が施されない。撫でられているようだが摩耗激しく観察できない。
5	土師器 甕	口縁～胴部1/3残 口 (12.4cm)	北西隅 床面直上	①微細砂、白色細粒物、角閃石を含む。 ②橙5YR6/6	口縁部外面下半縦方向荒磨き。内面放射状荒磨き。口縁部横なで。
6	土師器 甕	底部1/2残存 底 (9.1cm)	中央部 床面直上	①細砂、径3mmの小石含む。 ②にぶい褐7.5YR5/3	外面縦方向荒削り後、斜方向荒磨き。内面斜方向荒削り。
7	土師器 甕	体部下位～底部 底 4.9cm	北隅 床面直上	①細砂、白色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6 ③軟質	胴部外面斜方向荒削り。部分的に指押さえ。内面横方向荒なで。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
8	土師器 甕	口縁部1/4残存 口 (20.0cm)	南西壁際 床面上2cm	①細砂を含む。 ②にふい明赤褐2.5YR5/6	外面縦および斜方向荒削り。内面横方向荒削り。
9	土師器 甕	口縁-体部上半 1/5残存 口 (20.7cm)	南隅 床面上6cm	①細砂、白色細粒物を含む。 ②にふい明赤褐5YR5/4	胴部外面縦方向荒削り後、中位を中心に横方向荒削り、内面横方向荒削り後、斜方向荒削り。口縁部内外面横削り。
10	土師器 甕	4/5残存 口 16.6cm 底 8.0cm 高 28.2cm	カマド左前 床面直上	①細砂、白・赤色細粒物を含む。 ②にふい明黄褐色10YR5/4	胴部中位に最大径をもつ甕。胴部外面上半横方向荒削り。下半横方向荒削り。後部分的に荒削り。内面横方向荒削り。口縁部横削り。底部外面荒削り。

6号住居 (図21・22 PL5・41)

位置 L-53グリッド 主軸方位 N40°W

重複 なし

規模 縦5.70m 横1.00+αm 深さ0.3m

形状 隅丸方形

埋没土 ローム粒、炭化物粒を少量含む灰褐色土である。

掘り方 発掘区内では住居の西壁しか調査できなかったのが確定的でないが、明確な掘り方はない。

床面 貼り床無し。平坦な床面である。硬化面は顕著でない。

貯蔵穴 不明

周溝 無し

柱穴 柱穴とは断定できないが、西壁際に30cm×15cm、深さ5cmのピットが検出されている。

遺物出土状態 壁にそって遺物は散在している。床面からやや浮いた状態のものもあるが、住居の第一次埋没土には含まれていると考えられる。南隅壁際、床面直上で石器が並んで出土している(図22-9・10)。これらは石皿と磨石で、セットで使用されたことを示唆する出土状態であった。

カマド 発掘区内では住居西壁周辺しか調査できなかったのが確定的でないが、図22-2、3の高杯形土器や7の器台形土器の型式からすると、カマド付設以前の住居とも考えられる。

備考 5世紀前半の住居と考えられる。

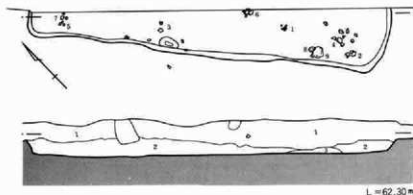


図21 6号住居

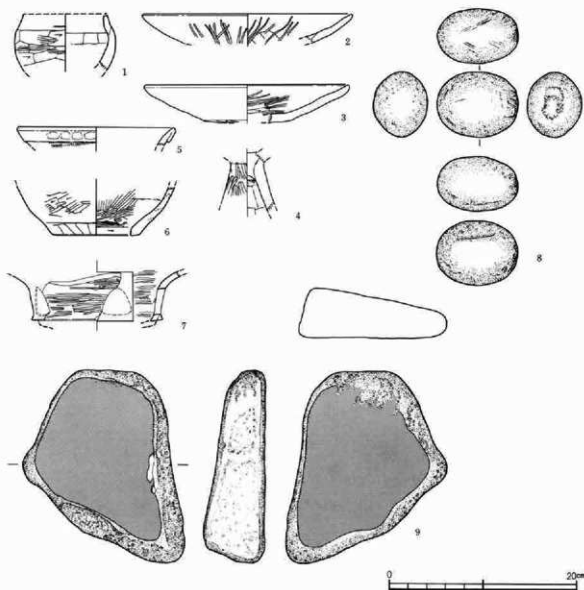


図22 6号住居の出土遺物

6号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・形状の特徴
1	土師器 甕	口縁一体部1/4残 口(9.0cm)	南西壁 床面上直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面縦方向捩削り後、横方向丸磨き。内面縦方向丸なで。口縁部横なで。
2	土師器 高杯	杯部破片 口(22.4cm)	南西隅 床面上9cm	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②によい焼7.5YR6/4	やや薄手の高杯の杯部と思われる。内外面とも丸なで後、放射状の磨磨き。
3	土師器 高杯	杯部破片 口(21.6cm)	南西壁際 床面上9cm	①細砂を含む。 ②焼7.5YR6/6	外面下位、捩削り。上半はなでられている。内面縦方向丸削りの後、斜方向丸磨き。口縁部はやや内湾する。
4	土師器 高杯	脚部1/2残存	南西隅 床面上5cm	①緻密。 ②赤褐2.5YR5/6	杯部と差し込み式で接合された高杯脚部破片。外面縦方向細かい丸磨き。内面丸なで。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	土師器 甕	口縁部破片 口(16.8cm)	北西隅 床面上4cm	①微細砂、角閃石を含む。 ②黄褐色10YR5/4	折り返し口縁の壊れた破片。折り返し部には指環状痕が残る。外面縦方向刷毛目。内面なで。
6	土師器 甕	底部破片 底(7.7cm)	西壁際 床面上4cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	外面斜方向荒削り。端部指押さへ。内面斜方向荒削り。斜方向荒削り。
7	土師器 砂台	頸部破片	北西隅 床面上5cm	①緻密。 ②橙7.5YR6/6 ③硬質	特殊砂台の器受部と思われる。五単位の三角形の透かし孔が焼成前に切り取られている。内外面は縦方向刷毛目の後、横方向荒削り。
8	磨石 砥石	完形 長 8.6cm 幅 6.9cm 厚 5.8cm 重 492g	南西隅壁際 床面上直上 9の隅		全体的に磨られている。小口の一面面には敲打痕がある。10の石とセットで使われたものであろう。
9	磨石	完形 長 20.4cm 幅 17.1cm 厚 6.6cm 重 2,460g	南西隅 床面上直上 8の隅		扁平礫の両面を磨り面として利用している。裏面には敲打痕らしき痕跡が残る。

7号住居(図23・24 PL5・42)

位置 L・M-53グリッド

主軸方位 N25°W

重複 4号、5号、6号土坑に先行する。

規模 縦5.47m 横3.00+αm 深さ0.10m

形状 隅丸方形になると考えられる。北東半分

は、発掘調査区域外であるので不明である。

埋没土 黄褐色土であり、ローム粒と焼土粒をわずかに含む。

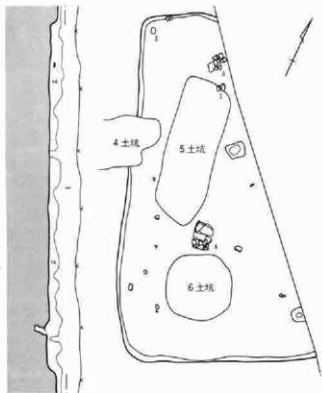
掘り方 無し

床面 貼床無し。床面はほぼ平坦であり、ローム層であるが、下層の礫層が露出している部分もある。

貯蔵穴 不明 周溝 無し

柱穴 無し。床面には小ピットが二ヵ所検出されたが、埋没土の観察から柱穴とは考えられない。

遺物出土状態 遺物は散在している。図24-2の土師器壺形土器を除いて床面直上の出土である。3の土師器甕形土器と4の土師器甕形土器



L=62.20m

7住: 1層 表土層。

2層 黄褐色土。ローム粒を含み、僅かに焼土粒が見られる。表土からの埋乱が一部にある。

図23 7号住居



は、破片が集中しており、原位置に近い出土状態と考えられる。

カマド 先述のように住居半分の調査のため、カマドの有無は不明である。

備考 出土遺物から5世紀後半の住居と考えられる。

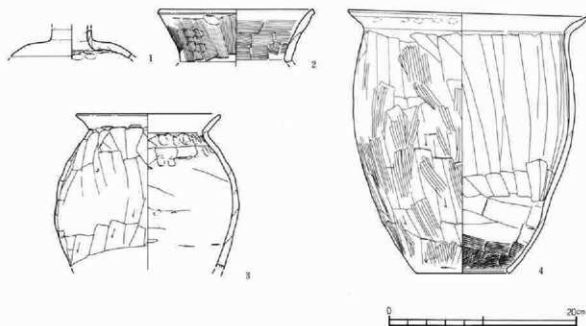


図24 7号住居の出土遺物

7号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須置器 蓋	胴～頸部上位 1/4残存	北壁際 床面直上	①磁青 ②灰黄2.5YR6/2 ③還元焼	外面および頸部内面に自然釉。
2	土師器 甕	口縁～頸部1/4残 口 16.8cm	西隅壁際 床面上15cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	外面縦方向刷毛目。内面横方向刷毛目。口縁端部外面に面取りする。
3	土師器 甕	口縁～胴部4/5残 口 15.4cm 胴 19.7cm	西隅 床面直上	①細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	胴部上半縦方向瓦などで、下半縦方向瓦削り。口縁部横などで、内面横方向瓦などで、頸部下位に指頭痕が残る。
4	土師器 甕	ほぼ完形 口 25.4cm 底 10.0cm 高 27.5cm	ほぼ中央部 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR7/6 ③硬質	外面上半縦方向瓦などで、下半縦方向瓦削り後、縦方向の瓦磨き。口縁部横などで、指頭痕残る。内面上半縦方向瓦などで、下半横方向瓦などで、内面下端部弱い刷毛目整形。

8号住居 (図25 PL.5・6・42)

位置 M-55・56グリッド 主軸方位 N50°W 重複 無し

規模 縦4.45m 横1.85±αm 深さ0.16m 形状 隅丸方形

埋没土 焼土粒やローム粒を含む暗褐色土である。ロームブロックもわずかに含んでいる。地表面から遺構確認面まで約35cmあるが、耕作土による擾乱が激しい。4層、5層の土層堆積は床面を壊しており、擾乱層

II 検出された遺構と遺物

である。

掘り方 住居南壁と西壁の一部を確認した。他は発掘区域外である。床面には基盤の礫が露出しているところがあり、掘り方をもたない住居である。

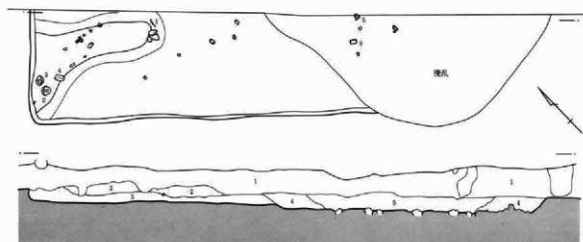
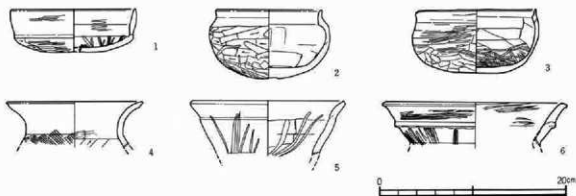
床面 貼り床無し。床面はローム層が主であるが、東側に礫が露出している。住居北西隅には不定形な5～10cmの高まりがある。

貯蔵穴 不明 **周溝** 無し **柱穴** 無し

遺物出土状態 調査範囲内では北西部の高まりに集中している。図25-1～4の土師器はこの高まり周辺からの出土遺物である。5、6は攪乱土中の遺物であるが、時期的には隔たらないと思われる。

カマド 不明

備考 出土遺物から5世紀中頃の住居と考えられる。



- 8号 1層 耕作土。しまりが悪く、サササする。
 2層 褐色土。1層よりしまりは良く、焼土粒を微量、ロームブロックを少量含む。
 3層 暗褐色土。焼土粒・焼土ブロックを2層よりも多く含む。ロームブロックをごく少量含む。
 4層 暗褐色土。ローム粒を全体に含む。3層に比べしまりは悪い。
 5層 暗褐色土。ローム粒・礫を含む。しまりは弱い。

L=62.40m

0 2m

図25 8号住居と出土遺物

8号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (13.4cm) 高 4.5cm	中央部 床面直上	①細砂を含む。 ②明赤褐色2.5YR5/6	外面底部磨削り後放射磨き。内面きれいになられた後放射状磨き。口縁部内面とも横なで。部分的に横方向の磨きが残っている。
2	土師器 鉢	口縁部一部欠損 口 (11.4cm) 底 (丸底) 高 7.3cm	南西隅壁際 床面直上	①細砂を含む。 ②赤褐色10YR5/4	外面磨削り。底部は改めてさらに削っている。内面横方向磨なで。口縁部横なで。
3	土師器 鉢	3/4残存 口 (13.0cm) 高 6.6cm	南西隅壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②にぶい褐色7.5YR5/4	体部外面横方向磨削り。底部外面四方向磨削り。内面横方向磨なで後、井桁状の細い磨き。口縁部内外面横なで。平底風。
4	土師器 甕	口縁～頸部1/4残 口 (14.6cm)	南西隅 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②にぶい黄褐色10YR7/4	肩部外面斜方向一単位6番の刷毛目整形。頸部内面にも斜め方向の刷毛目残る。
5	土師器 鉢	口縁～体部1/8残 口 (15.8cm)	住居南半 掘乱土中	①微赤。 ②にぶい赤褐色5YR5/3	体部外面指なで後放射状磨き。内面横方向磨なでの後放射状磨き。口縁部内外面横なで。
6	土師器 甕	口縁～頸部1/5残 口 (18.0cm)	住居南半 掘乱土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	外面上半横方向磨削り。内面は、磨耗が著しいが、部分的に横方向の磨きが残る。

9号住居 (図26・27・28 PL.6・42)

位置 J-62グリッド 主軸方位 N60°E

重複 無し。10号住居と近接する。

規模 縦2.65m 横2.72m 深さ0.26m

形状 隅丸方形を呈する。南壁と西壁の残存状態が良い。

埋没土 直径1～3cmの小礫を含み、ローム粒、ロームブロックをわずかに混入する。

掘り方 無し。南半分には床面で確層が露出している。

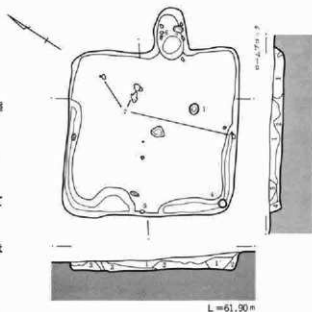
床面 貼り床無し。住居中央から北側にかけてはローム層が硬く踏まれており、硬化面がある。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 有り。住居北壁中央から南壁中央にかけて、約半周する周溝が検出された。西壁中央で一部とぎれる。平均幅25cm、深さ2～7cmである。

遺物出土状態 遺物出土量は少ない。カマド周辺から図28-1、2の土師器杯形土器と6、7の甕形土器が床面直上で出土している。また、壁際で4、5の須恵器蓋形土器が出土している。

カマド 位置 北東壁のほぼ中央



- 9位 1層 暗褐色土。ロームブロックをほとんど含まない。しまりが悪く、バラバラする。
- 1層 暗褐色土。色調は1層に近いが、しまりは良い。ローム粒およびロームブロックを少量含む。
- 2層 褐色土。ロームブロックを多く含む。1層よりしまりは良い。
- 3層 暗黄褐色土。直径1～3mm程度の小礫を含む。ローム粒・ロームブロックをごく僅かに含む。
- 4層 暗褐色土。ローム粒を含む。2層よりしまりは弱い。
- 5層 暗黄褐色土。しまりは悪い。ローム粒・ロームブロックを含む。

図26 9号住居



II 検出された遺構と遺物

規模 全長0.85m 最大幅0.6m 焚き口幅 0.45m

袖 無し

煙道 住居壁を切りこんで約0.65m外へ出る。

遺存状態 焚き口部分は円形におずかに掘りくぼめられている。カマドの使用面は赤くやけていた。

遺物出土状態 熱焼部から図28-2の土師器杯形土器と6の変形土器が出土している。

備考 カマドの形態や出土土器の型式から8世紀中頃の住居と考えられる。

- 9住 1層 褐色土。焼土ブロック・白色細粒物を含む。
 2層 黄褐色土。焼土ブロック・ロームブロックを含む。
 3層 明褐色土。焼土ブロックをわずかに含む。
 4層 褐色土。粗による擾乱。
 5層 掘り方変換土。

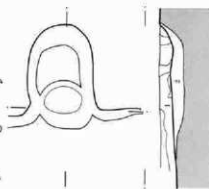


図27 9号住居のカマド

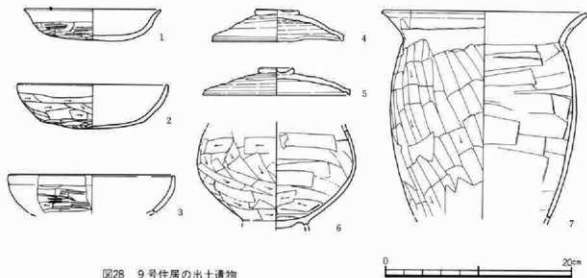
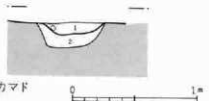


図28 9号住居の出土遺物

9号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	完形 口 14.4cm 高 3.5cm	カマド右前 床面上2cm	①微細砂を含む。 ②にふいね7.5YR5/3 ③硬質	底部外面削りりの後荒磨き。内面先式がでるくらい丁寧ななどで、口縁部横なで。
2	土師器 杯	1/2残存 口 (16.0cm) 高 4.7cm	カマド内	①石灰、角閃石、細砂を多く含む。 ②にふいね7.5YR5/4	外面横方向削りり。底部削りり。内面丁寧ななどで、口縁部横なで。
3	土師器 杯	口縁～体部1/10残 口 (17.4cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面横方向削りり。後、部分的に横方向の荒磨き。内面丁寧ななどで、口縁部横なで。
4	須恵器 蓋	完形 口 14.2cm 高 3.4cm	南隅壁際 床面上2cm	①微細砂を含む。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ整形。外面上半部回転削りり。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	須恵形蓋	つまみ頭部1/2残口 (15.8cm) 高 (2.9cm)	南壁中央部壁際と西壁中央部壁際の遺物が接合	①微細砂を含む。 ②灰N4/ ③還元焰	外面上半右回転施削り。その他なで。
6	土師器台付甕	体部下半1/2残削 (17.0cm)	カマド内床面上9cm	①微細砂を含む。 ②にふい赤褐5YR5/4	内面に赤色顔料付着、外面斜方向施削り。内面横方向施なで。内面に灰化物付着。
7	土師器甕	口縁-胴部上半1/2残存口 (21.5cm)	カマド左前床面直上	①細砂を含む。 ②橙2.5YR5/3	胴部外面縦方向施削り。内面横方向施なで。口縁部横なで。

10号住居 (図29・30 PL.6・42)

位置 J-62・63グリッド

主軸方位 N40°W

重複 11号土坑、6号溝に先行する。

規模 縦4.82m 横4.13m 深さ0.14m

形状 隅丸方形

埋没土 ロームブロックや角閃石安山岩の小礫をわずかに含む黄褐色土。

掘り方 無し。基盤の礫層が一部に露出している。

床面 貼り床無し。平坦な床面で、ローム部分はわずかに硬い。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 無し

遺物出土状態 床面直上出土遺物はカマド周辺に集中している。

カマド 位置 南壁東寄り

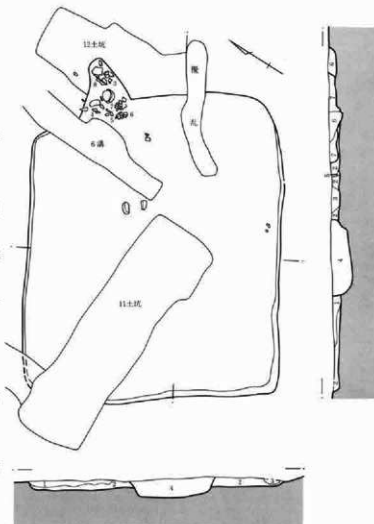
規模 全長0.8m 最大幅0.85m 焚き口幅不明

袖 無し

煙道 住居外へ延びる。

遺存状態 煙道は住居外へ延びるが、掘り込みは浅く、不明瞭である。

遺物出土状態 土師器甕形土器 (図30-4・5・6・7)



- 10住
- 1層 褐色土。砂質を帯びた土で、直径2mmの小礫を含む。
 - 2層 黄褐色土。ロームブロックを覆じる。角閃石を含むパミスを僅かに含む。
 - 3層 茶褐色土。ロームブロック・粒を少量含む。堅くまとっている。(6号溝埋没土)
 - 4層 暗褐色土。ロームブロック・直径2~5mmの小礫を少量含む。(11号土坑埋没土)
 - 5層 ロームブロック。 6・7層 横乱。

図29 10号住居



II 検出された遺構と遺物

が正置あるいは倒置状態で出土している。袖の芯の可能性もあるが、不明である。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

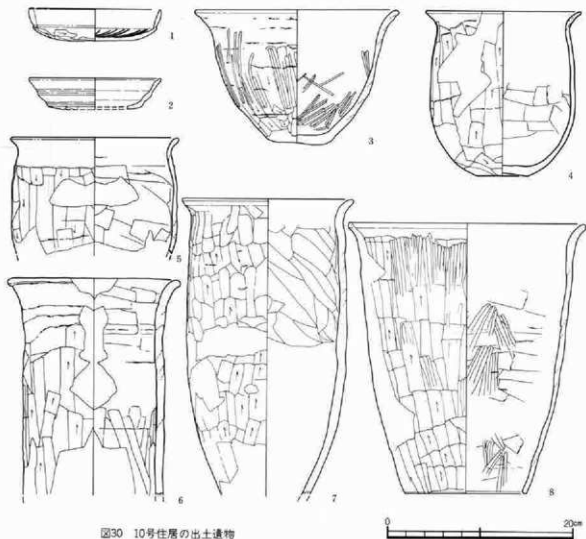


図30 10号住居の出土遺物

10号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (14.0cm) 高 3.4cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/6	底部外面は篋削りの後、不規則な磨きが施される。口縁部横なで。内面、放射状磨き。
2	土師器 杯	1/3残存 口 (13.0cm)	埋没土中	①黄土。 ②灰褐7.5YR4/2 ③硬質	縁を二段もつ杯。底部外面は篋削り。
3	土師器 鉢	ほぼ完形 口 21.8cm 底 6.5cm 高 14.1cm	カマド カマド内面直上	①微細砂を含む。 ②にぶい黄10YR7/4	外面は縦方向の篋削りの後、縦方向の部分的な磨き。内面は横なでの後斜方向の磨き。口縁部横なで。

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
4	土師器 甕	口縁～底部1/2残 口(16.4cm) 底(5.3cm) 高7.4cm	カマド	①中砂を含む。 ②にふい粉5YR4/4	外面縦方向荒削り。下位斜方向荒削り。底部掘削り。 内面横方向荒削り。口縁部横削り。
5	土師器 甕	口縁～体部上半 1/3残存 口(17.6cm)	カマド 灰面直上	①細砂を含む。 ②にふい粉10YR6/4	外面縦方向荒削り。内面横方向荒削り。口縁部横削り。
6	土師器 長甕	口縁～胴部上半 1/2残存 口(18.5cm)	カマド 灰面上2cm	①中砂、5mmの小石を含む。 ②にふい粉7.5YR6/4 ③軟質	厚手の甕。外面縦方向荒削り。内面上半横方向荒削り。 下半縦方向荒削り。口縁部横方向荒削り。
7	土師器 長甕	底部欠損 口18.4cm	カマド	①中砂、5mmの小石を含む。 ②にふい粉7.5YK7/4	外面細かい縦方向の荒削り。内面丁寧な斜方向の荒削り。 頸部外面指による縦方向の押さえ。
8	土師器 甕	口縁～底部1/4残 口(25.2cm) 底(12.8cm) 高28.6cm	カマド 灰面直上	①細砂、石灰を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面縦方向荒削りの後、部分的に細かい荒削り。内面横 方向の荒削り。縦方向の荒削り。口縁部横削り。

11・12号住居

K-65・66グリッドに検出された重複住居である。主軸を同じくし、やや東西方向にずれたような配置になっている。さらに22・23号土坑に切られており、カマド部分など不明な点が多い。

11号住居(図31 PL7・42)

位置 K-65グリッド 主軸方位 N90°E 重複 12号住居に後出し、22号土坑に先行する。

規模 縦4.13m 横3.85m 深さ0.28m 形状 台形

埋没土 焼土粒をわずかに含む細かい砂質土である。第一次埋没土はロームブロックを多量に含み、焼土粒もわずかに含んでいる。

掘り方 ローム層を20cmほど掘り込んでいる。掘り方は確認されなかった。

床面 貼り床無し。床面はほぼ平坦であり、ローム層に基盤の礎層が露出している。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 長径25cm、短径17cm、深さ12cmほどのピットが一方所北壁中央壁際を検出されたが、壁柱穴であるかどうかは不明である。

遺物出土状態 遺物は住居内の周辺部に集中し、中央部にない。西壁付近では図31-1、2、4の須恵器杯形土器が出土している。3の須恵器杯形土器、5の須恵器変形土器は北東隅で出土した。

カマド 位置 東壁中央

規模・袖 不明。

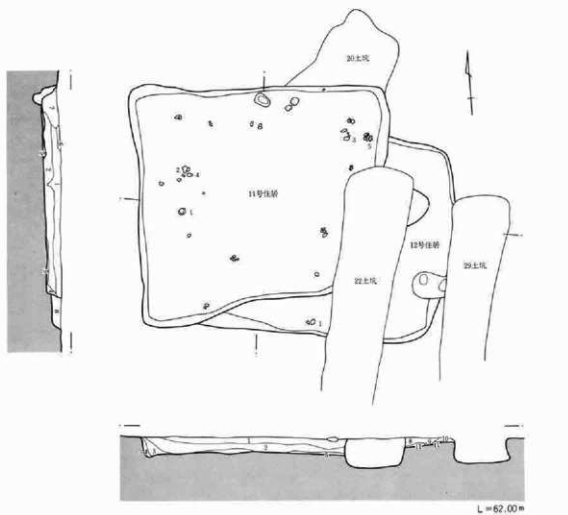
煙道 煙道は住居外へ80cmほどのびていると考えられる。

遺存状態の所見 22号土坑により住居の東南部分を大きく壊されており、カマドの煙道が一部分確認できたにすぎない。

遺物出土状態 なし

備考 9世紀前半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物



- 11住 1層 茶褐色土。砂質。焼土粒を僅かに含む。
 2層 茶褐色土。砂質。焼土粒・ロームブロックを僅かに含む。
 3層 褐色土。砂質。僅かに白色粒子を含む。
 4層 黄褐色土。地山のローム崩落土。
 5層 黄褐色土。ロームブロックを多量に含む。焼土粒も僅かに含む。
 6層 暗灰色土。As-Bか？
 7層 暗褐色土。直径2cmのロームブロック・焼土粒を僅かに含む。

- 12住 8層 褐色土。ロームブロックを少量含む。焼土粒も僅かに含む。
 9層 褐色土。礫による擾乱土。
 10層 黄褐色土。地山のローム崩落土。
 11層 黄褐色土。ロームブロックと黒色土の混土。粘床。

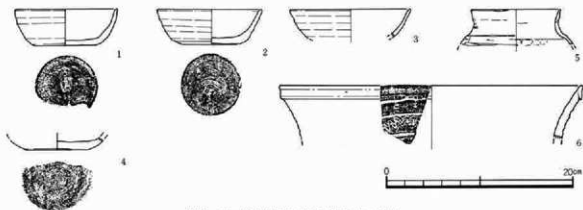


図31 11・12号住居と11号住居の出土遺物

11号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部3/4残 口 11.0cm 底 6.6cm 高 3.8cm	西部 床面上	①緻密。 ②橙5YR6/6 ③酸化焰。硬質。	左回転クロロ成形。底部切り離し技法不明。切り離し後回転整形調整。
2	ロクロ 土師器 杯	口縁～底部1/2残 口 11.3cm 底 6.3cm 高 3.7cm	西部 床面上10cm	①緻密。 ②橙2.5YR6/6 ③酸化焰。硬質。	84と同巧の土器。左回転ロクロ成形。回転糸切り離し。中心部を除いて回転整形調整。
3	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口 (12.8cm)	北東隅 床面上	①緻密。 ②灰白5Y7/1 ③還元焰。	内外面ロクロ回転で調整。
4	須恵器 杯	杯底部1/2残 底 (7.0cm)	西部 床面上24cm	①微細砂、白色細粒物含。 ②灰10Y5/6 ③還元焰。やや軟質。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後、周縁のみ回転整形。
5	土師器 台付壺	口縁～頸部1/3残 口 (9.6cm)	北隅壁際 床面上	①微細砂含む。 ②明赤褐5YR5/6	小形の台付壺。肩部外面横方向整形。口縁部横まで。
6	須恵器 甕	口縁部破片 口 (32.4cm)	埋没土中	①微細砂含む。 ②灰10Y5/1 ③還元焰。	内外面で。外面中位にはくずれた帯幅状文が一段施されている。

12号住居 (図32 PL7)

位置 K-66グリッド 主軸方位 N5°E 重複 11号住居、22号土坑、23号土坑に先行する。

規模 縦3.42+αm 横3.21m 深さ0.10m 形状 隅丸方形

埋没土 ロームブロックや焼土粒をわずかに含む褐色土である。

掘り方 床面はローム層上面であり、掘り方はない。

床面 貼り床無し。後出する遺構があるために、硬化面などは不明瞭である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 無し。東壁際に15cmほどの深さで二連穴があるが、柱穴とは言いがたい。

遺物出土状態 南壁際に須恵器変形土器の口縁部破片が出土している。

カマド 不明

備考 不明

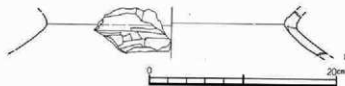


図32 12号住居の出土遺物

12号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 壺	頸部破片	南壁際 床面上	①細砂、白色紅物を含む。 ②灰7.5Y5/1 ③還元焰。	内外面横方向の整形で。口縁部横まで。

II 検出された遺構と遺物

13号住居 (図33 PL 6)

位置 L-65・66グリッド

主軸方位 N25°E

重複 5号溝に先行する。東半分は後出する数条の溝があるために削られて残存しない。

規模 縦4.95m 横3.25±αm 深さ0.22m

形状 隅丸方形

埋没土 白色細粒物、砂質土を含む黄褐色土を主とする。

掘り方 無し

床面 貼り床無し。中央部が一部踏み固められており、硬化面をつくっている。

貯蔵穴 無し

周溝 住居南壁、東壁に周溝が検出された。幅12~20cm、深さ2~5cmを計る。

柱穴 無し

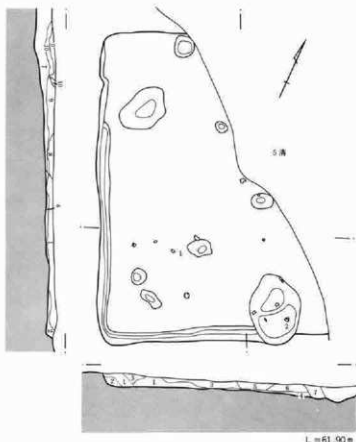
遺物出土状態 住居床面および埋没土中から少数の遺物が出土している。

カマド 位置 南壁中央付近

遺存状態 住居南壁を壊して新しい掘り込みがある。この坑を精査しているときに住居に関係すると思われる焼土が壁に見られた。この部分にカマドがあった可能性が大きい。カマド自体の形状は確認できなかった。

遺物出土状態 無し

備考 6世紀前半の住居と考えられる。



- 13住 1層 褐色土、白色粒子を含む。 3層 灰褐色土、砂質。
 2層 黄褐色土、ローム崩落土。 4層 ローム。
 5層 暗褐色土、木の根。
 6層 暗黄褐色土、ロームブロック・粒を含む。
 7層 茶褐色土、砂を中心にした土砂。
 8層 ロームブロック。
 9層 黄赤褐色土、ロームブロック・焼土ブロックを含む。
 10層 黄褐色土、堅くしまっている。ローム粒・焼土ブロックを含む。

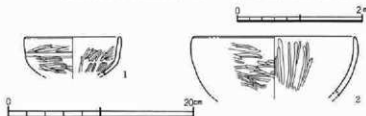


図33 13号住居と出土遺物

13号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁~底部破片 口 (10.4cm)	カマド右前 床面直上	①淡細砂を含む。 ②にふい赤褐色5YR5/3 ③硬質	外面で後横方向直磨き。内面杯部、口縁部二段にそれぞれ斜方向、縦方向の直磨き。口縁部横なで。
2	土師器 碗	口縁~体部破片 口 (17.4cm)	カマド内 灰面上8cm	①淡細砂を含む。 ②明赤褐色5YR5/6 ③硬質	外面で後、縦方向直磨き。内面横なで後放射状直磨き。口縁部横なで。

14号住居 (図34 PL 7・42)

位置 I-65・66グリッド 主軸方位 N92°E

重複 14号住居と重複している。規模 縦2.70m 横2.95±αm 深さ0.10m

形状 発掘区内では住居北部分とカマド周辺の調査に留まった。

埋没土 地表面はアスファルト道路であったため、道路施設部分が深く掘り込んでおり、残存状態は良くない。住居埋没土は礫を多量に含む褐色土である。

掘り方 無し 床面 貼り床無し。露出した基盤の礫層が床面である。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 無し

遺物出土状態 カマド左袖前方に図34-1の須恵器杯形土器が床面上4cmで出土。

カマド 位置 東壁

規模 全長0.93m 最大幅0.97m 焚き口幅不明

袖 不明 煙道 住居外に出る。

遺存状態 袖は調査では確認できなかったが、壁からわずかに煙道が外へ出ており、火床が住居内側にあることから、本来袖はあったものと考えられる。カマドの燃焼部分の埋没土は、焼土粒や炭化物粒を含んでいる。

遺物出土状態 焚き口部分に土器が少量出土した。

備考 残存状態が悪く、住居の時期を述べるのは困難である。

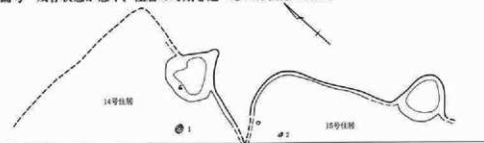
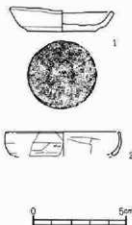


図34 14・15号住居と出土遺物

14号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器杯 (転用?)	口縁-底部5/6残 口 11.0cm 底 7.4cm 高 2.5cm	カマド右袖 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焼	右回転クロロ成形。底部切り離し技法不明。底部外面切り離し後、回転へラ削り調整。杯部上半部欠損の後、平らに削って、皿として転用している。

15号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	土師器杯	口縁-底部破片 口 (12.0cm)	北隅 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	外面横方向削削り。内面横方向なで。口縁部横なで。

II 検出された遺構と遺物

15号住居 (図34 PL7)

位置 I-66グリッド 主軸方位 N75°E 重複 14号住居と重複する。

規模 縦3.25+ α m 横1.30+ α m 深さ0.06m

形状 隅丸方形と考えられる。発掘区内では住居北隅とカマド周辺を調査したに留どまった。

埋没土 地表面のアスファルト道路施設が深く掘り込んでいたので、住居の埋没土自体は4~5cm残存していたにすぎない。

掘り方 無し 床面 貼り床無し。床面は基盤の礫層である。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 床面より2cm浮いた状態で土器片が二点出土している。

カマド 位置 東壁

規模 全長0.78m 最大幅0.7m 焚き口幅不明

袖 無し

煙道 住居壁より0.6m外へのびる。

遺存状態 先述したように道路施設による破壊が進んでおり、カマドも最下面が検出されたものとみられ、焼土粒の散布からカマドの存在がわかる程度であった。

遺物出土状態 無し

備考 残存状態が悪く、住居の時期を述べるのは困難である。

16号住居 (図35 PL7)

位置 L-67グリッド 主軸方位 N20°W 重複 26号土坑、34号土坑に先行する。

規模 縦2.98m 横3.22m 深さ0.1m 形状 隅丸方形

埋没土 白色鉱物細粒が混入している暗褐色土が主である。

掘り方 壁や床面はローム層であり、掘り方は検出されなかった。

床面 貼り床無し。住居中央部周辺が硬く踏み締められていた。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 配置が一般的でないが、二カ所のピットが検出された。

No	P 1	P 2
直径	0.3m	0.25m
深さ	0.1m	0.6m

遺物出土状態 わずかな破片が出土している。図35-1、2の土師器壺形土器、3の石斧は壁際からの出土。

カマド 位置 北壁中央

規模 全長1.0m 最大幅0.9m 焚き口幅0.45m

袖 わずかであるが、左右とも袖が一部残る。

煙道 住居外へ延びるが、26号土坑に切られており不明瞭である。

遺存状態 26号土坑が掘り込んでいるので、残存状態は悪い。住居床面より火床が5~6cm掘りくぼめられ、燃焼部を構築している。

遺物出土状態 カマド火床左袖寄りから土器破片が出土している。

備考 5世紀代の住居と考えられる。

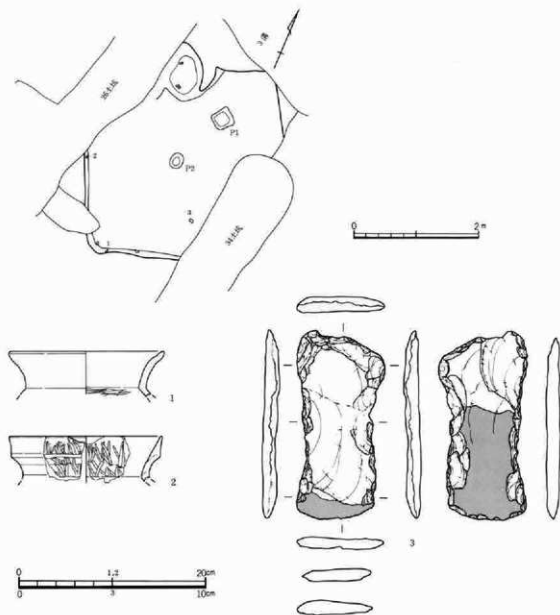


図35 16号住居と出土遺物

16号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 壺	口縁→頸部1/6残 口 (16.6cm)	南隣壁際 床面直上	①細砂、石英、小石を含む。 ②にふい煙7.5YR6/4	内外面ともなで。内面の唇曲部より下位が磨かれているのが特徴である。
2	土師器 壺	口縁→頸部破片 口 (16.4cm)	北西壁際 床面直上	①緻密。白色細粒物、角閃 石?を含む。 ②にふい赤褐色2.5YR5/4	有段口縁壺の口縁破片。内外面とも磨なでの後、縦方向の磨磨き。外面の縁は、最後に一条のなでを施す。
3	石斧	完形 長 10.5cm 幅 4.75cm 厚 0.9cm 重 53g	南廊 床面直上		

II 検出された遺構と遺物

17号住居 (図36・37 PL.8・42)

位置 M-68グリッド 主軸方位 N20°W

重複 10号溝に先行する。

規模 縦1.88+αm 横2.35+αm 深さ0.2m

形状 隅丸方形

埋没土 焼土粒をわずかに含む褐色土である。掘り方東半分は太田市教育委員会の調査区域内に入っている。明確な掘り方は検出されなかった。北壁は中央には古いカマドの煙道部掘り方が残っている。

床面 貼り床無し。床面は平坦で、住居中央部が踏まれて硬くなっている。概ねローム層である。

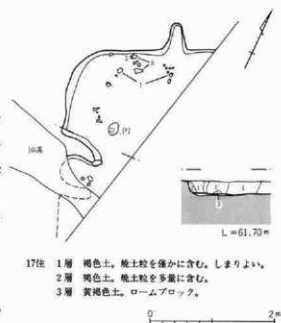
貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 東カマドの前面に小ピットが1個検出されている。P1 直径15~20cm 深さ8cm

遺物出土状態 住居北西部の壁寄りから多く出土している。床面直上の遺物は一部で、埋没土内出土遺物が多い。図37-1の土師器鉢形土器や2、3の杯形土器が床面上3~6cmで出土している。

カマド 西壁中央に住居廃絶時のカマドが設置されていたと思われるが、10号溝に壊されており、右袖が部分的に残存しているにすぎない。燃焼部には灰や焼土が残されており、カマドと判断した。



17住 1層 褐色土。焼土粒を僅かに含む。しまりよい。
2層 褐色土。焼土粒を多量に含む。
3層 黄褐色土。ロームブロック。

0 2m

図36 17号住居



図37 17号住居の出土遺物

17号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 小形鉢	口縁~底部1/4残 口 (9.1cm) 高 6.0cm	北西隅壁際 床面上3cm	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふいご7.5YR7/4	外面下半段削り。上半平で、内面下半段削り後細い工具で横方向の強い磨き。上半平で指頭圧痕残。口縁部狭くて。
2	土師器 杯	口縁~底部1/4残 口 (12.6cm)	北西隅壁際 床面上6cm	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②馬蹄7.5YR3/1	口唇部内部に稜線あり。外面下部削り。上半横方向の細かい磨き。内面下部削り後直残。上半はよくなでられ、放射状の磨きが施される。
3	土師器 椀	口縁~底部1/4残 口 (12.2cm)	北西隅壁際 床面上2cm	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふいご7.5YR7/4	外面横方向削り後、横方向磨き。内面きれいになでられた後、放射状の磨き。口縁部狭くて。外面の磨きは一部口縁部にも及んでいる。

- カマド(古)** 位置 北壁中央
 規模 全長0.23m 最大幅0.16m 焚き口幅不明
 袖 無し
 煙道 壁の外へ0.23m出ている。焼土が残存している。煙道は住居の壁で立ち上がり、煙り出し部分は浅い掘り込みである。
 遺存状態 煙道の一部を残し、とり壊されたものと思われる。
 遺物出土状態 無し
- カマド(新)** 位置 西壁中央
 規模 10号溝に壊されており、規模は不明である。
 袖 有り。右袖の一部が長さ約30cm、幅約20cm、高さ約10cmほどが残る。
 煙道 10号溝に壊されている。
 遺存状態 右袖が一部残存し、袖の先端に自然石が芯として設置された状態で出土した調査時点では袖の上部は崩れ落ちていたものと考えられる。また、煙道や左袖は10号溝に壊されていた。
 遺物出土状態 焚き口部付近で床面近くより土師器破片が数点出土している。
- 備考** 5世紀後半の住居と考えられる。

18号住居 (図38 PL8・43)

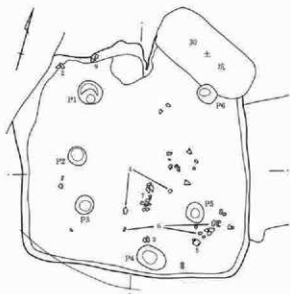
- 位置** L-68・69グリッド 主軸方向 N10°W 重複 30号土坑、36号土坑に先行する。
規模 縦3.60m 横3.75m 深さ0.22m 形状 隅九方形
埋没土 暗褐色土でローム粒、ロームブロックが混入している。上層は砂質土であり、耕作の影響を受けている。
掘り方 住居全体に5～10cm、カマド付近では20cmほど床面下へ掘り込んでいる。掘り方埋没土は、ロームブロックを混じる暗褐色土である。
床面 貼床有り。掘り方充填土でほぼ平坦につくられている。
貯蔵穴 無し 周溝 無し
柱穴 有り。主柱穴4本とその他の2本のビットが検出された。P1～4は床面で検出できたが、P5、P6は掘り方底面で確認した。

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
直径	0.33m	0.28m	0.30m	0.46m	0.34m	0.32m
深さ	0.46m	0.20m	0.30m	0.28m	0.28m	0.26m

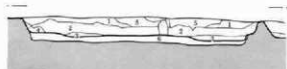
遺物出土状態 住居南東部に比較的大きな破片の遺物が集中している。図38-2と9の土師器杯形土器は西壁際に出土した。4の土師器変形土器と6の壺形土器は遺物集中部で破片が接合した床面直上出土遺物である。10～15の土師器、須恵器はいずれも埋没土中の出土であり、住居の時期を確定できると考えられる出土状態ではなかった。

- カマド** 位置 北壁のほぼ中央
 規模 全長1.15m 最大幅1.0m 焚き口幅0.3m
 袖 有り。崩れているが、痕跡は残っている。
 煙道 煙道は住居壁外へほとんど掘り込んでいない。

II 検出された遺構と遺物



- 18住 1層 褐色土。焼土粒・白色粒を僅かに含む。
 2層 暗褐色土。ローム粒を僅かに含む。
 3層 黄褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土。
 4層 黄褐色土。壁のロームの崩落土。
 5層 灰褐色土。砂質。
 6層 暗褐色土。ロームブロックを含む。



L=61.9m

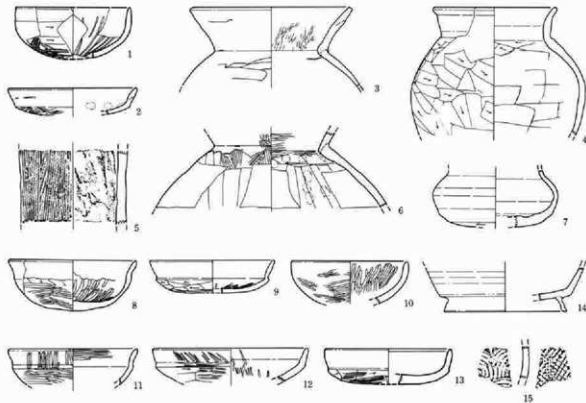


図38 18号住居と出土遺物



18号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁部破片 口(12.4cm) 高(5.5cm)	南東隅 床面上直上	①淡細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	外面旋削りの後、細かな磨き。内面なので、放射状の磨き。
2	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口(13.6cm)	北西隅壁際 床面上直上	①中砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	底面外面旋削り後、一部に細かな磨き。内面などで一部に指頭圧痕が残る。口縁部横なで。
3	土師器 甕	口縁部破片 口(17.0cm)	南壁際 床面上3cm	①淡細砂を含む。 ②にふい赤褐5YR5/4	口縁部端部は外面にゆるやかな稜をもって面とりする。内面端部は内湾する。外面横方向旋削り。口縁部横なで。
4	土師器 甕	口縁～底部3/4残 口(12.3cm)	南東隅 床面上直上	①細砂を含む。 ②にふい褐7.5YR5/3	肩部外面横方向旋削り。後半縦方向旋削り。内面横方向旋削り。口縁部横なで。
5	円筒埴輪	体部破片 胴 11.6cm	南東隅 床面上8cm	①淡細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	外面、縦方向の刷毛目整形。内面縦方向指なで。
6	土師器 甕	頸～肩部残存	中央部 床面上10cm	①淡細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	外面縦方向旋削り後、縦および斜方向磨き。内面横方向磨なで。指頭圧痕が残る。
7	須恵器 甕	頸～底部1/4残存 胴 13.4cm	中央部 床面上4cm	①細砂、石英を含む。 ②灰白10YR8/1 ③還元焰	底部外面回転削り。内外面などで調整。
8	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口(13.6cm) 高(5.4cm)	埋没土中	①細砂、石英、角閃石を含む。 ②にふい黄橙10YR7/4	底部外面指なで。杯部外面斜方向旋削り後、縦かい横方向の磨き。内面なので、放射状磨き。口縁部横なで。
9	土師器 杯	口縁～底部1/2 口(13.2cm) 高(3.5cm)	カマド左脇 床面上15cm	①細砂、石英、白色細粒物を含む。 ②にふい黄橙10YR6/4 ③内黒。	外面外面旋削り。内面なので、放射状の旋削り。口縁部横なで。
10	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口(12.4cm)	埋没土中	①淡細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面なので、横方向細かい磨き。内面横なでの後縦方向の磨き。
11	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口(13.6cm)	埋没土中	①淡細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	杯部外面旋削りの後、横方向磨き。内面なので、口縁部横なで。口縁部外面縦方向磨き。内面横方向磨き。
12	土師器 杯	口縁部破片 口(16.6cm)	埋没土中	①淡細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面旋削り。内面なので、口縁部横なで。内面放射状磨き。口縁部外面縦方向磨き。
13	土師器 杯	口縁～底部破片 口(13.6cm) 高(3.8cm)	埋没土中	①細砂、直径2mmの小石を含む。 ②にふい黄橙10YR7/4	外面横方向の旋削り。一部に磨き。内面横なで。口縁部横なで。
14	須恵器 高台付甕	底部破片 底(13.0cm)	埋没土中	①淡細砂を含む。 ②灰黄2.5Y7/2 ③やや軟質。	左回転クロコ成形。回転糸切り難し。付高台。高台接合部強いなで。
15	須恵器 甕?	胴部破片	埋没土中	①淡細砂を含む。 ②明褐7.5YR5/8 ③酸化焰	外面格子印き調整。内面同心円文のあて具痕が残る。

II 検出された遺構と遺物

遺存状態 カマド付近には、焼土粒を多く含む暗褐色土が確認された。典型的なカマドの残存状態ではなく、左袖の構築材である粘土が大きく崩れていた。右袖は地山のローム層を掘り残したと思われる袖芯部分が検出されただけであった。

遺物出土状態 カマド燃焼部での遺物の出土はない。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

19号住居 (図39・40 PL9・43)

位置 J-71グリッド 主軸方向 N70°E

重複 出土遺物の型式から20号住居、40号住居に後出すると思われるが、北及び西壁が明確でない。

規模 縦4.06m 横3.87m 深さ0.15m 形状 隅丸方形

埋没土 発掘区内を横断していたアスファルト道路の施設が掘り込んでおり、残存する埋没土は数cmにすぎない。床面の一部も掘り込まれていた。したがって、20号住居、40号住居との重複関係も埋没土層断面の観察から判断できなかった。

掘り方 カマドから南東隅、住居中央部に床面下の掘り込みを検出した。

床面 貼り床一部に有り。掘り方部分にはロームを主体とする土が充填されている。床面は平坦である。基盤の礫が露出している部分もある。

貯蔵穴 無し **周溝** 無し **柱穴** 無し

遺物出土状態 数は少ないが、出土している。図40-1、3の土師器は床面直上の出土である。

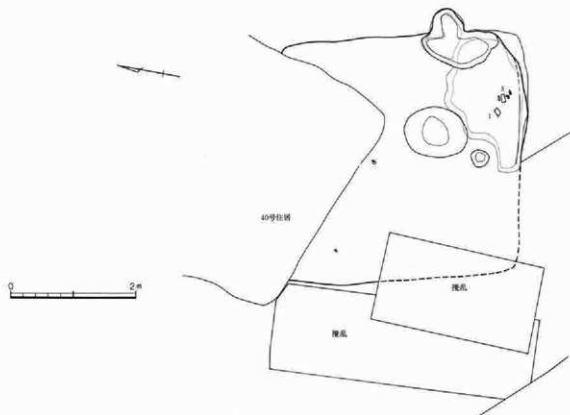


図39 19号住居

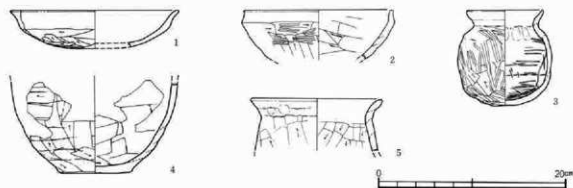


図40 19号住居の出土遺物

19号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/3残 口 (18.0cm) 高 (4.0cm)	カマド右前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	外面荒削り。内面なで。口縁部横なで。
2	土師器 杯	口縁～底部1/6残 口 (16.0cm)	埋没土中	①細砂、雲母、角閃石を含む。 ②にぶい黄橙10YR7/4	外面上半縦方向荒削り。下半縦方向荒削り。内面横方向荒削り。口縁部横なで。
3	土師器 小形甕	完形 口 8.2cm 高 10.1cm	カマド右前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR7/6 ③硬質	外面荒削り。後上半を中心に細い荒磨き。内面なで後棒状工具による条痕が残る。口縁部横なで。
4	土師器 甕	胴～底部1/4 底 (8.0cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR6/5	外面下半縦方向荒削り。上部は横方向荒削り。底部外面荒削り。内面横方向荒削り。
5	土師器 甕	口縁～上部 1/8破片 口 (14.2cm)	埋没土中	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②明赤褐5YR5/8	内外面とも縦方向荒削り。口縁部横なで。

カマド 位置 東壁南寄り。

規模 全長0.95m 最大幅1.2m 焚き口幅不明

袖 不明

煙道 住居壁の外へ0.35m出る。深さは約15cmほどの掘り込みである。

遺存状態 遺存状態はきわめて悪い。燃焼部は床面から15cmほど下げられている。袖については何の痕跡も残っていないので、不明である。

遺物出土状態 遺物の出土はない。

備考 7世紀中頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

20号住居 (図41・42 PL9・43)

位置 J-70・71グリッド 主軸方位 N15°W

重複 19号住居、40号住居、43号土坑、44号土坑、45号土坑に先行する。

規模 縦6.48m 横3.76+αm 深さ0.05m

形状 隅丸方形と考えられる。本住居跡の南、西部は、遺構の重複や激しい攪乱で明瞭に形状を把握することができない。かろうじて北西隅から隅丸方形と判断できる。南壁は遺物の出土範囲から推定復元した。

埋没土 19号住居と同様に埋没土は薄い。掘り方 明確に検出できなかった。

床面 北西隅には硬化面が認められた。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 住居の遺存状態の良い北西部より、多くの遺物を検出した。図42-2、3、4、5の土師器杯形土器、鉢形土器はやや浮いた状態で出土しているが、他の図示した遺物は床面直上からの出土である。

9の壺形土器は北西部のやや広い範囲での接合資料である。8の甕形土器は南壁付近からの出土である。

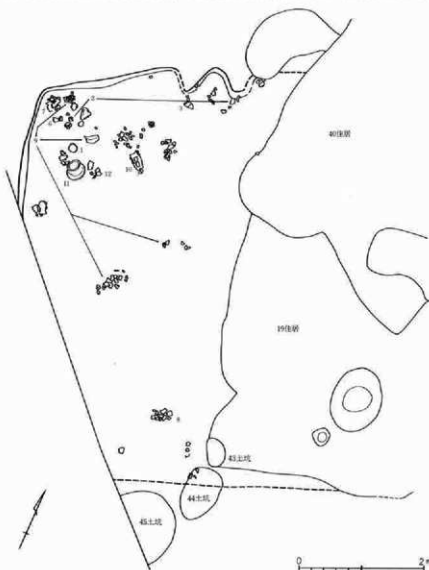


図41 20号住居

カマド 位置 北壁中央と思われる。

規模 全長0.45m 最大幅推定1.0m 焚き口幅推定0.7m

袖 有り。左袖が削られているが、わずかに残る。

煙道 住居壁外への掘り込みはない。

遺存状態 右袖はロームと粘土混りの土層を盛り上げている。周辺の焼成状況からカマドの可能性が高い。しかしカマド周辺の攪乱が激しく詳細は不明である。

遺物出土状態 カマド燃焼部及び全面に10点ほどの遺物が出土している。図42-2、3の土師器杯形土器は床面から7、8cm浮いた状態であった。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

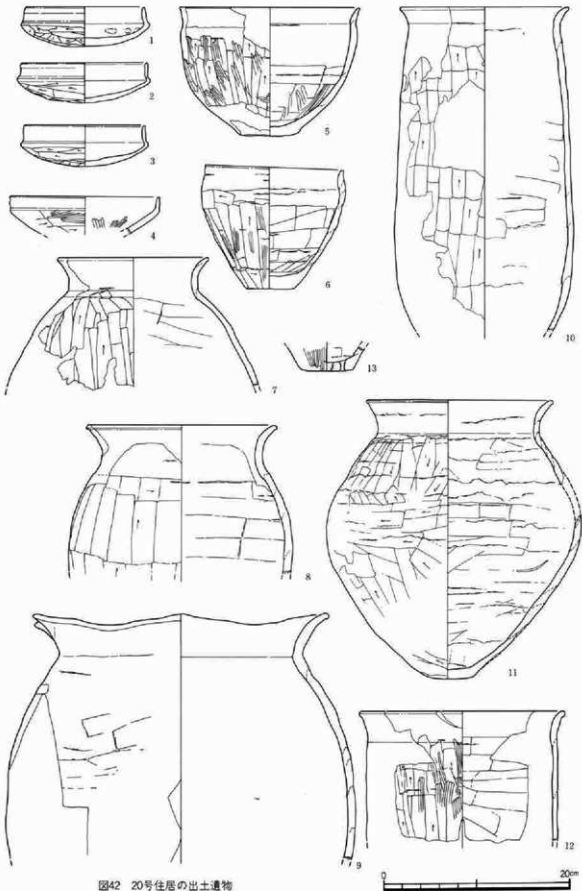


図42 20号住居の出土遺物

II 検出された遺構と遺物

20号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	3/4残存 口 (12.8cm) 高 4.2cm	北西隅 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②淡黄褐色10YR8/3	外面荒削り。内面なで。指頭圧痕が残る。口縁部横なで。
2	土師器 杯	1/2残存 口 (13.0cm) 高 4.4cm	カマド右袖付 近と北西隅の 破片接合 床面上2cm	①微細砂を含む。 ②にふいね7.5YR7/4	口唇内面に縦やかな面取りをする。1・3の杯と内黒でない点を除けば、同巧のつくりである。外面荒削り。内面なで。口縁部横なで。
3	土師器 杯	1/2残存 口 (13.4cm) 高 4.2cm	カマド左袖前 床面上8cm	①微細砂を含む。 ②淡黄褐色10YR8/3	内黒。口唇内面に面取りをする。底部外面荒削り。内面なで。口縁部横なで。
4	土師器 杯	口縁部破片 口 (8.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐色2.5YR5/6	外面横方向荒削り後、部分的に横方向荒磨き。内面なでの後、放射状荒磨き。口縁部横なで。
5	土師器 鉢	口縁～体部1/2欠 口 19.4cm 底 6.2cm 高 13.6cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②にふいね7.5YR6/4 ③底部と口縁部に黒炭。	外面縦方向荒削りの後、斜方向の部分的な荒磨き。内面横方向荒なで後、縦および斜方向の部分的な荒磨き。口縁部横なで。底部外面荒削り。
6	土師器 小形甕	3/4残存 口 14.6cm 底 5.0cm 高 12.8cm	北西隅 床面直上	①細砂、石英を含む。 ②褐色7.5YR7/6	外面上部横方向荒削り。後、下半縦方向荒削り。後部分的に縦方向の荒磨き。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
7	土師器 甕	口縁～体部1/5残 口 (16.0cm)	北西隅壁帯 床面直上	①細砂、雲母を含む。 ②褐色7.5YR4/1 ③軟質	外面縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
8	土師器 甕	口縁～体部1/2残 口 (20.4cm)	南壁付近 床面直上	①中砂、石英、雲母、赤色細粒物を含む。 ②にふいね10YR7/3	肩部外面横方向荒削り後、下半縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
9	土師器 甕	口縁～胴部1/3残 口 (31.6cm) 胴 (37.4cm)	中央部および 北西隅の破片 接合。床直	①微細砂、角閃石を含む。 ②にふいね7.5YR7/4 ③硬質	口縁が歪んでいる。胴面の荒れが内外面とも著しい。外面には横方向の荒削り痕がわずかに看取できる。
10	土師器 甕	底部欠損。1/4残 口 (18.0cm)	カマド左前 床面直上	①細砂、石英を含む。 ②褐色7.5YR4/3	外面縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
11	土師器 甕	ほぼ完形 口 19.7cm 底 4.8cm 高 29.5cm	北西隅 床面直上	①微細砂、石英を含む。 ②にふいね10YR6/4	外面上半縦方向荒削り。下半斜方向荒削り。中位横方向荒削り。内面横方向荒削り。口縁部横なで。
12	土師器 甕	口縁部破片 口 (21.4cm)	北西部 床面直上	①中砂、石英を含む。 ②にふいね7.5YR6/4	口縁部横なで。外面縦方向荒削り後、縦方向荒磨き。内面横方向荒なで。
13	土師器 甕	底部破片 底 (5.6cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふいね10YR7/3 ③内面黒炭。硬質。	外面荒削りの後、縦方向荒磨き。内面横方向荒なで。底部外面荒削り後、内外面両方から検出前穿孔。

21号住居 (図43・44 PL9・43)

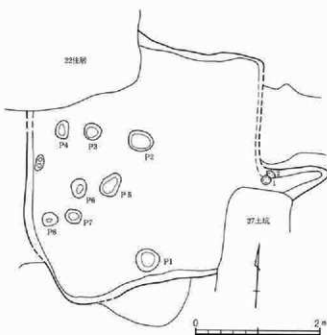
位置 J・K-67グリッド 主軸方位 N85°E 重複 22号住居に後出し、27号土坑に先行する。

規模 縦3.76m 横3.62m 深さ0.25m 形状 隅丸方形

埋没土 炭化物粒やロームブロック、白色鉱物粒を含む褐色土であり、床面付近では焼土粒を含む。

掘り方 明確な掘り方は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。22号住居との重複部分には貼床があったものと思われるが、調査では検出できなかった。



貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 有り。検出位置から考えると、すべて柱穴とは言いがたい。

柱穴No.	直径	深さ
P 1	0.38m	0.10m
P 2	0.50m	0.16m
P 3	0.40m	0.18m
P 4	0.26m	0.10m
P 5	0.32m	0.18m
P 6	0.26m	0.06m
P 7	0.24m	0.14m
P 8	0.25m	0.08m

遺物出土状態 遺物はほとんど出土していない。埋没土中の遺物は破片である。カマド焚き口部から土師器杯形土器二点 (図44-1、2) が出土している。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長1.15m 最大幅・焚き口幅

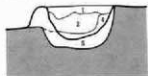
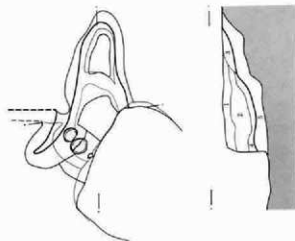
不明 袖 有り

煙道 住居壁寄り84cm外へ出る。燃焼部から煙道部へは段状を呈し浅くなる。

遺存状態 カマドは左部分を中心に残り、右袖は27号土坑に壊されている。

遺物出土状態 左袖内側に貼り付くように土師器杯形土器が二個出土した。

備考 8世紀中頃の住居と考えられる。



- 21住 1層 暗褐色土。焼土粒が少量含む、白色細粒物を僅かに含む。
 2層 赤褐色土。焼土粒を多量に含む。
 3層 黄褐色土。ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
 4層 灰褐色土。灰と焼土粒を多く含む。
 5層 黄褐色土。ロームブロックを含む。隅り方充填土。

図43 21号住居とカマド



II 検出された遺構と遺物

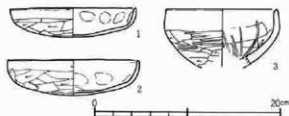


図44 21号住居の出土遺物

21号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器杯	完形 口 13.6cm 高 3.1cm	カマド焚き口床面直上	①微細砂、雲母を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面磨削。内面荒なで。口縁部横なで。口縁部には成形時の指頭痕が残る。
2	土師器杯	3/4残存 口 14.1cm 高 3.8cm	カマド焚き口床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	底部外面磨削。内面荒なで。口縁部横なで。口縁部には成形時の指頭痕が残る。
3	土師器杯	口縁~体部1/4残存 口 (11.9cm)	埋没土中	①細砂、石英を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	杯部外面横方向磨削。部分的に横方向荒なでの後、放射状の磨削。口縁部横なで。

22号住居 (図45・46 PL9・43)

位置 J-66・67グリッド 主軸方位 N27W

重複 21号住居、23号土坑に先行し、23号住居、26号住居、11号溝に後出する。

規模 縦3.02m 横3.08m 深さ0.3m 形状 隅丸方形

埋没土 焼土粒、白色粒子を含む暗褐色土を主体とする。

掘り方 カマド前及び住居西部に床面下の掘り込みがある。

床面 多少の凹凸があるが、しっかりした硬化面がある。厚さ2~4cmの粘床が認められる。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 カマド周辺と南東部に集中して遺物が出土している。図46-2、4の土師器変形土器はカマド周辺の出土である。6、7は床面から10cm以上浮いており、住居の時期を特定できる遺物ではないが、幅の広い刷毛目状の整形痕が特徴的である。



図45 22号住居

カマド 位置 北壁東隅

規模 全長0.6m 最大幅・焚き口幅不明

袖 有り。左袖のみが残存。

遺存状態 大半が壊れているが、左袖が残る。カマドは北壁東隅に築かれたと思われる、右袖は痕跡もなく、不明である。

遺物出土状態 カマド燃焼部には図46-4の土師器変形土器がカマドにかけられたような状態で出土している。

備考 7世紀中頃の住居と考えられる。

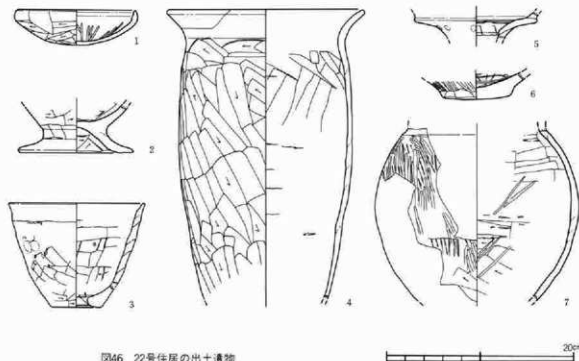


図46 22号住居の出土遺物

22号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師鉢 杯	口縁～底部2/3残 口 12.6cm 高 3.7cm	北東隅、壁際、 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR7/6	杯部外面、横方向彫削り。口縁部内外面横なで。杯部内面なでの後、放射状の彫削き。口唇部に凹線が施こされる。
2	土師器 台付甕	台部3/4残存 底 11.9cm	カマド左前 床面直上	①多量の微細砂、黒色鉱物粒を含む。 ②にぶい焼7.5YR6/3	胴部外面横方向彫削り。台部接合部なで。胴部内面放射状の彫削なで。台部内面、斜方向彫削り。肩縁部に凹線。
3	土師器 甕	口縁～底部1/6残 口 14.6cm 底 5.3cm 高 11.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤焼2.5YR5/6	外面彫削りの後、指なで。内面横なで。口縁部横なで
4	土師器 甕	口縁～体部下位 2/5残存 口 20.8cm	カマド熱地部 床面直上	①微細砂、角閃石を含む。 ②にぶい焼7.5YR6/4	口縁部横なで。胴部斜方向、縦方向の彫削り。内面斜方向彫削なで。
5	土師器 高杯	杯部1/3残存	埋没土中	①微細砂、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6 ③酸化焙。硬質。	外面丁寧なで調整。内面横方向彫削なで。
6	土師器 甕	底部1/2残存 底 7.2cm	南東隅 床面上19cm	①微細砂を含む。 ②明赤焼5YR5/8	7と同一個体と考えられる。
7	土師器 甕	胴部破片 割 (21.7cm)	南東隅 床面上16cm	①微細砂、赤色細粒物、白色細粒物を含む。 ②橙2.5YR6/8	斜方向彫削り後、縦方向彫削き。胴部上半には平行条線の整形痕が見られる。胴下半部は彫削きがまばらである。内面横方向彫削なで、部分的に縦方向の彫削き。

II 検出された遺構と遺物

23号住居 (図47・48 PL10・43)

位置 J・K-66グリッド

主軸方位 N30°W

重複 22号住居、22号土坑、23号土坑に先行する。

規模 縦2.90m 横2.00+αm 深さ0.13m

形状 隅丸長方形

埋没土 床面に近い埋没土には、ロームブロック
焼土粒が混入する。

掘り方 明確な掘り方は検出されなかった。

床面 貼床無し。床面の硬化面が残っていたのは
西半分だけであった。床面にはわずかな凹凸がある
ほか、北西部から南東部にむかって数cmの段差
がある。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 埋没土中には60片ほどの遺物が含まれていたが、床面近くの遺物は二点だけである。図48-4の土師器高杯形土器はカマド前の床面直上の出土である。7も床面直上の出土で、細かな磨磨きが特徴的な土師器壺形土器である。

カマド 位置 北壁西寄り

規模 22号土坑により壊されており、計測不能

袖 不明

煙道 地山への掘り込みは検出されなかった。

遺存状態 22号土坑によってほとんど欠損している。わずかな焼土等によりカマドと判断できた。

袖や煙道の規模は確認できない。

遺物出土状態 土器破片が埋没土中から少量出土した。

備考 6世紀初めの住居と考えられる。



図47 23号住居

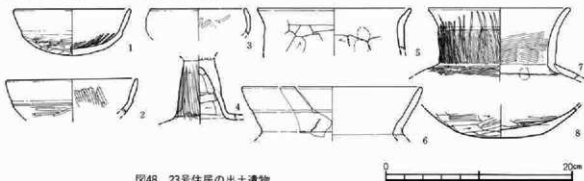


図48 23号住居の出土遺物

23号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器杯	口縁～底部1/4残口 (12.4cm) 高 4.9cm	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②赤褐色2.5YR4/5	外面磨削の後、部分的に細かい磨磨き。内面までの後、放射状の磨磨き。口縁部内外面磨なで。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③構成	成・整形の特徴
2	土師器 杯	口縁～体部破片 口 14.2cm	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②赤褐色2.5YR5/6	杯部外面横方向荒磨き。口縁部横なで。杯部内面縦方向荒磨き。
3	土師器 杯	口縁～体部破片 口 10.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②赤褐色2.5YR5/8	口縁部内面縦方向荒磨き。口縁部内外面横なで。
4	土師器 高杯	脚部残存 裾部欠損	カマド前 床面直上	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/8	脚部外面縦方向荒磨り後、脚部全体に縦方向荒磨き 脚部内面上半は縦方向指なで。下半横方向荒磨り。裾部内面なで。
5	土師器 甕	口縁部破片 口 16.2cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②ふいね7.5YR5/3	肩部外面斜方向荒磨り。内面斜方向荒なで。口縁部横なで。
6	土師器 甕	口縁部破片 口 19.0cm	埋没土中	①鉄雲。 ②橙7.5YR6/6	有段口縁の縦、凹縁を一本引くことで段を作っている。内外面横なで。
7	土師器 甕	口縁部3/4残存 口 14.8cm	西壁 床面直上	①微細砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR7/8 ③硬質	有段口縁の縦。口縁部外面縦方向刷毛目整形。口縁部上半横なで後、口縁部全体に縦方向の細かい荒磨き。肩部外面なでの後、腹および斜方向の荒磨き。口縁部内面下半横方向刷毛目。上半は凹縁が荒れているが、横なでが施されていると思われる。肩部内面横方向荒なで。指痕が残り。
8	土師器 甕	底部破片 底 9.5cm	東壁際 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②黒10YR2/1	底部外面斜磨り。内面横なで。やや丸い底部を呈す。

24・25号住居

K・L-66・67グリッドに位置する重複住居である。いずれも長方形を呈する住居であるが、長軸方向がちょうど90°異なるような位置関係で重複している。埋没土層断面の観察はできなかったが、床面の範囲から25号住居が後出する住居と思われる。

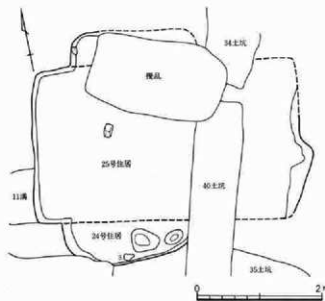


図49 24・25号住居

24号住居 (図49・50 PL10)

位置 K・L-67・68グリッド

主軸方位 N10°E

重複 25号住居、11号溝、40号土坑に先行する。

規模 縦3.72m 横1.02+am 深さ0.16m

形状 長方形を呈するが、住居中央部を25号住居や攪乱に切られており、南壁付近が残存しているだけである。

埋没土 ローム細粒をわずかに含む暗褐色土。

掘り方 無し

床面 貼床無し。25号住居により住居の中央部が壊されており、西壁と南壁が残存するだけである。

II 検出された遺構と遺物

貯蔵穴 不明 周溝 不明

柱穴 南壁際に二つのピットがあるが、柱穴かどうかは不明である。

遺物出土状態 壁際周辺にわずかに出土しているのみである。

備考 住居の時期を特定するのは困難である。

25号住居 (図49・50 PL10)

位置 K・L-67・68グリッド 主軸方位 N85°E

重複 11号土坑、40号土坑に先行し、24号住居に後出する。 規模 縦4.26m 横2.48m 深さ0.22m

形状 長方形を呈する。24号住居との重複によって本住居の壁は西側しか確認できなかった。

埋没土 暗褐色土でローム細粒と焼土粒をわずかに含んでいる。

掘り方 無し 床面 貼床無し 貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 検出できなかった。

遺物出土状態 ほとんど遺物は出土していない。

カマド 位置 東壁中央部

規模 後世の破壊が激しく本来の形状を推定できない。計測不能。

袖 無し。本来はあったものと考えられる。

煙道 わずかに住居外へのびる。

遺存状態 やや壁が掘り込まれ、灰や焼土が残存していたにすぎない。

遺物出土状態 なし。

備考 6世紀初めの住居と考えられる。



図50 24・25号住居の出土遺物

24・25号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③構成	成・整形の特徴
25住 1	土師器 杯	口縁～底部1/5残 口 (12.0cm)	埋没土中	①緻密。 ②褐7.5YR4/3	底部外面荒削り。口縁部から内面丁寧なで。口唇部内面には凹線がつけられている。なではロクロ使用か
2	須恵器 蓋	口縁～体部破片 口 (12.5cm)	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰10Y5/1	左回転ロクロ調整。天井部1/2回転荒削り。
24住 3	須恵器 壁	胴部破片	南壁際 床面直上	①緻密。 ②褐灰7.5YR5/1 ③埋元塩。硬質。	外面細かい平行叩き目文。

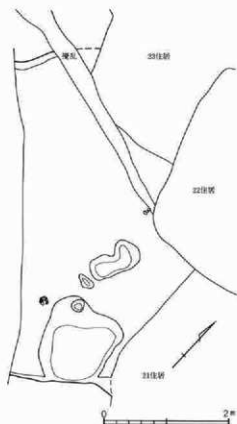


図51 26号住居

26号住居 (図51 PL10)

位置 J-66・67グリッド 主軸方位 不明

重複 21号住居、22号住居、23号住居に先行する。南壁付近は重機等の掘削底によって壊されており不明である。

規模 縦5.02m 横計測不能 深さ0.1m 形状 不明

埋没土 埋没土は大きく二つに分けられ、床面に近い部分ではローム粒を主体とし、上半部は黒色土をブロック状に含む暗褐色土を主体とする。

掘り方 住居の南壁寄りに直径70cm、深さ12cmの円形を呈する床面下の掘り込みが検出された。掘り方面には基盤の礫が露出している。

床面 貼床有り。細のサクと考えられる細長い溝や攪乱により、住居床面の半分以上が壊されており、住居中央部から南壁付近に硬化面が残存するのみである。

貯蔵穴 不明 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 埋没土中に含まれる遺物は30片余りと少なく、その大部分が床面から浮いた状態で出土した。図示しうる遺物はなかった。カマド 不明

備考 埋没土中の遺物破片から5世紀の住居と考えられる。

27号住居 (図52・53 PL43)

位置 I・J-69グリッド 主軸方位 N51°W

重複 北壁から東壁にかけては攪乱によって明確な平面形は確認できなかった。44号住居と近接しており、発掘区域外で重複している可能性がある。

規模 縦3.24m 横計測不能 深さ0.07m

形状 不明

埋没土 確認された壁高が5~10cmときわめて浅く、埋没土にも基盤の礫を多量に含む褐色土が主体である。

掘り方 無し

床面 貼床無し。基盤礫層上面が床面である。

貯蔵穴 北隅に深さ30cmほどの掘り込みが検出されているが、貯蔵穴との確証はない。

周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 埋没土中から60片ほどの遺物が出土しているが、床面近くからは5点ほどが出土している。

図53-3の土師器変形土器以外は床面近くの出土である。

カマド 位置 北西壁

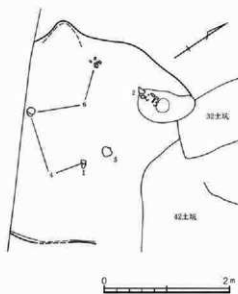


図52 27号住居

II 検出された遺構と遺物

規模 不明

袖 不明確である。

煙道 不確定であるが住居外へのびると思われる。

遺存状態 44号住居のカマドと隣接しており、焼出しの部分が重複している可能性が高い。約10cmの厚さで焼土が残存するものの、基盤が確層であるので掘り込みや焼焼範囲が確定できない。

備考 6世紀初めの住居と考えられる。

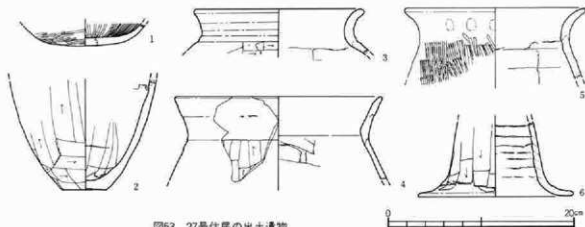


図53 27号住居の出土遺物

27号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	底部1/4残存	北東壁付近 床面上3cm	①微細砂、石英を含む。 ②明赤焼5YR6/6	外面なでの径、莖磨き。内面放射状磨き。
2	土師器 甕	胴部下位～底部残 底 4.7cm	北東隅 床面下。43住 出土の破片と 接合。	①極粗砂を含む。 ②にぶい赤焼5YR5/4 ③軟質	外面下部横方向荒削り。上方縦方向荒削り。内面斜方 向および縦方向荒なで。
3	土師器 甕	口縁部2/3残存 口 17.8cm	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②橙5YR7/8	肩部外面横方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部横 なで。
4	土師器 甕	口縁部破片 口 (21.7cm)	中央部 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/8 ③やや軟質	内面縦方向荒なで。口縁部内外面横なで。外面縦方向 荒削り。
5	土師器 甕	口縁～胴部上位 破片 口 (17.0cm)	中央部 床面上3cm	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②橙5YR6/6	外面縦方向荒い刷毛目。部分的に縦方向磨き。口縁 部横なで。内面横方向荒なで。
6	土師器 高杯	胴部下半1/2残 底 16.6cm	中央部とカマ ド右前が接合 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含 む。 ②橙5YR7/8	外面縦方向横なで。内面は輪横板が残る。裾部横 なで。

28号住居 (図54・55 PL10・43)

位置 J・K-66・67グリッド 主軸方位 S45°E

重複 43号住居、27号土坑、32号土坑、33号土坑、35号土坑に先行する。

規模 縦5.70m 横5.92m 深さ0.2m 形状 隅丸方形

埋没土 住居の中央部分を中心にかなりの攪乱を受けており、残存する埋没土もロームを含む暗褐色土を主体とする。

掘り方 5～10cmの床面下埋没土が部分的に存在するが、規則的な掘り込みでない。

床面 貼床有り。北西隅付近に硬い床面が残存している。東部分は後出する土坑により床面が明確でなく、10cmほど西寄りの硬化面より低くなっている。ここでは床面に基盤の礫が露出している。

貯蔵穴 不明 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 西隅に多数の遺物が集中して出土している。図55-2の土師器杯形土器、6の土師器甕形土器破片、10、11の土師器甕形土器が床面直上で出土した。

カマド 本住居のカマドとしたものは、調査時には別の住居のカマドと考えていたものであった。しかし28号住居の北西、南西、南東の各壁が明確に把握されており、その南東の壁の延長線上にそのカマドの残骸が位置することから復元して図示した。

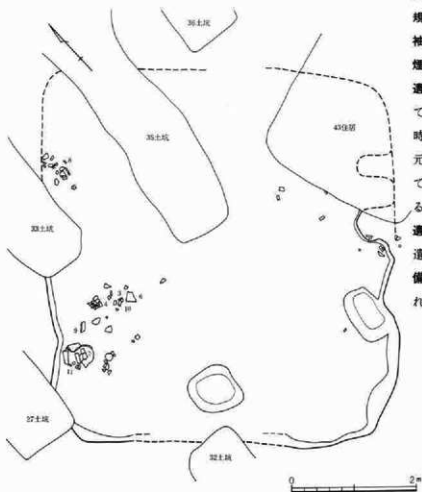


図54 28号住居

位置 南東壁東寄り

規模 不明

袖 不明

煙道 不明

遺存状態 29・43号住居に壊されており、カマドの方向さえも調査時にははっきりしなかったが、復元してみると、右袖のみが半壊して残されているものと判断できる。

遺物出土状態 埋没土中に少量の遺物が出土している。

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

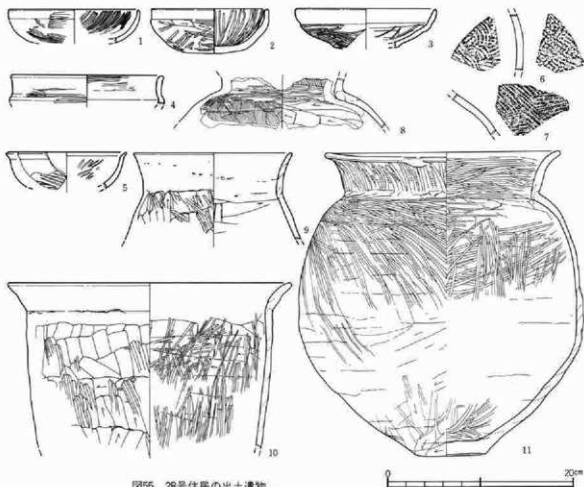


図55 28号住居の出土遺物

28号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～体部1/5残 口 14.0cm	埋没土中	①緻密。 ②明赤褐2.5YR5/5 ③硬質	外面なで。内面なでの後、口縁部横なで。外面横方向の荒磨き。内面向方向の細かい荒磨き。
2	土師器 杯	口縁～底部破片 口 12.5cm 高 4.7cm	北隅壁際 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/8	杯部・底部外面荒削り。杯部外面横方向、斜方向荒磨き。口縁部横なで。内面なで。内面放射状荒磨き。
3	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 15.2cm	北西壁付近	①緻密。 ②にふい橙10YR7/4 ③硬質	外面荒削りの後、横方向の荒磨き。内面横方向荒削りの後、放射状の荒磨き。口縁部横なで。
4	土師器 杯	口縁部破片 口 16.4cm	北西壁付近 床面上17cm	①緻密。 ②橙5YR6/6 ③硬質	口縁部横なで。内面横方向荒磨き。
5	土師器 杯	口縁～体部破片 口 13.0cm	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②にふい赤褐5YR5/3	内外面ともなでの後、荒磨き。
6	須恵器 甕	胴部破片	北西壁付近 床面上2cm	①緻密。 ②橙5YR6/6 ③硬質	外面平行叩き目文。内面横方向荒削り。

番号	砂 種	量 目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
7	須恵部 甕	胴部破片	掘り方横段土 中	①織密。 ②にぶい黄褐色10YR6/4 ③酸化焰	外面格子目印き目文。内面同心内文の印きが残り。
8	土師部 甕	頸～胴上部破片	北西壁付泥 床面上8cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6 ③硬質	外面縦方向の荒い朝毛目。頸部横方向なで、肩部横方向の部分的な縦磨き。内面横方向なで、口縁部横なで。
9	土師部 甕	口縁～体部1/2残 口 (16.8cm)	西隅壁際 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②にぶい焼7.5YR5/3	外面縦方向、斜方向磨削り後、斜方向縦磨き。内面横方向なでなで。口縁部横なで。
10	土師部 甕	口縁～体部1/4残 口 (30.2cm)	北西壁 床面直上	①微細砂、石英、金雲母を 含む。 ②明赤褐色5YR5/8	内面横方向なで後、縦方向縦磨き。口縁部横なで。外面縦方向なで後、部分的に縦方向縦磨き。
11	土師部 甕	口縁～頸部1/3欠 口 25.1cm 底 7.3cm 高 32.0cm	西隅壁際床面 直上と埋没土 中破片が接合	①細砂、石英、金雲母を 含む。 ②明赤褐色5YR5/6 ③胴部外面に黒斑	胴部外面下半斜方向磨削り。上半斜方向縦磨き。内面横方向および縦方向の縦磨き。口縁部内面横なで後、横方向縦磨き。口縁部外面横なで後、縦方向縦磨き。

29号住居 (図56・57 PL11・43)

位置 K・L-69グリッド 主軸方位 N11°E 重複 43号住居に後出する。

規模 縦計測不能 横3.12+αm 深さ0.08m

形状 隅丸長方形を呈すると考えられるが、ほぼ外形をトレースするように下層に42号住居がつくられており、全体の形状を明らかにするのが困難であった。

埋没土

掘り方 本住居の貼床の下層は43号住居の埋没土になっているので、掘り方の形状は明確でない。

床面 貼床有り。硬くしっかりした貼床が床面のほぼ全面に認められた。

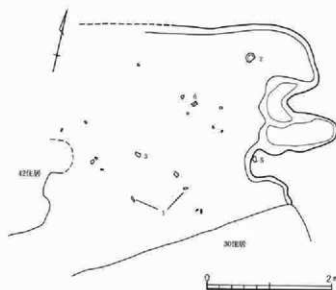


図56 29号住居

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 住居の中央部からカマドにかけて遺物がやや集中して出土している。

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長

袖 有り

煙道 住居外へ90cmほどのびる。

遺存状態 両袖と燃焼部内側が良く焼けている。

遺物出土状態 カマド内の使用面には遺物の出土はない。

備考 8世紀後半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

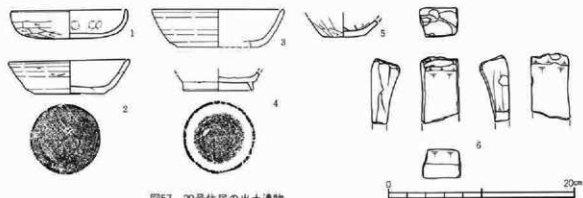


図57 29号住居の出土遺物

29号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③地成	成・整形の特徴
1	土器器杯	口縁～底部1/4残 口 (12.5cm) 高 3.0cm	南壁付近 床面上20cm	①微細砂を含む。 ②灰白5YR6/4	底部外面磨削り。内面なで。口縁部横なで。
2	須恵器杯	ほぼ完形 口 13.0cm 底 7.5cm 高 3.5cm	カマド前 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焼	輪襷み底を残す。右回転ロクロ成形。切り離し技法不明。底部外面、手持ち磨削り。
3	須恵器杯	口縁～底部1/6残 口 (14.2cm) 底 (8.0cm) 高 (4.0cm)	中央部 床面上15cm	①微細砂を含む。 ②灰7.5YR5/1 ③還元焼	左回転ロクロ成形。切り離し技法不明。底部外面回転磨削り。
4	須恵器高台付椀	底部残存 底 7.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰7.5YR6/1 ③還元焼	右回転ロクロ成形。回転糸切り離し。用縁部のみ回転磨削り。付け高台。高台接合部なで。
5	土器器壁	底部 底 4.6cm	カマド右袖前 床面上13cm	①微細砂を多量に含む。 ②灰7.5YR4/4	外面縦方向磨削り。底部外面磨削り。内面放射状の磨なで。
6	磁石	一部欠損 幅 4.0cm 高 7.0cm 重 107g	中央部 床面直上		

30号住居 (図58 PL11・43)

位置 K-69・70グリッド 主軸方位 N64°E 重複 41号土坑に先行する。43号住居と近接する。

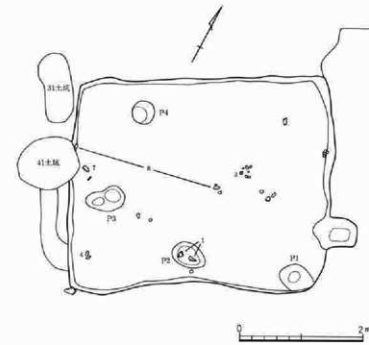
規模 縦4.18m 横3.20m 深さ0.22m 形状 長方形

埋没土 白色鉱物粒を含む暗褐色土であるが、ロームブロックの有無と白色鉱物粒の混入率で上下二層に細分できる。また攪乱や埋め戻したと思われる土が上半部に認められる。

掘り方 約5～10cmの厚さで貼床があり、全体的に掘り方が検出されたが、形状に変化はほとんどない。床下にビットが4基確認された。

床面 貼床有り。掘り方はロームブロックが含まれる暗褐色土で充填されている。ほぼ平坦な硬く締まった床面である。

貯蔵穴 定型的な貯蔵穴は検出されていない。床面下で検出されたP1が位置的には貯蔵穴である可能性が



ある。

周溝 無し

柱穴 一般的な柱穴の配置ではないが、床面下で4ピットが検出されている。

柱穴No. P1 P2 P3 P4

直径 0.55m 0.58m 0.74m 0.35m

深さ 0.36m 0.18m 0.15m 0.41m

遺物出土状態 住居中央部からカマド寄りのところと、西壁付近に遺物が集中して出土している。床面よりはやや浮いた出土状態であった。図58-5-8はやや古い様相を示す土器で、出土状態等を検討すると、混在した遺物と考えられる。

カマド 位置 東壁中央部からやや南寄り

規模 全長0.72m 最大幅0.48m 焚き口幅0.48m

袖 無し

煙道 住居外へのびる。

遺存状態 熱焼部分の掘り込みだけが検出できた。

遺物出土状態 ほとんど認められない。

備考 遺物の出土状態から9世紀初めの住居と考えられる。

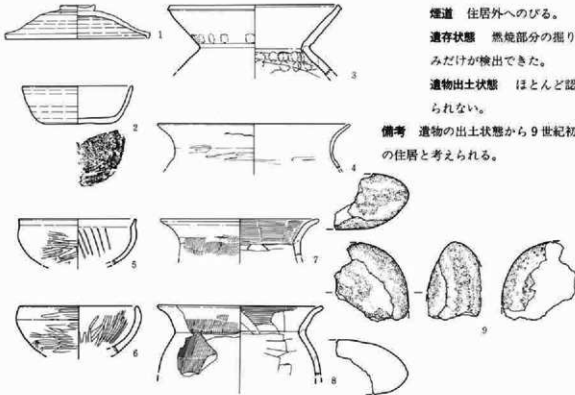


図58 30号住居と出土遺物



II 検出された遺構と遺物

30号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③地成	成・整形の特徴
1	須恵器 蓋	1/2残存 口 15.2cm 高 3.6cm	掘り方埋没土 中 床面上9cm	①微細砂を含む。 ②灰白5YR8/2 ③還元層	左回転クロコ成形。外面中心から1/3まで回転彫りつ まみ付着。
2	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口 (11.6cm) 底 (7.0cm) 高 4.0cm	埋没土中	①微細砂、直径4mmの小石 を含む。 ②灰白7.5YR7/ ③還元層	右回転クロコ成形。底部切り離し技法不明。底部外面 回転彫り。
3	土師器 甕	口縁～頸部破片 口 (20.3cm)	中央部 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐5.5YR5/6	内外面とも横方向彫り後、口縁部横方向彫り後。
4	土師器 甕	口縁～頸部1/4残 口 (18.0cm)	南隅 床面上18cm	①微細砂、角閃石、赤色細 粒物を含む。 ②橙5YR6/6	外面横なで。肩部内面横方向彫り後。指痕が残る。口 縁部内面横なで。
5	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (12.3cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②赤10R4/8	内外面とも丁寧なでの後、杯部外面下半横方向彫り 後。内面放射状の彫り跡。
6	土師器 杯	口縁～体部1/3残 口 (12.4cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面彫り後の後、横方向の彫り跡。内面丁寧なでの 後、放射状の彫り跡。
7	土師器 甕	口縁～頸部1/6残 口 (17.0cm)	南壁際 床面上21cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面縦方向刷毛目。肩部内面横方向彫り後。口縁部内 面横方向刷毛目。口縁部外面横なで。
8	土師器 甕	口縁～頸部破片 口 (17.4cm)	中央部床面上 21cmの破片と 南西壁際床面 上13cmの破片 が接合。	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6 ③硬質	外面縦方向刷毛目。口縁部内面横方向刷毛目。肩部内 面横方向彫り後。口縁部外面横なで。
9	灰石	破片 重 300g	掘り方埋没土 中		

31号住居 (図59)

位置 J-77グリッド 主軸方位 不明

重複 13号溝、2号井戸、4号井戸に先行する。南西部は一部調査区域外へのびるものと思われるが、調査
ではわずかな床面部分を検出したにとどまった。

規模 縦0.37+αm 横2.05+αm 深さ0.4m 形状 不明

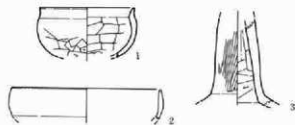
埋没土 埋没土は二つに分けられ、上半部は細かな焼土ブロックを少量含む茶褐色土を主体とし、下半部は
焼土・炭化物を少量含む暗黄褐色土が主体であり、一部にロームブロックが混入する。

掘り方 認められない。

床面 13号溝、2号井戸、4号井戸に周壁を壊されており、床面の中央部を検出したのみである。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 埋没土に含まれる遺物はわずかで、その大部分は床面から浮いた状態の出土である。図示で
きた遺物も、いずれも埋没土中からのものである。



カマド 不明

備考 詳細は不明であるが、少なくとも古墳時代の住居であることはいえる。



図59 31号住居の出土遺物

31号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁一体部破片 口 (10.2cm)	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR7/8	外面下半横方向彫削り。上半面で、内面横方向窪んで口縁部横なで。
2	土師器 杯	口縁部破片 口 (16.0cm)	掘り方埋没土 中	①微細砂、角閃石、赤色粗粒物を含む。 ②橙5YR6/8	内外面とも横なで。
3	土師器 高杯	脚部残存。裾端部 欠損	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/8	外面縦方向窪磨き。裾部横なで。内面上半縦方向の荒い荒なで。下半横・斜方向彫削り。裾部横なで。

32号住居 (図60・61 PL11)

位置 J-76グリッド 主軸方位 短軸方向はN44°W

重複 重複は認められないが、南西部が調査区域外に位置する。

規模 縦2.35m 横0.90+αm 深さ0.6m 形状 方形

埋没土 埋没土は大まかに二つに分けることができる。上半部の30cmは焼土粒を含む暗褐色土、下半部の30cmはロームブロックを含む暗黄褐色土からなる。

掘り方 認められない。

床面 貼床無し。比較的硬く締まった床面であるが、ローム土などを貼りつけた痕跡はなく、平らに地山を掘り込んで作り出した床である。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 東隅付近を中心に遺物が出土しているが、大部分は床面から浮いた状態である。

カマド 不明

備考 時期を特定するのは困難であるが、出土土器の整形

技法から古墳時代中期の住居を考えられる。

- 32住
- 1層 暗褐色土。焼土粒を少量含む。白色鉱物を僅かに含む。
 - 2層 暗褐色土。焼土粒を少量含む。
 - 3層 赤褐色土。焼土粒を多量に含む。
 - 4層 暗褐色土。焼土粒・黒色土ブロックを少量含む。
 - 5層 黒色土。ロームブロック・粒を少量含む。
 - 6層 暗黄褐色土。黒色土をブロック状に含む。
 - 7層 暗黄褐色土。ロームブロックを多量に含む。黒褐色土をブロック状に含む。
 - 8層 黄褐色ロームブロック。壁の前落土。
 - 9層 黒褐色土。ロームブロックを少量含む。

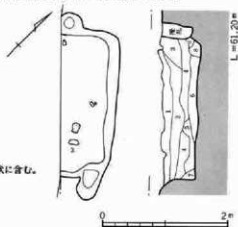


図60 32号住居

II 検出された遺構と遺物



図61 32号住居の出土遺物

32号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 椀	体部下位～底部 1/4残存	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6 ③内黒	外面斜方向蹴りの後、斜方向蹴磨き。内面横方向の蹴磨き。
2	土師器 甌	底部1/4残存 底(4.6cm)	埋没土中	①微細砂、角閃石を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	外面横方向蹴りの後、斜方向蹴磨き。斜方向横方向蹴なで。底部中央に焼成前穿孔。
3	土師器 甌	肩部1/4残存 類(13.2cm)	東隅 床面上9cm	①微細砂、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR7/8	外面斜方向刷毛目整形。部分的に斜方向蹴磨き。内面横方向蹴なで。

33号住居 (図62・63 PL11)

位置 K-76グリッド 主軸方位 N87E

重複 34号住居に先行し、41号住居に後出する。

規模 縦3.55m 横3.05m 深さ0.17m 形状 やや歪んだ正方形

埋没土 ロームブロックを多量に含む暗褐色土の上半部と、ローム粒・焼土ブロック・炭化物を少量含む暗褐色土の下半部の二層に分けられる。

掘り方 約10cmの厚さでローム粒を多量に含む暗褐色土の掘り方充填土がある。掘り方底面から4基のピットが検出された。

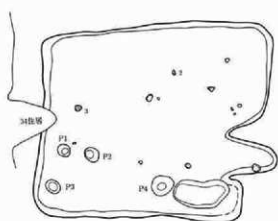


図62 33号住居

床面 貼床有り。硬く締まった硬化面がほぼ全域に残存する。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 有り。東南隅に位置する。長軸0.8m、短軸0.4m、深さ0.1mの楕円形を呈する。カマド右袖に接している。

周溝 無し

柱穴 掘り方底面から4基のピットが検出されたが、柱穴と考えられるのはP2のみである。

柱穴No	P1	P2	P3	P4
直径	0.24m	0.20m	0.24m	0.34m
深さ	0.44m	0.38m	0.34m	0.32m

遺物出土状態 床面直上からの出土遺物は少なく、主に土師器の破片である。図63に示すことができた遺物は床面から浮いた状態のものが多く。

カマド 位置 東壁中央寄りやや南寄り

規模 全長約1.0m 最大幅1.15m 焚き口幅0.55m

袖 有り

煙道 壁より40cmほど住居外へのびる。

遺存状態 両袖下部の遺存状態は良いが、上部構造は不明である。全体にカマド内部は赤褐色に焼けており、燃焼部から煙道部に移行する使用面にわずかな掘りくぼみが確認できる。

遺物出土状態 カマドの構造物と思われる自然石が燃焼部右奥にある。

備考 7世紀中頃の住居と考えられる。

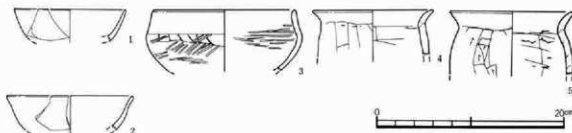


図63 33号住居の出土遺物

33号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵砂杯	口縁～体部破片 口 (12.0cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰黄2.5YR7/2 ③還元焰	回転で調整。底部切り難し技法不明。
2	須恵砂杯	口縁～体部破片 口 (13.3cm)	中央部北寄り 床面上7cm	①緻密。 ②灰N4/ ③還元焰。硬質	回転で調整。底部切り難し技法不明。
3	土師砂杯	口縁～底部破片 口 (15.4cm)	西壁際 床面上8cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	杯部外面荒削り後、横方向の荒磨き。口縁部内外面横なで。杯部内面横方向荒磨き。
4	土師砂甕	口縁～体部上位破片 口 (13.0cm)	掘り方埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	内面斜方向荒なで。口縁部横なで。外面縦方向荒削り。
5	土師砂甕	口縁～体部上位 1/5残存 口 (13.2cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②にぶい橙5YR6/4	内面斜方向荒なで。口縁部内外面横なで。外面縦方向荒削り。

34号住居 (図64・65 PL12・43)

位置 J・K-76・77グリッド 主軸方位 N85°E

重複 33号住居、47号住居、62号住居に検出する。

規模 縦3.52m 横4.32m 深さ0.15m

形状 隅丸長方形

埋没土 焼土粒、ロームブロックをわずかに含む土である。

掘り方 顕著な掘り方が検出された。南壁及び北壁沿いを帯状に掘り込んでいる。また、中央付近には床下土坑が検出された。一辺1.5mほど、深さ0.25mの隅丸正方形を呈している。

II 検出された遺構と遺物

床面 多少の凹凸はみられるが、ほぼ平坦な床面である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 掘り方の調査で北東隅の柱穴のみ検出できた。

柱穴No	P 1
直径	0.37m
深さ	0.05m

遺物出土状態 全体に遺物の出土はみられるが、特に南壁際に床面直上の遺物と埋没土中の遺物ともに集中する傾向がみられる。図65-1、4、6、7の杯形土器と14の土師器変形土器は床面直上の出土遺物である。また12の土師器変形土器は中央部床下土坑からの出土遺物である。

カマド 位置 東壁中央部やや南寄り

規模 全長1.2m 最大幅0.8m 焚き口幅0.64m

袖 有り。左袖のみ確認。

煙道 住居外へ0.68mほどのびている。

遺存状態 カマド内は焼土はあるが、あまり多くはない。袖は使用面ではほとんど崩れており、確認できなかったが、掘り方の調査で、左袖のみであるが地山のローム層掘り残しのわずかな高まりが検出できた。

遺物出土状態 左袖崩落部分から土師器片が出土している。また、燃焼部使用面下の灰層中から図65-2の須恵器杯形土器が出土している。

備考 8世紀後半の住居と考えられる。

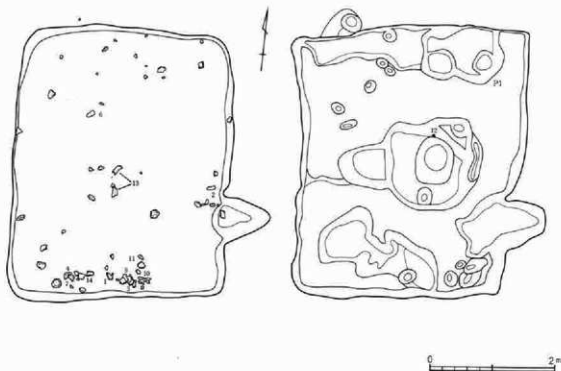


図64 34号住居

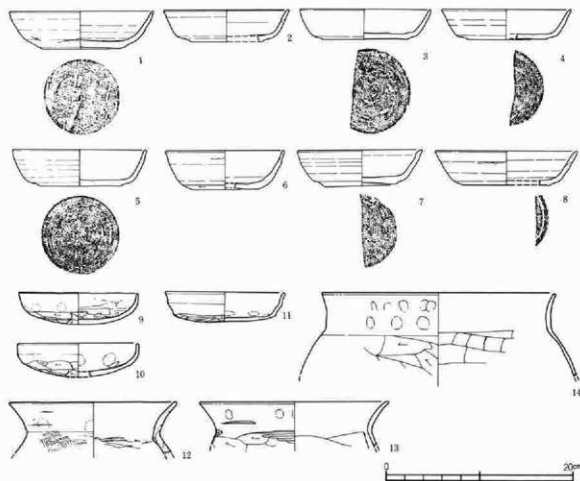


図65 34号住居の出土遺物

34号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	口縁～底部3/4残 口 (15.5cm) 底 8.0cm 高 4.0cm	南壁中央部階 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰白7.5YR6/4 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。切り難し後、回転整形有り。
2	須恵器 杯	口縁～底部1/5残 口 (13.2cm) 底 (7.7cm) 高 3.4cm	カマド内 灰面下10cm	①緻密。 ②灰黄2.5YR6/2 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。磨練部は整形有り。
3	須恵器 杯	口縁～底部1/2残 口 (14.1cm) 底 9.0cm 高 3.2cm	南壁中央部階 床面上8cm	①微細砂を含む。 ②灰白5Y7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。切り難し後、回転整形有り。底部に梵記号がある。
4	須恵器 杯	口縁～底部1/2残 口 (13.8cm) 底 (8.2cm) 高 3.2cm	南西隅部階 床面上3cm	①緻密。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。切り難し技法不明。切り難し後、回転整形有り。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	須恵器杯	口縁～底部1/2残 口 (12.3cm) 底 8.6cm 高 3.9cm	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふい黄褐色10YR7/2 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り離し技法不明。切り離した後、全面回転削り。
6	須恵器杯	口縁～底部1/3残 口 (12.7cm) 底 (6.6cm) 高 (4.9cm)	北西隅中央部 床面直上	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふい黄褐色10YR7/3 ③還元焰	右回転クロコ成形。回転糸切り離し。周縁部削り。内面回転なで。
7	須恵器杯	口縁～底部1/2残 口 13.8cm 底 7.7cm 高 3.8cm	南西隅 床面上3.0cm	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰10YR6/1 ③還元焰。硬質	左回転クロコ成形。底部回転糸切り離し。切り離した後周縁部回転削り。内外面回転なで。
8	須恵器杯	口縁～底部破片 口 (15.0cm) 底 (9.1cm) 高 3.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り離し技法不明。周縁部は回転削り。
9	土師器杯	完形 口 12.7cm 高 3.4cm	南壁中央部際 床面上3.4cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面削り。周縁部指なで。口縁部横なで。内面横方向削りなで。
10	土師器杯	口縁～底部2/3残 口 (13.0cm) 高 (3.6cm)	南壁中央部際 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②にふい橙7.5YR6/4	底部外面削り。内面指なで。口縁部横なで。
11	土師器杯	口縁～底部1/2残 口 (11.4cm) 高 3.1cm	南中央部際 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面削り。口縁部横なで。内面指なで。
12	土師器甕	口縁～頸部1/4残 口 (17.8cm)	中央部床下土 坑内	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	口縁部内外面横なで。頸部外面縦方向刷毛目整形。内面横方向削り。
13	土師器甕	口縁～頸部1/3残 口 (20.3cm)	中央部 床面直上	①微細砂を含む。 ②にふい橙5YR6/4	肩部外面横方向削り。口縁部横なで。内面指なで。口縁部横なで。
14	土師器甕	口縁～胴部残存 口 (25.0cm)	南壁際 床面直上	①微細砂、角閃石を含む。 ②にふい赤褐色5YR5/4	肩部外面横方向削り。口縁部から頸部指押しえ、横なで。内面横方向削りなで。口縁部横なで。

35号住居 (図66・67 PL12・43)

位置 K・L-75・76グリッド 主軸方位 S80°E 重複 41号住居、74号住居に後出する。

規模 縦4.08m 横2.5m 深さ0.16m 形状 隅丸長方形を呈する。

埋没土 焼土ブロックをわずかに含む灰黄褐色土層からなる。砂質である。

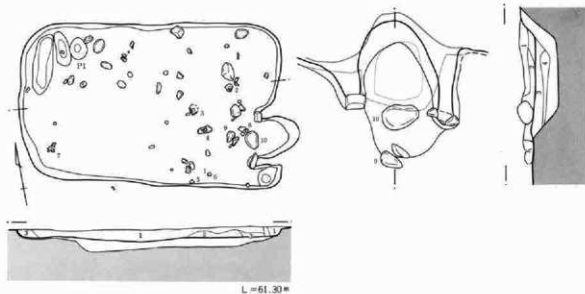
掘り方 41号住居の埋没土を掘り込んでいるので、本住居の掘り方は明確でない。断面観察からは、ローム粒をわずかに含む黄褐色土が約5cmの厚さで住居の中央部を中心に認められる。平面的に掘り方の形状を明らかにすることはできなかった。

床面 貼床有り。ローム粒をわずかに含む黄褐色土が貼床としてつくられており、硬く締まっている。

貯蔵穴 有り。東南隅に直径0.4m、深さ0.2mを計る円形の貯蔵穴が検出された。 溝溝 無し

柱穴 北西隅の主柱穴1本が検出されただけである。柱穴No P1 直径54cm 深さ不明

遺物出土状態 多数の遺物が出土しているが、床面近くの遺物はカマド付近に集中している。図65の1～6



- 35住 1層 灰黄褐色土。砂質土であり焼土ブロックを僅かに含む。
 2層 茶褐色土。焼土粒を含む。
 3層 黄褐色土。黄色土粒、焼土粒を含む。

- 1層 暗茶褐色土。一部に焼土を含む。
 2層 暗茶褐色土。僅かに黄色ブロックを含む。
 3層 暗茶褐色土。僅かに黄色土ブロック、焼土ブロック、自然産物を含む。
 4層 茶褐色土。砂質土が僅かに含まれ、焼土ブロックが僅かに含まれる。

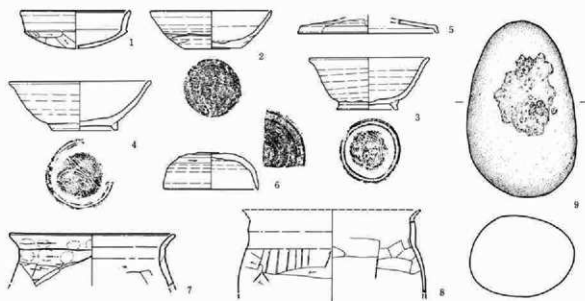


図56 35号住居・カマドと出土遺物(1)

の杯形土器や蓋形土器はカマドの前に集中し、床面直上あるいは床面から6、7cm浮いた状態で出土した。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り 規模 全長1.07m 最大幅0.96m 焚口幅0.54m

袖 両袖共に残っている。袖の先端には礎を芯に入れていた。右袖は0.8m、左袖は0.4m、住居内にのびている。

II 検出された遺構と遺物

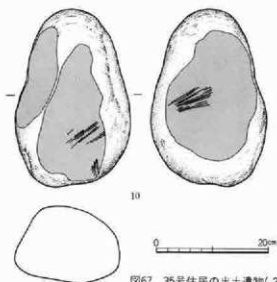


図67 35号住居の出土遺物(2)

35号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/3残 口 10.6cm	南東壁際 床面上6cm	①緻密。 ②にじい貫腔10YR6/3	底部外面荒削り。内面で、口縁部狭まで。
2	須恵器 杯	口縁～底部3/4残 口 12.8cm 底 6.1cm 高 4.0cm	カマド左前 床面上10cm	①緻密。 ②灰N6/ ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転糸切り難し。
3	須恵器 碗	ほぼ完形 口 12.8cm 底 6.7cm 高 5.8cm	中央部 床面直上	①微細砂、白色小石を含む。 ②灰N6/ ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転糸切り難し。付高台。高台接合部まで。
4	須恵器 高台付碗	3/4残存 口 15.0cm 底 7.0cm 高 5.2cm	カマド前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6 ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転糸切り難し。付高台。高台接合部まで。
5	須恵器 蓋	端部～天井部破片	南壁際 床面上7cm	①緻密。 ②灰白10YR8/ ③還元焰	内外面回転まで。
6	須恵器 蓋	1/4残存 口 10.6cm 高 3.8cm	南東壁際 床面上6cm	①緻密。 ②灰7.5YR5/1 ③還元焰。硬質	外面中央手持り荒削り。母縁部から天井部上位置削り口縁部および内面回転まで調整。
7	土師器 甕	口縁～頸部1/4残 口 17.4cm	南壁際 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	肩部外面横方向荒削り。頸部から口縁部狭まで。指痕或残る。内面荒まで、口縁部狭まで。
8	土師器 甕	頸部1/5残存	カマド前 床面上5cm	①微細砂、金雲母を含む。 ②明赤焼5YR5/6	外面横方向荒削り。頸部まで。内面横方向荒まで。
9	敲打痕のある石器	完形 長 18.8cm 幅 11.6cm 厚 8.5cm 重 2,500g	カマド前 床面上4cm		

煙道 住居外に0.3mほどのびている。

遺存状態 焼き口部には礫が3個遺存しており、袖と同様に焼き口の天井部の構築に礫が使用されていたと推定させる。先行する41号住居のカマドと重複しているの为本住居カマドの掘り方は明確にできなかった。

遺物出土状態 焼処部に土師器破片が数片出土した。

備考 9世紀末頃の住居と考えられる。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
10	磨り石	完形 長 28.3cm 幅 18.5cm 厚 12.1cm 重 8,680g	カマド焚き口 床面上5cm		

36号住居 (図68 PL13)

位置 L・M-76グリッド 主軸方位 N49°E 重複 13号溝に先行する。

規模 縦4.25m 横2.9+αm 深さ0.26m

形状 隅丸方形を呈すると思われるが、13号溝により床面の東部分が壊されているので、全体の形状は不明。

埋没土 白色細粒紅物、焼土ブロック、ロームブロックを含む暗茶褐色土である。上層には13号溝の暗褐色の砂質土層が覆っている。床面 ほぼ平坦な硬く締まった床面である。

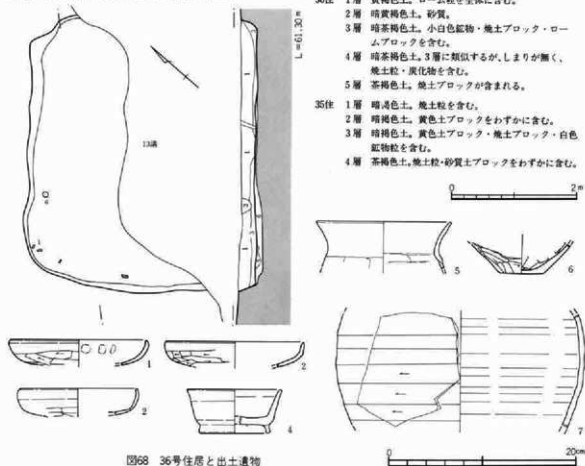
掘り方 床面下の全体に及ぶ掘り込みはない。北西隅には幅約50cm、深さ約10cmの溝状を呈する掘り込みが検出されたが、周溝とも考えられる。

貯蔵穴 不明 柱穴 不明 カマド 不明

周溝 前述した北西隅の溝状の掘り込みが周溝の可能性がある。

遺物出土状態 出土した遺物は少ない。南東隅付近の床面近くの6点の遺物も小破片である。

備考 9世紀初めの頃の住居と考えられる。



II 検出された遺構と遺物

36号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～体部1/6残 口 (14.5cm)	西隅壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	杯部外面焼削り。口縁から内面まで。
2	土師器 杯	口縁～体部1/5残 口 (14.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面不定方向焼削り。口縁部から杯部内面まで
3	土師器 杯	口縁～体部1/6残 口 (12.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②によい橙5YR6/4	底部外面焼削りの後、滑り。口縁から杯部内面まで
4	須恵器 高台付椀	1/4残存 口 (10.2cm) 底 (7.7cm) 高 4.6cm	埋没土中	①嫩紫。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転未切り離しか？。付高台。高台接合部回転まで。
5	土師器 甕	口縁～肩部破片 口 (15.2cm) 頸 (12.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/6	口縁内外面滑り。外面滑り方向焼削り。内面滑り方向滑り。
6	土師器 甕	底部残存 底 4.7cm	北西壁際 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②褐7.5YR4/3	胴下部外面縦方向焼削り。底部焼削り。内面滑り方向滑り。
7	灰釉陶器 甕	胴部1/6残存 胴 (26.5cm)	埋没土中	①黒色細粒物を含む。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰。硬質	外面下半横方向焼削り。内面回転まで。全面に釉。肩部と思われる部分に自然釉が厚くなる。

37号住居 (図69・70 PL13・43)

位置 K・L-73グリッド 主軸方位 N19°W

重複 西壁は発掘調査区域外であるが、区域内では重複遺構はない。

規模 縦3.67m 横3.80+αm 深さ0.3m 形状 隅丸方形と考えられる。

埋没土 厚さ10cmほどの焼土ブロック・炭化物を含む暗茶褐色土の上層と、20cmほどのロームブロックを多量に含む黄色土の下層に大別できる。

床面 貼床無し。ローム層上面を硬くつき固めた床面であり、貼床ではない。

貯蔵穴 有り。北東隅に直径50cmほどの円形を呈する貯蔵穴がつけられている。その穴の南側にはやや広い平らな空間が続き、カマド右脇の空間全体を帯状の高まりが巡っている。

周溝 無し 柱穴 無し 掘り方 認められない。

遺物出土状態 住居のほぼ中央部分からカマド寄りにかけて、東南隅付近に遺物が集中しており、床面直上のものも多い。図70-1、4の土師器杯形土器、16の土師器甕形土器が床面直上で出土している。

カマド 位置 北壁の中央部寄りやや東寄り

規模 全長0.90m 最大幅1.10m 焚き口幅0.25m

袖 有り。右袖の芯に石を使用している。

煙道 壁を利用している。煙り出し部分が住居外へのびている。

遺存状態 焼土や灰層はしっかりした形で残存している。

遺物出土状態 カマド内部には遺物がほとんど認められない。

備考 6世紀前半の住居と考えられる。

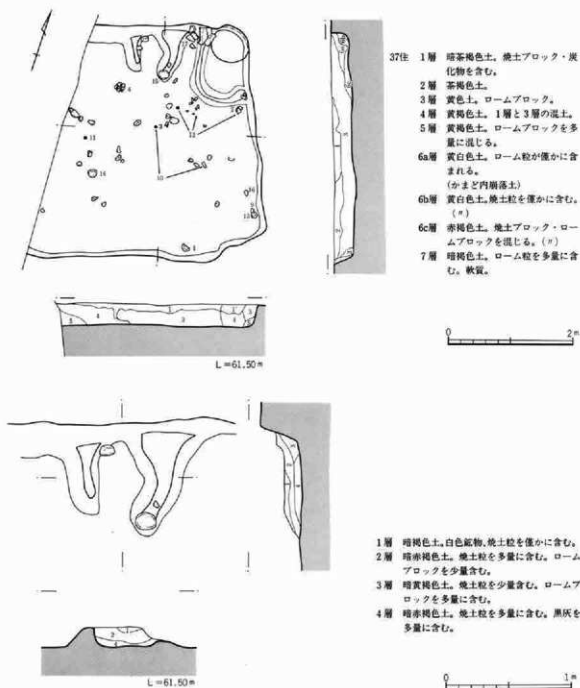


図69 37号住居とカマド

37号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	ほぼ定形 口 (13.9cm) 高 3.8cm	南壁際 床面上8cm	①微細砂、角閃石を含む。 ②に近い値7.5YR6/4	底部外面磨削。口縁部および内面で。底部内面放射状の亀裂き。
2	土師器 杯	3/4残存 口 (11.8cm) 高 4.4cm	東壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②黒褐色5YR2/1	底部外面磨削。内面で。口縁部横まで。

II 検出された遺構と遺物

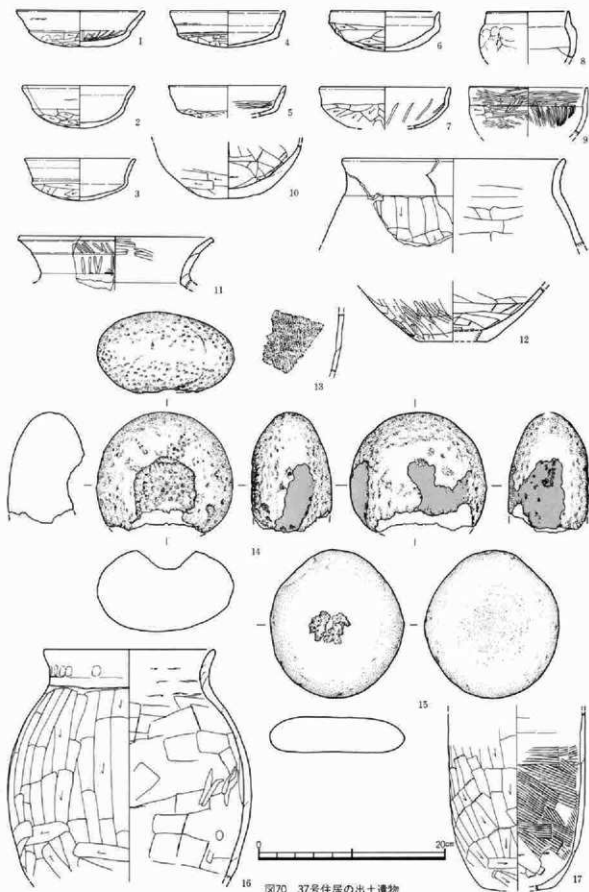


図70 37号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②赤褐色焼成	成・整形の特徴
3	土師器 杯	口縁～底部1/2残 口 11.7cm 高 4.5cm	カマド前 床面上11cm	①微細砂を含む。 ②にふい黄橙10YR7/4	底部外面荒削り。内面なで。口縁部横なで。
4	土師器 杯	完形 口 12.4cm 高 3.9cm	カマド左前 床面直上	①微細砂を含む。 ②にふい黄橙10YR7/3	底部外面荒削り。内面指なで。口縁部横なで。
5	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (12.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	底部外面荒削り。内面なで。口縁部横なでの後、横方向の荒磨き。
6	土師器 杯	3/4残存 口 (11.7cm) 高 4.3cm	中央部やや東 床面上5cm	①微細砂、角閃石を含む。 ②にふい赤褐5YR5/4	底部外面荒削り。口縁部横なで。内面なで。
7	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (13.8cm) 高 (4.4cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り。口縁部から内面横なで。放射状の荒磨き。
8	土師器 鉢	口縁～体部破片 口 (8.8cm)	埋没土中	①微細砂、角閃石を含む。 ②橙5YR6/6	外面横方向荒削り後、指押さえ。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
9	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 (12.6cm)	中央部やや東 床面上5cm	①粗密。 ②にふい赤褐5YR4/4	外面指押さえ。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
10	土師器 甕	底部1/2残存	カマド前 床面直上	①細砂、赤色顔料物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	外面斜方向荒削り。内面横方向荒なで。
11	土師器 蓋	口縁～面部破片 口 (20.4cm)	中央部 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面横なでの後、縦方向の荒磨きを二段。内面横なでの後、横方向の荒磨き。
12	土師器 甕	口縁部・底部残存 口 (23.5cm) 底 (7.5cm)	東壁際 床面直上	①細砂を多く含む。 ②橙7.5YR6/6	胴部外面縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
13	土師器 甕	胴部破片	東隅壁際 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	平行叩き目文?
14	凹み石	3/4残存 長 12.7cm 幅 14.6cm 厚 8.6cm 重 1,950g	中央部 床面上18cm		
15	白石	完形 長 15.7cm 幅 14.4cm 厚 3.8cm 重 1,216g	カマド袖 床面上19cm		
16	土師器 甕	口縁～体部1/2 口 (18.0cm)	東隅 床面直上	①細砂、直径2mm程度の小石を含む。 ②明赤褐5YR5/6 ③胴部に黒斑	胴部外面上半縦方向荒削り。下位斜方向、横方向の荒削り。口縁部横なで。内面横方向幅広い荒なで。部分的に縦方向の整形痕がある。
17	土師器 甕	体部下位～底部 1/3残存 底 (8.0cm)	カマド右袖脇 壁際 床面上12cm	①細砂を含む。 ②にふい橙7.5YR7/4	外面縦方向荒削り。下部横方向荒削り。内面斜方向刷毛状工具によるなで。

II 検出された遺構と遺物

38号住居 (図71・72 PL13・45)

位置 M-71グリッド

主軸方位 N85°E

重複 重複遺構はないが、西部部分が発掘調査区域外に出してしまう。

規模 縦1.95+ α m 横3.06m 深さ0.06m

形状 不定方形

埋没土 確認面が床面であったような状態であるので、埋没土は不明である。

掘り方 床面下にわずかに浅い掘り込みが、カマド周辺を中心に掘られている。

床面 貼床有り。硬く締まった面が検出された。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 無し。床面下に多数の柱穴が検出されているが、柱穴と思われるものはない。

遺物出土状態 確認面が床面であったため、カマド付近の床面直上の遺物しか残存していない。図72-4、5、6は埋没土中の遺物であるが、他はすべてカマド周辺、床面直上近くからの出土遺物である

カマド 位置 東壁ほぼ中央 規模 全長1.40m 最大幅0.84m 焚き口幅0.76m

袖 無し。煙道 住居外へ0.80mのびる。

遺存状態 焼土や炭化物を含む層が5cmの厚さでわずかに残存するだけである。

遺物出土状態 図72-2、3の須恵器杯形土器と10の土師器変形土器が燃焼部から出土している。

備考 9世紀終わりごろの住居と考えられる。

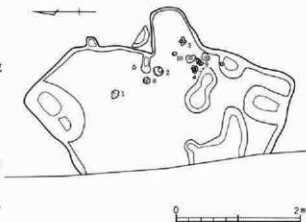


図71 38号住居

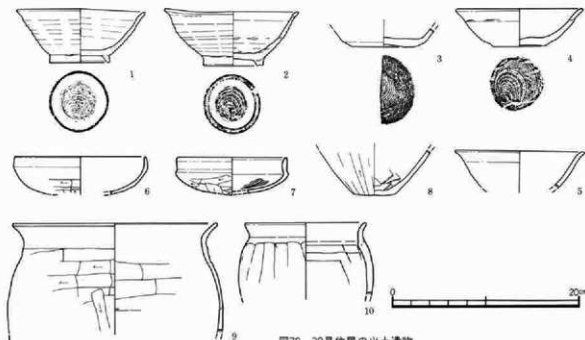


図72 38号住居の出土遺物

38号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 高台付碗	2/4残存 口 (13.7cm) 底 6.5cm 高 5.6cm	カマド前 床面上34cm	①微細砂を含む。 ②灰白10Y8/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転糸切り難し。付高台。高台接合部まで。
2	須恵器 碗	口縁～底部3/4残 口 14.5cm 底 6.5cm 高 5.7cm	カマド吹き口 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰白10Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転糸切り難し。付高台。高台接合部まで。
3	須恵器 杯	底部1/2残存 底 (6.8cm)	カマド横道 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②黄灰2.5YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。筒縁部回転荒削り。
4	須恵器 杯	口縁～底部1/2残 口 (13.7cm) 底 5.7cm 高 4.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白10YR7/4 ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。
5	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 (14.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふい橙7.5YR6/4 ③還元焰	内外面とも回転まで。
6	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (13.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り。口縁部から内面まで。
7	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (11.7cm)	カマド右前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6 ③内黒	底部外面荒削り。口縁部から内面まで。杯部内面斜方向荒削り。
8	土師器 甕	体部下位～底部残存 底 4.4cm	カマド左前	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふい橙5YR6/4	外面縦方向荒削り。底部外面荒削り。内面横方向荒削りまで。
9	土師器 甕	口縁～胴部残存 口 (22.0cm)	カマド左前床 面直上と埋没 土中の破片が 接合	①微細砂、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②にふい橙7.5YR7/3 ③硬質	胴部外面横方向荒削り。下半縦方向荒削り。頸部指まで。胴部内面横方向荒削りまで。
10	土師器 甕	口縁～体部上半 1/3残存 口 (12.8cm)	カマド燃焼部 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6 ③硬質	胴部外面縦方向荒削り。摩耗が激しく明確でない。口縁部横まで。内面横方向荒削りまで。

II 検出された遺構と遺物

39号住居 (図73-78 PL14・45・46)

位置 M-72グリッド 主軸方位 S60°E

重複 67号土坑に先行する。

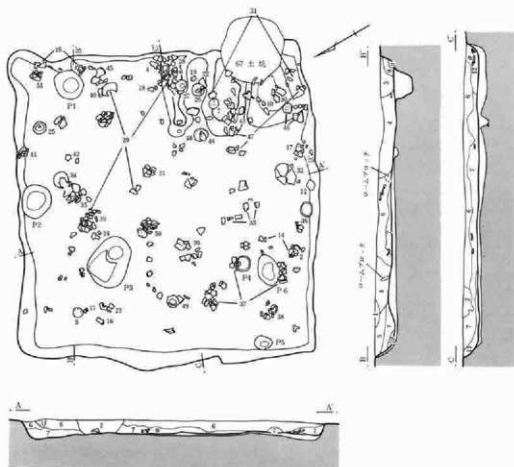
規模 縦4.97m 横4.97m 深さ0.35m 形状 正方形

埋没土 上半部は後世の擾乱により壊されている部分が多いが、埋没土の大部分は白色鉱物粒を含む暗褐色土である。また、壁際には壁からの崩落と考えられるロームブロックの流れ込みが認められる。

掘り方 全体に床面下5cmほど掘られているが、掘り方底面もほぼ平坦である。

床面 貼床有り。掘り方を充填したロームと暗褐色土の混土が貼床である。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 有り。カマド右脇に長径0.5m、短径0.4mの楕円形を呈する貯蔵穴が検出されている。多数の遺物が出土している。



39住 1層 茶褐色土。白色鉱物を僅かに含む。やや軟質。

2層 茶褐色土。白色鉱物を少量含む。ローム細粒を僅かに含む。

3層 暗褐色土。白色鉱物・焼土粒を僅かに含む。

4層 暗黄褐色土。ロームを主体とする。

5層 暗褐色土。白色鉱物・ロームブロックを少量含む。

6層 暗褐色土。白色鉱物を僅かに含む。

7層 暗褐色土。白色鉱物・ロームブロックを少量含む。

8層 暗褐色土。3層に類似するが、焼土粒が多い。

9層 黄褐色土。ロームブロックを主体とする。

10層 黄褐色土。ロームブロックを多量に含む。

11層 黄褐色土。ロームブロックを10層より多量に含む。

12層 赤褐色土。焼土粒を主体とする。

図73 39号住居



- 39住 1層 暗褐色土。白色灰土粒をわずかに含む。
 2層 黄褐色土。ロームブロックを主体とする。
 3層 暗褐色土。焼土粒をわずかに含む。
 4層 赤褐色土。焼土粒を多量に含む。
 5層 暗赤褐色土。焼土粒を多量に含む。黒色灰を少量含む。

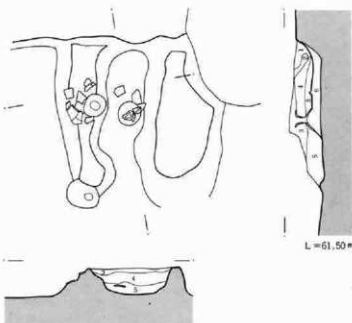


図74 39号住居のカマド

周溝 無し。

柱穴 有り。東壁側の主柱穴(P3、P4、P6)は検出されたが、カマド側の主柱穴は確認できなかった。

P1、P2は壁に近く主柱穴とは考えられない。

柱穴No	P1	P2	P3	P4	P5	P6
直径	0.49m	0.55m	0.82m	0.24m	0.22m	0.50m
深さ	0.29m	0.31m	0.36m	0.35m	0.08m	0.26m

遺物出土状態 住居内全体に多数の遺物が検出されている。高杯形土器と変形土器が多い。やや床面から浮いた出土状態の遺物もあるが、ほとんど床面直上あるいは床面近くの出土遺物である。接合状態をみるとやや散乱したと思われるところもあるが、時期的にも異なる遺物の混在は認められない。住居の生活時の残存状態であるかどうかは別として、本住居出土遺物の一括性はいえると考えられる。図75の26の高杯形土器はカマド熱焼部中央で逆位で灰面直上で出土した。支脚として用いられたものと考えられる。

カマド 位置 東壁中央部よりやや南寄り

規模 全長1.32m 最大幅1.40m 焚き口幅0.44m

袖 有り。両袖とも残存している。住居内に1.0mものびる。

煙道 壁の立ち上がりを利用してのと思われる、住居外へ振り込んではいない。

遺存状態 両袖の遺存状態が最も良く、焼土や灰層も約20cmの厚さで残存している。熱焼部中央には支脚として使用された高杯形土器が倒置のまま残存している。

遺物出土状態 熱焼部から袖の立ち上がりにかけて杯形土器、高杯形土器や変形土器が出土している。図75の26の高杯形土器は支脚である。

備考 5世紀中頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

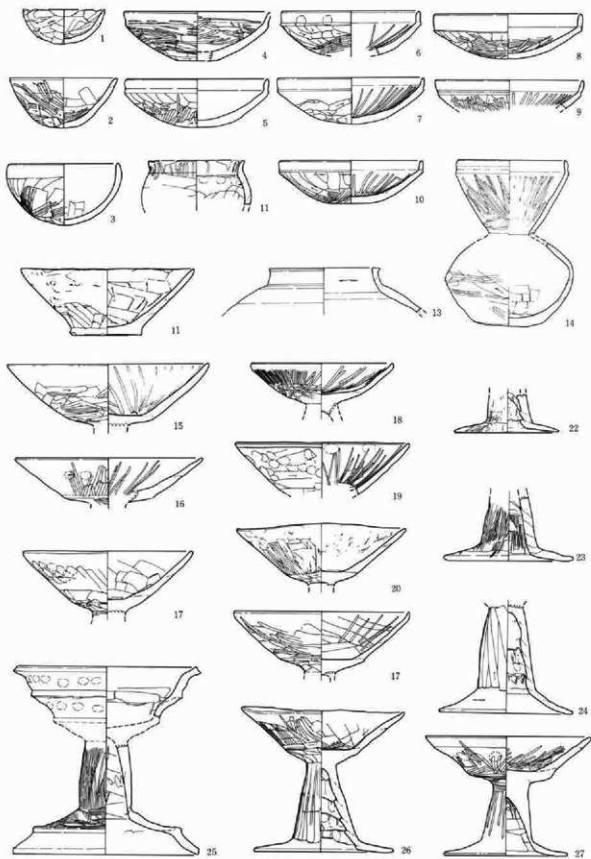


図75 39号住居の出土遺物(1)



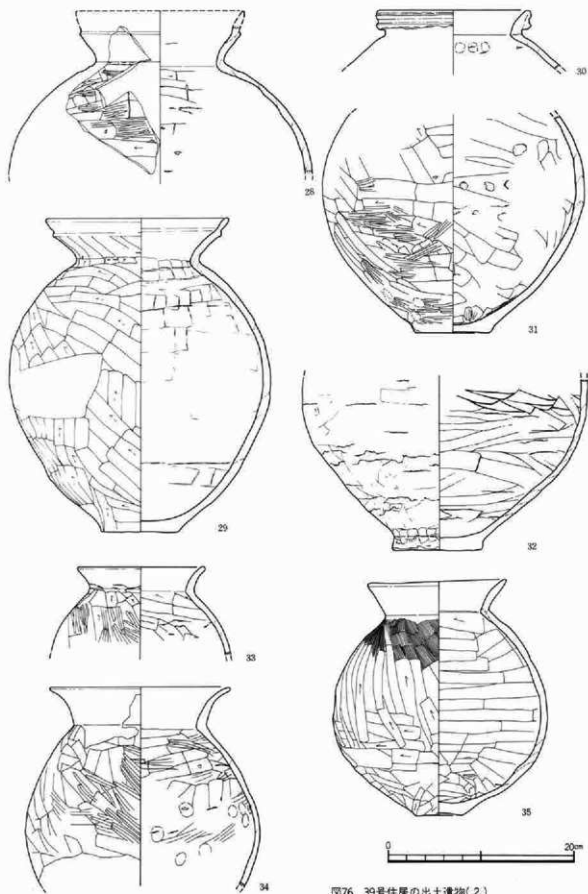


図76 39号住居の出土遺物(2)

II 検出された遺構と遺物

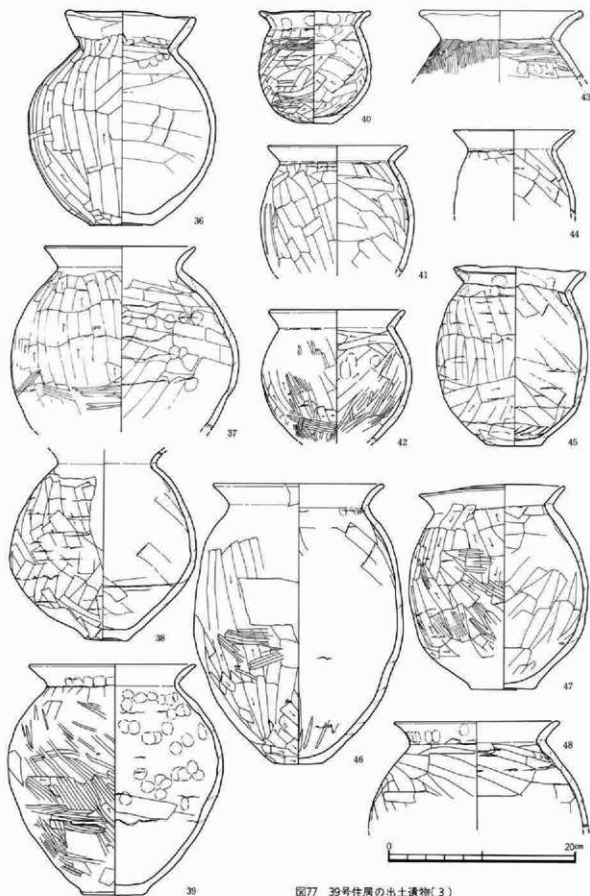


図77 39号住居の出土遺物(3)

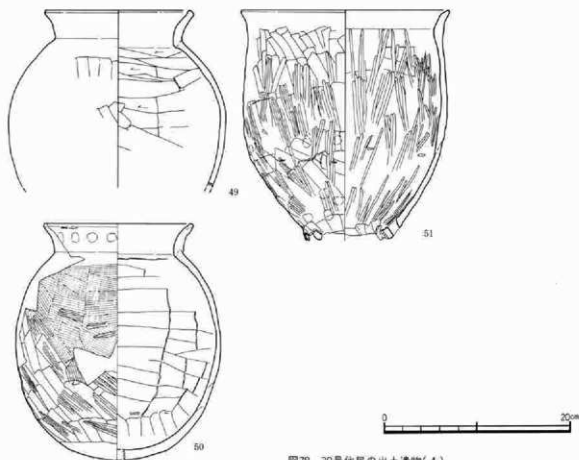


図78 39号住居の出土遺物(4)

39号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部2/3 口 (8.7cm) 高 3.7cm	カマド左袖	①粗砂、石英を含む。 ②橙7.5YR6/6 ③やや軟質	外面磨削り。内面荒なで。口縁部指押さえ。
2	土師器 鉢	ほぼ完形 口 11.5cm 高 5.3cm	南西壁際 床面上直上	①微細砂を含む。 ②赤10R5/6	外面横方向磨削りの後、斜方向荒磨き。内面斜方向荒なでの後、斜方向荒磨き。口縁部横なで。
3	土師器 碗	1/4残存 口 (12.0cm) 高 6.5cm	壁改土中	①細砂、石英を含む。 ②明赤周2.5YR5/6 ③やや硬質	外面下半部磨削り。上半部方向荒なで。後、中位に斜方向荒磨き。内面なで。
4	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (15.8cm) 底 (4.4cm) 高 5.2cm	カマド左袖	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6 ③硬質	外面横方向磨削りの後、横方向荒磨き。内面丁寧なでの後、横方向荒磨き。底部外面磨削り。口縁部横なで。
5	土師器 杯	ほぼ完形 口 15.1cm 高 5.1cm	北隅壁際 床面上10cm	①粗砂、赤色細粒物を含む。 ②赤10R5/6	杯部外面下半斜方向磨削り。上半部なで後、部分的に荒磨き。口縁部横なで。
6	土師器 杯	口縁～底部1/2残 口 (14.8cm)	カマド左袖 床面上9cm	①微細砂、赤色細粒物、角閃石を含む。 ②明赤周5YR5/6	外面磨削り後、荒磨き。各所に指頭痕が残る。内面放射状の荒磨き。口縁部横なで。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
7	土師器 杯	ほぼ完成 口 15.8cm 高 4.9cm	カマド奥後部 灰面上9cm	①粗砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	杯部外面横方向、斜方向荒削り。部分的に磨き。上半部指まで。内面丁寧なまでの後、放射状の荒磨き。口縁部横まで。
8	土師器 杯	口縁～底部1/5残 口 (16.0cm) 高 4.8cm	埋没土中	①微細砂、石英、角閃石赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR7/6 ③やや硬質	外面荒削りの後、斜方向荒磨き。内面刷毛目の後、横方向の磨き、荒磨き。放射状の荒磨き。口縁部横まで
9	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 (15.8cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面縦方向荒削り後、縦方向荒磨き。口縁部横まで。内面横までの後、放射状荒磨き。
10	土師器 杯	口縁～底部1/2残 口 (15.3cm) 高 (4.6cm)	カマド右前脇 床面上3cm	①粗砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6 ③やや軟質	杯部外面横方向、斜方向荒削り後、荒磨き。内面までの後、放射状荒磨き。口縁部横まで。
11	土師器 甕	口縁～胴中位 1/4残存 口 (10.4cm)	北隣壁際 床面上10cm	①微細砂、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面横方向の荒まで。口縁部横まで後、縦方向の荒磨き。内面斜方向荒まで。指頭面が残る。口縁部横まで後、縦方向荒磨き。
12	土師器 鉢	1/2残存 口 (18.6cm) 底 7.1cm 高 7.4cm	南西壁際 床面上6cm	①微細砂、石英、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②にぶい橙7.5YR5/4	内外面とも荒まで。口縁部横まで。
13	須恵器 短頸壺	口縁～体部上位 1/5残存 口 (11.8cm)	埋没土中	①微細砂、黒色細粒物を含む。 ②灰白10YR8/1 ③還元焰	輪積み成形。ロクロ整形。
14	土師器 甕	口縁～体部1/3残 口 (11.4cm) 底 (7.1cm) 高 (17.7cm)	南西壁際と南 西部の破片が 接合 床面直上	①微細砂、直径2mm程の小石を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	胴部外面横方向荒削り後、横方向荒磨き。内面横方向荒まで。口縁部外面下部横方向荒磨き。上半縦方向荒磨き。内面縦方向荒磨き。口縁部上端横まで。
15	土師器 高杯	杯部残存 口 21.6cm	東隣壁際と西 隣壁際の破片 が接合。 床面直上	①細砂、石英、角閃石を含む。 ②にぶい橙7.5YR7/4	外面、横方向荒削りの後、横方向荒磨き。胴部接合部には刷毛目もみえる。内面丁寧なまでの後、縦方向荒磨き。
16	土師器 高杯	杯部破片 口 (19.9cm)	北隣壁 床面上5cm	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②橙2.5YR6/8	外面までの後、縦方向荒磨き。内面までの後、放射状荒磨き。
17	土師器 高杯	杯部2/3残存 口 (18.2cm)	南壁際 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/8	外面横方向荒まで。上半に指頭面が残る。内面横方向荒まで。口縁部横まで。
18	土師器 高杯	口縁～杯部破片 口 (15.1cm)	カマド左脇 壁際 床面直上	①微細砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/8	杯部外面上半縦方向刷毛目。下半横方向荒削り。部分的に荒磨き。内面までの後、放射状の荒磨き。口縁部横まで。
19	土師器 高杯	杯部1/3残存 口 (18.3cm)	カマド内	①中砂、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面荒削りの後、指まで。内面荒までの後、放射状荒磨き。内外面ともに指頭面が顕著に残る。口縁部横まで。
20	土師器 高杯	杯部1/2 口 (18.2cm)	中央部 床面上5cm	①粗砂、角閃石、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	口縁部横まで。外面縦方向荒削り後、縦方向荒磨き。内面までの後、放射状荒磨き。

番号	部 種	量 目	出土位置	①粘土②色調③構成	成・整形の特徴
21	土師器 高杯	杯部4/5残存 口 (18.6cm)	中央部と北壁 際の破片が接 合。床面直上。	①粗砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	口縁部横なで。外面なでの後、横、斜方向丸磨き。内 面斜方向丸なでの後、放射状の丸磨き。
22	土師器 高杯	脚部3/4残存 底 (11.3cm)	カマド左袖	①微細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面縦方向丸削りの後、縦方向丸磨き。内面しぼりの 痕跡が残る。
23	土師器 高杯	脚部1/2残存 底 (14.0cm)	北隅壁際 床面上5cm	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②明赤褐5YR5/6	外面縦方向丸削り後、縦方向丸磨き。裾部横なで。内 面横方向丸削り後、縦方向丸磨き。裾部横なで。
24	土師器 高杯	脚部1/2残存 底 (14.3cm)	北隅 床面直上	①細砂、石英を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面縦方向丸削り。裾部横なで。内面脚部指なで。裾 部横方向丸なで。
25	土師器 高杯	杯部1/3、脚部 口 (19.0cm) 底 19.6cm 高 (19.8cm)	東隅と北隅の 破片が接合 床面直上	①中砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8 ③やや硬質	外面丁寧なでの後、脚部外面上半縦方向丸磨き。裾 部上面斜方向丸磨き。内面、杯部、脚部とも横方向丸 なで。
26	土師器 高杯	ほぼ方形 口 17.3cm 底 14.8cm 高 15.0cm	カマド内	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	脚部粘土色巻き上げ成形。杯部外面横方向丸削りの後 縦方向丸磨き。内面斜方向丸なで。脚部縦方向丸磨き 内面指押さえ。口縁部、裾部横なで。
27	土師器 高杯	口縁～底部2/3残 口 (17.5cm) 底 (13.1cm) 高 12.6cm	東隅壁際と南 西壁際とカマ ド内の破片が 接合	①細砂、石英を含む。 ②にふい橙7.5YR6/4	内外面ともなでの後、丸磨き。
28	土師器 壺	口縁～体部上半破 片 頸 (13.8cm)	カマド左袖上	①微細砂、角閃石を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	外面上半丸なで。下半横方向丸削りの後、横方向丸磨 き。内面横方向丸なで。口縁部横なで。
29	土師器 壺	口縁～底部2/3 口 19.5cm 底 8.2cm 高 33.2cm 胴 28.0cm	カマド吹き口 床面直上の破 片と西隅壁際 床面上10cmの 破片が接合	①細砂、白・赤色細粒物を含 む。 ②橙7.5YR6/6 ③やや硬質	外面上半斜方向丸削り。下半斜方向丸削り。底部外面 丸削り。内面横方向丸なで。
30	土師器 壺	口縁～胴部上位 1/5残存 口 (15.7cm)	貯蔵穴内	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/8	内外面ともなで。胴部内面には指頭痕が残る。
31	土師器 壺	体部～底部1/2 底 8.2cm 胴 27.6cm	東隅、貯蔵穴 際。西隅、南 西壁際、カマ ド周辺の破片 が接合 床面直上	①細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面横および斜方向丸削りの後、縦方向に部分的に丸 磨き。底部外面なで。内面斜方向丸なで。
32	土師器 壺	胴中位～底部残 底 9.6cm	南西壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面斜方向丸なで。内面横方向丸なで。底部外面丸削 り。内外面とも粘土帯の接合痕が残る。
33	土師器 壺	口縁～胴部1/2残 口 (13.6cm)	南西部 床面上13cm	①中砂、赤色細粒物を含 む。 ②橙7.5YR7/6	外面縦方向丸削り後、縦方向丸磨き。内面横方向丸削 り。口縁部横なで。
34	土師器 壺	口縁～胴部3/4残 口 (19.1cm)	北東部 床面上5cm	①細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	外面縦方向の丸削り後、斜方向の丸磨き。内面横方向 丸なで。部分的に丸磨き。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
35	土師器 甕	ほぼ完形 口 14.7cm 底 5.0cm 高 25.0cm 胴 22.8cm	北壁階 床面上4cm	①細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面上半部が刷毛目整形。中位縦方向掘削り。下位斜方向掘削り。内面横方向掘削り。口縁部横なで。
36	土師器 甕	完形 口 14.0cm 底 7.0cm 高 22.5cm 胴 20.1cm	南西壁階 床面直上	①極細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面縦方向掘削り。内面横なで。口縁部横なで。底部外面掘削り。
37	土師器 甕	口縁～体部4/5残 口 (16.0cm) 胴 24.0cm	西部 床面直上	①極細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面縦方向の掘削り。下半は横方向の掘削り。
38	土師器 甕	頸部～底部2/3残 底 4.5cm 胴 20.0cm	西隅壁階 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面刷毛状工具による縦方向の弱いなで。輪轆み痕が残る。内面斜方向掘削り。底部外面掘削り。
39	土師器 甕	ほぼ完形 口 17.4cm 底 6.3cm 高 24.3cm	北壁階と北隅 の破片が接合 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面横なでの後、斜・横方向の掘削り。底部外面掘削り。内面横なで。上半は指頭痕が顕著である。
40	土師器 甕	完形 口 12.1cm 底 3.4cm 高 11.9cm	カマド左前 床面直上	①極細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面斜方向掘削り。部分的に横方向掘削り。内面斜方向掘削り。口縁部内外面掘削り。指頭痕が残る。
41	土師器 甕	口縁～体部1/2残 口 (15.0cm)	北東壁階 床面上3cm	①粗砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	外面縦方向掘削り。整形は弱いのか、砂粒の動きがあまり見られない。内面縦方向・斜方向掘削り。口縁部横なで。
42	土師器 甕	口縁～体部1/4残 口 (14.4cm)	中央部と東隅 壁階の破片が 接合 床面直上	①中砂、赤色細粒物を含む。 ②に上り橙7.5YR6/4	外面縦方向掘削り。上半なでの後、下半を中心に部分的な掘削り。内面斜方向掘削り後、部分的な掘削り。口縁部横なで。
43	土師器 甕	口縁～胴上位 1/4残存 口 (17.5cm)	カマド右袖 床面上4cm	①極細砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面本端状工具による縦方向の掘削り後、部分的に掘削り。口縁部横なで。内面横方向掘削り後、上半横方向掘削り。指頭痕が残る。
44	土師器 甕	口縁～胴部上位残 口 12.8cm	カマド焚き口 床面直上	①粗砂、赤色細粒物を含む。 ②赤10R5/6 ③やや軟質	外面は器面が荒れており、頸部に掘削りの端部が看取できるだけである。内面斜方向掘削り。口縁部横なで。
45	土師器 甕	完形 口 14.2cm 底 5.8cm 高 19.0cm	東隅壁階 床面上10cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6	外面上半弱い横方向掘削り。下半斜方向掘削り。粘土層接合痕が各所に残る。内面斜方向掘削り。口縁部横なで。
46	土師器 甕	1/3残存 口 (17.9cm) 底 (5.4cm) 高 29.5cm	貯蔵穴際とカ マド焚き口の 破片が接合	①極細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面縦方向掘削り。ごく部分的に横方向掘削り。内面上半横方向掘削り。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
47	土師器 甕	口縁～底部2/3残 口 (15.6cm) 底 (6.6cm) 高 21.7cm	南隅貯蔵穴際 床面上3cm	①極細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR7/6	外面斜方向削りの後、斜方向磨き。内面荒なで。口縁部横なで。底部外面削り。
48	土師器 甕	口縁～肩部残存 口 (17.8cm)	カマド契キ口 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面斜方向荒なで。内面横方向荒なで。口縁部横なで。
49	土師器 甕	口縁～胴部1/3残 口 (15.5cm)	北西部 床面上8cm	①細砂、金雲母を含む。 ②にぶい黄橙10YR7/3 ③硬質	外面丁寧なで整形。内面横方向の強い削り。口縁部横なで。
50	土師器 甕	口縁～底部1/4残 口 (15.7cm) 高 (25.1cm)	中央部 床面直上	①緻密。 ②橙7.5YR7/6 ③硬質	外面上半木端状工具による刷毛目状の整形。下半斜方向の荒なで。後、磨き。内面横方向の荒なで。口縁部横なで。
51	土師器 甕	口縁～体部3/5 口 (22.0cm)	東隅壁際、北隅、中央部、北西隅の破片接合。床直。	①中砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/8	外面縦方向荒なでの後、縦方向磨き。内面丁寧なでなでの後、縦方向の磨き。

40号住居 (図79・80 PL15)

位置 J・K-71グリッド

主軸方位 東壁方向でN23E

重複 19号住居、20号住居と重複するが、調査時には前後関係は確認できなかった。出土遺物から検討すると19号住居には先行すると思われ、20号住居とはほぼ同時期であると考えられる。

規模 縦3.95m 横4.00m 深さ0.21m

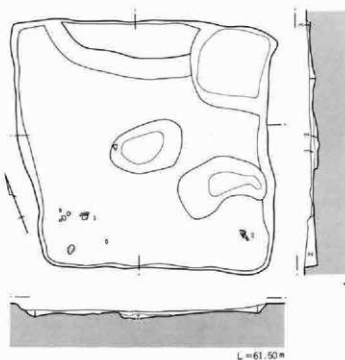
形状 不定方形。北西隅が張り出している。なお、図示した平面図は掘り方段階のものである。

埋没土 確認面が床面よりも下位であったと思われ、残存するのは掘り方の埋没土である。中央部に黒色土で埋没した浅い落ち込みがある。

掘り方 北東隅と床面の中央部分、それに東壁の中央より南寄りに浅い掘り込みがある。

床面 後世の掘り込みが床面下まで及んでおり、床面の検出はできなかった。

貯蔵穴 不明



- 40住 1層 黄褐色土、砂質。
2層 黒色土。中央落ち込み埋没土。
3層 黄褐色土。1cmの円礫・焼土ブロック・白色細粒物を含む。

0 2m

図79 40号住居

II 検出された遺構と遺物

周溝 無し

柱穴 不明

遺物出土状態 埋没土に含まれる遺物もわずかである。

カマド 不明。掘り方の痕跡からも不明である。

備考 図示したやや大形の破片の復原実測図から検討すると、时期的に異なる遺物が混在している状況を指摘することができる。本住居の時期は不明と言わざるを得ない。

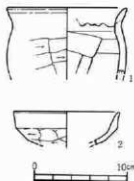


図80 40号住居の出土遺物

40号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 壺	口縁～体部上半 口 (13.0cm)	掘り方埋没土 中	①微細砂を含む。 ②におい値7.5YR6/4	器面が荒れてはつきりしないが、外面横方向荒削り。 内面横方向荒削り。口縁部横まで。
2	土師器 杯	口縁～体部1/4 口 (11.2cm)	掘り方埋没土 中	①微細砂、雲母、白色細粒 物を含む。 ②黄灰2.5Y6/1 ③還元焰。軟質	体部外面横方向手持ち荒削り。口縁部横まで。内面な で。

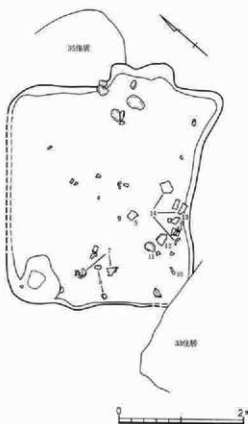


図81 41号住居

41号住居 (図81・82 PL15・46)

位置 K・L-76グリッド 主軸方位 N48°E

重複 33・35号住居に先行する。

規模 縦3.46m 横2.81m 深さ0.18m

形状 方形を呈するが、南東壁がへこんで直線的でない
ので正方形とはいえない。

埋没土 住居中央部では厚さ30cmの埋没土を確認した。
上半部は白色細粒鉱物を少量含む暗褐色土、下半部は白色細粒
鉱物、ローム細粒を少量含む暗黄褐色土である。

掘り方 床面下には、ロームブロック、焼土粒を少量含む暗褐色土が約5cmの厚さでほぼ全面に認められる。掘り方底面には西壁部分に深さ約10cmの楕円形に近い形の掘り込みがあり、約5～10cmの浅いピットが8基ほど確認されている。

床面 貼床有り。硬く締まった床面である。

貯蔵穴 不明 周溝 不明

柱穴 不明

遺物出土状態 住居のほぼ全面に遺物が出土しているが、特に南壁付近に床面直上出土の土師器壺形土器(図82-8)や埴輪(図82-14)が集中している。

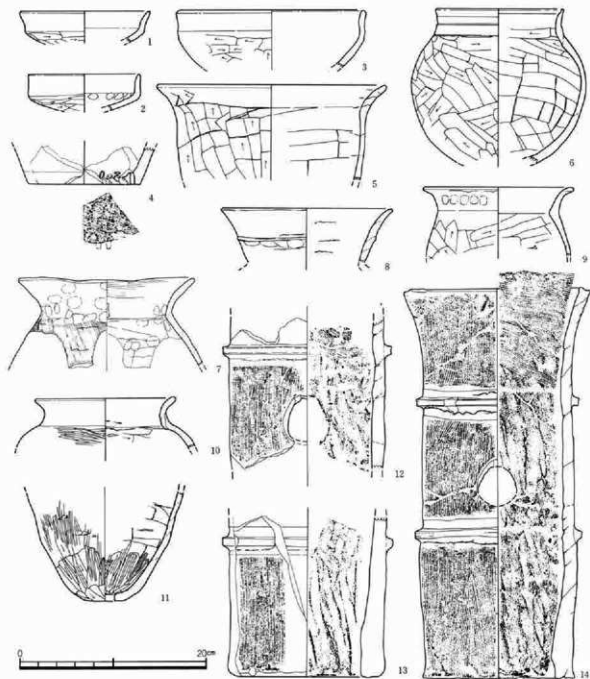


図82 41号住居の出土遺物

カマド 位置 北東壁ほぼ中央

遺存状態 重複する35号住居のカマド掘り方によって壊されており、規模その他詳細は不明である。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

41号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 (13.8cm)	掘り方内 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR7/6	底部外面横方向荒削り、内面なで、口縁部横なで。
2	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (12.0cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②にぶい橙7.5YR7/4	底部外面荒削り、内面横なで、指頭痕が残る。口縁部横なで。
3	土師器 鉢	口縁～体部残存 口 (20.0cm)	南東壁際 床面上3cm	①粗砂、礫石を含む。 ②橙5YR6/6	外面横方向荒削り。口縁部なで、内面丁寧な横なで。
4	須恵器 甌	底部破片 底 (12.0cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰N5/ ③還元焰	外面体部下端、底部回転荒削り、内面回転なで。底部には外面からの焼成肉穿孔。
5	土師器 甕	口縁～体部上位破片 口 (24.5cm) 胴 (20.0cm)	中央部 床面上18cm	①中砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	口縁部横なで、外面縦方向荒削り、内面横方向荒なで。
6	土師器 甕	口縁～体部下位 1/4残存 口 (13.6cm) 胴 (18.6cm)	南東壁付近 床面上3cm	①中砂、軽石、斜方礫石を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	外面斜方向荒削り。口縁部横なで、内面横方向荒なで。
7	土師器 甕	口縁～胴上位 1/3残存 口 (18.9cm)	南西壁付近 床面上6cm	①細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	肩部外面縦方向刷毛目整形。頸部横なで、指頭痕が残る。口縁部内面横方向刷毛目。頸部から肩部内面指押さへ。指頭痕が残る。
8	土師器 甕	口縁部1/4残存 口 (18.4cm)	南西壁付近 床面上直上	①細砂を含む。 ②橙5YR6/6	外面横なで、横なで、内面横なで。
9	土師器 甕	口縁～体部上位破片 口 (15.8cm)	埋没土中	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面縦方向および斜方向荒削り、内面横方向荒なで、口縁部横なで。
10	土師器 甕	口縁～肩部破片 口 (14.9cm)	南隅 床面上9cm	①微細砂、礫石を含む。 ②橙5YR6/6	外面肩部横方向荒磨き、内面横方向荒削り、口縁部横なで。
11	土師器 甕	体部～底部1/4残 底 (3.6cm)	南東壁付近 床面上24cm	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR7/6	外面縦方向荒削り後、縦方向荒磨き、内面上半横方向荒なで。下端縦方向荒削り後、縦方向荒磨き。
12	埴輪 円筒埴輪	体部破片	南東壁付近 床面上12cm	①細砂を含む。 ②橙5YR6/6	外面縦方向刷毛目、内面縦方向指なで、上端斜方向刷毛目。
13	埴輪 円筒埴輪	体部下位～底部 1/5残存 底 (17.0cm)	南東壁際 床面上4cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/8	外面縦方向刷毛目、内面縦方向指なで。
14	埴輪 円筒埴輪	口縁～底部1/4残 口 (19.8cm) 底 (16.2cm) 高 41.4cm	南東壁際 床面上直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	外面縦方向刷毛目、内面縦方向指なで、下端横方向および斜方向刷毛目。

43号住居 (図83 PL15・46)

位置 K・L-69グリッド

主軸方位 N77E

重複 29号住居に先行し、42号住居に後出する。

規模 縦3.42m 横2.55m 深さ0.22m

形状 長方形

埋没土 29号住居の床面下に約10cmほどの埋没土を残して残存している。ロームブロックを含む暗黄褐色土である。

掘り方 南西隅に長径2.0m、短径1.7m、深さ0.15mの楕円形を呈する浅い落ち込みがある。

床面 貼床有り。硬く締まった床面である。

貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 無し

遺物出土状態 カマド周辺および北壁部分に遺物が出土している。

カマド 位置 東壁の中央部

規模 不明

袖 不明

煙道 住居外に40cmほどのびる。

遺存状態 ほゞ主軸方向をおなしくして本住居の上層に29号住居がつくられている。40号住居のカマドはその際に壊されており、掘り方が検出できずにすぎない。詳細は不明である。

遺物出土状態 無し

備考 8世紀中頃の住居と考えられる。

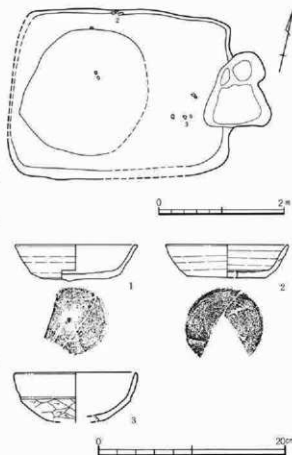


図83 43号住居と出土遺物

43号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③地成	成・整形の特徴
1	須恵器杯	1/3残存 口(13.0cm) 底(7.3cm) 高3.7cm	カマド内 灰面下7cm	①微細砂を含む。 ②灰白5Y4/1 ③還元焰、やや軟質	右回転クロコ成形。底部回転蹴越こし?
2	須恵器杯	口縁~底部2/3残 口13.1cm 底(8.3cm) 高3.5cm	北壁際	①微細砂を含む。 ②灰白5Y7/1 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り離し技法不明。全面回転蹴削り。
3	土師器杯	口縁~体部破片 口(13.0cm)	カマド前	①細砂を含む。 ②橙5YR6/6 ③やや硬質	底部外面蹴削り。口縁部および内面衝なで。

II 検出された遺構と遺物

44号住居 (図84 PL15)

位置 I-68グリッド 主軸方位 N75°E

重複 発掘区内では北東隅のみの検出である。

規模 縦・横計測不能 深さ0.22m 形状 不明

埋没土 アスファルト道路の施設により埋没土の大部分が壊されている。

掘り方 無し

床面 貼床無し。基盤の礫層を床面としている。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 ほとんど認められない。

カマド 位置 東壁中央部

規模 全長0.72m 最大幅0.70m 焚き口幅0.60m

袖 認められない。煙道 不明

遺存状態 27号住居のカマドとはほぼ接しており、煙道などの構造がはっきりしない。燃焼部と考えられる円形の落ち込みとその中心を通る軸に直交する軸上に対をなす二個の石が存在する。

煙り出し、あるいは袖の構造として把握できるかもしれない。

遺物出土状態 遺物出土無し

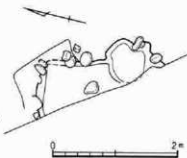


図84 44号住居と出土遺物

備考 住居の時期は不明である。

44号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須臾器 蓋	天井部1/5残存	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む。 ②オリブ灰2.5GY6/1 ③埋没土	左回転クロコ成。底部切り離し技法不明。全面回転 磨削調整。

45号住居 (図85 PL15)

位置 J-72グリッド 主軸方位 西壁方向N25°W

重複 46号住居に後出する。東半分と南壁が発掘区域外。

規模 縦4.26m 横2.00±αm 深さ0.2m 形状 不明

埋没土 白色細粒物を含む褐色土からなる。

掘り方 床面下にピットが二基確認されたが、住居内全体を掘り下げているような構造ではない。

床面 貼床無し。ロームを掘り込んでほぼ平らな堅く締まった床面をつくりだしている。

貯蔵穴 不明

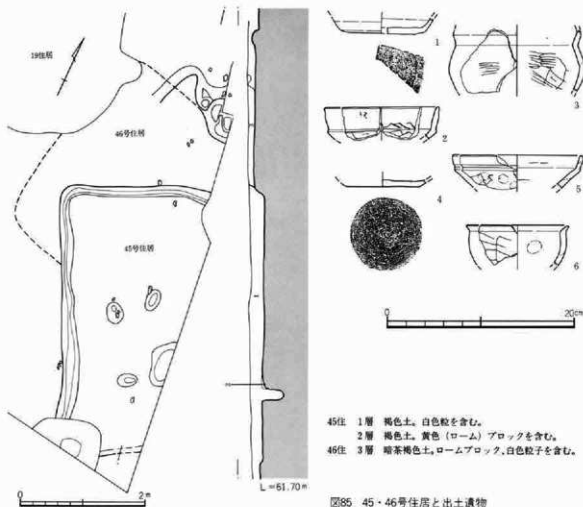
周溝 有り。発掘区内では全周している。幅18cm、深さ19cmを計る。

柱穴 ピットが幾つか検出されているが、柱穴とは考えられない。

遺物出土状態 床面直上からの遺物も埋没土中の遺物も少ない。

カマド 発掘区域外になるので、不明

備考 8世紀頃の住居と考えられるが、詳細は不明である。



45住 1層 褐色土。白色粒を含む。
2層 褐色土。黄色（ローム）ブロックを含む。
46住 3層 暗茶褐色土。ロームブロック、白色粒子を含む。

図85 45・46号住居と出土遺物

45・46号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
45住 1	須恵器 杯	底部破片 底（7.2cm）	掘り方埋没土 中	①細砂、石英を含む。 ②灰白7.5YR7/1 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り離し技法不明。全面回転 荒削り調整。
45住 2	土師器 杯	口縁一体部破片 口（12.2cm）	掘り方埋没土 中	①微細砂、白色細粒物を含 む。 ②明赤褐5YR5/6	底部回転荒削り。内面荒なで。口縁部横なで。
45住 3	土師器 鉢	口縁一体部破片	掘り方埋没土 中	①微細砂、石英、角閃石を 含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面は摩耗が激しく詳細は不明。一部に横方向の荒削 きが看取できる。内面荒削りの後、横方向荒削り。口 縁部横なで。
46住 4	須恵器 杯	底部破片 底（7.8cm）	掘り方埋没土 中	①緻密。 ②灰白5Y8/1 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り離し技法不明。全面回転 荒削り調整。
46住 5	土師器 杯	口縁一体部破片 口（13.8cm）	掘り方内	①細砂、石英、赤色細粒物 を含む。 ②橙5YR6/6	外面荒なで、指押さえ。内面横方向荒なで。口縁部横 なで。
46住 6	土師器 鉢	口縁一体部破片 口（10.9cm）	掘り方埋没土 中	①微細砂、石英を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面横方向荒なで。内面荒なで、指押さえ。口縁部横 なで。

II 検出された遺構と遺物

46号住居 (図85 PL15)

位置 K-72グリッド

主軸方位 カマド部分の検出で住居の存在が想定されたため、住居の平面形は明確な壁として検出できていない。カマドの方向さえ確定できない。

重複 19号住居、45号住居に先行する。 規模 縦・横計測不能 深さ0.1m 形状 不明

埋没土 ロームブロック、白色細粒物を含む暗褐色土である。

掘り方 床面よりわずかに浅い掘り込みが部分的に存在する。

床面 ロームを掘り込んで硬く締まった床面をつくりだしている。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 検出できた床面も狭く、埋没土中の遺物もわずかである。

カマド 位置・規模・袖・煙道 不明

遺存状態 カマドの主軸方向や形状が、カマドの半分以上が調査区域外にのびるため、ほとんど不明である。

遺物出土状態 熱焼部と考えられる部分に数点の遺物が認められた。

備考 不明な点が多い住居であるが、図示した遺物のなかには5世紀と8世紀の遺物が含まれている。

47号住居 (図86・87 PL15)

位置 J-75・76グリッド 重複 34号住居、48号住居、62号住居に先行する。

主軸方位 N90°E 規模 縦・横計測不能、深さ0.32m 形状 方形

埋没土 焼土粒、ロームブロックを含む暗褐色土。

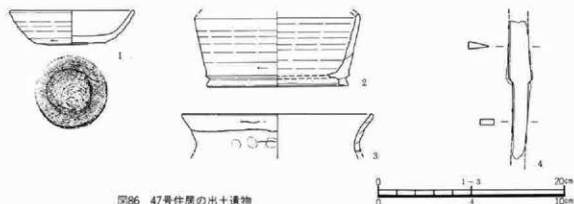


図86 47号住居の出土遺物

47号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	1/2残存 口 (13.2cm) 底 3.5cm 高 3.4cm	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふい焼7.5YR6/4 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。杯部下位から底部周縁部回転磨削り調整。
2	須恵器 壺	底部一休部破片 底 (15.0cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰白7.5YR7/4 ③還元焰、硬質	回転で調整。胴部から胴部に自然輪。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・形状の特徴
3	土師器 甕	口縁部1/3残存 口 (20.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙SVR6/6	外面横なで、指押さえ、輪積み痕を残す。内面横なで、
4	鉄製品 刀子	残部分残存	埋没土中		

掘り方 約10cmの厚さのロームブロックを多量に含む暗褐色土で埋められた掘り方がある。底面にはいくつかの楕円形の掘り込みが検出されたがすべてが本住居に伴うものとは断定できない。

床面 貼床があり、硬く締まっている。 **貯蔵穴** 不明 **周溝** 不明 **柱穴** 不明

遺物出土状態 埋没土中から須恵器杯形土器や土師器甕形土器、鉄製刀子が出土している。

カマド 不明。北壁の廻りこみが、カマドの可能性はある。

備考 9世紀初めの住居と考えられる。

48号住居 (図87・88 PL15・46・47)

位置 J-75グリッド **主軸方位** N14°W

重複 47号住居、69号住居に後出する。

規模 縦3.85m 横2.00+m 深さ0.14m

形状 隅丸方形を呈するが、西側の大半が調査区域外のため全体の形状は不明である。

埋没土 白色細粒鉱物、焼土粒をわずかに含む暗褐色土を主体とする。中央部では約30cmの厚さで確認できた。

掘り方 ロームブロック、焼土粒を少量含む暗褐色土が厚さ10cmで認められた。中央部はやや深く掘り込んでいる。また東壁中央で焼土が混じる土で埋まったカマド掘り方が検出された。

床面 貼床有り。締まりはやや悪いものの、硬い床面が残存する。

貯蔵穴 南東隅に掘り方調査の段階で検出できた。直径85cm、深さ67cmを計る円形を呈する。断面形状が袋状になっている。本貯蔵穴の北側周辺には遺物が集中して出土している。

周溝 柱穴 不明

遺物出土状態 カマドから貯蔵穴周辺に遺物が集中して出土した。

カマド **位置** 東壁ほぼ中央 **規模** 全長0.57m 最大幅0.75cm **袖** 不明

煙道 住居壁外にのびる。

遺存状態 焼土の残りは良好だが、カマドの構造自体は遺存状態は全体的に悪い。

遺物出土状態 埋没土中にわずかに遺物が認められた。掘り方内から棒状の鉄製品が出土した。

備考 9世紀前半頃の住居と考えられる。

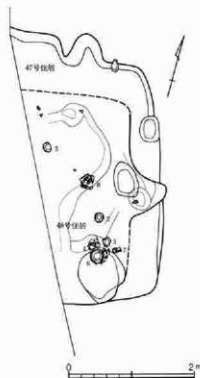


図87 47・48号住居

II 検出された遺構と遺物

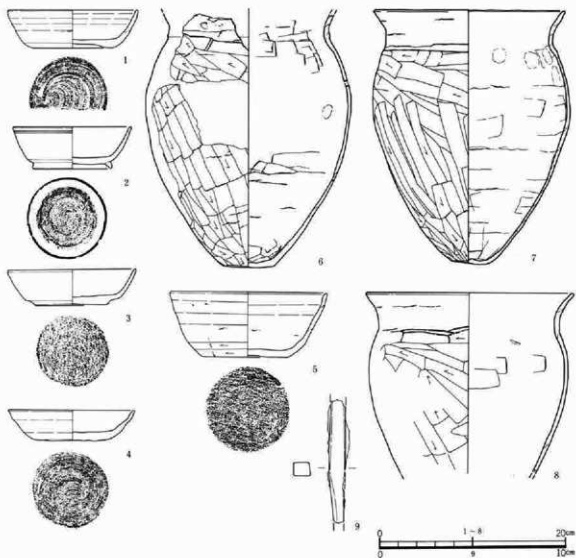


図88 48号住居の出土遺物

48号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	口縁～底部1/2 口 (14.0cm) 底 (8.5cm) 高 4.0cm	南東隅 床面上9cm	①白色細粒物を多く含む。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰	左回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。切り難し後 周縁部回転荒削り調整。杯部内外面横なで。
2	須恵器 高台付碗	定形 口 12.7cm 底 8.5cm 高 4.5cm	南東隅 床面直上	①白色細粒物を多く含む。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。切り難し後 周縁部回転荒削り調整。付高台。内外面とも回転なで 口縁部外面に二条の沈線が通る。
3	須恵器 杯	口縁～底部3/4 口 (13.6cm) 底 7.8cm 高 (3.8cm)	南東隅 床面直上	①微細砂。白色細粒物を含 む。 ②灰10Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。切り難し後 周縁部回転荒削り調整。杯部内外面横なで。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
4	須恵器 杯	口縁部1/5～底部 残存 口 (13.5cm) 底 7.8cm 高 3.3cm	南東隅 床面直上	①微細砂を含む。 ②明オリープ灰2.5GY7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。切り離し後、全面回転削り調整。杯部内外面横なで。
5	須恵器 杯	4/5残存 口 (16.7cm) 底 9.1cm 高 6.8cm	中央部 床面直上	①白色細粒物を多く含む。 ②灰10Y5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。切り離した後、全面回転削り調整。杯部内外面横なで。
6	土師器 甕	頸部～底部1/3残 底 (5.3cm) 別 22.0cm	南東隅 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	胴部上位外面横方向削り後、下半部方向削り。胴部内面横方向削りなで。口縁部横なで。
7	土師器 甕	口縁部1/3欠損 口 20.4cm 底 4.0cm 高 26.8cm	南東隅 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙?5YR6/6	胴部外面上位横方向削り後、下半部方向削り。底部外面削り。内面横方向削りなで。口縁部横なで。
8	土師器 甕	口縁～腰部1/5残 口 (22.0cm)	中央部旧カマ ド前 床面上9cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	胴部下半部方向削り。上位横方向削り。内面横方向削りなで。口縁部内外面横なで。
9	鉄製品 角釘?	軸部分残存	カマド掘り方 埋没土中		

49号住居 (図89・90 PL16・47)

位置 L・M-75グリッド

主軸方位 N32°W

重複 61号住居との新旧関係は不明である。

規模 縦4.50m 横4.32m 深さ0.23m

形状 正方形

埋没土 白色細粒鉱物、ローム細粒を含む暗褐色土である。

掘り方 約10cmの厚さでロームブロックを含む暗褐色土が充填されている。大小多数のピットと、ほぼ中央には幅1.2m、長さ2.4mの大きな掘り込みが存在する。

床面 有り。堅くしまった床面がほぼ全面に認められる。

貯蔵穴 北東隅に直径60cmのピットが検出されたが、貯蔵穴との確認はできなかった。

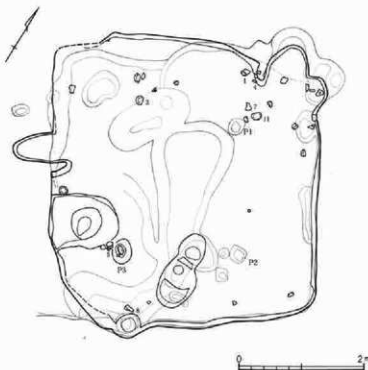


図89 49号住居

II 検出された遺構と遺物

周溝 東壁のほぼ中央部に、長さ0.96m、幅0.1～0.14m、深さ10～23cmの溝状遺構が検出された。周溝の可能性有り。

柱穴 10本のビットを検出したが、その内の3本が配置から柱穴と確認できる。

柱穴No	P 1	P 2	P 3
直径	0.29m	0.24m	0.4 m
深さ	0.25m	0.22m	0.24m

遺物出土状態 住居全体に散漫な分布で出土しているが、カマド付近にやや集中する傾向がある。

カマド 位置 北東隅 規模 全長1.04m 最大幅0.9m 焚き口幅0.62m

袖 有り 煙道 住居外にのびる。

遺存状態 右袖が壊されているものの、全体の遺存状態は良好である。

遺物出土状態 左袖付近にやや遺物が集中する。

備考 6世紀後半の住居と考えられる。

49号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	完形 口 12.8cm 高 3.5cm	カマド左袖脇 床面上直上	①中砂、石灰を含む。 ②にふい塵5YR7/4	杯部外面磨削り状、部分的に磨磨き。内面丁寧なまでの後、放射状の磨磨き。口縁部横なで。
2	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (13.4cm)	埋没土中	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②にふい塵10YR7/2 ③硬質	杯部外面磨削り。内面なで。口縁部内外面横なで。
3	土師器 杯	4/5残存 口 (12.0cm) 高 4.2cm	北西隅 床面上直上	①微細砂、赤色細粒物含む。 ②にふい塵7.5YR7/3 ③硬質	杯部外面磨削り。内面なでの後、平行の細かい磨磨き口縁部なで。
4	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (14.1cm)	カマド左袖前 床面上11cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面磨削り。内面なで。口縁部横なで。
5	土師器 鉢	口縁～体部上位 1/2残存 口 (22.6cm)	南西壁際 床面上4cm	①中砂を含む。 ②にふい塵10YR7/4	胴部外面縦方向磨削り。口縁部下位横方向磨削り。内面横方向なで。口縁部内外面横なで。
6	土師器 甕	体部～底部破片	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	胴部外面縦方向磨削り。胴部下位横方向磨削り。部分的に磨磨き。内面斜方向なで。
7	土師器 甕	口縁～肩部1/4残 口 (13.6cm)	カマド左前 床面上4cm	①中砂、斜方輝石を含む。 ②にふい塵7.5YR6/4	胴部上半外面縦方向磨削り。内面縦方向磨削り。口縁部内外面横なで。
8	土師器 甕	口縁～体部破片 口 (16.3cm)	南西壁際 床面上10cm	①微細砂、石灰を含む。 ②にふい塵10YR7/2	口縁部内外面横なで。体部外面縦方向磨削り。
9	土師器 甕	口縁部破片 口 (23.6cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	内外面とも横なで。
10	敲石 磨り石	完形 長 13.6cm 幅 6.2cm 厚 5.2cm 重 654g	ビット内		

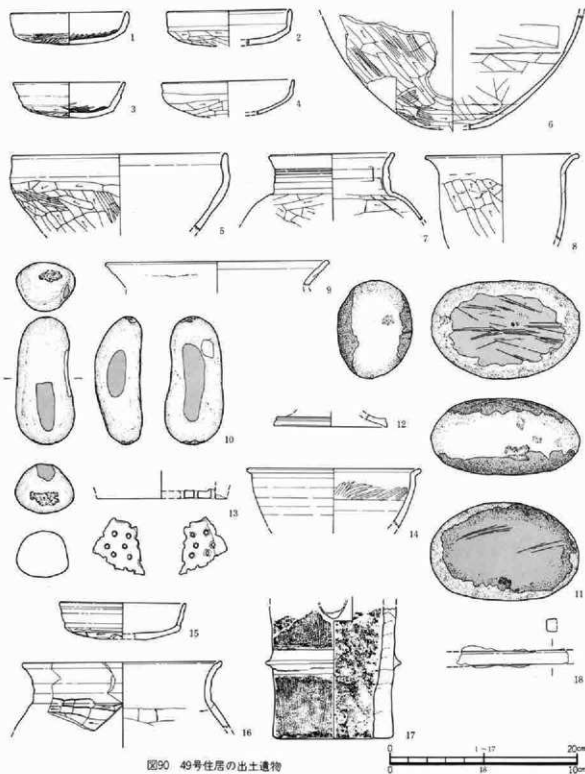


図90 49号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
11	磨り石	完形 長 15.8cm 幅 10.4cm 厚 7.1cm 重 1,840g	カマド前 床面直上		両面に数条の縞線がある。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
12	須恵器 高杯	胴部1/4残存 底 (12.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白5YR8/1 ③還元焰	内外面とも回転なで。
13	須恵器 甕	底部1/6残存	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白10Y6/1 ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。切り離し後外面から底部に穿孔。後、底部外面回転整形。
14	須恵器 鉢	口縁-体部1/4残 口 (18.8cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰。硬質	内外面とも丁寧な回転なで。
15	土師器 杯	口縁-体部1/3残 口 (13.5cm)	掘り方埋没土 中	①微細砂を含む。 ②赤橙10YR6/6	底部外面手持ち整形。内面なで。口縁部中に凹線 をひいて段をつくっている。
16	土師器 甕	口縁部破片 口 (21.3cm)	カマド埋没土 中	①中砂、石英、礫石を含む。 ②橙5YR7/8	体部外面横方向整形。内面横方向整形。口縁部横 なで。
17	埴輪 円筒埴輪	基部残存 底 13.0cm	床面直上	①中砂、石英、赤色細粒物 を含む。 ②橙5YR6/6 ③軟質	外面縦方向刷毛目整形。内面縦方向整形。粘土粒痕 が顕著に残る。
18	鉄製品 角釘?	軸部分残存	カマド掘り方 埋没土中		

50号住居 (図91 PL16・47)

位置 M-93グリッド

主軸方位 N72°E

重複 20号溝、54号土坑に先行し、51号住居に後出する。

規模 縦5.85m 横4.85±αm 深さ0.24m

形状 北壁が発掘区域外にのびるため、全体の形状は明らかでないが、ほぼ正方形に近いと思われる。

埋没土 主に暗褐色土から褐色土に埋まっており、全体にローム粒、白色細粒物を含む。締まりは良くない。

掘り方 全体の形状は床面と同じである。充填土は礫やロームブロックが混じる。掘り方底面には基盤礫層が露出している。

床面 貼床有り。西側周辺部を除き、硬く締まっていた。

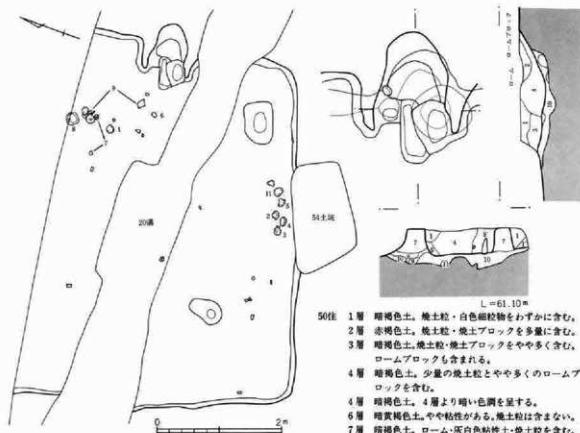
貯蔵穴 有り。南東隅。長径0.67m、短径0.48m、深さ0.46mを測る楕円形を呈している。砂や礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

周溝 無し

柱穴 無し。貯蔵穴以外に三基ほどのピットが確認されたが、柱穴といえるようなものではない。

遺物出土状態 遺物は主に南壁中央寄りの54号土坑に接する部分で、ほぼ完形に近い杯形土器等 (図91-1~5) が検出されたが、床面よりやや浮いていた。その他の遺物は小破片であり、やはり床面から浮いた位置から出土した。しかし、ほぼ住居に伴う時期のものではなかろうかと思われる。

カマド 位置 ほぼ東壁中央 規模 全長0.83m、最大幅0.57m、焚き口幅0.54m



- 50住
- 1層 暗褐色土。焼土粒・白色細粒物をわずかに含む。
 - 2層 赤褐色土。焼土粒・焼土ブロックを多量に含む。
 - 3層 暗褐色土。焼土粒・焼土ブロックをやや多く含む。ロームブロックも含まれる。
 - 4層 暗褐色土。少量の焼土粒とやや多くのロームブロックを含む。
 - 4層 暗褐色土。4層より暗い色調を呈する。
 - 6層 暗黄褐色土。やや粘性がある。焼土粒は含まない。
 - 7層 暗褐色土。ローム・灰白色粘性土・焼土粒を含む。やや粘性がある。しまりは良い。
 - 8層 暗褐色土。7層より黒い色調を呈する。
 - 9層 暗黄褐色土。ややしまりが悪い。
 - 10層 暗褐色土とロームブロックの混合土。焼土粒を少量含む。
 - 11層 黒褐色土。焼土粒・焼土ブロックを含む。しまりは弱い。
 - 12層 暗褐色土。焼土粒をやや多く含む。しまりは弱い。
 - 13層 暗褐色土。焼土粒を少量、ロームをやや多く含む。

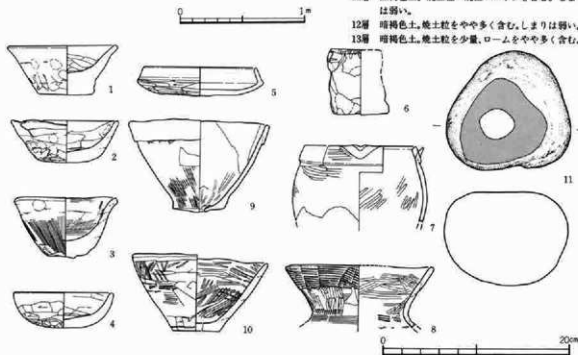


図91 50号住居とカマドと出土遺物

II 検出された遺構と遺物

袖 有り 煙道 住居外へ30cmほどのびる。

遺存状態 遺存状態は悪く、悉地部にはほとんど焼土および灰は残存していない。天井の崩落土にはロームブロックが混じる。袖は灰白色粘性土及びロームを含む暗褐色土を使用している。カマドのほぼ中央に若干盛り上がった部分があり、支脚は地山を削り込んでいるものと思われる。

遺物出土状態 ほとんど遺物は出土していない。

備考 6世紀初め頃の住居と考えられる。

50号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	2/3残存 口(11.8cm) 底(5.5cm) 高 5.2cm	カマド前 床面直上	①微細砂、角閃石、赤色細 粒物を含む。 ②橙5YR6/6	体部外面下部には縦方向の荒削りが一部残るが、ほと んど指頭による整形が施こされている。内面横方向荒 削り、口縁部内外面横削り。
2	土師器 杯	口縁部1/2欠損 口 11.5cm 底 5.8cm 高 4.5cm	南壁際 床面上6cm	①細砂、直径3cmほどの小 石、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面不定方向の荒削り。体部外面横方向荒削り。 体部内面斜方向荒削り。口縁部内外面横削り。
3	土師器 鉢	口縁部1/8欠損 口 11.1cm 底 3.5cm 高 6.4cm	南壁際 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り、凹凸がかなり残る。体部外面で、 口縁部横削り、口縁部横削り、口縁部横削り、口縁部横削り。
4	土師器 杯	ほぼ定形 口(10.5cm) 高 3.7cm	南壁際 床面上5cm	①細砂、赤色細粒物を含 む。 ②橙5YR6/6	底部、体部外面荒削り。内面横方向削り。口縁部内 外面横削り。
5	土師器 杯	2/5残存 口(12.2cm) 高 3.0cm	南壁際 床面上7cm	①微細砂を含む。 ②にやや赤褐5YR4/4	底部外面荒削り。杯部内面横方向削り。口縁部内外面 横削り。
6	土師器 支脚	4/5残存 横 5.9cm 縦 7.0cm	カマド前 床面直上	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②橙5YR6/8 ③軟質	柱杖に手づくねて成形している。上面縁に縦方向の切り こみが数条看取できる。
7	土師器 鉢	口縁部一部1/4残 口(12.0cm)	中央部床面直 上の破片と床 面上13cmの破 片が接合	①中砂、石英、赤色細粒物 を含む。 ②にやや赤褐5YR6/4	外面は器表の剥落が著しく、明裡ではないが、一部に 荒削りの後縦方向の荒削りを施しているのが残る。内 面は横方向荒削りの後斜方向荒削り。口縁部横削り。
8	土師器 蓋	口縁部残存 口 16.0cm	北東部 床面上6cm	①中砂、直径5mmの石、角 閃石を含む。 ②黄褐7.5YR7/8	口縁部外面削り返し部縦方向の表飾的刷毛目。口縁部 下半縦方向荒削り。なでの後縦方向荒削り。
9	土師器 瓶	ほぼ定形 口 14.5cm 底 5.5cm 高 9.7cm	カマド前 床面直上	①粗砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/8 ③軟質	体部外面縦方向の刷毛目整形の後、なで、下端部に刷 毛目が残る。内面なでの後縦方向荒削り。剥落が著し いが一部に整形痕が残る。底部は中央に焼成前穿孔。 底部外面未調整。
10	土師器 瓶	ほぼ定形 口 14.6cm 底 5.0cm 高 8.0cm	北東部掘方 底面直上	①中砂、石英を含む。 ②橙5YR6/6 ③やや軟質	体部外面縦方向荒削り後、斜方向・横方向荒削り。内 面横方向、斜方向荒削り。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
11	磨り石	定形 長 12.9cm 幅 13.3cm 厚 9.9cm 重 2,280g	南壁際 床面直上		片面に、磨り面がある。環状の磨り面で、中央部は、磨られていない。

51号住居 (図92 PL16・47)

位置 N-93・94グリッド 主軸方位 N85°E

重複 20号溝、50号住居に先行する。規模 縦・横計測不能 深さ0.18m

形状 不明。重複遺構及び北側の溝によって壊された部分が多く、原形を想定できない。

埋没土 50号住居より明るい色調の暗褐色土である。焼土粒を少量含む。礫、白色細粒物を含んでいる。

掘り方 充填土はロームと暗褐色土の混土であり、その割合はロームの方がかなり多い。掘り方底面には茶盤の礫層がほぼ全面に露出している。

床面 貼床有り。現存部分は比較的良く締まった床面である。カマド全面にはこの床面を切って円形の坑が穿たれている。住居より新しい遺構と考えられる。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 遺物はほとんど破片であり、住居内全体に平均的に分散して出土している。

カマド 位置 南東壁 袖 無し

規模 全長0.95m 最大幅0.54+αm 焚き口幅0.45+αm

遺存状態 焼成部に厚さ約10cmの焼土がある。

備考 北側は水路工事によって壊されている。

遺物出土状態 焚き口で土師器杯形土器が

逆位の状態で出土した。その他は甕形土器

の破片が使用面近くから出土している。

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

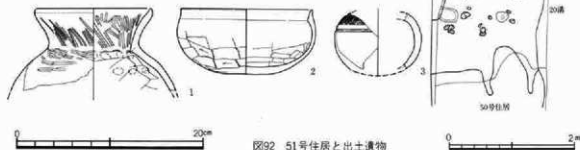


図92 51号住居と出土遺物

51号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 甕	口縁一部1/2残 口 (12.2cm)	カマド内の破片と中央部床面上4cmの破片が接合	①横細砂、石英、角閃石を含む。 ②明赤褐色2.5YR5/6	体部外面丁寧ななでの後、横方向の足磨き。内面斜方向磨き。頸部直下に指頭痕が残る。口縁部内外面磨きなどの後、外面縦方向、内面斜方向の足磨き。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	土師砂杯	1/3残存 口(14.0cm) 高 6.9cm	カマド内 灰面上3cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②赤10YR5/8	体部から底部外面積方向の瓦割り。底部は自然な平度を呈する。内面積方向の瓦割り。口縁部内外面積まで。
3	須恵砂糠	体部破片 厚(9.4cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②青灰5B5/1 ③還元焰、硬質。	体部外面積中位には文様が施されているが、体部下位の瓦割りはきれいにすり潰されている。

52号住居・52B号住居・70号住居

これらの住居はK-93・94グリッドに検出された重複住居群である。70号住居は、カマドのみ残存する住居で最も先行する。52号住居と52B号住居はカマドの位置が共通する建て替え住居と考えられる。52B号住居の床面上に土砂を充填し、52号住居の床面としている。出土遺物にはほとんど時間差は看取できないことから、一世代を越えない範囲の建て替えと考えられる。

52号住居 (図93・94 PL16・47)

位置 K-93・94グリッド

主軸方位 N84°E

重複 52B号住居、70号住居に検出する。

規模 縦4.2+αm 横3m 深さ0.25m

形状 長方形

埋没土 ローム粒、白色軽石を少量、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土。

掘り方 無し

床面 貼床有り。北西部を除き、ほぼ全面硬く締まっていた。

貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 無し

遺物出土状態 Na6を除き、ほぼ床面に近い位置より出土している。

カマド 位置 東壁中央よりやや南より

規模 全長1.13m 最大幅1.05m 焚き口幅0.55m

袖 有り。粘性土を使用している。

煙道 住居外へ0.90mほどのびる。

遺存状態 煙道部奥に厚さ10cmの灰泥じり焼土がある。天井部は残存していないが、遺存状態は比較的良好。

遺物出土状態 小破片がかなり使用面から浮いて出土している。ほぼ中央より出土している石は支脚の可能性がある。

備考 9世紀後半の住居と考えられる。

- 52住 1層 暗褐色土。僅かに黄色味を帯びる。ローム粒子及び白色軽石(F・P及び軽石)を少量含む。φ5mm前後のカーボン粒を僅かに含む。
- 2層 暗褐色土。1よりも黒味が強い。ローム粒子及び白色軽石を少量。φ5mm前後のカーボン粒を極僅かに含む。しまりは良い。
- 3層 黒褐色土。ローム粒子をほとんど含まない。白色軽石微量。
- 4層 暗褐色土。1よりもやや明るい。ロームブロックを僅かに含む。白色小軽石微量含む。
- 5層 暗褐色土。2よりもやや明るい。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。白色小軽石微量を含む。
- 6層 暗灰褐色土。非常に硬い茶褐色土ブロックを多く含む。焼土粒子及びロームブロック、同粒子をやや多めに含む。しまりは非常に良い。

2. 住居跡

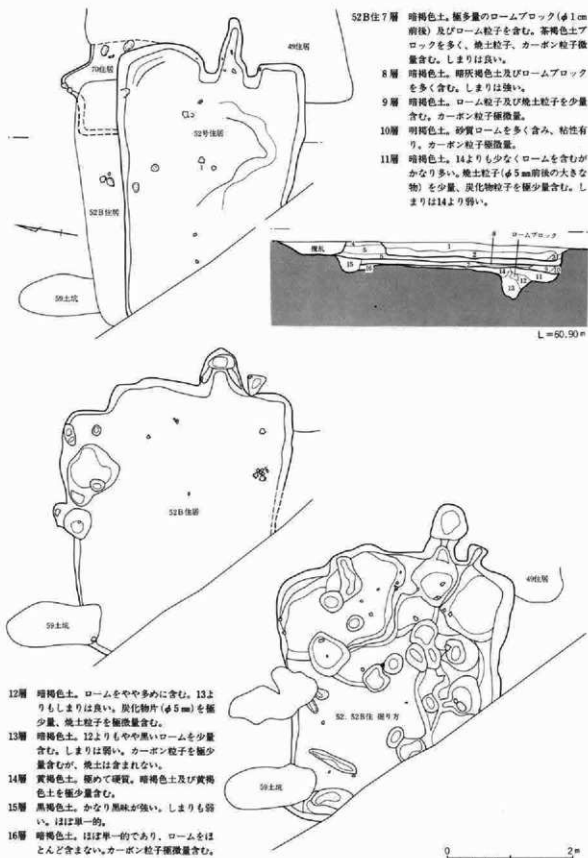


図93 52号住居の変遷

52B号住居 (図93・96 PL17)

位置 K-93グリッド 主軸方位 N75°E

重複 52号住居に先行し、70号住居に後出する。 規模 縦4.38+αm 横3.36m 深さ0.23m

形状 東壁に張り出しをもつが、基本的には長方形を呈する。

埋没土 砂質茶褐色土のブロックを多く、焼土粒、ロームをやや多く含む暗灰褐色土。自然埋没ではなく、人為的に埋め固められたものと考えられる。非常に硬質。

掘り方 かなり凹凸があり、底面にはピット、土坑状の落ち込みが多い。北西隅はほぼ平坦である。充填土はロームを多く含む黄褐色土から明褐色であり、表面は非常に良く締まっている。

床面 貼床有り。北壁から約0.80mの間はやや締まりが弱い、それ以外はかなり硬質である。北東部には0.8m×0.7mの楕円形の範囲に厚さ10cmで焼土、炭が分布するところがある。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 遺物は南壁中央付近に台付変形土器の破片が床面直上で出土している。その他は小破片であり、かなり散在している。

カマド 位置 東壁中央より南寄り

規模 全長0.8m 最大幅0.8m 焚き口幅0.35m

袖 残存しない。煙道 住居外に約0.6mのびる。

遺存状態 後出する52号住居のカマドがほぼ重複してつくられていることから、燃焼部には灰あるいは焼土の純堆積は残っていない。煙道部の一部は新しいピットで壊れている。支脚無し。

- 52住 1層 暗褐色土。ローム粒・焼土粒・FPを少量含む。
 2層 暗褐色土。焼土粒をやや多く含む。
 3層 暗褐色土。しまりが非常に良い。炭化物粒・焼土粒を少量含む。
 4層 暗黄褐色土。ロームブロックと微量のハミスを含む。
 5層 暗黄褐色土。ロームブロックと少量の焼土粒・微量の炭化物粒を含む。
 6層 暗褐色土。焼土粒を少量含む。しまりは弱い。
 7層 黄褐色土。火熱を受け赤化したローム。
 8層 暗青灰褐色土。炭化物粒・微量の焼土粒を含む。灰が混じる。しまりは弱い。
 9層 暗褐色土。灰混じり。焼土粒を多量に含む。しまりは弱い。
 10層 暗褐色土。焼土粒・ハミス・ローム粒を僅かに含む。
 11層 暗褐色土。ローム粒・焼土粒・ハミスを微量含む。
 12層 暗褐色土。焼土粒をやや多く含む。ローム粒・ハミスを微量含む。
 13層 暗褐色土。茶褐色硬質土ブロックを多く含む。ローム粒・焼土粒を微量含む。
 14層 暗褐色土。大きな焼土粒を多量に含む。茶褐色硬質土ブロックおよび黄褐色粘性土を少量含む。粘性がある。
 15層 暗黄褐色土。黄褐色粘性土を多く含む。焼土粒を微量に含む。
 16層 暗褐色土。少量の焼土粒・ハミスと微量の炭化物粒を含む。
 17層 黄褐色土。茶褐色硬質土ブロックを少量含む。
 18層 暗褐色土。焼土粒・焼土ブロック・ロームブロックを多量に含む。
 19層 暗褐色土。焼土粒はほとんど含まない。
 20層 暗褐色土。少量の焼土粒・少量のロームブロックを含む。
 21層 暗褐色土。焼土粒を全く含まない。(続)

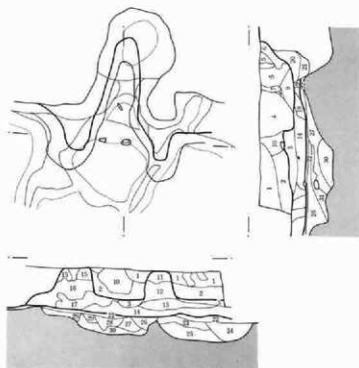


図94 52号住居のカマド

図94 カマドの土層	22層	暗褐色土。ローム粒・焼土粒を少量含む。		
	23層	暗褐色土。ローム粒・焼土粒を微量に含む。	27層	黄褐色土。暗褐色土、焼土粒を少量含む。
	24層	暗褐色土。やや多くの焼土粒を含む。	28層	暗褐色土。多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
	25層	暗褐色土。少量のローム粒・多くの焼土粒・炭化物粒を含む。	29層	暗褐色土。ローム粒を多量に含む。
	26層	多量のロームブロックと、焼土粒・炭化物粒を含む。	30層	黄褐色土。褐色土ブロック・炭化物粒をおよかに含む。

遺物出土状態 無し

備考 9世紀中頃の住居と考えられる。

70号住居 (図93・95・96)

位置 K-93グリッド 主軸方位 N11°W

重複 52B号住居、59号住居に先行する 規模 縦・横計測不能 深さ0.13m

形状 方形 埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土。

掘り方 不明 床面 不明 貯蔵穴 不明

周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 59号住居との境付近に一点小破片が出土しているのみである。

カマド 位置 北壁西寄り

規模 全長0.58m 最大幅0.65m 焚き口幅0.65m

袖 無し

煙道 住居外に0.3mのびる

遺存状態 浅く、遺存状態は極めて悪い。袖や支脚は残っていない。燃焼部の底面が若干焼けている程度である。

遺物出土状態 燃焼部先端左に土器2片が出土。

備考 9世紀頃の住居と考えられる。

- | | | |
|-----|-----|------------------------------------|
| 70住 | 1層 | 暗褐色土。ローム粒を含む。しりしり良い。 |
| | 2層 | 暗黄褐色土。ローム粒を多量に含む。しりしりは良く、粘性が強い。 |
| | 3層 | 暗褐色土。ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を少量含む。 |
| | 4層 | 暗青灰褐色土。多量の焼土粒、少量のローム小ブロック・炭化物粒を含む。 |
| | 5層 | 暗褐色土。ロームブロックをやや多く、炭化物粒を少量含む。 |
| | 6層 | 暗褐色土。少量の灰と、やや多くの焼土粒を含む。 |
| | 7層 | 褐色土。ローム粒と、微量の焼土粒・炭化物粒を含む。 |
| | 8層 | 焼土ブロック。 |
| | 9層 | 暗褐色土。ロームブロックをやや多く、焼土粒を微量含む。 |
| | 10層 | 暗褐色土。黒褐色とロームのブロックと、焼土粒を少量含む。 |
| | 11層 | 暗黄褐色土。焼土粒・暗褐色土ブロック・焼土粒を含む。やや粘性がある。 |
| | 12層 | 暗褐色土。少量のローム粒、微量の炭化物粒・焼土粒を含む。 |
| | 13層 | 暗褐色土。やや青灰色を呈する。少量のローム粒、微量の焼土粒を含む。 |
| | 14層 | 暗黄褐色土。焼土粒、ブロックを多量に含む。 |
| | 15層 | 黄褐色土。暗褐色土粒子・ブロックをやや多く含む。 |
| | 16層 | 暗青灰褐色土。微量の焼土粒・炭化物粒を含む。 |
| | 17層 | 暗褐色土。焼土粒はほとんど含まない。 |
| | 18層 | 暗褐色土。多量の焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒を含む。 |
| | 19層 | 黄褐色土。焼土粒・焼土ブロックを多量に含む。 |
| | 20層 | 暗黄褐色土。暗褐色土を少量含む。焼土粒は全く含まれない。 |

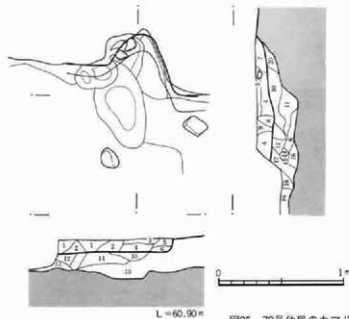


図95 70号住居のカマド

II 検出された遺構と遺物

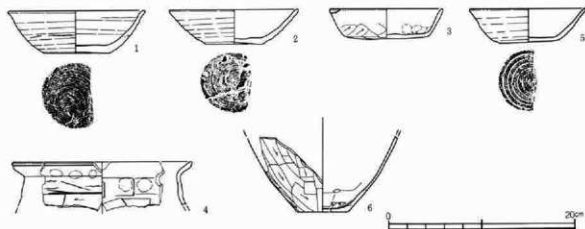


図96 52・52B・70号住居の出土遺物

52号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器杯	2/5残存 口 14.7cm 底 7.1cm 高 4.5cm	中央部 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6 ③酸化焰。焼成不良の須恵器と考えられる。	右回転クロコ成形。回転糸切り履し。無調整。
2	須恵器杯	口縁～底部1/2残 口 13.8cm 底 6.2cm 高 3.7cm	埋没土中	①緻密。 ②灰7.5YR5/1 ③還元焰	右回転クロコ成形。回転糸切り履し。無調整。
3	土師器杯	3/4残存 口 12.2cm 底 8.8cm 高 3.3cm	埋没土中 52B住居床面直上の遺物と接合	①細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	体部・底部外面横方向旋削り。内面まで。口縁部内外面横まで。
4	土師器甕	口縁部破片 口 19.3cm	カマド 埋没土中	①細砂を含む。 ②橙5YR6/6	体部外面横方向旋削り後、頸部横まで。内面横方向旋削り後、縦方向まで。頸部に指痕が残る。

52B号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	須恵器杯	口縁～底部2/3 口 12.6cm 底 6.4cm 高 3.5cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰N5/0 ③還元焰	右回転クロコ成形。回転糸切り履し。無調整。

70号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器甕	底部1/4 底 5.4cm	カマド 床面直上	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面縦方向旋削り。内面下部縦方向横まで。中位横方向旋削り後、縦方向まで。

53号住居・59号住居

K-94グリッドに検出された重複群である。53号住居が後出することは出土遺物などから判断できたが、53号住居の北壁は調査時には確認できなかった。図示した破線は遺物の出土状態や埋没土の状況から推定したものである。

53号住居 (図97・98 PL17)

位置 K-94グリッド 主軸方位 N71°E

重複 52号住居に先行し、58号住居、59号住居に後出する。

規模 縦(3.2m) 横(3.0m) 深さ0.17m

形状 正方形。北壁は遺物の出土状態や床面の状況から復元した。

埋没土 ロームブロックを多く含む黄褐色土、暗褐色土により埋没していた。59号住居の埋没土との識別が困難であった。

掘り方 西壁付近には土坑、ピット状の掘り込みが多く、カマド周辺には三基のピットが検出された。多量のロームブロックを含む暗青灰褐色土が59号住居寄りに、暗褐色土ブロックを含む黄褐色土が58号住居寄りに確認された。

床面 貼床有り。全体に非常に堅緻な床面であるが、59号住居の床面と比高差がなく、識別が困難であった。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 ほとんどが床面近くから出土している。小破片が多いが、ほぼ住居に伴うものと思われる。

カマド 位置 東壁南隅

規模 全長0.65m 最大幅0.85m 焚き口幅0.65m

袖 無し

煙道 住居外に約0.60mのびる

遺存状態 削平されており、ほとんどカマドの土は残っていないが、燃焼部に厚さ約10cmの焼土粒

を多く含む暗褐色土がある。中央よりやや南にずれた部分にはロームブロックによる高まりが確認された。支脚の可能性はある。

遺物出土状態 遺物無し

備考 9世紀初め頃の住居と考えられる。



図97 53・59号住居

II 検出された遺構と遺物



図98 53号住居の出土遺物

53号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 甕	口縁～体部上位 1/4残存 口 (19.5cm)	西壁付近 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	口縁部から頸部外面横まで。後体部横方向跳削り。頸部には指痕が残る。内面横方向直線で。内面にも口縁部を中心に指痕が残る。
2	須恵器 杯	底部破片 底 (8.8cm)	西壁際 床面上8cm	①微細砂、白・赤色細粒物を 含む。 ②緑灰7.5YR5/1 ③還元焼成であるが、底 部に酸化している部分がある。	右回転クロコ成形。回転糸切り離した後、中央部の一部を残して回転跳削り。

59号住居 (図97・99 PL17・48)

位置 K・L-94グリッド 主軸方位 N85°E

重複 53号住居に先行する。 規模 縦3.38m 横4.08m 深さ0.20m

形状 方形。南壁が53号住居に壊されており、長方形か、正方形かは明らかでない。

埋没土 上層は礫を含む暗褐色土であり、下層はロームブロックを多く含む暗黄褐色土である。埋没土の大半が削平されていた。53号住居の埋没土との識別が困難であった。

掘り方 遺物集中部と西部の床面に床下土坑、小ピットが検出された。充填土上層は多量のロームブロックを含む暗青灰褐色土、下層は暗褐色土ブロックを含む黄褐色土である。

床面 貼床有り。ほぼ全体に硬化面があるが、特に南半分が顕著である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 北東部に同一個体と思われる土師器甕形土器の破片が多量に床面直上から出土しており、本住居に伴うものと考えられる。その他の遺物は床面から浮いた状態で出土しているものが多い。

カマド 不明。北壁中央よりやや東の壁の一部が焼けている。カマドの痕跡とも考えられる。

備考 9世紀前半の住居と考えられる。

59号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	口縁～底部1/4 口 (14.0cm) 底 (8.8cm) 高 3.6cm	カマド左袖 床面上3cm	①微細砂、石英を含む。 ②灰白10YR7/1 ③還元焼	右回転クロコ成形。切り離し技法不明。切り離した後、底部全面回転跳削り。体部内外面とも丁寧なで。

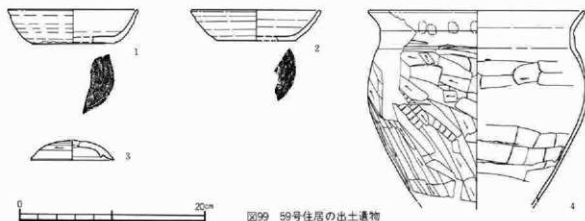


図99 59号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	須恵器 杯	口縁～底部1/5残 口 (13.8cm) 底 (8.6cm) 高 3.3cm	埋没土中	①微細砂、角閃石を含む。 ②灰白7.5YR8/1 ③還元焼	右回転ロクロ成形。切り難し技法不明。切り難し後、底部回転削削り。体部内外面とも丁寧なで。
3	須恵器 蓋	口縁～天井部 1/4残存 口 (9.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白7.5YR7/1 ③還元焼	左回転ロクロ成形。切り難し技法不明。外面天井部から口縁部近くまで回転削削り。内面回り付近を特に丁寧にやっています。
4	土師器 甕	口縁～体部1/2残 口 23.0cm	北東部 床面直上	①微細砂、赤色細粒物、角閃石を含む。 ②明赤焼2.5YR5/6	体部下半部方向削削り、上半部方向削削り、頸部外面指などで。指痕が多く残る。体部内面横方向削削り。頸部から口縁部丁寧なで。

54号住居 (図100・101 PL17・48)

位置 L-93グリッド 主軸方位 N69°E 規模 縦2.92m 横2.8m 深さ0.23m

重複 57号住居に先行し、58号住居に後出する。カマド前北面を切って新しい土坑が重複している。

形状 隅丸正方形 周溝 無し 柱穴 無し

埋没土 礫を少量含む暗褐色土により埋没していた。

掘り方 北東隅と南半部に落ち込みが認められた。掘り方充墳土は、ロームブロックを多く含む暗褐色土である。南東隅の近くの床下土坑は外壁からの深さが約48cmあり、三点の遺物も出土している。

床面 貼床有り。全体が非常に堅緻であるが、やや南半部が軟質である。

貯蔵穴 明確な貯蔵穴は認められなかったが、あるいは南東隅の床下土坑が貯蔵穴である可能性がある。

遺物出土状態 遺物はカマド周辺から比較的多く出土している。これらは壁及び使用面にほぼ付いた形で検出されたもので、ほぼ住居に伴うものと思われる。

カマド 位置 東壁南寄り 規模 全長0.7m 最大幅0.9m 焚き口幅0.35m

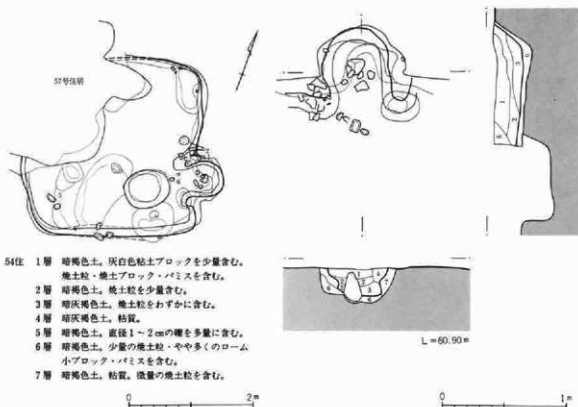
袖 有り 煙道 住居外に0.53mのびる。

遺存状態 熱焼部には厚さ約8cmの灰混じり暗灰褐色土が残っている。袖及び壁の両側は粘土で固めており、非常に良く焼けていた。支脚はカマドの奥に位置し、自然意志を利用している。

遺物出土状態 使用面で遺物が出土している。袖の芯には遺物は使用されていない。

備考 8世紀後半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物



- 54位 1層 暗褐色土。灰白色粘土ブロックを少量含む。
焼土粒・焼土ブロック・パミスを含む。
2層 暗褐色土。焼土粒を少量含む。
3層 暗褐色土。焼土粒をわずかに含む。
4層 暗褐色土。粘質。
5層 暗褐色土。直径1~2cmの礫を多量に含む。
6層 暗褐色土。少量の焼土粒・やや多くのローム
小ブロック・パミスを含む。
7層 暗褐色土。粘質。微量の焼土粒を含む。

図100 54号住居とカマド

54号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 蓋	1212完形 口 18.6cm 高 4.2cm	カマド左袖付 近 床面直上	①微細砂、金雲母、角閃石 を含む。 ②灰褐SYR6/2 ③還元焰、一部酸化。	ロクロ成形。外面中央部右回転施削り。内面手持ちの 跡など。指痕紙も残る。口縁部内外面丁寧な横なで。
2	須恵器 杯	口縁～底部3/4残 口 17.8cm 底 11.0cm 高 6.0cm	カマド左袖と カマド左側の 破片が接合 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含 む。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。切り離し技法不明。切り離した後、 底部全面および体部底部回転施削り。口縁部内外面 横なで。
3	須恵器 杯	1212完形 口 12.9cm 底 7.6cm 高 3.5cm	ピット内	①緻密。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。切り離し技法不明。切り離した後、 底部全面および体部底部回転施削り。口縁部内外面 横なで。
4	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (12.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙SYR6/6	体部外面横方向、斜方向の施削り。内面丁寧な横なでの 後、口縁部内外面横なで。
5	土師器 鉢	底部2/3残存 底 11.2cm	南西隅床面上 11cmの破片と 71号住居の破 片が接合	①緻密。 ②橙SYR6/6 ③酸化焰。内黒。硬質。	底部外面不定方向の施削りの後、丁寧な横なで調整。体 部外面横方向施削りの後、横方向の細かい施削り。体 部内面横方向施削り。
6	土師器 甕	口縁部破片 口 (20.7cm)	カマド焚き口 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	肩部外面横方向施削り。内面横方向施削り。口縁部内 外面横なで。

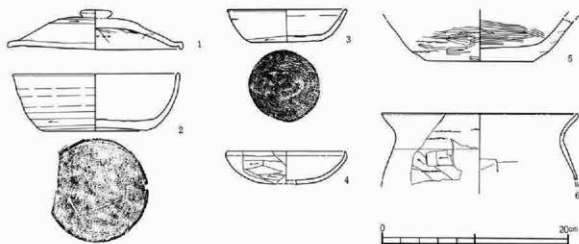


図101 54号住居の出土遺物

55号住居 (図102・103 PL18・48)

位置 K-93グリッド 主軸方位 N15°W

重複 57号住居、21号溝に先行する。 規模 縦3.32m 横4.00m 深さ0.26m

形状 基本的には隅丸長方形であるが、西南部に張り出し部をもつ。

埋没土 上層は、白色細粒物、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む暗褐色土で、下層はそれよりもやや暗い色調のロームを少量含む暗褐色土である。西南部の張り出し部はロームを多く含む締まりの良好な暗黄褐色土であった。

掘り方 北西部には直径0.6m、深さ0.15mの床下土坑があり、東半部の57号住居と重複する部分では浅いビット状の落ち込みが多い。充填土はロームブロックを多く含む暗褐色土から黒褐色土である。掘り方底面まで掘り下げると、地山の礫が多量に露出する。

床面 貼床有り。ほぼ全面が非常に締まっている。特に西南部の張り出し部に顕著である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 散漫な状態で小破片が出土しており、床面から浮いて出土しているものが多い。

カマド 位置 北壁中央よりやや東寄り

規模 全長1.25m 最大幅0.70m 焚き口幅0.30m

袖 有り

煙道 住居外へ0.70mのびる。

遺存状態 遺存状態は非常に良好である。燃焼部には厚さ約10cmの焼土がある。壁面も、特に西壁が良く焼けていた。袖はやや粘性の土を使用して作られており、住居内へわずかにのびている。支脚はない。

遺物出土状態 使用面より約8cm浮いた状態で土師器変形土器の破片が出土している。

備考 9世紀初め頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

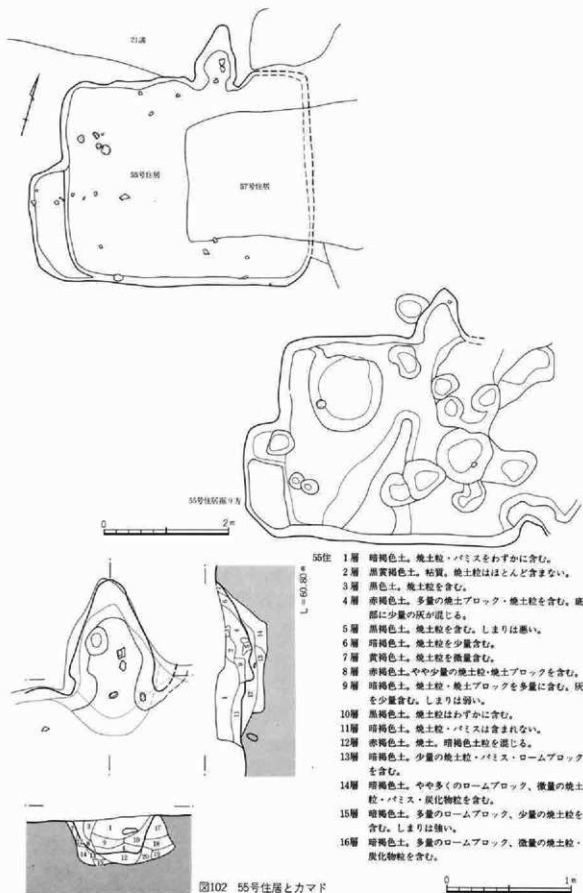


図102 55号住居とカマド



図103 55号住居の出土遺物

55号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③構成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	1/2残存 口 (12.7cm) 底 8.2cm 高 3.1cm	カマド掘り方	①細砂、石英、角閃石を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り。体部外面で、内面で。体部内面には指頭痕が残る。口縁部内外面横で。
2	土師器 杯	1/2残存 口 (12.5cm) 底 (9.1cm) 高 2.8cm	埋没土中	①細砂、石英、角閃石を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	底部外面不定方向荒削り。体部外面で。指頭痕が残る。内面丁寧なで。指頭痕が一部に残る。口縁部内外面横で。
3	須恵器 高台付碗	底部1/3残存 底 (9.2cm)	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰7.5YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。切り離した後、底部外面回転荒削り。付け高台。
4	土師器 甕	口縁部破片 口 (16.6cm)	埋没土中	①細砂、石英を含む。 ②橙7.5YR6/6 ③硬質	体部外面縦方向荒削り後、一部横方向荒削り。内面縦方向横で。口縁部内外面横で。
5	須恵器 甕	体部上位破片	南壁付近	①細砂、白色細粒物を含む。 ②灰10YR6/1 ③還元焰。硬質	外面平行叩き目。内面同心円状叩き目。
5	凹み石 磨り石	完形 長 16.1cm 幅 14.6cm 厚 7.2cm 重 2400g	埋没土中		
7	鉄製品 角釘	軸部分残存	掘り方堀没土中		

56号住居 (図104・105 PL18・48)

位置 L-93グリッド 主軸方位 N14°W

重複 54号住居、57号住居、21号溝に先行する。

II 検出された遺構と遺物

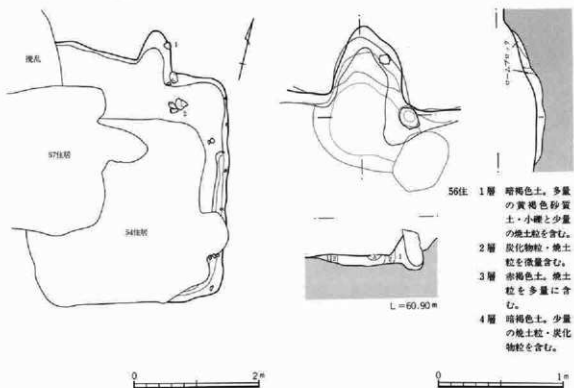


図104 56号住居とカマド

規模 縦3.50m 横3.50±αm 深さ0.20m

形状 基本的には隅丸方形であるが、北西部の平面形が膨らんでおり、台形となっている。西壁のラインは57号住居の掘り込みで壊されており、明確に把握できない。

埋没土 小礫を含む暗褐色から黒、褐色を呈する土層である。

掘り方 周辺部に土坑、ピット状の落ち込みが認められ、中央部がやや高くなっている。カマドの右前には長径0.54cm、短径0.42cm、深さ0.23cmの楕円形を呈する土坑があるが、貯蔵穴かどうか明確でない。充填土はやや黄色味を帯びた炭化物粒を含む暗褐色土である。

床面 貼り床有り。非常に薄いが貼床は住居全体に及ぶ。堅かな床面である。

貯蔵穴 無し。床面下で可能性のある土坑を検出している。周溝 有り。東壁のみで確認した。幅0.2～0.36m、深さ mを計る。北寄りのところで0.28mほどとぎれる。柱穴 無し

遺物出土状態 遺物は東半部の壁に近い部分に特に集中している。またカマド右前の床下土坑から土師器変形土器の破片がまとまって出土している。

カマド 位置 北壁東寄り

規模 全長0.95m 最大幅0.65m 焚き口幅0.50m

袖 有り

煙道 住居外に約0.55mのびる。

遺存状態 22号溝に上層を切られており、遺存状態は悪い。燃焼部には厚さ約8cmの焼土がある。右袖芯の自然石が残っていた。支脚は無い。

遺物出土状態 煙道部分より一点破片が出土しているのみである。

備考 9世紀後半の住居と考えられる。

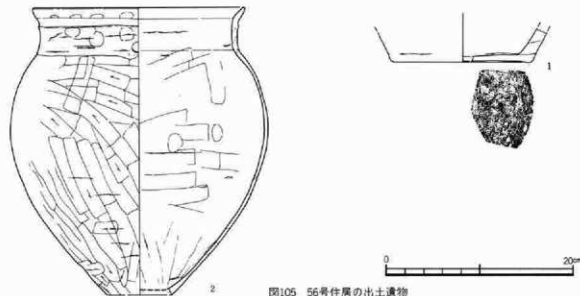


図105 56号住居の出土遺物

56号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 甕	底部破片 底 (15.2cm)	カマド壁	①粗細砂、白色細粒紅物を含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焼。やや硬質	粘土紐積み上げ成形。内面ロクロ使用の丁寧なで。底部外面指などで。体部最下部外面平滑に調整しているが、ロクロは使用していないと思われる。
2	土師器 甕	口縁～底部1/4塊 口 (22.6cm) 底 (6.8cm) 高 (30.5cm)	カマド右前 床面直上	①細砂、金雲母を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面下半縦方向筋削り。上半横方向、斜方向筋削り。胴部外面指などで。内面最下部縦方向筋などで。中位から上位横方向筋などで。一部に指痕が残る。口縁部内外面指などで。口縁部外面中位に幅広の凹線が付けられ、段状をなす。

57号住居 (図106・107 PL18・19・48)

位置 K・L-93グリッド 主軸方位 N73E

重複 54号住居、55号住居、56号住居に後出する。

規模 縦3.52m 横2.36m 深さ0.13m

形状 長方形

埋没土 上層は直径1～3cmの礫を多く含み、焼土粒、ローム粒、白色細粒物をごく少量含む黒褐色土である。下層は礫がやや少ない。54号住居や56号住居の埋没土より色調が暗い。

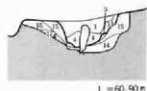
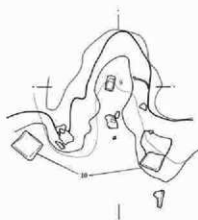
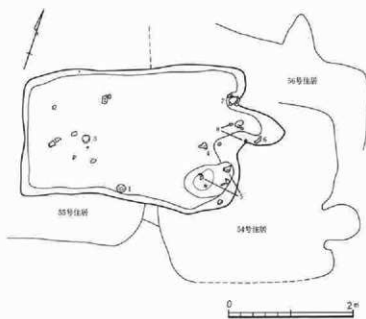
掘り方 西半部の55号住居と重複する部分ではビット状の落ち込みがやや多いが、東半部は比較的平坦である。充填土はロームブロックを多量に含む褐色土である。

床面 貼床有り。全体に及ぶ。特に東半は堅緻である。

貯蔵穴 有り。南東隅に長径0.82m、短径0.50m、深さ0.15mを計る不定楕円形の坑を検出した。埋没土は焼土粒、炭化物粒やローム粒を含む暗褐色土である。

周溝 無し 柱穴 無し

II 検出された遺構と遺物



遺物出土状態 カマドおよび貯蔵穴周辺と西半部から出土している。西半部のものはかなり床面から浮いた状態で出土している。

カマド 位置 東壁中央よりやや北寄
規模 全長1.05m 最大幅1.20m 焚き口幅0.46m

袖 有り

遺存状態 遺存状態は良好である。燃焼部には厚さ約10cmの焼土がある。右袖上と左袖の外側には凝灰岩切石の平坦な石が出土している。これらは一方の面と小口に火を受けており、カマド関連の施設とも考えられるが、詳細は不明である。また同じ凝灰岩の棒状の加工石が燃焼部やや奥に支脚として立てられている。

遺物出土状態 燃焼部右壁より縦にたった状態で土師器変形土器の破片が、左袖残存部直上から土師器変形土器の破片が出土している。左袖の土器は袖芯に用いられていた可能性が高い。

備考 9世紀後半頃の住居と考えられる。

- 57住
- 1層 暗褐色土。少量の焼土粒・ローム粒を含む。
 - 2層 赤褐色土。焼土粒・焼土ブロックを多量に含む。
 - 3層 黄褐色土。砂粒を多量に含む。しまりは弱い。
 - 4層 暗赤褐色土。多量に焼土粒・焼土ブロック、少量の炭化物粒を含む。
 - 5層 暗褐色土。焼土粒・炭化物粒を少量含む。しまりは強い。
 - 6層 暗褐色土。多量の焼土粒・炭化物粒を含む。しまりは強い。
 - 7層 黒褐色土。焼土粒・小礫をおずかに含む。
 - 8層 暗褐色土。焼土粒・小礫をおずかに含む。
 - 9層 明褐色土。ロームブロック・直径3cmほどの礫を含む。
 - 10層 黒褐色土。パミス・砂粒を少量含む。
 - 11層 明褐色土。焼土粒を少量含む。
 - 12層 暗褐色土。焼土粒を少量含む。
 - 13層 淡赤褐色土。焼土粒を多量に含む。
 - 14層 暗黄褐色土。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
 - 15層 暗褐色土。焼土粒・焼土ブロックをやや多く含む。
 - 16層 暗褐色土。微量のパミス・黄褐色砂質土を含む。
 - 17層 暗褐色土。多量の地山の砂質ロームブロックを含む。

図106 57号住居とカマド

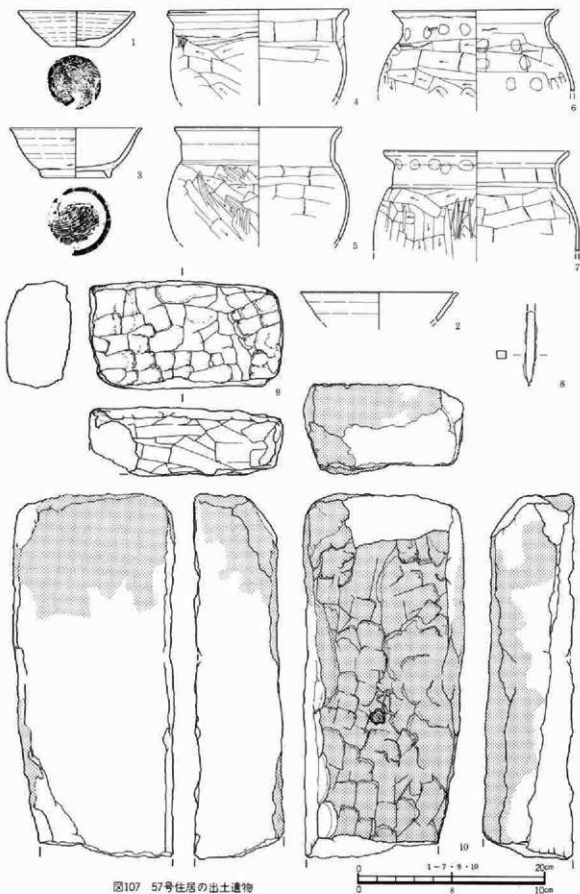


図107 57号住居の出土遺物

II 検出された遺構と遺物

57号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	変形 口 12.3cm 底 5.4cm 高 3.8cm	南壁層床面上 4cmの破片と 54号住居埋没 土中の破片が 接合	①麻密。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転未切り難し。無調整。内外面 にて。
2	灰輪陶器 柄	口縁部破片 口 (16.8cm)	埋没土中	①麻密。 ②灰白7.5YR8/1 ③還元焰、硬質	内面輪轆。
3	須恵器 柄	1/3残存 口 (14.0cm) 底 (6.1cm) 高 5.3cm	中央部やや西 床面上22cm	①微細砂を含む。 ②黒褐7.5YR3/1 ③やや軟質	右回転ロクロ成形。回転未切り難し後、付高古。高台 接合部にて。
4	土師器 甕	口縁-体部上位 1/4残存 口 (19.5cm) 胴 (19.0cm)	カマド右前 床面上4cm	①細砂、金雲母を含む。 ②明赤褐5YR5/6 ③やや軟質	体部外面斜方向旋削り。頸部は軽いなで。輪轆み痕が 残る。内面篋にて。口縁部内外面篋にて。口縁部外面 中央には幅0.8cmほどの凹線が通っている。
5	土師器 甕	口縁-体部上位 1/4残存 口 (18.0cm)	貯蔵穴内	①細砂、金雲母を含む。 ②におい煙7.5YR6/4	体部外面斜方向旋削り。頸部から口縁部丁寧な篋にて。 体部内面篋方向篋にて。頸部丁寧な篋にて。
6	土師器 甕	口縁-体部上位 1/3残存 口 (17.6cm)	カマド内	①細砂を含む。 ②明赤褐5YR5/6	体部外面篋方向旋削り。頸部外面篋にて。一部に輪轆 み痕や指頭痕が残る。体部内面篋方向篋にて。頸部内 面から口縁部内外面篋にて。
7	土師器 甕	口縁-体部上位 1/3残存 口 (19.7cm)	掘り方内	①細砂、石英を含む。 ②におい煙7.5YR6/4	体部外面篋方向旋削り後、最上部のみ篋方向旋削り。 頸部篋にて。指頭痕が残る。体部内面篋方向篋にて。 頸部内面篋方向篋にて。口縁部内外面篋にて。
8	鉄製品 角釘?	輪部分残存	埋没土中		
9	石製品 支脚?	端部欠損 長 20.7cm 幅 11.4cm 厚 6.9cm 重 1.820g	カマド	凝灰岩?	側面には、のみ痕とおもわれる整形痕がある。一部に 割口まで及んで、ススが付着している。(スクリーン 一部分)
10	石製品 袖石?	端部欠損 長 38.6cm 幅 17.2cm 厚 9.6cm 重 6.020g	カマド周辺	凝灰岩?	9と同一とおもわれる工具による整形痕がある。片面 および小口部分にススが蓄着である。

58号住居 (図108 PL19)

位置 L-94・95グリッド 主軸方位 北壁方向N70°E

重複 住居の壁を壊すような時間の隔たった重複はないが、同じ壁を共有する床面が上下二枚検出された。

規模 縦3.10+ α m 横1.50+ α m 深さ0.31m

形状 隅丸方形と思われるが、南半分が調査区域外であるので詳細は不明である。

埋没土 新しい床面はローム粒、ロームブロックを含む暗褐色から黒褐色土で埋没している。中央がくぼむ堆積ではなく、中央が盛りあがるような堆積がみられる。古い床面を埋めているのは、ロームブロックと硬質の茶褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土である。

掘り方 古い床面の下には掘り方が検出された。北東隅に長径0.35m、短径0.28m、深さ0.16mを計る小ピットを検出したほかはほとんど掘り方底面も平坦である。充填土はロームと茶褐色土の混土层であり、硬質である。東半部には地山の硬層が露出している。

床面 新しい床面は東半分が若干高くなっているが、硬化面をつくっている。また、古い床面ではほぼ平坦につくられ、更に硬い床面になっている。

貯蔵穴 不明 周溝 無し 柱穴 不明

遺物出土状態 西半部より床面から浮いた状態で礫が出土している。北東隅に床面に近い出土状態の遺物が集中して出土している。

カマド 不明

備考 8世紀前半の住居と考えられる。

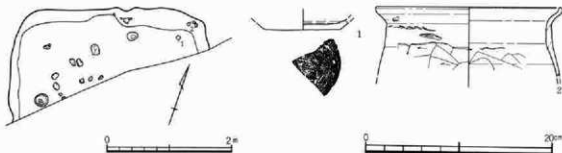


図108 58号住居と出土遺物

58号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	底部1/4残存 底(8.2cm)	北東隅 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰白7.5YR7/1 ③還元焰	ロクロ成形。切り難し技法不明。切り難し後、底部全面回転削削り。
2	土師器 甕	口縁~体部上位 1/5残存 口(20.0cm)	北東隅 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含。 ②橙7.5YR6/6	体部外面側方向削削り。頭部僅な。体部内面斜方向削削り。頸部から口縁部内面僅な。

II 検出された遺構と遺物

61号住居・67号住居

L・M-72・73グリッドに検出された重複住居群である。67号住居は61号住居に先行し、床面のほとんどは失われている。両住居とも北西壁の確認が困難であった。

61号住居 (図109・110 PL19・48)

位置 L・M-72・73グリッド 主軸方位 N28°W

重複 49号住居、60号住居、12号溝に先行し、65号住居、67号住居、68号住居、74号住居に後出する。

規模 縦5.64m 横5.76m 深さ0.38m

形状 正方形を呈すると考えられるが、南隅の73号住居との境の壁が検出できなかった。

埋没土 多量の白色細粒鉱物と焼土粒・ロームブロックをわずかに含む暗褐色土が主体である。

掘り方 大小のロームブロックを多量に含む暗褐色土を主体とする約20cmの厚さの掘り方充填土がある。掘り方底面には大小のピットが多数検出されている。

床面 貼床有り。住居の全面に硬く締まった貼床が認められる。

貯蔵穴 北東隅。長方形を呈する。

周溝 西隅にのみ周溝が検出された。幅0.24m、深さ0.05mを測る。

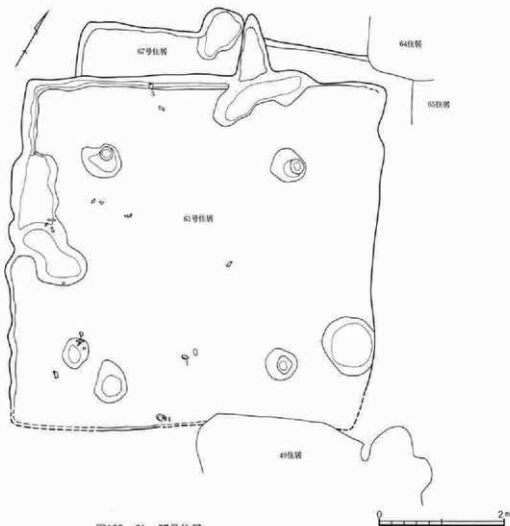


図109 61・67号住居

柱穴 掘り方底面で確認できた大小のピットのうち形状、位置、深さから柱穴と考えられるものが4、5本ある。主柱穴は4本と考えられる。

遺物出土状態 住居全体に遺物は散在している。床面直上で出土したものはごくわずかで、苔床面から10～20cm浮いた状態で出土した。

カマド 位置 北壁中央部やや西寄り

規模 全長1.83m 最大幅1.71m 焚き口幅不明

袖 右袖は基部がわずかに残るが、左袖はまったく不明である。

煙道 住居外にのびる。

遺存状態 焼土粒がわずかに残存する程度で、カマドの構造自体の残存状態は良くない。掘り方はしっかりしている。

遺物出土状態 土器片が埋没土中にわずかに認められただけである。

備考 6世紀後半の住居と考えられる。

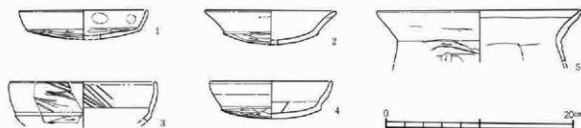


図110 61号住居の出土遺物

61号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器杯	口縁～底部1/4残 口 (14.0cm)	南壁付近 床面上11cm	①細砂、角閃石を含む。 ②明赤焼5YR5/6	底部外面手持ち荒削り。内面丁寧なで調整。口縁部横なで。内面には指頭痕が残る。
2	土師器杯	口縁～底部1/3残 口 (14.0cm) 高 (3.6cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい黄赤10YR6/4	底部外面手持ち荒削り。内面なで。口縁部横なで。
3	土師器杯	口縁部破片 口 (15.4cm)	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む。 ②明赤焼2.5YR5/8	底部外面手持ち荒削り。口縁部外面横なでの後、横方向の細かい荒磨き。内面丁寧なで調整の後、斜方向の指文が施されている。
4	土師器杯	口縁～底部1/2残 口 (13.0cm) 高 4.0cm	南壁部 床面上6cm 49号住居の埋没土中の破片と接合	①細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面手持ち荒削り。内面荒なでの後、丁寧なで調整。口縁部横なで。
5	土師器甕	口縁～胴部1/6残 口 (22.0cm)	厨間内	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤焼2.5YR5/6	胴部横方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部横なで口縁部内面は特に強くなでられており、凹線縁に仕上げられている。

II 検出された遺構と遺物

67号住居 (図109 PL19)

位置 L・M-73グリッド 主軸方位 N22°W

重複 61号住居、14号溝に先行する。 規模 縦0.84+ α m 横5.36+ α m 深さ0.23m

形状 方形を呈するが、南側の大部分と東隅を重複遺構によって壊されているので全体の形状は不明である。

埋没土 白色細粒鈣物粒子とロームブロックを含む暗褐色土。

掘り方 床面下10cmまで掘り込んでいる。底面には浅い部分的な掘り込みが検出された。

床面 貼床有り。北壁沿いと北西隅の一部に床面は残存する。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 わずかに埋没土中から破片が出土しただけである。

カマド 不明

備考 住居の時期は不明である。

69号住居

位置 J-75グリッド 主軸方位 N15°W 重複 48号住居に先行する。

形状 方形を呈すると考えられる。 埋没土 カマド周辺しか残存しないために不明である。

掘り方 不明 床面 不明 貯蔵穴 周溝 柱穴 調査範囲では検出できなかった。

遺物出土状態 ほとんど遺物は出土しなかった。

カマド 位置 北壁 規模 全長0.51m 最大幅0.84m 焚き口幅0.35m

袖 有り。右袖は認められる程度である。 遺物出土状態 遺物はほとんど認められない。

煙道 住居外にのびていたかもしれないが、62号住居に切られているために不明。

遺存状態 煙道部が62号住居の南壁に壊されている。

備考 不明

62号住居 (図111・112 PL20・49)

位置 J・K-74・75グリッド

主軸方位 N10°W

重複 69号住居に先行し、77号住居・74号住居に後出する。

規模 縦6.02m 横6.12m 深さ0.27m

形状 南壁が検出できなかったので断定はできないが、正方形と考えられる。

埋没土 白色細粒鈣物粒とロームブロックを少量含む暗褐色土と、白色鈣物を少量含む暗褐色土との間に棒状の炭化物を多量に含む黒灰色土が流れ込んだように堆積している。

掘り方 厚さ5～10cmの厚さで、ローム土を主体とする黄褐色土からなる充填土があった。

床面 貼り床有り。堅く締まった床面がほぼ全面に残存する。

貯蔵穴 無し

周溝 北壁および西壁に幅20cm、深さ5cmほどの規模で検出された。

柱穴 いくつかのピットが検出されたが、柱穴との確認はできなかった。

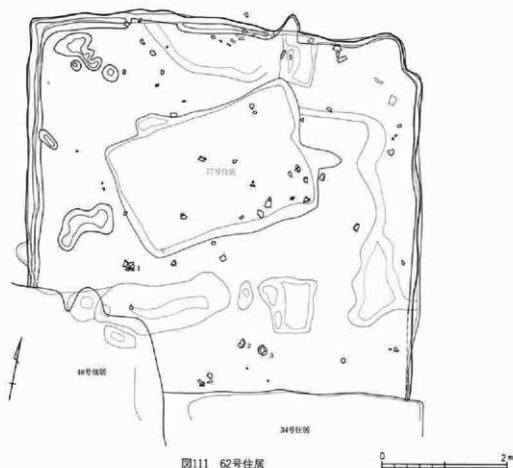


図111 62号住居

遺物出土状態 はほぼ全域から遺物が多数出土しているが、床面から5～10cmほど浮いた状態で検出されたものが多い。

カマド 位置 北壁中央やや東寄り

規模 全長0.72m 最大幅0.66m 焚き口幅0.58m

袖 有り。左袖は明らかに残っているが、右袖は残っていない。

煙道 住居外にのびる。

遺存状態 熱焼部には厚さ14cmの灰混じりの焼土層がある。左袖はやや粘性をもつ黒褐色土によってつくられている。攪乱は認められず、比較的遺存状態は良い。

遺物出土状態 使用面よりかなり浮いた状態で変形土器破片が一点出土している。

備考 8世紀中頃の住居と考えられる。

62号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	或・整形の特徴
1	土師器 杯	3/4残存 口 13.8cm 高 4.2cm	南西壁際 床面上11cm	①濃細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面手持ち残削り、体部外面などで。内面丁寧な で。指頭痕が一部に残る。口縁部横なで。

II 検出された遺構と遺物

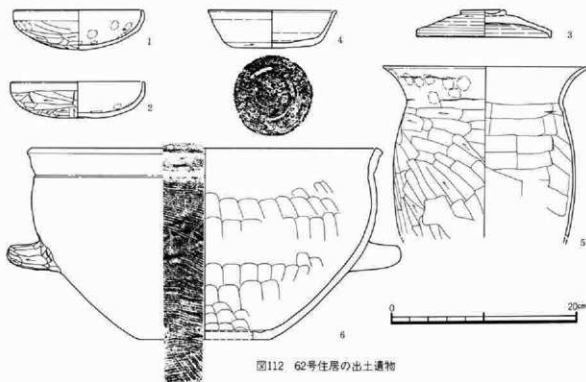
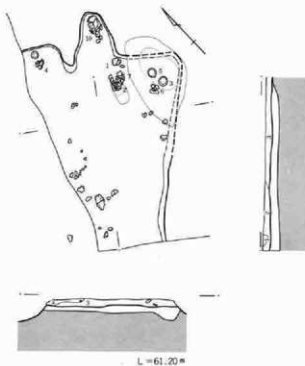


図112 62号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	土師器 杯	1/2残存 口 (14.4cm) 高 4.0cm	南壁際 床面上3cm	①微細砂を含む。 ②黄7.5YR6/6	底部外面手持ら彫削り。体部加調整。内面横方向の丁寧なで。指頭痕が残る。口縁部横なで。
3	須恵器 蓋	口縁～天井部 3/4残存 口 14.5cm 高 2.9cm	南壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焼	左回転ロコロ成形。切り離し技法不明。切り離した後、天井部回転彫削り調整。つまみ貼りつけ。
4	須恵器 杯	体部1/2欠損 口 13.6cm 底 8.5cm 高 4.0cm	埋没土中	①粗砂を多く含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焼	左回転ロコロ成形。底部切り離し技法不明。切り離した後、体部最下部から底部全面回転彫削り。口縁部横なで。
5	須恵器 甕	口縁～体部上半 1/4残存 口 (22.0cm)	カマド内 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②ぶい橙2.5YR6/4	体部上部横方向彫削り。下半斜方向彫削り。内面横方向縦なで。口縁部横なで。外面に指頭痕と輪組み痕が残る。
6	須恵器 なべ	1/6残存 口 (37.0cm) 底 (14.0cm) 高 (20.2cm)	掘り方埋没土 中	①微細砂を含む。白色細粒物を含む。 ②灰NS/1 ③還元焼。硬質	体部外面斜方向の平行たき整形後、底部に近い体部最下部を中心に細い寛なで重ねている。たききの条痕は顯著でない。内面には全体に指頭と思われる凹面が看取できる。たききの角で考えられる。口縁部横なで。体部中位に把手が付されているが、細い寛なで付けたような整形痕が見られる。



- 63住 1層 暗褐色土。やや砂質。白色紅物を僅かに含む。
 2層 暗褐色土。白色紅物を少量含む。
 3層 暗褐色土。白色紅物を少量含む。2層に比べてやや堅くしまっている。

図113 63号住居

遺物出土状態 カマド周辺と住居中央部に床面近くの遺物は集中している。カマド燃焼部からは土師器変形土器が、カマド右前からは土師器杯形土器が床面直上で出土している。カマド左側にも土師器杯形土器が出土した。中央部には土師器変形土器がつぶれたような状態で床面直上で出土した。

カマド 位置 北東壁

規模 全長0.88m 最大幅0.92m 焚き口幅0.68m

袖 右袖の残りが悪い。

煙道 住居外へのびる。

遺存状態 カマド右袖の遺存状態は良くないが、その他の部分は良く残っている。ただ確認面が低いために上部構造がはっきりしない。

遺物出土状態 燃焼部奥には土師器変形土器が(図114の10)出土した。

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

63号住居(図113・114 PL20・49)

位置 J-78グリッド

主軸方位 N44°E

重複 13号溝、18号溝に先行する。

規模 縦3.00+αm 横2.52+αm 深さ0.09m

形状 方形を呈するが、南西部は調査区域外であり、後出する二条の溝によって切られているために全体の形状は不明である。

埋没土 白色細粒紅物を少量含む暗褐色土。

掘り方 床面より約10cm下に掘り方が検出された。

床面 貼床有り。ほぼ平らな硬く締まった床面が残存する。

貯蔵穴 カマド右袖住居東隅に長径1.5m、短径0.9m、深さ0.25m(掘り方での確認面から計測)を計る楕円形の貯蔵穴を掘り方調査段階で検出した。底面ほぼ直上から土師器杯形土器完形二個体が出土している。

周溝 無し **柱穴** 無し

63号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器杯	変形 口 14.0cm 高 5.5cm	カマド右壁際 床面直上	①微細砂、赤・白色細粒物を含む。 ②赤褐2.5YR4/6	底部外面手持ち磨削後、部分的に横方向荒磨き。内面丁寧な等の後、放射状の荒磨き。口縁部横などの後、外面に格子状の荒磨きを施している。

II 検出された遺構と遺物

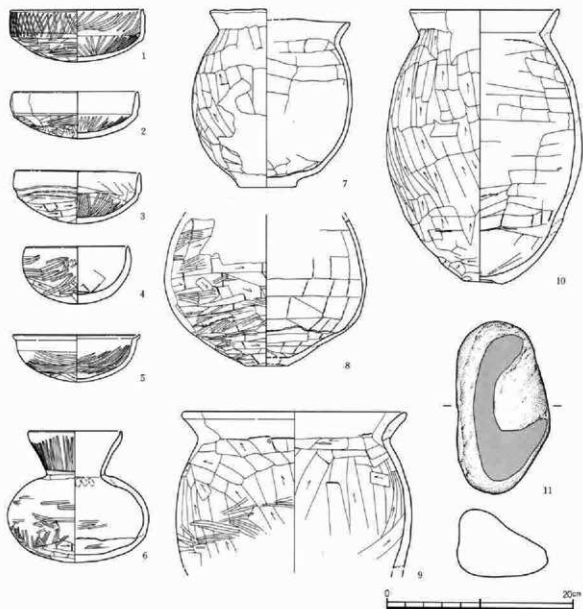


図114 63号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	土師器 杯	口縁部一部欠損 口 14.5cm 高 5.0cm	カマド右前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/8	底部外面手持ち彫削り。部分的に斜方向の荒磨き。内面なのでのれ。放射状の荒磨き。口縁部横まで。
3	土師器 杯	ほぼ完形 口 13.4cm 高 5.6cm	貯蔵穴内	①微細砂、石英を含む。 ②黒2.5Y2/1 ③酸化焙。内黒	底部外面手持ち彫削り。内面横方向の細かい荒磨きの後、放射状の荒磨き。口縁部横まで。口縁部内面には斜方向の磨きで、外面口縁部と杯部の境に強い凹線が付けられ、段状になっている。
4	土師器 杯	完形 口 11.0cm 高 6.0cm	カマド左脇 床面直上	①微細砂、角閃石を含む。 ②赤10YR5/8	体部から底部彫削り後、横方向荒磨き。内面磨きで後丁寧なまで。口縁部横まで。

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	土師器 杯	定形 口 13.6cm 高 5.0cm	貯蔵穴内	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②橙5YR6/6 ③硬質	底部外面手持ち彫り。体部上半横方向肌磨き。内面丁寧なまでの後、放射状、横方向の裝飾的肌磨き。口縁部横なで。
6	土師器 埴	定形 口 10.0cm 高 13.9cm	北東隅 床面直上	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②にぶい橙5YR7/4	胴部下半から底部横方向彫り。胴部下半斜方向肌磨き。上半横方向丁寧な肌磨き。口縁部なで。端部横なで後、口縁部外面縦方向肌磨き。胴部内面横なで。口縁部内面丁寧なまで、端部つまみあげるような横なで。
7	土師器 甕	口縁～底部3/4残 口 14.9cm 底 6.2cm 高 18.9cm	カマド右前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	胴部外面縦方向彫り。底部外面彫り。内面横方向横なで。口縁部横なで。
8	土師器 甕	体部中位～底部残 底 (4.5cm) 胴 (21.7cm)	カマド内	①微細砂、角閃石を含む。 ②橙5YR7/6 ③硬質	胴部外面縦方向彫り後、部分的に横方向肌磨き。内面横方向横なで。
9	土師器 甕	口縁～体部中位 1/4残存 口 (24.2cm)	中央部 床面直上	①細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6	胴部外面斜方向、縦方向彫り。部分的に横方向肌磨き。内面縦方向彫り後、上端部横方向横なで。口縁部内外面横なで。
10	土師器 甕	口縁～底部3/4残 口 (15.0cm) 底 (4.4cm) 高 29.2cm	カマド内 床面上9cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②にぶい赤褐5YR5/4	胴部外面縦方向彫り。内面横方向横なで。口縁部内外面横なで。
11	磨石	定形 長 18.3cm 幅 9.7cm 厚 7.2cm 重 1.702g	カマド掘り方 光礫土中	安山岩	

II 検出された遺構と遺物

64号住居 (図115・116 PL21・49)

位置 M-73グリッド 主軸方位 S64°W

重複 65号住居、66号住居に後出する。

規模 縦2.63m 横2.75m 深さ0.45m 形状 正方形

埋没土 白色細粒物を含む暗褐色土。南壁付近に黒色灰が厚さ約10cmで堆積している。

掘り方 南壁中央に壁際の床下に深さ10cmの楕円形の落ち込みがある。

床面 貼床有り。貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 有り。床面で三基のピットを検出したが、柱穴と考えられるのはP1のみである。

柱穴No	P 1	P 2	P 3
直径	0.18m	0.22m	0.16m
深さ	0.08m	0.06m	0.05m

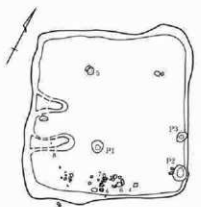


図115 64号住居

遺物出土状態 南壁中央付近に遺物が集中しており、黒色灰の分布範囲とほぼ重なる。

カマド 位置 西壁のほぼ中央

規模 全長0.78m 最大幅0.96m 焚き口幅0.34m

袖 有り

煙道 西壁を利用していると思われるが、上部構造は不明であった。

遺存状態 両袖と燃焼部分の遺存状態は良好である。

遺物出土状態 燃焼部の右奥に石が検出されたが、用途は不明である。

備考 6世紀後半の住居と考えられる。

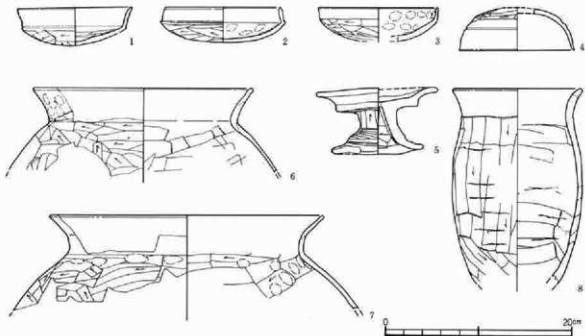


図116 64号住居の出土遺物

64号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	1/3残存 口 12.2cm 高 4.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面削り。内面丁寧なで。口縁部横なで。
2	土師器 杯	口縁～底部1/2残 口 (12.8cm) 高 3.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②褐灰10YR5/1	底部外面削り。内面なで。内面には指痕が残る。口縁部横なで。
3	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 (13.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふい赤褐5YR5/4	底部外面削り。肩縁部に未調整部分がある。内面から口縁部内外面にかけて横方向の丁寧なで。内面には指痕が顕著に残る。
4	須恵器 蓋	口縁～天井部 1/3残存 口 (12.2cm)	南壁際 床面上12cm	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰白7.5YR7/1 ③還元焼	天井部手持ち削り。肩縁部回転なで。内面回転なで。口縁部内外面横なで。
5	土師器 鉢台	杯部1/5欠損 口 13.1cm 底 10.0cm 高 7.0cm	北西部 床面上23cm	①中砂、石英を含む。 ②橙5YR6/6 杯部は橙7.5YR4/1	杯部内外面指なで。脚部外面縦方向削り。内面横方向削り。両端部内外面横なで。
6	土師器 甕	口縁～胴部1/5残 口 (23.4cm)	南壁際 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	胴部外面横方向削り。内面横方向削り。口縁部内外面横なで。口縁部外面には指痕と粘土結皮が残る。
7	土師器 甕	口縁～体部上位 1/4残存 口 (22.5cm)	南壁際 床面上6cm	①微細砂を多量に含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面横方向削り。内面斜方向削り。内面には指痕が顕著に残る。口縁部内外面横なで。口縁部外面には粘土結皮が一段残る。
8	土師器 甕	口縁～体部1/5残 口 (13.5cm)	カマド左端	①粗砂を含む。 ②にふい橙7.5YR6/4 ③やや軟質	胴部外面下半斜方向削り後、上半縦方向削り。内面横方向削り。口縁部内外面横なで。

72号住居

位置 N-73グリッド

重複 14号溝、15号溝、64号住居、66号住居に先行する。

規模・形状 わずかに床面の広がりを検出しただけで壁は全くわからない。住居の存在は確実である。

床面 比較的平らで硬化面が広がっている範囲を床面としてとらえた。

遺物出土状態 わずかに破片が出土した。

65号住居・66号住居

M・N-74グリッドに検出された重複住居群である。床面が二枚検出されたことによって重複住居と考えた。北東部が調査区域外であるので、全体の形状が把握できなかったことや、12号溝に南隅を壊されていたことから重複関係を明確にとらえることができなかった。特に65号住居の西壁は検出できていない。65号住居の北西部には焼土が検出されており、カマドの可能性もある。65号住居の床面下から検出された硬化面を66号住居とした。北壁に焼土と遺物の集中区があり、72号住居に後出するカマド跡と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

65号住居 (図117 PL21)

位置 M・N-74グリッド

南壁方位 N71° E

重複 66号住居に後出する。

規模 縦4.2+αm 横6.90+αm 深さ0.08m

形状 方形を呈するが、東部が発掘区域外のため、詳細は不明である。

埋没土 ロームブロックを少量含む暗褐色土である。

掘り方 66号住居の埋没土と重なるために明確でない。

床面 貼り床有り。硬く締まった床面がかなり広い範囲で存在する。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 埋没土中と床面上に遺物がわずかに認められる程度である。

カマド 西壁中央やや北寄りに、焼土粒、炭化物粒を多量に含む暗褐色土で埋設している円形の落ち込みが検出された。カマドの可能性はあるが、東側を64号住居に壊されており、構造は不明である。

備考 不明

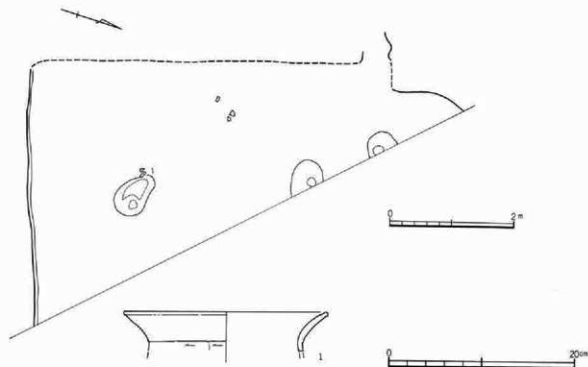


図117 65号住居と出土遺物

65号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・形状の特徴
1	土師器 壺	口縁部破片 口 (21.6cm)	北西部 床面上13cm	①微細砂を含む。 ②にふい塵5YR6/4	胴部外面横方向荒削り。口縁部内外面積など。口縁部内面縁部には強くなでられた凹線が付けられている。

66号住居 (図118・119 PL21・49)

位置 M・N-74・75グリッド 主軸方位 N33°W

重複 65号住居に先行する。規模 縦6.00m 横4.98+αm 深さ m

形状 正方形を呈すると考えられるが、東部分が調査区域外であるので、詳細は不明である。

埋没土 白色細粒鉱物を少量含む暗褐色土である。

掘り方 無し

床面 ローム土をほぼ平らに掘り込んだ硬い床面である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 無し。いくつかのピットが存在するが、柱穴との確認はできなかった。

遺物出土状態 床面上に遺物がいくつか認められた。

カマド 位置 北壁 規模 計測不能 袖・煙道 不明

遺存状態 直径約50cm、深さ10cmの小さな掘り込みに煙土がわずかに残存するだけで、構造は全く不明である。

遺物出土状態 カマド焼土上から土師器杯形土器の破片を中心に集中して出土している。

備考 6世紀後半の住居と考えられる。

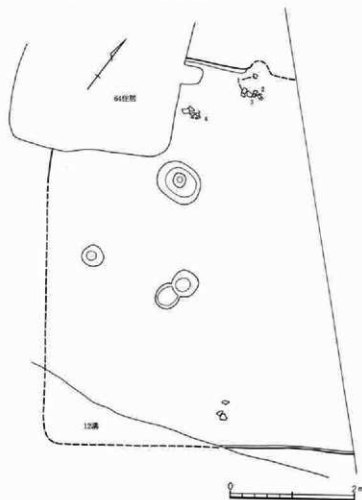


図118 66号住居

II 検出された遺構と遺物

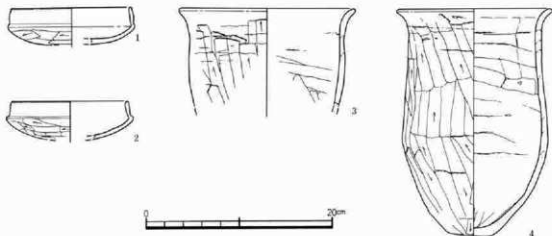


図119 66号住居の出土遺物

66号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③地成	成・整形の特徴
1	土器 杯	口縁～底部1/6 口 (13.0cm)	北壁際 床面上9cm	①微細砂を含む。 ②にふい橙7.5YR7/4	底部外面荒削り。内面単純が緻しく整形技法不明。口縁部内外面横なで。
2	土器 杯	口縁～体部1/4 口 (12.6cm)	北壁際 床面上9cm	①微細砂を含む。 ②にふい橙5YR6/4	底部外面荒削り。内面単純が緻しく整形技法不明。口縁ブロック内外面横なで。
3	土器 椀	口縁～体部上位 1/6残存 口 (18.5cm)	北壁際 床面直上	①中砂を含む。 ②にふい黄橙10YR7/4	内面横方向丁寧な荒なで。口縁部内外面横なで。体部外面縦方向荒削り。
4	土器 甕	口縁～底部5/6 口 16.6cm 底 4.4cm 高 24.3cm	北西部 床面直上	①粗粒砂、石英を含む。 ②にふい黄橙10YR6/4 ③やや軟質	胴部外面縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部内外面横なで。

68号住居 (図120・121 PL21・49)

位置 K-74グリッド 主軸方位 不明

重複 61号住居、62号住居、12号溝に先行する。74号住居との関係は不明である。

規模 縦4.02+αm 横(3.96m) 深さ0.13m

形状 不明。重複遺構によって壁が壊されており、確認できたのは南西壁だけであるので全体の形状は不明である。

埋没土 重複遺構の埋没土が本住居の床面近くを覆っているような状態であったので、本住居の埋没土は明確でない。

掘り方 掘り方調査では多数の大小の落ち込みやピットが検出されたが、明確に住居構築に関わる床下土坑や柱穴と思われるものは確認できなかった。

床面 貼床有り。ロームブロックを含む暗褐色土で2~3cmの厚さの硬く締まった床面を作り出している。

貯蔵穴 不明 周溝 無し

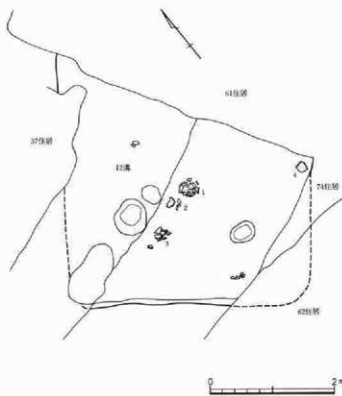


図120 68号住居

柱穴 不明

遺物出土状態 ほは床面直上で土師器変形土器や杯形土器が数点出土している。

カマド 調査範囲内では未検出。

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

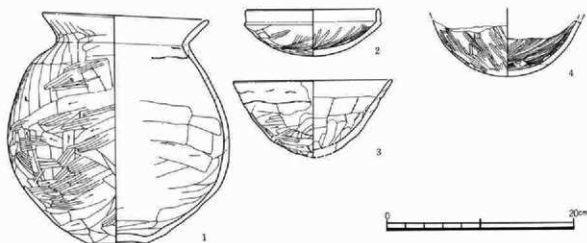


図121 68号住居の出土遺物

II 検出された遺構と遺物

68号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 甕	3/4残存 口 17.6cm 底 (6.3cm) 高 24.3cm	中央部 床面上5cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面上半縦方向篋削り後、下半横方向、斜方向篋削り。部分的に横方向磨き。内面横方向篋削り。口縁部横なで。
2	土師器 杯	ほぼ定形 口 14.5cm 高 4.9cm	中央部 床面上11cm	①細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面篋削り後、横方向の磨き。裏面で、内面丁寧ななでの後、幅広の放射状磨き。口縁部横なで。
3	土師器 鉢	口縁部、底部一部 欠損 口 17.0cm	中央部 床面上	①中砂、石英を含む。 ②橙2.5YR6/6 ③やや軟質	体部外面横方向、斜方向篋削り後、横方向磨き。内面下半縦方向篋削り後、上半横方向篋削り。口縁部横なで。口縁部外面には粘土紐の痕跡が残る。
4	土師器 甕	九底の底部残存	南東壁際 床面上5cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	外面縦方向篋削り後、丁寧な縦方向の磨き。内面横方向の篋削り後、放射状の丁寧な磨き。内外ともに細かな磨きで、光沢がはるほどの丁寧な磨きが特徴的である。

71号住居 (図122・123 PL22)

位置 L-93グリッド 主軸方位 N20°W

重複 59号住居、56号土坑に先行する。

規模 縦1.25m 横2.34+αm 深さ0.12m

形状 方形と考えられるが、南半分が壊されているために詳細は不明である。

埋没土 ロームブロック、焼土粒、炭化物粒などを含む暗黄褐色土である。重複する59号住居の埋没土に類似している。

掘り方 無し

床面 重複遺構によって壊されているために検出できた床面はごくわずかであった。特に硬化面も確認していない。

貯蔵穴 不明 周溝 不明 柱穴 不明

遺物出土状態 カマド周辺から遺物が出土した。

カマド 位置 北壁東 規模 全長0.75m 最大幅0.70m 焚き口幅0.70m

袖 無し 煙道 住居外に燃焼部が12cmほどのびるだけである。

遺存状態 56号土坑に破壊されており、痕跡が残っていただけである。支脚や袖の痕跡はない。

遺物出土状態 使用面よりやや下層の、掘り方埋没土内より比較的まとまって土師器破片が出土している。

備考 住居の時期を特定することは困難である。

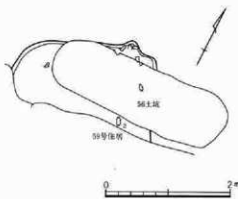


図122 71号住居



図123 71号住居の出土遺物

71号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須臾器 高台付柄	1/4残存。底部、高台穴径口 (18.0cm)	ピット内と掘り方方向の破片が接合	①緻密。 ②灰10Y6/1	回転方向不明ノコロ成形。切り離し技法も不明。柄部内外面回転で。
2	土器部 壁	口縁部破片 口 (22.0cm)	掘り方埋没土	①細砂を含む。 ②にふいね7.5YR6/4	胴部内面黄方向で、口縁部内外面黄で、胴部外面黄方向張り。

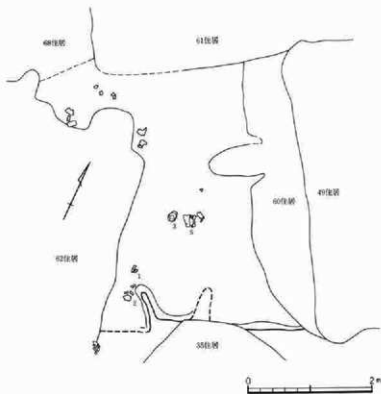


図124 74号住居

74号住居 (図124・125 PL50)

位置 L-75グリッド

主軸方位 南東壁方向

重複 35号住居、60号住居、73号住居に先行する。

規模 縦4.00m 横3.20m 深さ0.18m

形状 不明。重複遺構によって壁が検出できず、全体の形状は不明。

埋没土 わずかな白色細粒鉱物と多量の焼土粒を含む暗褐色土を主体とする。

掘り方 床面下2~3cmに掘り方を検出した。

床面 貼床有り。一部をわずかに確認しただけであるが、床面は硬く締まっていた。

貯蔵穴 不明

柱穴 不明

遺物出土状態 床面近くに土師器杯形土器を中心として遺物が残存している。

カマド 住居南壁に、カマドの痕跡と思われる部分が検出されたが、詳細は不明である。

備考 6世紀前半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

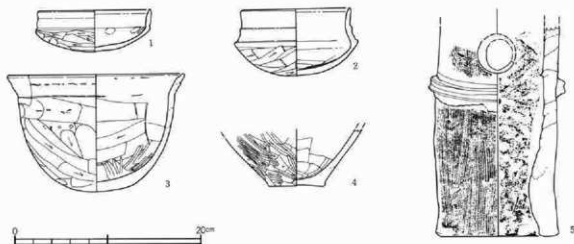


図125 74号住居の出土遺物

74号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師砂杯	2/3残存 口(12.1cm) 高 4.5cm	カマド右前 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り。内面横方向で。内面には指痕状が残る。口縁部内外面横なで。口縁部と杯部の境には凹線になるくらいに強くなでられている。
2	土師砂杯	2/5残存 口(11.7cm) 高 7.0cm	カマド右前 床面上3cm	①細砂を含む。 ②に濃い橙2.5YR6/4	底部外面荒削り。内面横なで。口縁部内外面横なで。外面中位には凹線が一帯ひかれ、段状になっている。
3	土師砂鉢	1/3残存 口(18.8cm) 高 12.4cm	中央部 床面上8cm	①細砂を含む。 ②に濃い橙7.5YR7/4	体部外面斜方向荒削り後、体部頂上部横方向荒削り。底部外面荒削り。内面横方向荒なで。内面底部には平滑にするために斜方向荒磨き。口縁部内外面横なで。
4	土師砂裏	体部下位～底部残 底 6.0cm	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む。 ②橙2.5YR6/6 ③硬質	体部外面斜方向荒削り後、斜方向荒磨き。底部外面荒削り。内面横方向荒なで。
5	埴輪 円筒埴輪	体部～底部1/4残 底(13.1cm)	中央部 床面上2cm	①細砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②橙2.5YR6/6	体部外面縦方向刷毛目整形。内面縦方向の指なで。最下部は丁寧なで。たがの上には外面からの焼成前穿孔。

75号住居 (図126 PL22)

位置 K・L-56グリッド 主軸方位 N88°W

重複 1号溝に先行する。 規模 縦3.70m 横3.70m 深さ0.29m

形状 ほゞ正方形

埋没土 大小の礫を多量に含む。 掘り方 無し

床面 基盤の礫層を床面とする。 貯蔵穴 無し

周溝 無し。 柱穴 無し

遺物出土状態 床面直上からの出土はなく、埋没土中からもわずしか出土していない。

カマド 位置 西壁中央よりやや南寄り

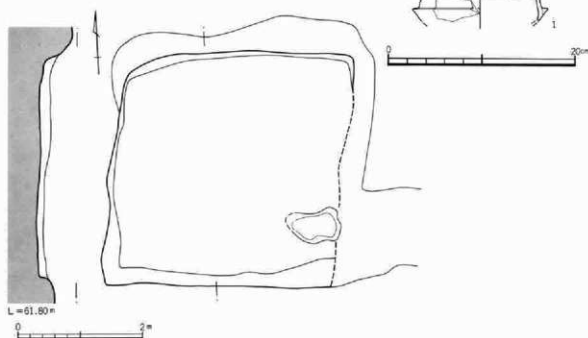


図126 75号住居と出土遺物

遺存状態 焼土がわずかに検出されたが、溝状遺構にカマドの大部分が壊されており、深さ約10cmの掘り方の掘り込みだけが残存している。規模、施設その他は不明である。

備考 不明

75号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	口縁~体部破片 口 (12.4cm)	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰N6/	ロクロ成形。回転方向、切り離し技法など不明。口縁残部は面とりしている。

76号住居

位置 J-76グリッド

形状 カマドの先端のみが検出された。住居部分は調査区域外に存在する。

カマド 規模・施設等不明

II 検出された遺構と遺物

77号住居 (図127・128 PL22・50)

位置 K-74・75グリッド 主軸方向 N61°E

重複 62号住居に先行する。規模 縦3.14m 横2.06m 深0.4m

形状 長方形

埋没土 黄褐色土と、ローム粒・砂粒を含む黒褐色土、砂粒を含む黄褐色土の三層に分けられる。

掘り方 無し

床面 貼床無し。地山のロームが床面である。平坦な硬化面をつくっている。

貯蔵穴 無し 周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 住居検出面から床面まで土師器変形土器や甑形土器などが多数出土している。カマド周辺より住居中央から周辺にかけて分布が多い。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

遺存状態 煙道部と思われるところに新しいピットがあり、遺存状態は非常に悪い。

規模・施設 詳細は不明

備考 5世紀後半の住居と考えられる。

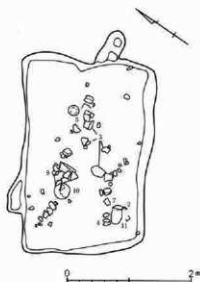


図127 77号住居

77号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③地成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～体部1/5 口 (15.9cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面磨削りの後、横方向なで。部分的に縦方向磨き。内面丁事な横方向のなでの後、放射状の磨き口縁部横なで。
2	土師器 杯	体部1/5 口縁部欠損	南隅 床面上18cm	①微細砂、石英、角せん石を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面横方向磨削りの後、斜方向磨き。内面丁事なでの後、中央部を除いた放射状の磨文風の磨き。
3	土師器 杯	口縁部2/3 口 (18.4cm) 高 5.2cm	カマド前 床面上6cm	①微細砂、赤・白色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	底部外面横方向磨削りの後、ほぼ全面にわたって横方向磨き。内面丁事なでの後、放射状の磨き。口縁部内外面横なで。
4	土師器 椀	1/3残存 口 (12.2cm) 底 5.0cm 高 6.5cm	南隅 床面上24cm	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/6 ③硬質	体部外面斜方向磨削りの後、全面に斜方向磨き。底部外面周縁部のみなで。中央部には木葉痕が残る。内面横方向に丁事なでの後、放射状の磨き。口縁部内外面横なで。
5	土師器 鉢	底部欠損 口 13.3cm	カマド前 床面上13cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	体部外面下斜方向磨削りの後、上半横方向磨削り。後半を中心に横方向磨き。内面斜方向なで。口縁部内外面横なで。
6	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (14.8cm) 高 5.3cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②によい赤褐2.5YR4/4	底部外面横方向磨削りの後、磨き。内面丁事なでの後、放射状の磨き。口縁部内外面横なで。

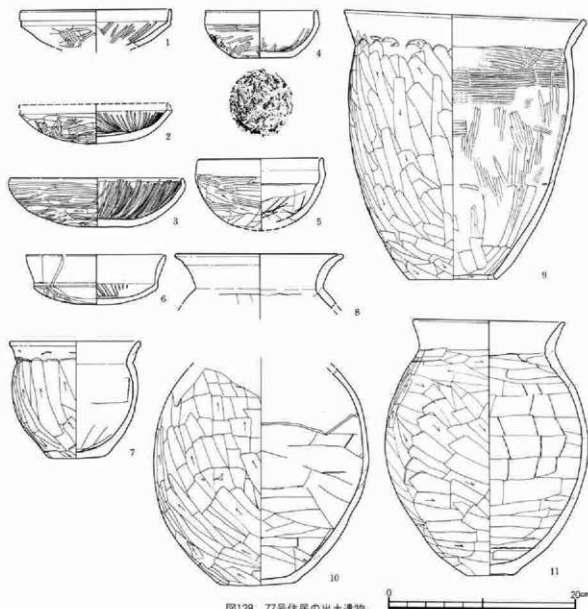


図128 77号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③構成	成・整形の特徴
7	土師器 甕	口縁～底部中位 2/3残存 口 (13.8cm) 底 6.0cm 高 12.4cm	南隅 床面上27cm	①中砂、白色細粒物を含む。 ②にぶい黄緑19YR7/3 ③やや硬質	胴部横方向で後、胴部外面縦方向に削り。底部外面 一方方向に削り。内面上半横方向に削り。底部内面放射 状の指で、口縁端部横で。
8	土師器 甕	口縁部1/3残存 口 (17.7cm)	堀込土中	①細砂、石英、白・赤色細 粒物を含む。 ②明赤調2.5YR5/6	胴部外面縦方向に削り後、胴部横方向で。胴部内面 斜方向に削り。口縁部内外縦で。口縁部外面上半 にはつまみ上げたような小さな凸帯が付けられてい る。
9	土師器 甕	ほぼ完形 口 25.9cm 底 9.2cm 高 28.2cm	中央部 床面上5cm	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR7/6	口縁部から胴部横で。胴部外面縦方向、斜方向に削 削り。内面下半縦方向に削り。上半削り後、横方向 木槌状工具による削り。後、縦方向に削り。口縁部 内面横で。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
10	土師器 甕	体部上位～底部残 底 8.3cm 胴 23.1cm	中央部 床面上5cm	①細砂、白色細絞物を含む。 ②にふい赤褐2.5YR4/4	胴部外面縦方向、斜方向篋削り、底部外面篋削り、内面横方向篋削りなど。
11	土師器 甕	完形 口 16.2cm 底 5.3cm 高 27.7cm 胴 21.6cm	南隅 床面上13.0cm	①細砂、角閃石を含む。 ②暗赤褐5YR3/2	胴部外面下半横方向篋削り、上位斜方向、横方向篋削り、内面横方向篋削りなど。口縁部内外面横削りなど。

78号住居 (図129 PL23・50)

位置 M-89・90グリッド

主軸方位 N4°E

重複 79号住居、86号住居、87号住居に近接する。

規模 縦2.98～3.64m 横4.16m 深さ0.22m

形状 台形

埋没土 黒褐色土

掘り方 カマドのある北辺を除き、壁沿いが深く掘り込まれている。中央部は浅く、数cmの貼床を除去すると掘り方面となる。

床面 カマド前に硬化面がある。

貯蔵穴 カマド左側、住居北西隅に検出された。縦0.8m、横0.8m、深さ0.37mを計る隅円方形を呈する。

周溝 無し

柱穴 三基のピットが検出されたが、柱穴と考えられるのはP1のみである。

P1 直径0.42m 深さ0.21m

遺物出土状態 埋没土中からの遺物は比較的少ない。中央部やや南側に須恵器碗形土器が床面直上で出土している。

カマド 位置 北壁中央

規模 全長0.72m、最大幅0.69m、焚き口幅0.38m

袖 有り。地山を削り出して作られている。

遺存状態 天井部が崩落し、焼土が少量残っている。

遺物出土状態 カマド内の遺物出土はない。

備考 8世紀初め頃の住居と考えられる。

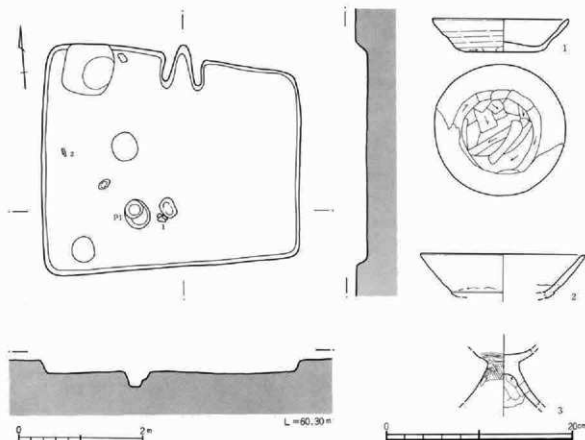


図129 78号住居と出土遺物

78号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	3/4残存 口 (14.2cm) 底 7.6cm 高 3.4cm	中央部やや南 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②黄灰2.5Y6/1	内外面とも右回転のロクロで調整。底部外面手持ち 費用り。
2	土師器 高杯	杯部1/6残存 口 (17.4cm)	西壁付近 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	内外面横なで。
3	土師器 小形高杯	胴部上半残存	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にじい橙10YR6/4 ③酸化焰。硬質。内黒	杯部外面横方向磨き。内面丁寧なでと磨き。胴 部外面縦方向磨き。内面不定方向磨なで。

79号住居 (図130 PL23)

位置 L・M-89グリッド 主軸方位 N7°E

重複 81号住居に先行し、102号住居に後出する。

規模 縦4.2m 横3.46m 深さ0.27m 形状 長方形

埋没土 黒褐色土

掘り方 中央部が深く掘られている。西北隅は、礎層に達している。

II 検出された遺構と遺物

床面 中央に硬化面が残存する部分がある。貼床は顕著でない。

貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 住居の四隅に4本の支柱穴を検出した。

柱穴No.	P 1	P 2	P 3	P 4
直径	0.32m	0.24m	0.23m	0.30m
深さ	0.14m	0.13m </td <td>0.12m</td> <td>0.13m</td>	0.12m	0.13m

遺物出土状態 埋没土中に多くの破片資料が出土している。また、南壁際には床面直上から須恵器蓋形土器が出土している。北壁や西寄りには甕形土器の口縁部破片が床面から10cmほど浮いた状態で出土している。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.8m 最大幅0.98m 焚き口幅0.50m

袖 有り

煙道 55cmほど住居外へのびる。

遺存状態 20cmほど住居内に張りだす袖の基部が残存している。

遺物出土状態 無し

備考 8世紀前半頃の住居と考えられる。

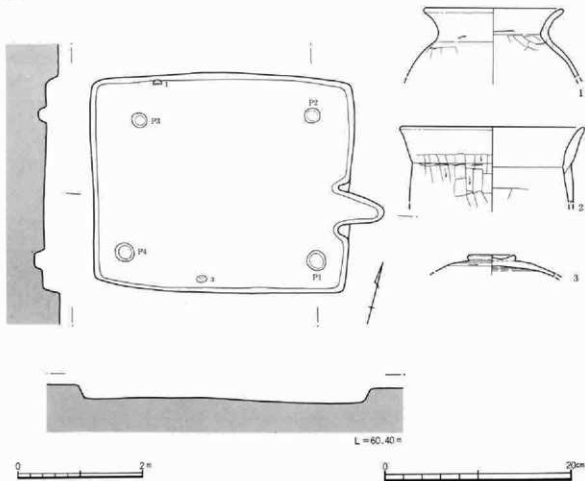


図130 79号住居と出土遺物

79号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③地成	成・整形の特徴
1	土師器 甕	口縁～体部上位 1/4残存 口 (15.0cm)	北壁際 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②地5YR6/6	肩部外面縦方向荒削り。内面斜方向荒なで。口縁部内外面横なで。
2	土師器 甕	口縁～体部上位 1/4残存 口 (20.0cm)	埋没土中	①粗砂を含む。 ②に上り地5YR6/4 ③軟質	胴部外面縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部内外面横なで。
3	須恵器 蓋	天井部残存	南壁 床面直上	①細砂、黒色細粒物を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③薄光沢。硬質。	右面転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。内外面回転なで。天井部つまみ接合後、つまみの遊離のみ回転削り。

80号住居 (図131・132 PL23)

位置 K・L-89グリッド 主軸方位 N71°E 規模 縦4.13m 横3.12+αm 深さ0.20m

重複 重複は無いが、81号住居と接するほどに隣接している。

形状 南東部は調査区域外であるので明らかでないが、長方形になるものと思われる。

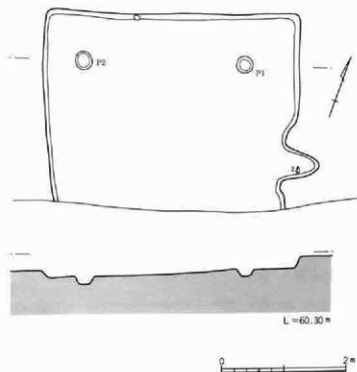
埋没土 黒褐色土

掘り方 カマドのある東壁に正対する西壁沿いが深く掘られている。

床面 カマド全面から住居中央部にかけて硬化面がある。

貯蔵穴 無し 周溝 なし

柱穴 調査できた北半分から二本の主柱穴を検出した。ともにやや浅い。



柱穴No.	P 1	P 2
直径	0.26m	0.30m
深さ	0.10m	0.09m

遺物出土状態 カマド内から土師器甕形土器の破片が出土している。また埋没土中から多くの破片が出土している。

カマド 位置 東壁

規模 全長0.66m 最大幅1.02m
焚き口幅0.44m

袖 やや住居内にのびる袖がある。

煙道 45cmほど壁外へのびる。

遺存状態 カマド内面もあまり焼けておらず、灰の残りも少なかった。使用面を確定することが困難であった。

遺物出土状態 埋没土中より甕形土器破片が出土している。

備考 不明

図131 80号住居

II 検出された遺構と遺物

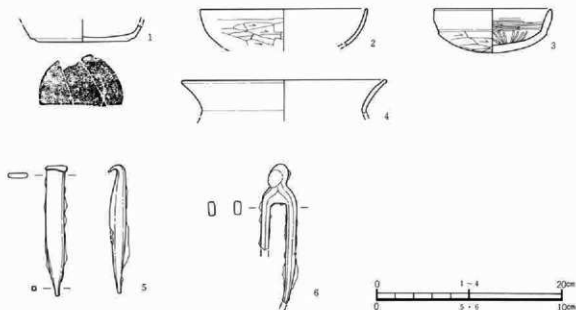


図132 80号住居の出土遺物

80号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器杯	体部下端～底部1/2残存 底(9.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にょい黄褐色10YR7/3 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。底部切り離し後、全面回転荒削り。内面丁寧なで。
2	土師器杯	口縁～体部1/4残存 口(18.0cm)	カマド内	①緻密。 ②橙5YR6/6	体部外面横方向荒削り。内面丁寧なでの後、口縁部内外面横なで。
3	土師器杯	1/4残存 口(12.4cm) 高 4.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り。内面丁寧なでの後、底面は放射状の荒削り。側面は横方向荒削り。口縁部内外面横なで。
4	土師器壺	口縁部1/3残存 口(22.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にょい橙5YR6/4	口縁部内外面横なで。

81号住居 (図133 PL23・50)

位置 L-88・89グリッド 主軸方位 N65°E

重複 84号住居に後出する。 規模 縦4.34m 横3.38m 深さ0.21m

形状 長方形

埋没土 ロームブロックが少量混在する黒褐色土。

掘り方 顕著な掘り方は認められなかった。 貯蔵穴 無し

床面 北半部の床面はほとんど硬化していなかった。 周溝 無し

柱穴 住居の四隅に4本の支柱穴を検出した。

遺物出土状態 多くの破片が埋没土中から出土しているが、床面近くでは直上で北壁際に須恵器杯形土器が、南壁付近に須恵器蓋形土器が出土している。またやや床面から浮いた状態であるが、須恵器杯形土器と台付皿形土器が完形に近い形で出土している。

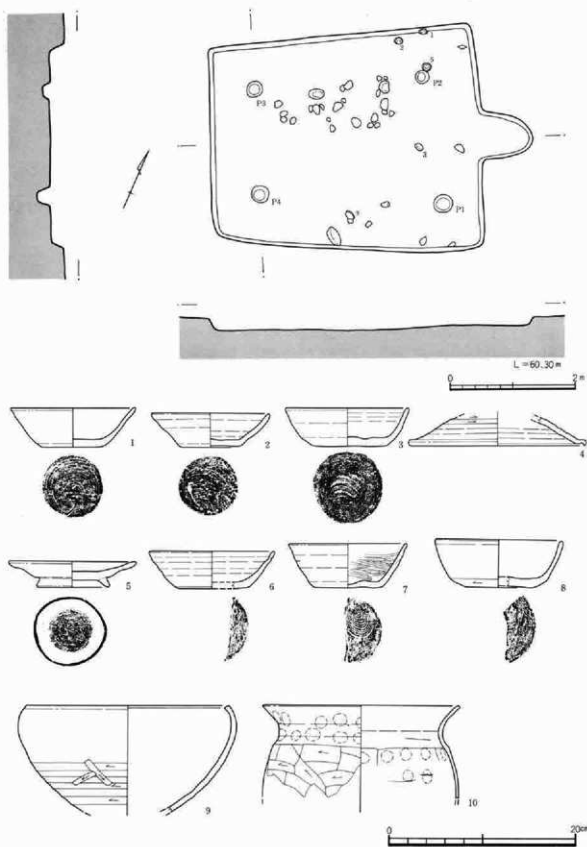


図133 81号住居と出土遺物

II 検出された遺構と遺物

カマド 位置 東壁中央 規模 全長0.88m 最大幅0.80m 焚き口幅0.88m

袖 無し 煙道 0.88mほど壁外にのびる。

遺存状態 ほとんど内面の壁は焼けていない。

遺物出土状態 無し

備考 9世紀前半の住居と考えられる。

81号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	3/4残存 口 13.3cm 底 6.7cm 高 4.1cm	北壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰5YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。体部内外面回転で。
2	須恵器 杯	完形 口 12.5cm 底 6.5cm 高 3.8cm	北壁際 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②灰5Y5/1 ③還元焰。硬質。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。半分は切り難し後、なで痕があり、糸切り痕が消えている。口縁部内外面削で。
3	須恵器 杯	3/4残存 口 13.3cm 底 8.0cm 高 4.1cm	西壁付近 床面上5cm	①微細砂、黒色細粒物を含む。 ②焼灰10YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。回転底部糸切り難し後、肩縁部のみ回転削り。削りとはなで消されている部分がある口縁部から体部内外面削で。
4	須恵器 蓋	口縁～体部1/5残 口 (18.6cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい焼10YR6/4 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。天井部外面回転削り。
5	須恵器 高台付皿	完形 口 13.5cm 底 7.6cm 高 2.7cm	北東隅 床面上8cm	①緻密。 ②灰7.5Y5/1 ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。高台接合時になでられている。体部内外面回転で。
6	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口 (13.4cm) 底 (8.0cm) 高 4.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい焼7.5YR5/3 ③還元焰	回転ロクロ成形。底部切り難し技法は不明。痕跡は切り難し後、なで消されている。
7	ロクロ 土師器 杯	1/2残存 口 (12.6cm) 底 (7.3cm) 高 4.7cm	埋没土中	①細砂を含む。緻密。 ②焼5YR/8 ③酸化焰。硬質。	左回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。切り難し後肩縁のみ手持ち削り。杯部内面削り方向細かい肌つき。二次焼成により炭素の痕跡はほとんどなくなっているが、内黒の土器であると思われる。
8	須恵器 椀	口縁～底部1/4残 口 (13.6cm) 底 (7.2cm) 高 5.0cm	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰10YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。切り難し後体部外面下方から底部肩縁回転削り。口縁部削で。
9	須恵器 鉄鉢形鉢	口縁～体部1/4残 口 (22.0cm)	南壁際 床面直上	①微細砂、金雲母、赤色細粒物を含む。 ②焼灰10YR4/1 ③還元焰	回転ロクロ成形。外面上半で、下半削り方向削り。内面・口縁部削り。縦方向手持ちの痕で。
10	土師器 甕	口縁～体部上位 1/3残存 口 (20.9cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②焼5YR/8	胴部外面削り方向削り。内面削り方向削り。頸部から口縁部内外面削り。胴部外面と胴部内面に顕著に指痕が残る。

82号住居 (図134 PL23・50)

位置 J・K-88・89グリッド 主軸方位 N42°W 重複 無し

規模 縦3.72m 横3.48m 深さ0.25m 形状 台形と考えられる。南壁は発掘区域外である。

埋没土 黒褐色土 掘り方 北にやや傾斜して掘られている。

床面 東壁にあるカマド全面には貼床がみとめられるが、他にはない。

貯蔵穴 東カマドの右脇に長径0.66m、短径0.62m、深さ0.33mを計る隅丸三角形の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴内からは土師器甕形土器が出土している。 周溝 なし

柱穴 4本の主柱穴を検出した。

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4
直径	0.34m	0.26m	0.24m	0.28m
深さ	0.06m	0.09m	0.04m	0.10m

遺物出土状態 埋没土中からの遺物の出土が多い。西壁際と東壁カマド脇に土師器杯形土器がほぼ完形で出土している。

東カマド 位置 東壁ほぼ中央と考えられる。

規模 全長0.50m 最大幅1.08m 焚き口幅0.52m

袖 住居内へ31cmほどのびている。

遺存状態 2～3cmの灰層が残っている。天井部はよく焼けているが、灰面上に落ちている。

遺物出土状態 燃焼部ほぼ中央に支脚と考えられる礎が出土している。

北カマド 位置 北壁中央よりやや東

規模 全長0.64m 最大幅0.62m 焚き口幅0.44m

袖 無し

遺存状態 2～3cmの灰層が残っている。カマドを構築している粘土は土と混ざって崩落している。左の壁の粘土の残りが良い。

遺物出土状態 埋没土上層に土師器甕形土器の破片が出土した。

備考 7世紀中頃の住居と考えられる。

82号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器杯	完形 口 11.5cm 高 3.6cm	北東カマド左脇 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR6/8	底部外面削り。体部外面横方向削り。内面丁寧なで。口縁部内外面横なで。内面には指痕が残る。
2	土師器杯	完形 口 11.0cm 高 3.8cm	北西壁付近 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面削り。体部外面横方向削り。内面丁寧なで。口縁部内外面横なで。内面には指痕が残る。
3	土師器杯	口縁-体部1/4残 口 (17.0cm)	カマド内	①微細砂を含む。 ②にふい橙7.5YR6/4	底部外面横方向削り。内面から口縁内外面横なで。
4	土師器甕	体部-底部3/4残 底 4.0cm	貯蔵穴内とカマド内の破片が接合。	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6	体部外面縦方向、斜方向削り。内面横方向削り。底部外面削り。

II 検出された遺構と遺物

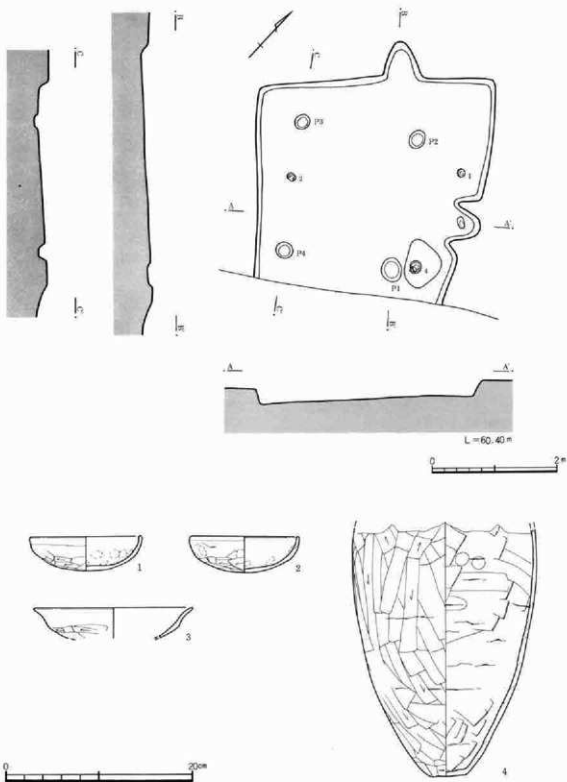


図134 82号住居と出土遺物

83号住居 (図135・136 PL50)

位置 K・L-87グリッド 主軸方位 S69°W

重複 84号住居に先行する。 規模 縦3.90+ α m 横4.46m 深さ0.16m

形状 長方形と考えられる。東壁は84号住居に切られており、不明である。

埋没土 黒褐色土

掘り方 はほぼ平坦に掘られている。中央部がやや高い。

床面 カマド前面の床面は硬化していたが、カマドのない三辺の壁沿い50~60cmは硬化していなかった。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 西壁に平行する2本の支柱穴を検出した。

柱穴No	P 1	P 2
直径	0.53m	0.46m
深さ	0.19m	0.20m

遺物出土状態 比較的多く埋没土から出土している。床面近くでは北壁際で土師器変形土器と杯形土器の破片が床から3cmほど浮いた状態で出土した。

カマド 位置 西壁中央よりやや南寄り 規模 全長1.0m 最大幅1.06m 焚き口幅0.34m

袖 住居内へ78cmほどのびている。 遺存状態 燃焼部壁はあまり焼けていない。

遺物出土状態 燃焼部ほぼ中央に支脚に用いたと考えられる棒状礫が正立して検出された。

備考 6世紀前半の住居と考えられる。

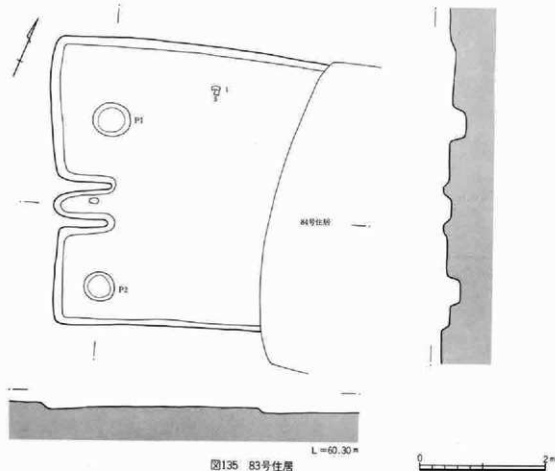


図135 83号住居

II 検出された遺構と遺物

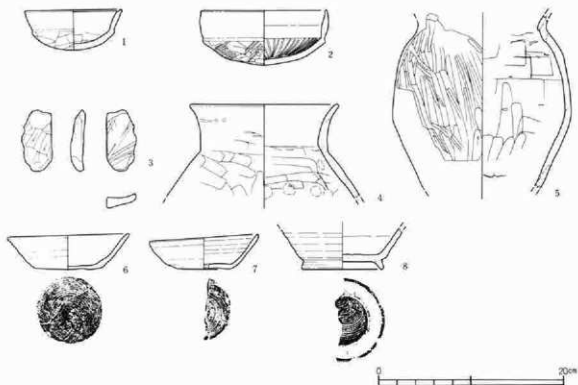


図136 83号住居の出土遺物

83号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	1/4残存 口 10.3cm 高 4.2cm	北壁際	①緻密。 ②暗灰質2.5Y5/2 ③還元焰。硬質	底部外面磨削り。内面荒なで。口縁部横なで。口縁内面端部には横なでによる凹線が付けられている。
2	土師器 杯	1/3残存 口 13.6cm 高 5.8cm	埋没土中	①細砂。石英を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6 ③やや硬質	底部外面磨削り。口縁部には横方向荒磨き。内面丁寧ななでの後、放射状の荒磨き。口縁部横なで。内面の口縁部下縁には強いなで痕で凹線が引かれたようになっている。
3	土師器 転用	底部破片	埋没土中	①微細砂。赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR6/6	内面に放射状の荒磨きがある鉢の破片の厚い断面に断面が観察できる。
4	土師器 甕	口縁～体部上位 1/4残存 口 16.0cm	カマド	①微細砂。角閃石を含む。 ②暗5YR6/6 ③硬質	唇部外面横方向磨削り。内面横方向荒なで。口縁部外面下半横方向荒なでの後。口縁部内外面横なで。
5	土師器 甕	胴～体部下半 1/2残存	北壁際	①微細砂。赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6 におい暗5YR6/4 ③黒斑	胴部外面縦方向磨削り後、縦方向、斜方向の細い荒なで。内面上半横方向荒なで。下半縦方向荒なで。
6	須恵器 杯	ほぼ完形 口 12.9cm 底 7.2cm 高 3.6cm	埋没土中	①緻密。 ②灰質2.5YR7/2 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部回転糸切り難し。無調整。口縁部横なで。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
7	須恵器 杯	1/2残存 口 11.7cm 底 (5.6cm) 高 2.8~3.8cm	埋没土中	①胎土②色調③焼成 ①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰10YR5/1 ③還元焰、硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面。口縁部狭んで。
8	須恵器 高台付椀	体部下位~底部 1/2残存 底 (8.8cm)	埋没土中	①胎土②色調③焼成 ①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。付高台。高台接合部狭んで。口縁部狭んで。

84号住居 (図137・138 PL24・51)

位置 L-87・88グリッド 主軸方位 N81°E

重複 92号住居に後出し、84号住居に先行する。

規模 縦5.7m 横4.86m 深さ0.23m

形状 長方形

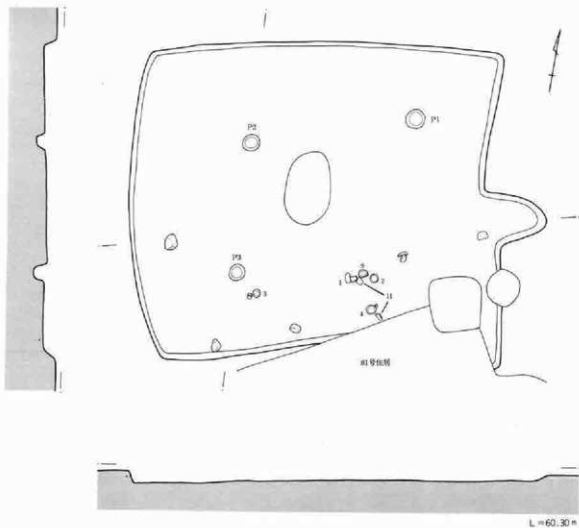


図137 84号住居

0 2m

II 検出された遺構と遺物

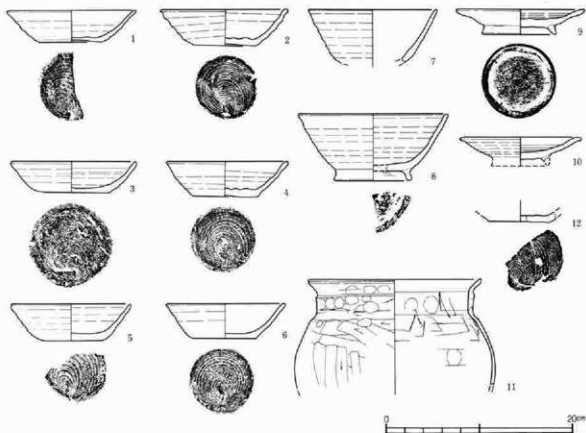


図138 84号住居の出土遺物

84号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器杯	2/3残存 口 12.7cm 底 6.8cm 高 3.3cm	南東隅やや中央寄り 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰、やや硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面横なで。
2	須恵器杯	4/5残存 口 13.4cm 底 6.6cm 高 3.8cm	南東隅中央寄り 床面直上	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰5Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面横なで。
3	須恵器杯	3/4残存 口 13.5cm 底 8.0cm 高 3.3cm	南西隅やや中央寄り 床面上7cm	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面横なで。
4	須恵器杯	完形 口 13.0cm 底 6.6cm 高 3.6cm	南壁付近 床面上12cm	①緻密。白色細粒物を含む。 ②灰N4/ ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面横なで。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	須恵器杯	1/3残存 口(12.8cm) 底(6.0cm) 高3.9cm	カマド埋没土中	①微細砂、白色顔料を含む。 ②灰質N5/ ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面積まで。
6	須恵器杯	口縁-底部2/3残 口(12.6cm) 底6.6cm	埋没土中	①緻密。 ②灰質7.5YR6/1 ③還元焰、やや硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面積まで。
7	須恵器碗	口縁-体部1/4残 口(13.8cm)	埋没土中	①緻密。 ②明赤褐色5YR5/6 ③酸化焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。
8	須恵器高台付碗	口縁-底部1/4残 口(15.6cm) 底(8.3cm) 高7.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰質2.5YR8/4 ③酸化焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。付高台内外面積まで。
9	須恵器高台付皿	4/5残存 口13.8cm 底7.9cm 高2.6cm	南東隅中央寄床面直上	①微細砂を含む。 ②黄灰2.5Y5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。付高台。高台接合部まで。内外面積まで。
10	須恵器高台付皿	2/3残存 高台部欠損 口(12.3cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②黒N1.5/ ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。付高台。高台接合部まで。内外面積まで。
11	土師器壺	口縁-体部1/4残 口(18.3cm)	南東隅やや中央寄と南壁付近の破片接合床面直上	①細砂、金雲母、石英を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面上位置方向削り後、中位縦方向削り。頸部まで。胴部内面横方向まで。頸部まで。口縁部内外面積まで。頸部内外面には指痕が残る。
12	須恵器初鉢	直径7.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰質2.5YR6/2 ③還元焰、やや硬質	須恵器杯形土器を転用している。底部回転糸切り難し痕が残る。底部破片のほぼ中央に直径6mmの小孔が外面側から穿たれている。

埋没土 黒褐色土

掘り方 カマド前面は高く掘られている。床面は比較的平坦である。

床面 住居中央部から北東部分に硬化面が顕著である。

貯蔵穴 カマド右脇に長径0.87m、短径0.81mを計る隅丸長方形の貯蔵穴を検出した。

周溝 無し

柱穴 3本の主柱穴を検出したが、南東隅の1本は未検出である。

遺物出土状態 埋没土中の遺物が多く出土している。床面近くの遺物は住居南東部に集中している。図138に図示した須恵器杯形土器や土師器壺形土器が出土している。

カマド 位置 東壁ほぼ中央 規模 全長1.08m 最大幅0.84m 焚き口幅0.72m

袖 無し 煙道 0.9mほど住居外へのびる。

遺存状態 カマド内面壁はあまり焼けていない。

遺物出土状態 無し

備考 9世紀後半の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

85号住居 (図139 PL24・51)

位置 M-88・89グリッド 主軸方位 N7°W

重複 88号住居、89号住居に後出する。 規模 縦3.28m 横4.32m 深さ0.2m

形状 長方形を呈する。カマド前から住居中央部は直径2mを越える新しい井戸により床面を壊されている。

埋没土 黒褐色土

掘り方 ほほ平坦に掘られており、壁沿いは浅くなっているが、中央部には後世の井戸が掘られているために詳細は不明である。 貯蔵穴 無し 柱穴 無し

床面 住居の西壁と東壁付近に硬化面が顕著である。

周溝 西壁と南壁沿いに検出された。幅0.22m、深さ0.07mを計る。

遺物出土状態 埋没土中からは土器破片が比較的多く出土している。また、図139-1の土師器杯形土器が北壁際床面直上で、2の土師器杯形土器が東壁際第一次埋没土中で出土している。

カマド 位置 北壁中央やや東寄り 規模 全長1.08m 最大幅0.78m 焚き口幅0.46m

袖 棒状の川原石を立てて、両側とも袖にしている。

煙道 90cmほど住居外へのびている。 遺存状態 袖は良く残っている。

遺物出土状態 燃焼部中央に土師器甕形土器の破片が出土した。

備考 8世紀前半の住居と考えられる。

85号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器杯	ほぼ完形 口 14.0cm 高 4.0cm	東壁付近 床面上9cm	①微細砂を含む。 ②橙SYR6/6	底部外面荒削り。杯部外面で。内面丁寧な横なで。口縁部内外面横なで。内面には指痕が残る。
2	土師器杯	ほぼ完形 口 13.2cm 高 (3.4cm)	東壁付近 床面上9cm	①微細砂を含む。 ②明赤褐SYR5/6	底部外面荒削り。杯部外面で。内面丁寧な横なで。口縁部内外面横なで。内面には指痕が残る。口縁内面端部は玉縁状に肥厚する。
3	土師器杯	完形 口 12.8cm 高 3.5cm	カマド右壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②にぶい赤褐SYR5/4	底部外面荒削り。杯部外面横方向なで。内面丁寧な横なで。口縁部内外面横なで。内面には指痕が残る。口縁内面端部は玉縁状に肥厚する。
4	土師器甕	口縁～体部上半 2/5残存 口 (22.5cm) 胴 (21.2cm)	カマド焚き口 床面直上	①細砂を含む。 ②橙SYR6/6	胴部外面斜方向荒削り。最上位横方向荒削り。内面横方向なで。口縁部には内外面横なで。
5	土師器甕	ほぼ完形 口 21.8cm 底 (5.1cm) 高 30.0cm	カマド焚き口 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙SYR7/8	胴部外面下半斜方向荒削り。上半横方向荒削り。内面横方向なで。内面上半には指痕が残る。口縁部内外面横なで。
6	土師器甕	口縁部破片 口 (22.7cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙SYR6/8	胴部外面横方向荒削り。口縁部は内外面横なで。
7	土師器甕	胴部上位～底部 1/3残存 底 (6.7cm) 胴 (23.6cm)	カマド内	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	胴部上位横方向荒削り。下半斜方向荒削り。内面横方向なで。内面には指痕が残る。

2. 住居跡

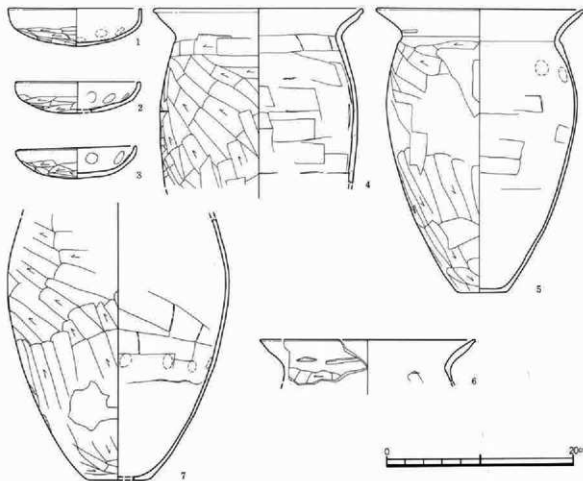
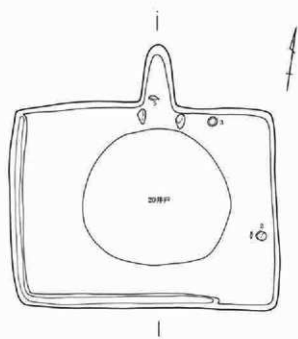


図139 85号住居と出土遺物

II 検出された遺構と遺物

86号住居 (図140・141 PL24・51)

位置 M・N-89グリッド 主軸方位 西壁方向N9°W

重複 87号住居に先行する。 規模 縦4.14m 横2.84+αm 深さ0.30m

形状 方形と考えられる。東壁は87号住居に切られている。

埋没土 黒褐色土

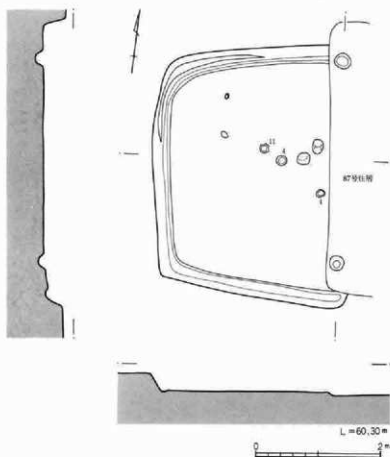
掘り方 深い掘り方であり、壁面は直立している。特に東南部が深く掘られている。

床面 あまり硬い床面ではない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 調査できた壁に周溝は全周していた。幅0.15~0.28m、深さ0.02~0.04mを計る。

柱穴 無し



遺物出土状態 多くの埋没土中の遺物が出土しているが、床面直上の遺物は少ない。図示した須恵器の杯形土器や椀形土器は20cmほど床面から浮いている。

カマド 調査範囲の中では検出されなかった。

備考 8世紀後半の住居と考えられる。

図140 86号住居

86号住居出土遺物観察表

番号	種類	量目	出土位置	①胎土②色調③地成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	3/4残存 口 13.3cm 底 9.0cm 高 3.3cm	中央部 床面上22cm	①緻密。 ②にふい焼7.5YR6/3 ③酸化焙	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。底部切り離した後、底部外面全面回転削り。杯部内外面、口縁部内外面横なで。

2. 住居跡

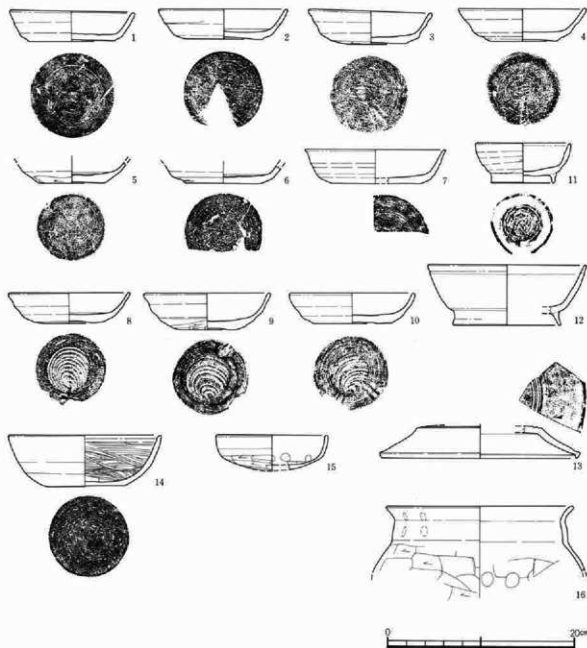


図141 86号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	須恵器 杯	1/2残存 口 (13.4cm) 底 8.5cm 高 3.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰7.5YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面回転削り。杯部内外面、口縁部内外面横なで。
3	須恵器 杯	口縁～底部1/2残存 口 (13.2cm) 底 8.0cm 高 3.8cm	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰7.5YR5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転未切り難し。切り難した後中央の一部を除いて回転削り。杯部内外面、口縁内外面横なで。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
4	須恵器 杯	3/4残存 口(13.5cm) 底 7.0cm 高 3.4cm	中央部 床面上27cm	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰白5YR5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面回転削り。杯部内外面、口縁部内外面削りなで。
5	須恵器 杯	体部下位～底部残 底 7.1cm	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、杯部下部と底部外面全面回転削り。杯部内外面削りなで。
6	須恵器 杯	底部3/4残存 底 8.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面回転削り。杯部内外面削りなで。
7	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口(14.9cm) 高 3.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y4/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面回転削り。杯部内外面削りなで。
8	須恵器 杯	口縁～底部1/2 口(12.8cm) 底 5.3cm 高 3.2cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②灰5YR5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。底部切り難した後、周縁回転削り。杯部内外面削りなで。
9	須恵器 杯	1/3残存 口(13.3cm) 底 6.1cm 高 3.9cm	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む。 ②灰5Y4/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。底部切り難した後、周縁回転削り。杯部内外面削りなで。
10	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口(13.2cm) 底(8.3cm) 高 3.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰5Y5/ ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。底部切り難した後、周縁回転削り。杯部内外面削りなで。
11	須恵器 高台付碗	5/6残存 口 10.1cm 底 6.8cm 高 4.2cm	中央部 床面上16cm	①微細砂を含む。 ②灰5YR6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。付け高台高台接合部なで、杯部内外面削りなで。
12	須恵器 高台付碗	口縁～高台1/6残 口(16.8cm) 底(11.4cm) 高 6.4cm	埋没土中	①緻密。 ②灰白7.5Y7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成整形。付け高台。口縁部外面に強いなでによる溝がつけられている。
13	須恵器 蓋	天井～口縁部破片 口(20.8cm)	埋没土中	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰5Y5/1 ③還元焰。硬質	左回転ロクロ整形?内外面とも回転なで。天井部縁部には二条の凹線が付けられている。
14	ロクロ 土師器 碗	3/4残存 口 16.3cm 底 8.3cm 高 5.4cm	埋没土中	①緻密。 ②橙7.5YR6/6 ③酸化焰。硬質。内黒	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面回転削り。体部外面削りなで内面削り方向の細かい磨き。口縁部削りなで。端部には面とりがされている。
15	土師器 杯	1/4残存 口(11.6cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい橙2.5YR6/4	底部外面削り。内面丁寧ななで。口縁部内外面削りなで。内面には指痕が残る。
16	土師器 甕	口縁～体部1/3残 口(20.0cm)	埋没土中	①細砂、石英、金雲母を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	肩部外面削り方向削り。内面削り方向なで。肩部から口縁部内外面削りなで。肩部外面、肩部内面には指痕が残る。

87号住居 (図142・143 PL24・51)

位置 N-89・90グリッド 主軸方位 N91°W

重複 86号住居に後出する。 規模 縦2.36m 横4.28m 深さ0.35m

形状 長方形

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土

掘り方 凹凸が著しく、カマドのある東壁際が高くなっている。

床面 西半分が顕著な硬化面である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 西壁際に2本の主柱穴を検出した。

柱穴No	P 1	P 2
直径	0.27m	0.27m
深さ	0.12m	0.07m

遺物出土状態 埋没土中の遺物は比較的少ない。西壁際には床面から10cm前後浮いた状態で土師器杯形土器、須恵器杯形土器、土師器変形土器が出土した。住居中央やや北寄りに床面直上で土師器変形土器が出土した。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.71m 最大幅0.86m 焚き口幅0.38m

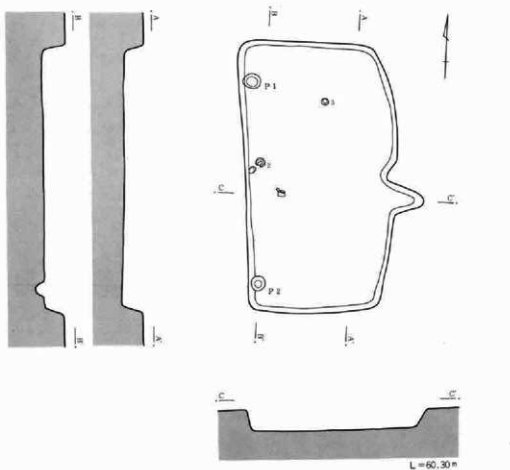


図142 87号住居

II 検出された遺構と遺物

袖 やや住居の内側に突出している。

煙道 50cmほど住居壁外へのびている。

遺存状態 カマド内面はあまり焼けていない。カマド手前に焚き口のくぼみが残っている。

遺物出土状態 無し

備考 8世紀後半の住居と考えられる。

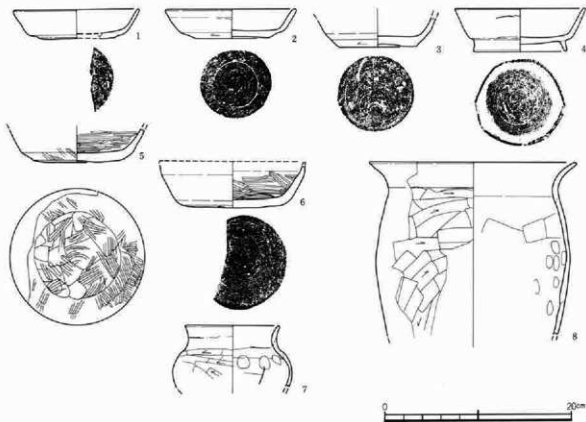


図143 87号住居の出土遺物

87号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵鉢 杯	口縁～底部1/3残 口 13.2cm 底 8.2cm 高 3.0cm	埋没土中	①微細砂、金雲母を含む。 ②青灰5B6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。底部切り離した後、手持ち磨削。杯部内外面回転などで。
2	須恵鉢 杯	1/2残存 口 14.0cm 底 8.0cm 高 3.1cm	西壁際 床面上14cm	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰7.5YR5/1 ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。底部切り離した後、底部外面全面回転磨削。杯部内外面回転などで。
3	須恵鉢 杯	体部下位～底部 底 8.2cm	中央部やや北 寄り 床面上	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し。底部切り離した後、周縁回転磨削。杯部内外面回転などで。

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
4	須恵器 高台付椀	1/2残存 口 (14.0cm) 底 10.0cm 高 4.5cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白7.5Y7/1 ③還元焼	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。底部切り難し後、中央の一部を除いて回転寛削り。付高古。高台複合部などで。杯部内外面とも回転などで。
5	ロクロ 土師器 杯	口縁部欠損 底 9.6cm	埋没土中	①緻密。 ②にぶい橙5YR6/4 ③酸化焼。内黒	回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。底部切り難し後、中央部を除いて手持ち寛削り。杯部には外面から底部外面の一部には細かい寛磨きが看取できる。内面横方向の細かい寛磨き。内黒焼成は二次的に酸化され変色している部分がある。
6	ロクロ 土師器 杯	口縁一底部1/2 口 (15.5cm) 底 10.5cm 高 (4.5cm)	埋没土中	①緻密。 ②明赤褐5YR5/6 ③酸化焼。硬質	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難し後、底部外面全面回転寛削り。杯部外面回転などで内面横方向細かい寛磨き。
7	土師器 古付甕	口縁一底部上半 1/4残存 口 (10.0cm)	埋没土中	①微細砂、角閃石を含む。 ②橙2.5YR6/6	胴部外面横方向寛削り。内面横方向などで。頸部から口縁部内外面などで。
8	土師器 甕	口縁一底部上半 口 (22.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面横方向寛削り。胴部下半斜方向寛削り。胴部内面横方向などで。口縁部分が内外面横などで。内面には指痕が残る。

88号住居 (図144・145 PL24)

位置 M-89グリッド

主軸方位 N42°E

重複 85号住居、86号住居に先行し、89号住居に後出する

規模 縦2.70m 横2.70m 深さ0.1m

形状 正方形を呈すると考えられるが、重複住居によって壊されているために西壁、南壁が一部検出できなかった。

埋没土 黒褐色土

掘り方 平坦であった。

床面 貼床は顕著に認められなかった。

貯蔵穴 不明

周溝 調査可能範囲では未検出

柱穴 調査可能範囲では未検出

遺物出土状態 出土遺物は少ない。床面近くの遺物も検出されなかった。

カマド 不明

備考 出土遺物から、住居の時期を特定することは困難である。

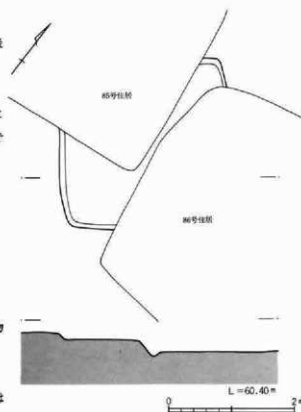


図144 88号住居

II 検出された遺構と遺物



図145 88号住居の出土遺物

88号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁部破片 口 11.7cm	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②明赤褐色2.5YR5/5	外面などの後、横方向荒磨き。内面などの後、縦方向斜方向荒磨き。
2	須恵器 杯	ほぼ方形 口 13.0cm 底 7.0cm 高 3.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白N7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部外面回転切り磨し。切り磨し後、骨い手持ちなどで調整。

89号住居 (図146・147 PL24・51)

位置 M・N-88・89グリッド 主軸方位 南西壁北半方向N37°W

重複 85号住居、88号住居、AH241号住居に先行する。

規模 縦4.7m 横5.3m 深さ0.13m 形状 長方形。南東壁と北西隅は重複住居で壊されている。

埋没土 黒褐色土 掘り方 浅く、底面は平坦である。

床面 硬化面は認められず、床面は軟弱である。貯蔵穴 不明 周溝 無し

柱穴 住居内には4本のピットが検出されたが、柱穴となるのはP1だけと考えられる。

柱穴No P1 直径 0.28m 深さ 0.12m

遺物出土状態 埋没土中からの出土遺物がかなり多い。また、住居東隅に土師器壺形土器、埴形土器などが床面直上で出土している。カマド 不明 備考 5世紀前半の住居と考えられる。

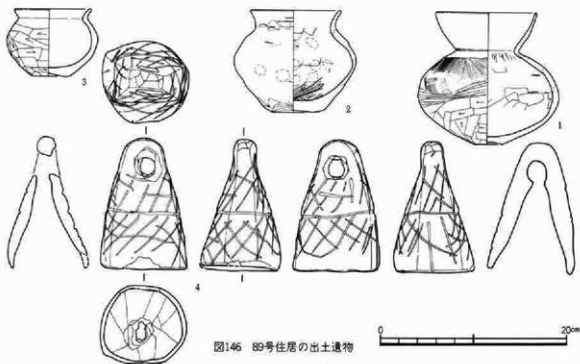


図146 89号住居の出土遺物

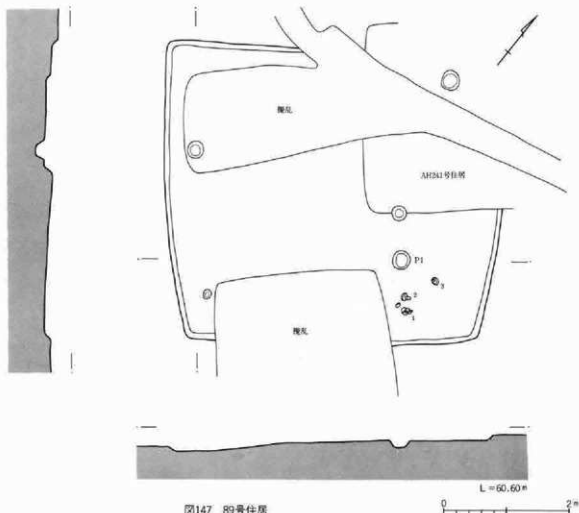


図147 89号住居

89号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 埴	ほぼ定形 口 10.6cm 底 3.0cm 高 14.0cm	東隅 床面直上	①微細砂を含む。 ②赤褐色2.5YR4/6	胴部上半縦方向の刷毛目整形。下半横方向、斜方向の荒削り後、胴部中に横方向のなでを一回させている内面横方向荒なで。口縁部内外面横なで。
2	土師器 小形埴	1/2残存 口 (9.6cm) 底 6.4cm 高 10.8cm	東隅 床面直上	①微細砂を含む。 ②にふい橙5YR6/3	胴部外面下半横方向荒削り。上半なで。下半には指頭痕が残る。底部外面荒なで。胴部内面横方向荒なで。下半部には細い工具による擦痕が見られる。口縁部内外面横なで。胴部半位内外面には指頭痕が残る。口縁内外面横なで。
3	土師器 短頸埴	ほぼ定形 口 8.0cm 底 4.0cm 高 7.2cm	東隅 床面直上	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②明赤褐色2.5YR5/6	胴部外面下半横方向荒削り。上半横方向荒なで。内面横方向荒なで。口縁部内外面横なで。底部外面なで。
4	土製品 土埴	定形 幅 4.7cm 高 7.0cm	壊没土中	①微細砂、雲母を含む。 ②橙7.5YR6/6、上半部は明赤褐色2.5YR5/6	外面はなでの後、斜格子の線割が全面に施こされている。内面は縦方向荒削り。

II 検出された遺構と遺物

90号住居 (図148 PL25)

位置 M・N-86・87グリッド

主軸方位 南西壁方向N48°W

重複 91号住居、AH178号住居、AH189号住居に先行する。

規模 縦5.02m 横5.0m 深さ0.09m

形状 ほぼ正方形

埋没土 砂利混じりの黒色土

掘り方 浅いが、礫層まで掘り込んでいる。

床面 礫層が露出している部分がある。住居中央部にやや軟弱な粘床がある。

貯蔵穴 不明

周溝 無し

柱穴 床面上には4本のピットが検出されているが、本住居に伴うものではない。

遺物出土状態 埋没土中からの出土遺物も少なく8片の土師器破片が出土したにすぎない。これらのなかにはS字状口縁台付変形土器の小破片が含まれている。また床面上の遺物も確認できなかった。

カマド 調査可能範囲では検出されなかった。

備考 住居の形態や出土遺物から4世紀の住居と考えられる。

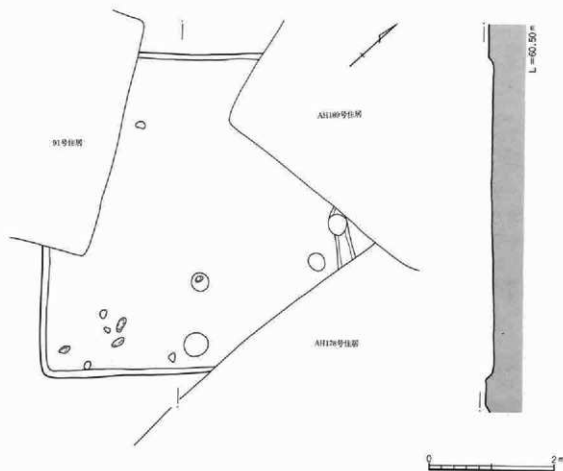


図148 90号住居

91号住居 (図149・150 PL25・52)

位置 M-86・87グリッド

主軸方位 北東壁方向N36°W

重複 90号住居、93号住居に後出し、92号住居に先行する。

規模 縦3.91m 横4.32m 深さ0.08m

形状 正方形を呈すると考えられるが、西壁周辺は壁高がほとんどなく、壁を把えることができなかった。
床面の範囲や柱穴の位置から平面形は推定した。

埋没土 黒褐色土

掘り方 掘り方は礫層にまで達している。底面は浅い凹凸があるが、ほぼ平坦。

床面 地山の礫層が露出しており、しっかりした床面はみられない。

貯蔵穴 無し。北東および南東の壁沿いの土坑は後世の掘り込みである。

周溝 無し

柱穴 4本の主柱穴が検出された。

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4
直径	0.26m	0.28m	0.22m	0.22m
深さ	0.07m	0.11m	0.17m	0.15m

遺物出土状態 埋没土中から遺物が比較的多く出土している。東壁際床面直上で土師器変形土器の破片が出土しているが、図示できなかった。

カマド 無し 炉 検出されていない。

備考 8世紀中頃の住居と考えられる。

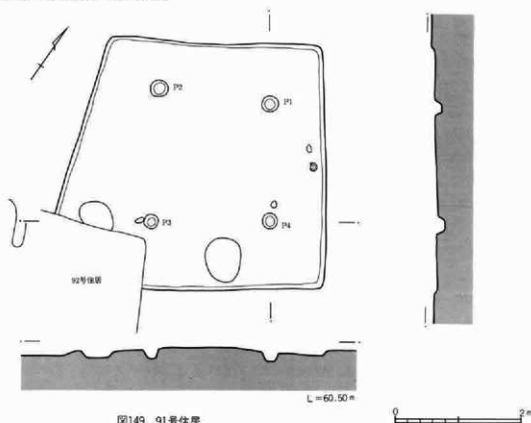


図149 91号住居

II 検出された遺構と遺物



図150 91号住居の出土遺物

91号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～体部1/5残 口 (13.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐色5YR5/6	底部外面丸磨り。内面丁寧なで、口縁部直なで。
2	土師器 杯	口縁～底部1/3残 口 (17.6cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面丸磨り。口縁部下指なで、内面丁寧な横方向 なでの後、口縁部内外面直なで。

92号住居 (図151 PL25・52)

位置 L-87グリッド 主軸方位 N26°W

重複 91号住居、93号住居に後出し、83号住居、84号住居に先行する。

規模 縦4.24±αm 横4.70m 深さ0.11m

形状 方形を呈する。南壁は重複住居によって壊されており、全体の形状は不明である。

埋没土 黒褐色土

掘り方 地山の礫層まで掘られている。底面は平坦である。

床面 中央付近に硬化面が見られる。

貯蔵穴 カマド右脇、住居北隅に検出された。長径0.66m、短径0.60mを計る楕円形を呈し、深さは0.32mである。

周溝 無し

柱穴 貯蔵穴と考えられるもの以外に6本のピットが検出されている。柱穴の理想的な位置からはすこしずつずれている。特にP1はカマドに近接しており、柱穴かどうかは断定できない。また北隅の柱穴は検出されていない。

柱穴No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
直径	0.32m	0.46m	0.42m	0.44m	0.38m	0.52m
深さ	0.23m	0.27m	0.45m	0.38m	0.21m	0.34m

遺物出土状態 埋没土中からの遺物は比較的少ない。住居北隅からは図151-2、4の須恵器蓋形土器、土師器杯形土器が床面直上で出土している。西壁際からは土師器杯形土器が床面直上で出土している。P3、P5内からは土師器変形土器の破片が出土している。

カマド 位置 南西壁ほぼ中央

規模 全長0.84m 最大幅1.04m 焚き口幅0.34m

袖 50cmほど住居内にのびる。

煙道 住居の壁を利用している構造である。

遺存状態 天井は崩落し、焼土は若干残っていた。

遺物出土状態 無し

備考 7世紀後半の住居と考えられる。

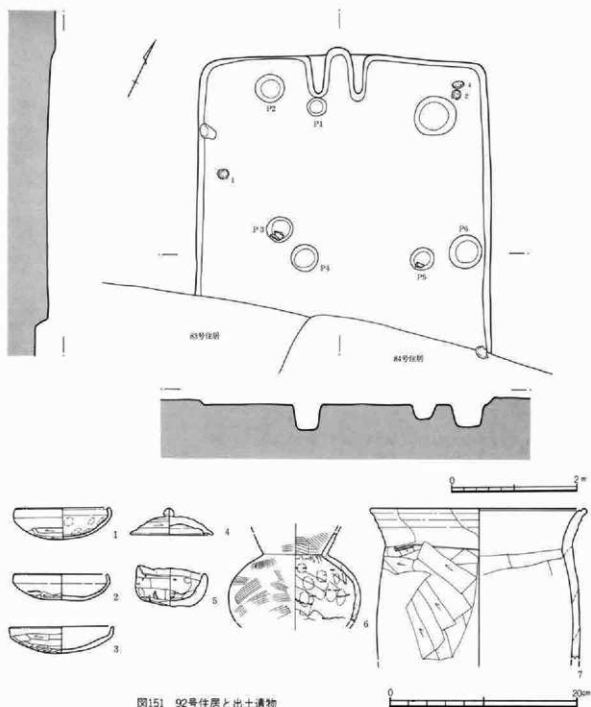


図151 92号住居と出土遺物

92号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	突形 口 9.9cm 高 3.3cm	西壁付近 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR7/6	底部外面磨削り。内面丁寧な横方向のなでの後、口縁部内外面横なで。内面には指痕底が残る。
2	土師器 杯	ほぼ突形 口 9.7cm 高 2.8cm	北東隅壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面磨削り。内面丁寧な横方向のなでの後、口縁部内外面横なで。内面には指痕底がかすかに残る。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
3	土師器 杯	1/4残存 口 (11.0cm) 高 2.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面旋削り。内面横方向なで。口縁部横なで。
4	須恵器 蓋	ほぼ定形 口 8.8cm 高 2.8cm	北東隅壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。天井部外面回転削り。内面丁寧な回転なで。返りをつくりだしている。口縁部丁寧な横なで。宝珠形のつまみを付けている。
5	土師器 小形粗製 土器	定形 口 7.6cm 底 6.0cm 高 3.4~4.3cm	埋没土中	①赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	いわゆる手づくおのミニチュア土器。指による整形痕が顕著に残る。底部外面には木葉痕も残っている。
6	土師器 埴	口縁~体部上半 1/4残存	南東壁際	①微細砂、金雲母、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面には横方向刷毛目整形の後、横方向なで。内面斜方向なで。口縁部内外面横なで。内面には指痕が残る。
7	土師器 甕	口縁~体部上位 1/5残存 口 (23.2cm) 胴 (21.6cm)	埋没土中	①細砂、白色細粒物を含む ②にぶい黄橙10YR7/3	胴部外面斜方向旋削り。内面横方向なで。口縁部横なで。

93号住居 (図152 PL25)

位置 L-85・86グリッド 主軸方位 S79°W

重複 91号住居、92号住居に先行する。 規模 縦6.12m 横5.60m 深さ0.10m

形状 正方形

埋没土 黒褐色土。礫が混在している。

掘り方 掘り方は地山まで達している。底面は平坦である。

床面 床面の殆ど全域にわたって礫が露出している。貼床は認められない。

貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 4本の柱穴を検出した。北東隅に2本確認でき、北西隅の1本は検出できなかった。

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4
直径	0.64m	0.70m	0.52m	0.58m
深さ	0.12m	0.24m	0.21m	0.12m

遺物出土状態 遺物は埋没土中のものであり、床面近くからの遺物は検出されなかった。

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長0.84m 最大幅0.72m 焚き口幅0.66m

袖 無し

煙道 75cmほど住居外へのびる。

遺存状態 天井部は崩落し、焼土はほとんど残っていない。

遺物出土状態 無し

備考 不明

2. 住居跡

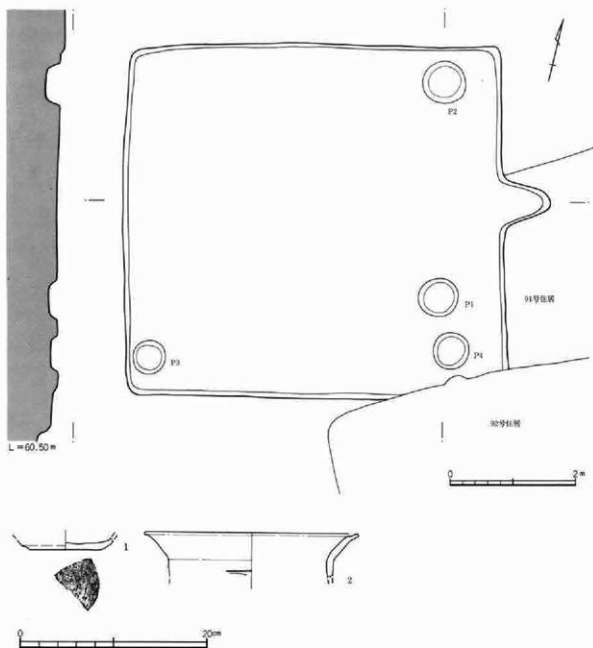


図152 93号住居と出土遺物

93号住居出土遺物観察表

番号	群 種	量 目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵部 杯	底部破片 底 (9.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰質2.5YR7/2 ③埋光焼	右回転クロ成。底部切り離し技法不明。底部切り離した後、底部外面全面回転磨削。
2	土師砂 甕	口縁部破片 口 (22.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にょい赤褐色5YR5/4	内外面磨んで。

II 検出された遺構と遺物

94号住居 (図153・154・155 PL25・52)

位置 L・M-84・85グリッド 主軸方位 N32°W

重複 97号住居に後出し、95号住居に先行する。 規模 縦4.85m 横4.88m 深さ0.28m

形状 正方形 埋没土 黒褐色土。礫が混在する。

掘り方 掘り方は礫層にとどめている。底面は平坦である。

床面 顕著な硬化面は認められない。 周溝 無し

貯蔵穴 南東隅の楕円形のピットが貯蔵穴の可能性があるが位置的には主柱穴と考えた方が妥当と思われる。

柱穴 3本の主柱穴が確認された。北西隅の1本は、95号住居に本号住居の床面が壊されているため検出できなかった。

柱穴Na	P 1	P 2	P 3
直径	0.38m	0.55m	0.81×1.02m
深さ	0.20m	0.13m	0.20m

遺物出土状態 東壁付近に床面直上で多くの完形土器が出土している。土師器甕形土器と瓶形土器が二個体ずつと壺形土器が二個体である。杯形土器や碗形土器は埋没土中に破片で出土しているが、ほとんどが破片で、図示できたのは図154の1だけである。

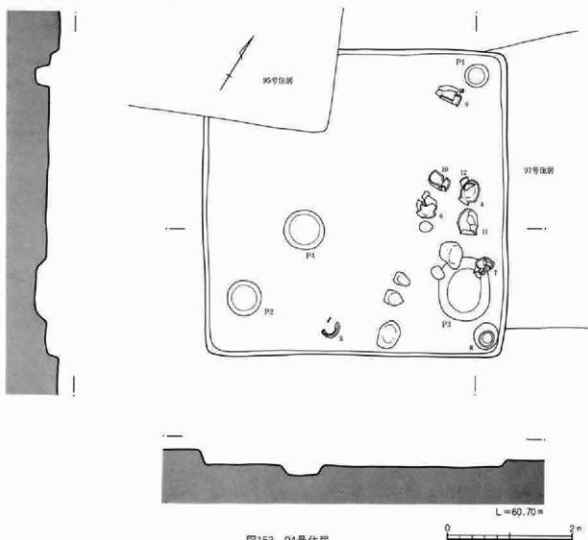


図153 94号住居

カマド 確認できた部分にはカマドは検出されなかった。

炉 P4が炉跡の可能性がある。直径0.66m、深さ0.14mの円形を呈する。

備考 5世紀中頃の住居と考えられる。

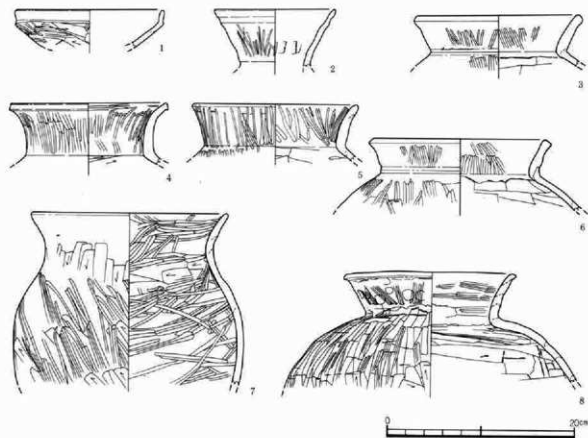


図154 94号住居の出土遺物(1)

94号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁一体部1/4残 口 (15.6cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②橙2.5YR6/6	底部外面斜方向の荒削り後、横方向、斜方向の荒磨き 内面横方向なで。口縁部内外面横なで。
2	土師器 埴	口縁部破片 口 (12.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	外面丁寧な横なでの後、縦方向の荒磨き。内面下半横 方向荒なで。上半横なで。頸部接合部内面横なで。口 縁部内外面横なで。
3	土師器 甕	口縁部1/2残存 口 (18.0cm)	南東部壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6 ③硬質	胴部外面なでの後、縦方向荒磨き。内面横方向荒なで 口縁部内外面とも横なで後縦方向荒磨き。
4	土師器 甕	口縁部2/3残存 口 (16.8cm)	東部 床面直上	①微細砂、角閃石、赤色結 核物を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面なで。内面横方向荒削り。口縁部内外面横な での後、外面縦方向荒磨き。内面上部横方向荒磨き。 下半縦方向荒磨き。口縁部外面には面とりがされて いる。
5	土師器 甕	口縁部1/3残存 口 (17.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6 ③硬質	口縁部外面丁寧な横なでの後、縦方向荒磨き。内面丁 家な横なでの後、縦方向荒磨き。胴部内面横方向荒な で。

II 検出された遺構と遺物

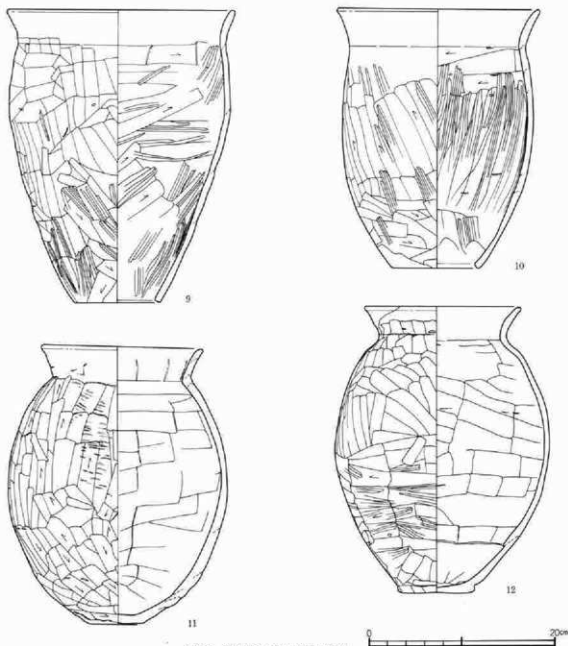


図155 94号住居の出土遺物(2)

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
6	土師器 壺	口縁一帯部上位 1/4残存 口 18.2cm	東部 床面直上	①微細砂、角閃石、石英を 含む。 ②明赤褐色2.5YR5/6 ③硬質	胴部・胴部・口縁部外面丁寧なまでの後、口縁部・胴 部縦方向荒磨き。胴部内面横方向荒なで、口縁部内面 横なで後、縦方向荒磨き。口縁部外面端部には絞縁が 明瞭につくられ、整形されている。
7	土師器 壺	口縁一帯部上半 1/2残存 口 21.0cm	東部ピット内 床面直上	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②褐色5YR5/6	胴部外面縦方向荒磨り後、部分的に縦方向荒磨き。内 面横方向荒なで、口縁部内面横方向荒磨き。
8	土師器 壺	口縁一帯部上半 口 18.3cm	東隅壁際 床面直上	①微細砂、雲母、角閃石、 石英を含む。 ②にょい黄褐色10YR6/4 ③硬質	口縁部外面横なで後、縦方向荒磨き。胴部上半縦方向 荒磨り。胴部内面横方向荒なで、口縁部内面横なでの 後、横方向荒磨き。

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
9	土師器 甕	定形 口 24.3cm 底 9.2cm 高 31.0cm 胴 23.5cm	南東部壁際と 北隣の破片が 接合 床面直上	①微細砂を含む。 ②明赤釉2.5YR5/6	胴部外面縦方向・横方向両削り後、部分的に縦方向磨き。内面横方向・斜方向磨きなどで、縦方向磨き。口縁部内外面横まで。
10	土師器 甕	ほぼ定形 口 21.3cm 底 9.0cm 高 27.3cm	東部 床面直上	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙2.5YR6/8	胴部上半縦方向削り。下半横方向削り。部分的に縦方向磨き。内面下半縦方向磨き。上半横方向磨き。ほとんど全面的に縦方向磨き。口縁部内外面横まで。
11	土師器 甕	ほぼ定形 口 17.1cm 底 5.5cm 高 29.5cm	東部 床面直上	①細砂、白色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面縦方向削り。最下端横方向削り。胴部内面。口縁部内面横方向磨き。口縁部分的に内外面横まで。
12	土師器 甕	口縁～底部2/3残 口 (16.3cm) 底 8.2cm 高 30.4cm	東部 床面直上	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	胴部から胴部外面上半縦方向削り。下半横方向削り。最下端縦方向削り。下半にはその後部分的に横方向の磨きが施されている。口縁部内外面横まで。

95号住居 (図156 PL25・52)

位置 L-83・84グリッド

主軸方位 N26°W

重複 94号住居に後出する。

規模 縦3.9m 横3.56m 深さ0.22m

形状 長方形

埋没土 礫が混在する黒褐色土。

掘り方 床面に地山の礫層が露出しており、掘り方は特に施設されていない。底部中央部が低くなっている。

床面 地山の礫層が露出している。貼床もつくられておらず、顕著な硬化面は認められない。

貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 4本の主柱穴が検出された。

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4
直径	0.28m	0.36m	0.42m	0.28m
深さ	0.18m	0.19m	0.24m	0.14m

遺物出土状態 埋没土中からの遺物が多く、床面直上で出土した遺物はない。住居東半分には土師器の甕形土器、壺形土器、高杯形土器、埴形土器などがやや大きな破片で、床面から15～20cmほど浮いた状態で出土している。

カマド 無し

炉 不明

備考 5世紀中頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

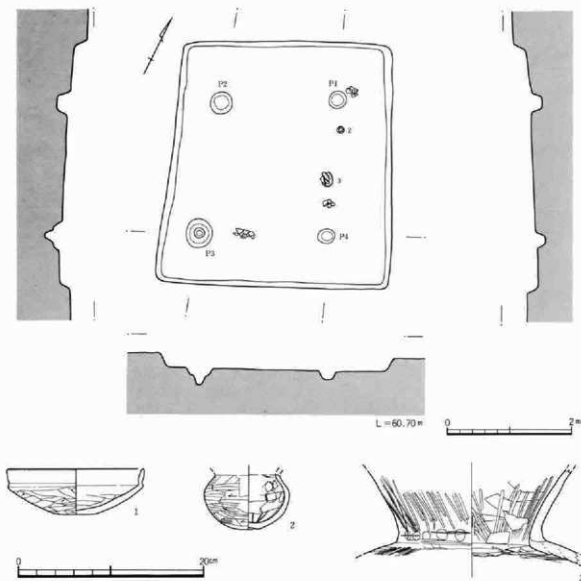


図156 95号住居と出土遺物

95号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/2残 口 (14.6cm) 底 (4.5cm) 高 4.8cm	埋没土中	①微細砂、角閃石を含む。 ②橙5YR6/6	杯部外面磨削り。内面横方向磨などで、口縁部内外面横などで、底部外面磨削り。
2	土師器 埴	体部～底部1/2 底 2.0cm	北隅 床面上17cm	①微細砂、角閃石、赤色細 粒物を含む。 ②灰黄7.5YR4/2	体部下半横方向磨削り。上半縦方向細かい刷毛目整形 のような磨などで。後、体部中位から下半にかけて横方 向の磨削き。内面横方向磨などで。上半には指頭痕が残 る。底部外面などで。
3	土師器 甕	頸部～口縁部下半 2/3残存	中央部東寄り 床面上16cm	①微細砂を含む。 ②に濃い橙7.5YR6/4 ③硬質	頸部外面などの後、縦方向磨削き。頸部外面横方向な で、口縁部外面磨などの後、縦方向磨削き。頸部内面 頸部内面横方向磨削り。口縁部内面横などで、頸部内外 面には指頭痕が残る。

96号住居 (図157 PL25・52)

位置 M・N-84グリッド 主軸方位 南西壁方向N46°W

重複 97号住居に後出し、AH200号住居に先行する。 規模 縦4.70m 横4.38m 深さ0.08m

形状 台形に近い正方形。北東隅はAH200号住居に切られていて不明である。

埋没土 礫層が混在する黒褐色土。

掘り方 地山の礫層まで掘られており、底面は平坦である。

床面 床面全面に礫が露出している。

貯蔵穴 調査できた床面の範囲では検出できなかった。

周溝 無し 柱穴 無し

遺物出土状態 埋没土中から遺物が多く出土している。床面直上の遺物は図示できなかったが、土師器変形土器の底部破片が出土している。

カマド 調査範囲では確認できなかった。AH200号住居に壊されている北東壁に付設されていると考えられる。

備考 6世紀初め頃の住居と考えられる。

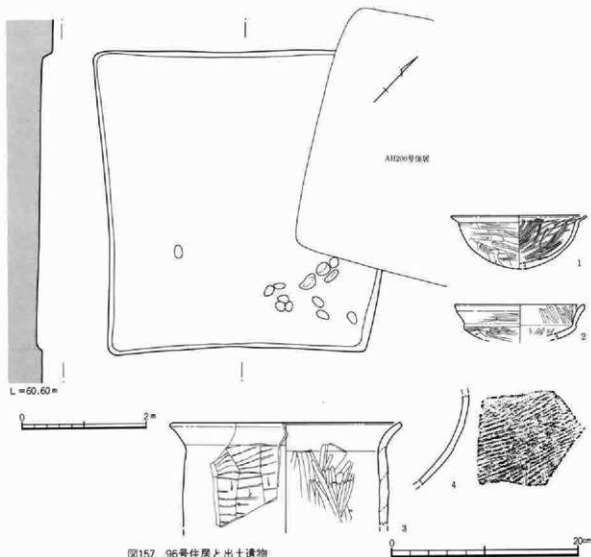


図157 96号住居と出土遺物

II 検出された遺構と遺物

96号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/5 口 (14.4cm) 高 (5.7cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②赤褐色10R4/4	杯部外面彫り後、横方向荒磨き。内面丁寧なまでの後、放射状の荒磨き。口縁部内外面横なで。
2	土師器 杯	口縁部1/4残存 口 (14.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふいね5YR6/4	底部外面彫り後、横方向荒磨き。口縁部外面内面なでの後、横方向荒磨き。内面なでの後、口縁部斜方向荒磨き。杯部放射状の荒磨き。
3	土師器 瓶	口縁部破片 口 (25.0cm) 胴 (22.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふいね10YR7/3	胴部外面縦方向彫り。内面なで。口縁部内外面横なでの後、胴部内面縦方向荒磨き。
4	土師器 甕	胴部破片	埋没土中	①細砂を含む。 ②にふいね5YR6/6 ③酸化焰	幅の広い刷毛目状の整形痕が看取できる。平行叩き目のような印象を与える。

97号住居 (図158 PL26)

位置 M-84・85グリッド

主軸方位 N43°W

重複 98号住居に後出し、94号住居、96号住居、99号住居に先行する。

規模 縦4.66m 横3.28+αm
深さ0.05m

形状 方形を呈すると考えられるが、南西壁が94号住居に壊されているために確認できていないので詳細は不明である。

埋没土 礫を混在する黒褐色土

掘り方 調査範囲では掘り方は地山の礫層までとどいており、底面はほぼ平坦である。

床面 礫がまばらに露出。

貯蔵穴 無し

周溝 無し

柱穴 不明

遺物出土状態 出土遺物はきわめて少ない。土師器胴部破片10片が出土しただけである。時期を示すような特徴的な破片はない。

カマド 調査範囲では検出されていない。

備考 不明

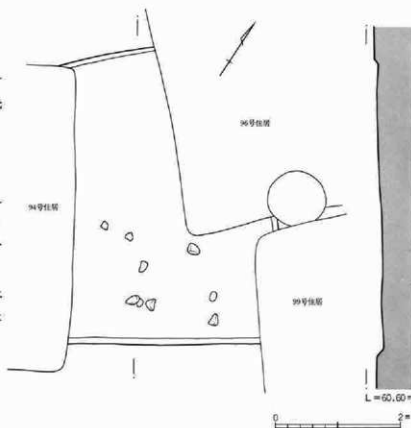


図158 97号住居

98号住居 (図159・160 PL26)

位置 N-85グリッド 主軸方位 南西壁方向N38°W

重複 97号住居、99号住居に先行する。規模 縦2.82+am 横1.56+am 深さ0.06m

形状 方形を呈するが、住居の一隅だけの検出であるので、詳細は不明である。

埋没土 礫を混在する黒褐色土。

掘り方 調査範囲では掘り方は地山の礫層までとどいており、底面はほぼ平坦である。

床面 礫層が露出しており、硬化面はない。

貯蔵穴 不明 周溝 無し 柱穴 不明

遺物出土状態 土師器、須恵器破片が30片余出土しただけである。

カマド 不明

備考 不明

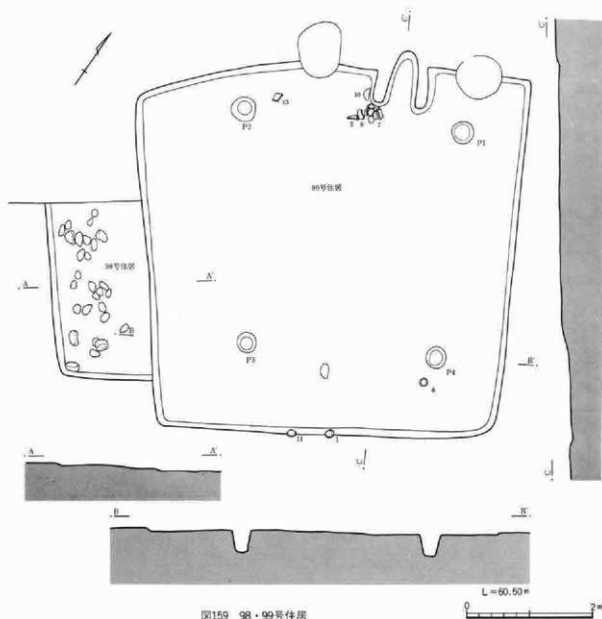


図159 98・99号住居

II 検出された遺構と遺物



図160 98号住居の出土遺物

98号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (11.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR7/6	底部外面寛削り。内面まで、口縁部内外面横まで。

99号住居 (図159 PL26・52・53)

位置 M・N-85・86グリッド 主軸方位 N27W

重複 97号住居、98号住居、103号住居に先行する。

規模 縦5.8m 横5.86m 深さ0.12m 形状 正方形

埋没土 ロームブロックと礫を混在する黒褐色土。

掘り方 調査範囲では掘り方は礫層までとっており、底面はほぼ平坦で東側に傾斜している。

床面 カマド付近には一部貼床がみられるが、軟弱である。全体には礫層が露出しており、硬化面は検出されなかった。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 4本の主柱穴が検出された。

柱穴No.	P 1	P 2	P 3	P 4
直径	0.34m	0.4 m	0.32m	0.32m
深さ	0.11m	0.12m	0.2 m	0.13m

遺物出土状態 カマド周辺と南壁付近に床面近くの遺物が集中している。カマド左前の土師器変形土器は床面直上から、北西壁際の須恵器変形土器や蓋形土器は3cmほど浮いて出土している。南西壁際の須恵器血形土器や土師器杯形土器も床面から3cmほど浮いて出土した。

カマド 位置 北西壁中央やや北寄り

規模 全長1.08m 最大幅1.02m 焚き口幅0.38m

袖 66cmほど住居内にのびている 煙道 35cm住居外へのびている。

遺存状態 袖の基部が残存している。 遺物出土状態 無し

備考 8世紀前半の住居と考えられる。

99号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	完形 口 12.2cm 高 3.9cm	南東壁際 床面上3cm	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面寛削り。内面丁寧などで、口縁部内外面横まで。内面には指痕が残る。
2	土師器 杯	口縁～底部1/3残 口 (12.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5YR6/4	底部外面寛削り。内面まで、口縁部内外面横まで。内面には指痕直が残る。

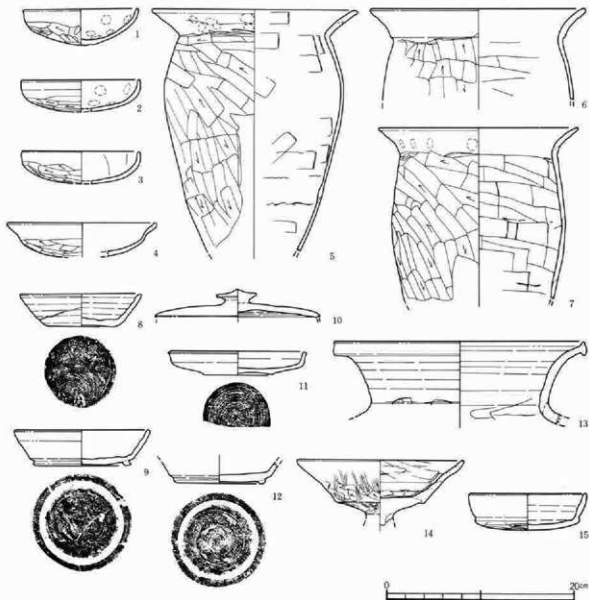


図161 99号住居の出土遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
3	土師器 杯	底部欠損 口 12.5cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR5/6	底部外面削り。内面なで。口縁部内外面横なで。
4	土師器 杯	口縁～体部1/4残 口 (16.0cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②にぶい橙5YR6/4	底部外面削り。内面なで。口縁部内外面横なで。
5	土師器 甕	口縁～体部1/2残 口 22.0cm	カマド左袖際 床面上3cm	①細砂を含む。 ②明赤鈍5YR5/6	胴部外面斜方向削り。内面横方向削りなで。口縁部内外面横なで。口縁部には指頭供が残る。
6	土師器 甕	口縁～体部上位 口 (22.8cm)	カマド左袖際 床面上3cm	①細砂を含む。 ②洗黄橙7.5YR5/3	胴部外面縦方向削り。内面横方向削りなで。口縁部内外面横なで。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
7	土師器 甕	口縁-胴部上半 1/3残存 口 (21.4cm)	カマド左袖際 床面上3cm	①細砂を含む。 ②ふいご5YR7/4	胴部外面縦方向、斜方向荒削り、内面横方向荒なで、口縁部内外面横なで、口縁部外面には指頭痕が残る。
8	須恵器 杯	口縁-底部4/5残 口 12.0cm 底 7.2cm 高 3.4cm	東隅 床面直上	①白色細粒物、金雲母を含む。 ②灰黄褐10YR5/2 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面回転なで。
9	須恵器 高台付碗	3/5残存 口 (14.5cm) 底 9.6cm 高 3.7cm	カマド内	①微細砂を含む。 ②灰白5YR7/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面荒削り。内外面回転なで。付け高台。高台接合部なで。
10	須恵器 蓋	口縁部欠損 3/4残存	カマド左袖際 床面上3cm	①白色・黒色細粒物を含む。 ②灰N5/ ③還元焰、硬質	右回転ロクロ成形。内外面とも丁寧なで。特に外面はよく平滑になでられている。
11	須恵器 盤	1/3残存 口 (14.8cm) 底 7.4cm 高 2.5cm	南東壁際 床面上3cm	①白色・黒色細粒物を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰、硬質	右回転ロクロ成形。内外面とも丁寧なで。口縁端部には上面に面とりがされている。
12	須恵器 高台付碗	底部残存 底 9.8cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難した後、底部外面全面回転荒削り。内外面回転なで。付け高台。高台接合部なで。9と同巧。
13	須恵器 甕	口縁部1/4残存 口 (26.6cm)	カマド左脇 床面上3cm	①黒色細粒物を含む。 ②灰10Y4/1 ③還元焰、硬質	内外面回転なで。断面はセピア色を呈する。
14	土師器 高杯	杯部2/3残存 口 (18.0cm)	埋没土中	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②明赤褐5YR5/6	杯部外面横方向荒削り後、縦方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部内外面横なで。脚部との接合部には接合用の突起が残っている。
15	土師器 杯	1/4残存 口 (12.6cm) 高 4.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰赤2.5YR4/2	底部外面荒削り。内面なで。口縁部内外面横なで。二次焼成を受けている。

100号住居 (図162 PL26・53)

位置 M-83グリッド 主軸方位 N91°E

重複 101号住居に先行する。規模 縦3.74m 横3.46m 深さ0.29m

形状 ほぼ正方形

埋没土 礫を混在する黒褐色土。

掘り方 無し

床面 地山の礫層が露出している。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 南東隅に1本の主柱穴を検出した。

遺物出土状態 カマド燃焼部に土製支脚が出土した。南壁際には土師器杯形土器が8cmほど浮いて出土した。

第一次埋没土に含まれている遺物と考えられ、若干床面から浮いているが、住居に伴うと考えられる。

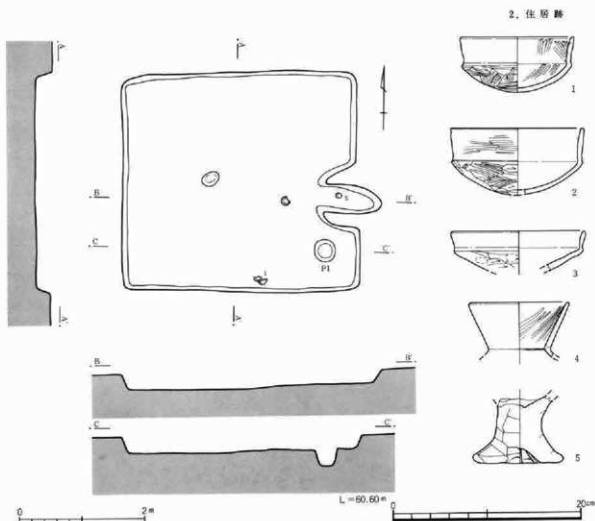


図162 100号住居と出土遺物

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長1.05m 最大幅1.08m 焚き口幅0.3m

袖 48cmほど住居内にのびている。

煙道 36cmほど住居外へのびている。

遺存状態 袖の基部は残存しているが、天井部は崩落している。

遺物出土状態 燃焼部中央に土製支脚が現位置と思われる位置で出土している。

備考 6世紀前半の住居と考えられる。

100号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	ほぼ完形 口 11.9cm 高 5.8cm	南壁際 床面上8cm	①緻密。 ②橙7.5YR6/6	底部外面荒削り。口縁部外面横なで。内面丁寧なで後、口縁部縦方向磨き。底部放射状磨き。
2	土師器 杯	口縁一部1/3残 口 (14.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6 ③硬質	底部外面荒削り。部分的に荒磨き。口縁部外面横なで後、横方向磨き。内面丁寧なで。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
3	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (14.0cm)	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面荒削り。内面丁寧なで、口縁部内外面滑なで。
4	土師器 埴	口縁部1/3残存 口 (10.4cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	口縁部外面横方向荒削り後、縦方向なで。内面横方向なでの後、縦方向荒削り。口縁部内外面滑なで。
5	土製品 支障	上端部欠損 底 9.7cm	カマド内 床面上10cm	①粗砂、白色細粒物、小石を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6 ③軟質	外面滑なで。底部内面荒削り。

101号住居 (図163・164 PL53)

位置 M-83グリッド 主軸方位 N36°E

重複 100号住居に後出する。 規模 縦3.52m 横3.58m 深さ0.20m

形状 正方形

埋没土 黒褐色土。

掘り方 ほぼ平坦に掘られているが、住居中央部はやや深くなっている。

床面 硬化面は見られず、軟弱である。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 4本の主柱穴(P1～3・5)と1本の小ビット(P4)を検出した。

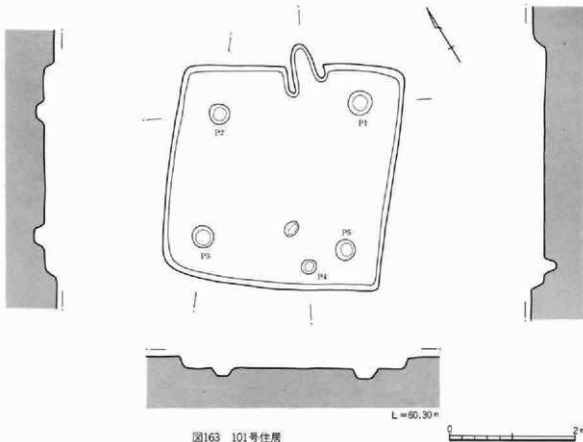


図163 101号住居

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
直径	0.40m	0.32m	0.34m	0.25m	0.32m
深さ	0.18m	0.13m	0.16m	0.18m	0.11m

遺物出土状態 東壁際から土師器杯形土器が床面から44cm浮いた状態で出土している。また同様の型式の杯形土器が埋没土中からはほぼ完形で二個体出土している。

カマド 位置 北東壁ほぼ中央 規模 全長0.88m 最大幅0.76m 焚き口幅0.32m

袖 45cmほど基部が住居内へのびている。煙道 30cmほど住居外へのびている。

遺存状態 天井は崩落していた。焼土は若干残存していた。

遺物出土状態 無し

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。



図164 101号住居の出土遺物

101号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・形状の特徴
1	土師器杯	4/5残存 口 11.7cm 高 3.8cm	カマド前 床面上3cm	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②にふい黄橙10YR7/3	底部外面宛削り後、細い工具による窪で、内面までの後、縦方向の宛磨き。口縁部内外面横で、内面には指擦痕が残る。
2	土師器杯	3/4残存 口 10.8cm 高 3.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふい黄橙10YR6/3	底部外面宛削り。内面で、底部内面には放射状に窪で痕が残る。口縁部横で後、外面縦方向宛磨き。内面横方向宛磨き。
3	土師器杯	3/4残存 口 11.4cm 高 (4.1cm)	埋没土中	①微細砂、角閃石を含む。 ②にふい黄橙10YR7/3	底部外面宛削り。内面横方向窪で後、縦方向の宛磨き。口縁部外面横で。
4	土師器杯	口縁~底部1/4 口 (12.0cm) 高 (4.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふい黄橙10YR6/3	底部外面宛削り。部分的に宛磨き。内面丁家なで、口縁部内外面横で。外面上半縦方向宛磨き。下半横方向宛磨き。

102号住居 (図165 PL26・53)

位置 M-88・89グリッド **主軸方位** 西壁方向N16°W

重複 79号住居、85号住居に先行する。 **規模** 横4.36m 深さ0.11m

形状 方形を呈する。住居のほとんどを後出の住居によって切られているために全体形状は不明である。

埋没土 黒褐色土

掘り方 後出する住居によって切られているが、北壁は直立に掘られている。

床面 後出住居によって切られているため部分的に残存しているが、一部に硬化面が見られるが、やや軟弱である。

貯蔵穴 不明 **周溝** 不明 **柱穴** 不明

II 検出された遺構と遺物

遺物出土状態 完形に接合できる土師器甕形土器が北壁際の床面直上で出土している。

カマド 不明

備考 6世紀後半の住居と考えられる。

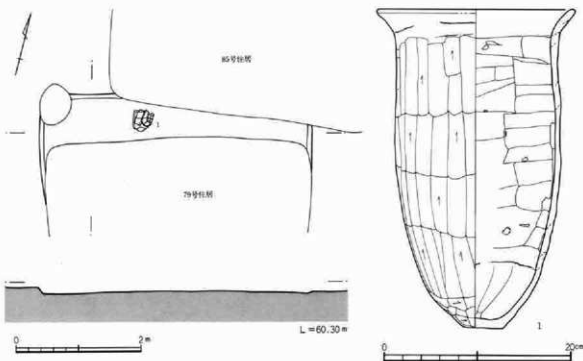


図165 102号住居と出土遺物

102号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 甕	ほぼ完形 口 21.0cm 底 4.2cm 高 33.8cm	北壁付近 床面直上	①中砂、石英、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR7/6	胴部外面縦方向范削り。最下頸横方向范削り。内面横方向范削り。口縁部内外面横削り。底部外面范削り。

103号住居 (図166 PL26・53)

位置 M・N-86グリッド **主軸方位** 東壁方向N27E

重複 99号住居に先行し、90号住居、AH189号住居に後出する。

規模 縦4.32m 横4.74m 深さ0.13m **形状** 長方形

埋没土 礫を混在する黒褐色土。

掘り方 調査範囲では、礫層まで掘られている。床面はほぼ平坦である。

床面 硬化面は見られないが、軟弱である。 **貯蔵穴** 不明

周溝 調査範囲内では未検出である。 **柱穴** 調査範囲内では未検出である。

遺物出土状態 南隅で土師器杯形土器二個体、土師器甕形土器、甕形土器がそれぞれ一個体完形で床面直上から出土している。

カマド 調査範囲内では未検出である。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

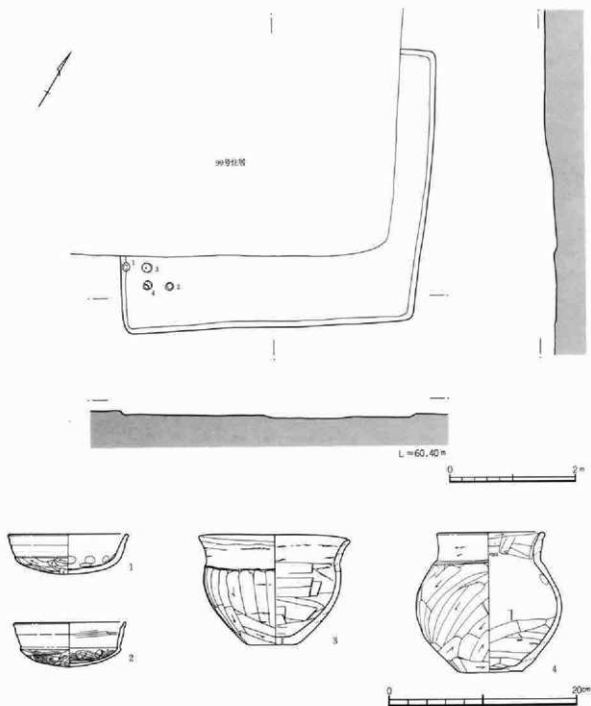


図166 103号住居と出土遺物

103号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	ほぼ定形 口 12.8cm 高 4.2cm	南隣壁際 床面直上	①微細砂を含む。 ②にょい黄褐10YR7/3	底部外面貫削り。内面まで。口縁部内外面貫まで。内面には指痕が残る。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
2	土師砂杯	完形 口 12.0cm 高 4.6cm	南溝 床面直上	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面直削り。部分的に直削り。口縁部内外面積などで、内面丁寧なまでの後、口縁部分的に横方向直削り、底面斜方向直削り。
3	土師砂瓶	底部円孔部一部欠損 口 16.2cm 底 5.3cm 高 11.6cm	南溝 床面直上	①粗砂、小石を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面縦方向直削り。最下部横方向直削り。内面横削り。口縁部内外面積などで、底部外面直削り。
4	土師砂甕	完形 口 11.2cm 底 7.0cm 高 14.8cm	南溝 床面直上	①粗砂、小石、白色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	胴部外面斜方向直削り。最下部横方向直削り。内面横削り。口縁部内外面積などで、底部外面直削り。

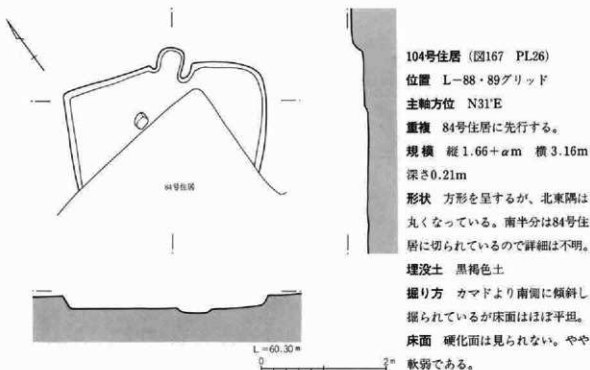


図167 104号住居

104号住居 (図167 PL26)

位置 L-88・89グリッド

主軸方位 N31'E

重複 84号住居に先行する。

規模 縦 1.66+αm 横 3.16m

深さ 0.21m

形状 方形を呈するが、北東隅は丸くなっている。南半分は84号住居に切られているので詳細は不明。

埋没土 黒褐色土

掘り方 カマドより南側に傾斜し掘られているが床面はほぼ平坦。

床面 硬化面は見られない。やや軟弱である。

貯蔵穴 調査範囲内では未検出

周溝 調査範囲内では未検出

柱穴 調査範囲内では未検出

遺物出土状態 埋没土内からの小破片の遺物が出土しただけである。床面近くからの出土遺物もない。

カマド 位置 北東壁中央

規模 全長0.56m 最大幅0.76m 焚き口幅0.28m

袖 右袖は25cmほど住居内にのびている。

煙道 30cmほど住居外へのびている。

遺存状態 袖は右の方が遺存状態が良い。左は壁からやや基部が確認できるだけである。

遺物出土状態 無し

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

105号住居 (図168・169 PL26・53)

位置 L-87・88グリッド 主軸方位 N74°E

重複 81号住居、84号住居に後出する。規模 縦5.48m 横4.58m 深さ0.25m

形状 長方形 埋没土 ロームブロックが混在する黒褐色土。

掘り方 カマドがある東壁は深く掘られているから相対する西壁は浅くなっている。床面はほぼ平坦である。

床面 カマドから中央部にかけて硬化面が見られる。

貯蔵穴 無し 周溝 南東隅を除いて全周している。

柱穴 東側の2本の主柱穴は検出できた。

柱穴No	P 1	P 2
直径	0.38m	0.44m
深さ	0.25m	0.17m

遺物出土状態 埋没土中の遺物は比較的少ない。住居中央部にやや集中する傾向を示しながら、床面近くの遺物が出土している。須恵器の杯形土器や変形土器が多い。P 1付近には土師器変形土器の破片が床面から6cmほど浮いた状態で出土している。

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長0.86m 最大幅1.22m 焚き口幅0.64m

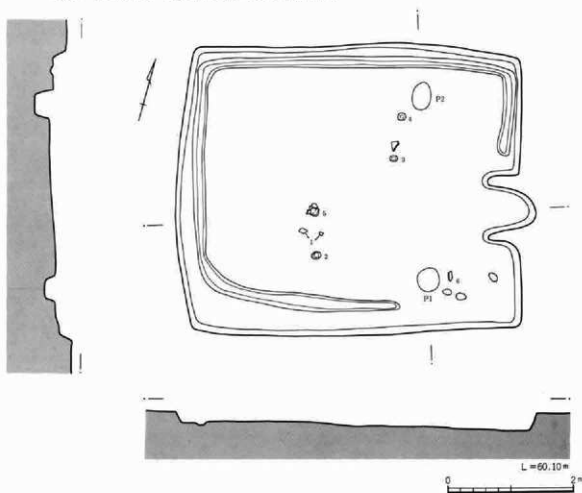


図168 105号住居

II 検出された遺構と遺物

袖 48cmほど住居内にのびている。

煙道 20cmほど住居外へ振り込んでいる。

遺存状態 天井部は新しい住居により削り取られている。焼土は、煙道部から焚口部へと全面にある。

遺物出土状態 無し

備考 9世紀中頃の住居と考えられる。

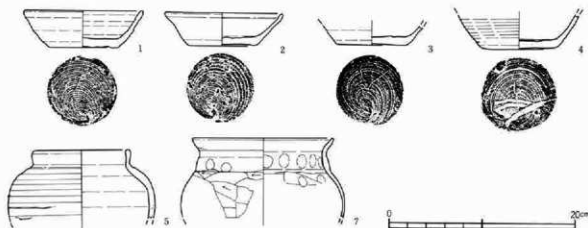


図169 105号住居の出土遺物

105号住居出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器 杯	1/2残存 口 (12.6cm) 底 7.5cm 高 3.9cm	中央部 床面上6cm	①金雲母、白色細粒物を含む。 ②灰白N7/ ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面回転まで。
2	須恵器 杯	ほぼ完形 口 12.6cm 底 7.3cm 高 3.5cm	中央部やや南寄り 床面直上	①緻密。 ②灰NS/ ③還元焰。硬質	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面回転まで。
3	須恵器 杯	底部残存 底・7.3cm	中央部 床面直上	①微細砂を含む。 ②黄灰2.5Y6/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。無調整。内外面回転まで。
4	須恵器 杯	体部～底部1/2残 底 7.9cm	中央部やや北寄り 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②灰SY5/1 ③還元焰	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し。切り難し後置記号のような凹線が引かれている。内外面回転まで。
5	須恵器 短頸壺	口縁～体部中位 1/4残存 口 (10.0cm)	中央部 床面直上	①緻密。 ②灰NS/ ③還元焰。硬質	内外面とも丁寧な回転まで。
6	土師器 甕	口縁～体部1/4残 口 (14.9cm)	南東隅 床面上6cm	①細砂を含む。 ②明赤焼5YR5/6	胴部外面横方向見削り。内面横方向見まで。口縁部内外面まで。口縁部外面、胴部内面、口縁部内面には指痕が残る。

3. 土 坑

土坑は、72基が検出された。ほとんど全発掘区域に分布しているが、形態によって五つに分類することができる。これらの五形態のなかには、偏在傾向を示すものがあり、形態と用途が深く関係していることを示している。本章では個別の土坑の記載は表にまとめ、先述した形態分類ごとに述べていくことにする。

A類 幅が1m前後で、2m～5mの帯状の平面形を呈する土坑。深さは、遺構確認面10cm～45cmとばらつきがある。断面形は箱形である。

B類 長さ1m～2mの小さい長方形を呈する土坑。深さは、遺構確認面から7cm～35cmの範囲である。断面形は角がやや丸い箱形である。

C類 一辺が1m～2mの正方形に近い矩形を呈する土坑。深さは13cm～29cmである。断面形はB類と同様に角の丸い箱形である。

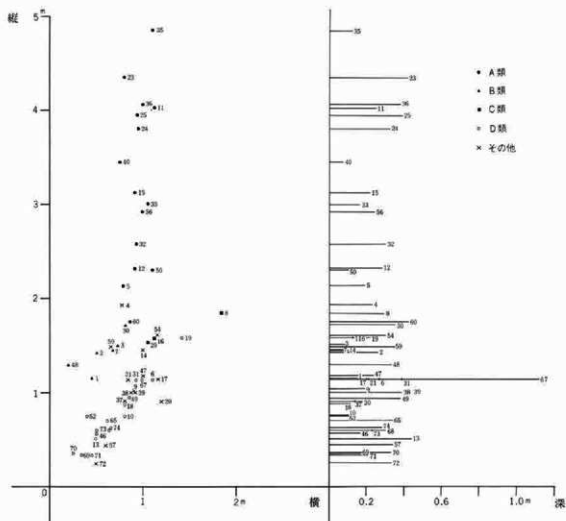


図170 土坑の規模と分類

II 検出された遺構と遺物

D類 直径0.5m～1.5mの円形を呈する土坑。深さは11cm～44cmとばらつきがある。D類の土坑の断面形は、角の丸い箱形のもの、台形を呈するもの、裾部が膨らむもの、ピット状の細長いものがあり、断面形での細分が可能である。

E類 平面形か不定形を呈する土坑。断面形もまちまちである。

これらの分類ごとに平面形の縦・横比、および深さをグラフにしたのが図170である。平面形の規模を示す縦・横比の各ドットは特徴となる範囲に偏在してこの分類になんらかの意味を期待できそうである。しかし、深さは、各形態ともに10cm～40cm前後の間に、同じような傾向でばらついているので、各形態間での相関関係はない。

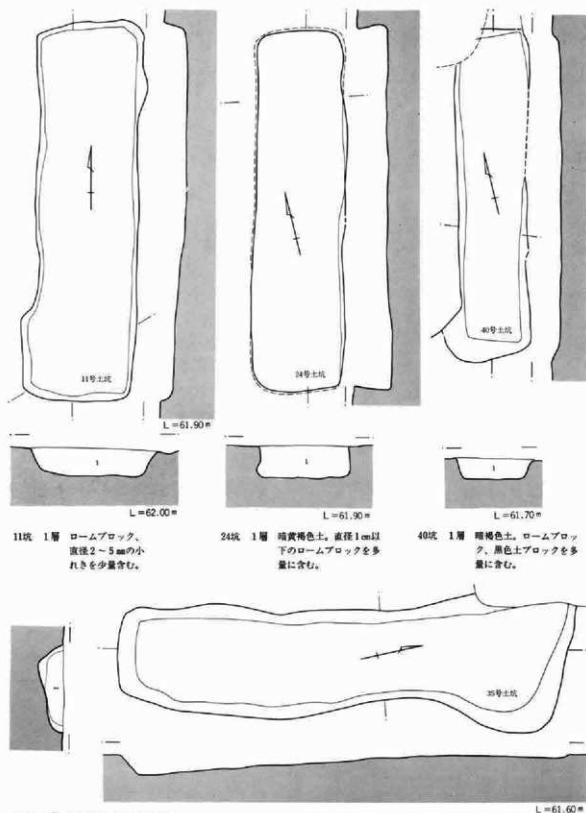
A類の土坑 23基の土坑が分類された。最長5.40+ α mの26号土坑から、最短2.13mの5号土坑まで長さにバラエティーがあるが、幅は1m前後に掘られているのが、この形態の土坑の特徴である。断面形は箱形で、壁はほとんど垂直に近く掘り込んでいる。23号土坑、24号土坑、25号土坑のように垂直の壁を意識して、壁の下半が上端よりも若干掘り込んで入るものもある。埋没土は、そのほとんどが一層のみ観察されている。その中で、二層に分けられたものでもそのベースは同じで挟雑物の粒度に若干の差があった程度である。また、埋没土に礫を混している土坑が多く、掘りあげた土で一括埋填している可能性が高い。住居の埋没土とは明らかに堅さ、締まり具合に違いがある。

出土遺物は、下表のように検出されたが、本土坑の分布が住居の密集部に一致しており、住居を壊して掘られている。したがってその出土遺物は住居埋没土中に含まれていたものがほとんどと考えられる。したがって、土坑から出土した土師器や須恵器の時期で土坑の年代を決定することは困難である。A類土坑の時期は、土坑が掘り込んでいる住居のうち最も新しいのは9世紀であるので、それ以降ということはある。また23号土坑埋没土中から出土した軟質陶器片は18世紀のものと考えられ、その時期まで土坑掘削の時期は下ると考えられる。

土坑一覧表

No.	分類	位置	縦	横	深さ	遺構の重複	出土遺物
12	A	J-63	(2.3+ α)	0.91	0.28	6号溝→	土師器底片、他土師器破片。
26	A	LM-67	5.4+ α	1.00	0.19	16号住居→	底部回転廻り須恵器杯、他土師器破片。
36b	A	M-68	5.16+ α	1.20	0.08	18号住居→	(出土遺物なし)
22	A	K-66	5.18	0.88	0.45	11・12号住居→	(出土遺物なし)
35	A	KL-68	4.85	1.10	0.12	28号住居→	返りのない須恵器蓋、他土師器破片、磨子叩き目文の破片。
27	A	JK-68	4.48	1.12	0.10	21・28号住居→	緑釉陶器片、底部未切り廻し杯破片、陶器片、磨子叩き目破片等
23	A	K-66	4.35	0.80	0.42	12号住居→	軟質陶器大破片、他土師器破片。
11	A	J-62-63	4.02	1.12	0.25	18号住居→	(出土遺物なし)
36	A	L-68	4.06	1.00	0.38	10号住居	底部回転廻り須恵器杯、他土師器、埴輪破片。
25	A	KL-67	3.95	0.94	0.39		底部回転廻り須恵器杯、7世紀土師器杯、他土師器破片。
24	A	KL-67	3.80	0.95	0.33		底部回転廻り須恵器杯・赤焼けの土師器、他土師器、埴輪破片。
34	A	L-67	3.60	1.00	0.13	36号住居→	土師器木葉底底破片、7世紀杯破片、他須恵器、土師器破片。
53	A	LM-93-94	3.50	0.76	0.32	21号溝→	(出土遺物なし)
40	A	L-68	3.45	0.75	0.07	24・25号住居→	土師器雙脚部破片、刷毛目型製の破片も含まれる。
15	A	IJ-64	3.12	0.91	0.22		土師器雙脚部、底部破片。
55	A	M-94	3.00	1.18	0.23	21号溝→	土師器破片、須恵器様杯の破片。
33	A	K-68	3.00	1.05	0.16	28号住居→	土師器雙脚部破片、コの字口縁の破片も含まれる。
56	A	L-93-94	2.92	0.91	0.24	22号溝→	底部回転廻り須恵器杯、7,8世紀の土師器杯、他土師器破片。
32	A	J-69	2.57	0.93	0.30		土師器付合蓋部。
42	A	J-69-70	2.4+ α	1.40	0.20	28号住居隣接	土師器内側口縁の杯、鉢。
50	A	M-94	2.30	1.10	0.10	19号溝→	土師器破片。

No	分類	位 置	幅	横	深さ	遺物の重宝	出 土 遺 物
5	A	LM-53	2.13	0.79	0.19	7号住居→	(出土遺物なし)
60	A	J-92	1.75+ α	0.85	0.36	19号溝	土師器、須恵器破片。
30	B	LM-68・69	1.72	0.81	0.35	18号住居→	土師器破片、埴輪片。 (出土遺物なし)
3	B	L-52	1.50	0.72	0.08		(出土遺物なし)
7	B	L-54	1.45	0.67	0.07		(出土遺物なし)
2	B	L-51	1.42	0.50	0.26	6号住居接近	(出土遺物なし)
48	B	M-71	1.30	0.2+ α	0.33		土師器破片
1	B	L-50	1.15	0.45	0.15		(出土遺物なし)
28	C	M-69	2.04	1.48	0.26	18号住居→	須恵器破片1。他土師器破片。
8	C	LM-54	1.85	1.84	0.29		土師器破片。雙刺形等
29	C	J-68	1.54	1.05	0.16		(出土遺物なし)
16	C	J-64	1.57	1.12	0.13		返りのない須恵器蓋。土師器杯破片。
43	Da	J-71	0.84	0.56	0.35	20号住居	(出土遺物なし)
13	Da	K-64	0.51	0.49	0.44		(出土遺物なし)
71	Da	L-77	0.45	0.33	0.21		底部全面同軸直削りの須恵器杯。
70	Da	L-77	0.35	0.25	0.33		返りを付ない須恵器蓋。
69	Da	M-75	0.34	0.34	0.17		(出土遺物なし)
65	Db	M-71	0.70	0.61	0.34		土師器杯破片等。
68	Db	M-75	0.60	0.63	0.31	49号住居→	須恵器破片1。土師器7世紀杯破片等。
74	Db	L-77	0.61	0.65	0.28		ボタン状のつまみを持つ須恵器蓋。
73	Db	L-77	0.59	0.50	0.23	13号溝に隣接	土師器底部破片。
44	Db	J-72	0.44	0.32	0.27	20号住居	(出土遺物なし)
10	Dc	J-64	0.75	0.80	0.10		(出土遺物なし)
66	Dc	L-73	0.73	0.65	0.24		土師器破片。縦方向直削りの雙刺形破片を含む。
46	Dc	M-71	0.56	0.50	0.16		(出土遺物なし)
67	Dd	M-73	1.15	0.99	1.12	39号住居→	8世紀土師器杯破片。他土師器破片。
75	Dd	J-77	0.96	0.88	0.47	13号溝	土師器受口縁破片等。
41	Dd	K-69	0.96	0.82	0.40	30号住居	土師器破片。西斜口縁の杯、内外両面磨きの鉢。
19	De	J-64・65	1.58	1.41	0.22		(出土遺物なし)
6	De	L-53	1.14	1.10	0.26	7号住居→	(出土遺物なし)
45	De	I-72	1.16	0.68+ α	0.23	20号住居	(出土遺物なし)
9	De	I-62	1.03	0.90	0.19		(出土遺物なし)
49	De	M-71	0.94	0.85	0.38		8世紀土師器杯。
18	De	K-65	0.88	0.80	0.11		(出土遺物なし)
52	De	L-95	0.75	0.4+ α	0.10		(出土遺物なし)
20	E	KL-65	(0.9+ α)	1.20	0.18	11号住居	須恵器。土師器破片。須恵器高台付碗破片。
4	E	L-53	1.93	0.77	0.23	7号住居	(出土遺物なし)
54	E	M-94	1.60	1.15	0.30	50号住居→	土師器破片。8世紀杯破片。底部赤切り磨し須恵器杯。
14	E	J-64	1.45	1.00	0.09		土師器破片。鉢破片。
59	E	K-93	1.48	0.65	0.35	70号住居→	須恵器高台付碗。8世紀土師器杯。刷毛目整形の土師器底部破片
51	E	N-94	1.20	0.44+ α	0.10	21号溝	土師器破片。高杯杯部、脚部の破片。
17	E	L-65	1.12	1.15	0.20		(出土遺物なし)
21	E	L-66	1.13	0.84	0.11		(出土遺物なし)
47	E	M-71	1.17	1.10	0.24		須恵器・土師器破片。土師器鉢破片。
38	E	M-69	1.00	0.89	0.14	28号土坑	(出土遺物なし)
39	E	L-69	1.00	0.90	0.39		(出土遺物なし)
37	E	M-68	0.89	0.81	0.12	10号溝	土師器破片。刷毛目整形の蓋口縁破片。
58	E	L-90・93	0.82	0.53	0.47	55・56号住居	底部赤切り磨し須恵器杯。平行切目須恵器破片。他土師器破片
57	E	L-92	0.60	0.43	0.34		(出土遺物なし)
72	E	L-77	0.50	0.25	0.33		土師器8世紀整形の杯破片。

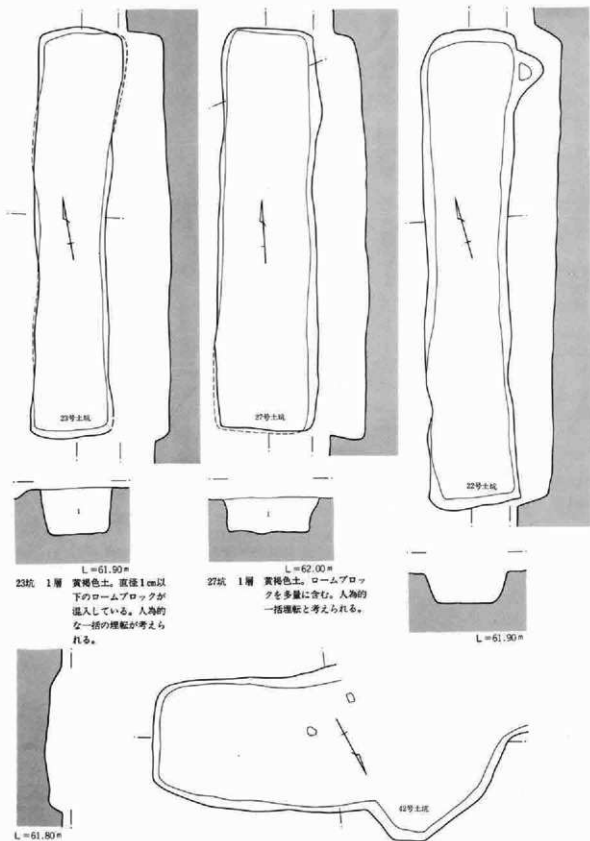


- 35坑 1層 黄褐色土。わずかな白色パミスと、少量のロームブロックを含む。
- 2層 暗茶褐色土。わずかにロームブロックを含む。締まりがある。



図172 A類の土坑(2)

II 検出された遺構と遺物



23坑 1層 黄褐色土。直径1cm以下のロームブロックが混入している。人為的な一括埋転が考えられる。

27坑 1層 黄褐色土。ロームブロックを多量に含む。人為的な一括埋転と考えられる。

図173 A類の土坑(3)



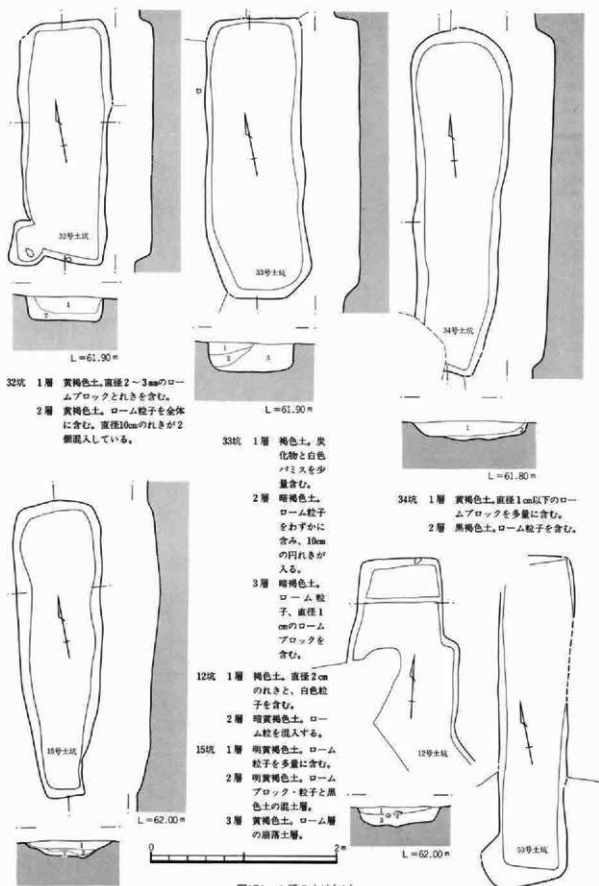


図174 A類の土坑(4)

II 検出された遺構と遺物

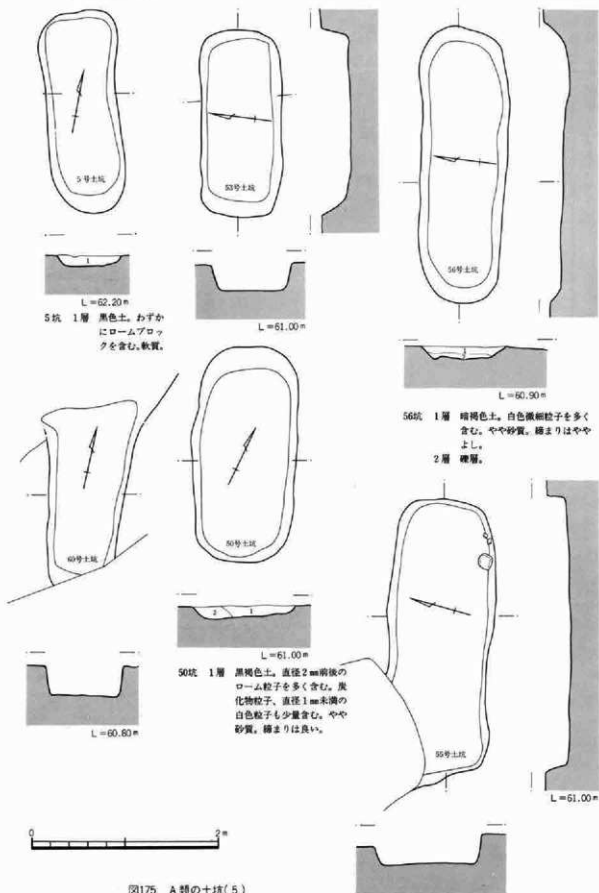


図175 A類の土坑(5)

B類の土坑 長方形を呈する小型の土坑である。長方形であることはA類と同様であるが、A類の幅を1mにするという規制からははずれている。幅、長さの比が1:2という割合で小さくなっているのがB類である。断面形は3号土坑、7号土坑が皿形、1号土坑、2号土坑、30号土坑、48号土坑が角の丸い箱形である。下端部をえぐるものがでてくるようにきっちりした箱形を意識しているA類とは明らかに違っている。深さは前者が10cm前後、後者が30~35cmとばらつきがある。埋設土は30号土坑を除いて、黄褐色土の第一次埋設土と黒・暗褐色土である。これらは自然埋設と考えられる。30号土坑の埋設土は直径2~3cmのロームブロックを下層から上層へ漸次多くなるような状態で特徴的に含んでいる。これは掘り上げた排土による順次埋填と理解できよう。この状況はA類土坑と似ており、30号土坑は小型のA類土坑とも考えられる。

出土遺物は少なく、30号土坑から土師器片、埴輪片各一点ずつ、48号土坑から土師器片九点が出土したのみである。いずれも土坑の掘り込み時期を示すとは言えない出土状況であった。

B類土坑の分布は、発掘区北西端に1、2、3、7号土坑が、A類土坑に隣接して30号土坑が、72ラインに48号土坑が位置する。長軸方向はばらばらで規格性は認められない。

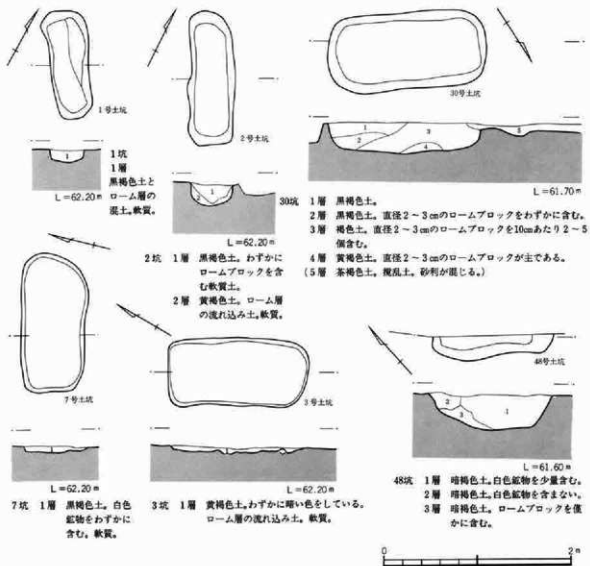


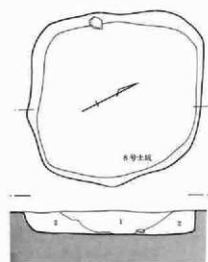
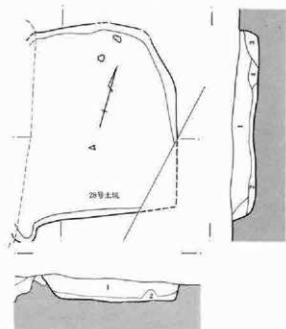
図176 B類の土坑

II 検出された遺構と遺物

C類の土坑 隅丸で正方形に近い矩形を呈する土坑4基を検出した。16号土坑、29号土坑は正確には長方形であるが、帯状の長方形を意識しているA類・B類とは異なると考えられ、分類を別にした。深さは13cmから29cmの間で統一的でない。断面形はやや角が丸い箱形を呈する。埋没土は、いずれも第一次埋没土を形成しており、人為的に埋め戻されたものではないと考えられる。28号土坑と29号土坑の埋没土には焼土粒、炭化物粒が含まれており、特徴的である。なお、28号土坑だけが住居と重複している。埋没土断面の観察では28号土坑は18号住居に先行している。

遺物の出土は少ない。8号土坑西壁に土師器壺形土器底部が10cmほど底面から浮いて検出された。これは第一次埋没土に含まれており、土坑の掘削時期に近いと思われる。他の土坑の出土遺物は破片であり、遺構に伴っているとは言いがたい。

これらの分布をみると8号土坑が55ラインに、16号土坑、28号土坑、29号土坑が64~70ラインに位置している。それぞれが並ぶような傾向はなく、縦軸方向も8号土坑、16号土坑、29号土坑がやや南北を示しているが、28号土坑はそれからずれている。空間的占地の規則性は看取できない。



8号土坑 L=62.20m
1層 暗黄褐色土、軟質。
2層 黄褐色土、軟質。



16号土坑 L=62.00m
1層 暗黄褐色土、ローム粒子を含む。
2層 黒褐色土。



28号土坑 L=61.90m
1層 明黄褐色土。焼土粒をわずかに含み、やや砂質。
2層 黄褐色土。ローム層が主で、わずかに褐色土が混入する。
3層 黄褐色土。ロームブロック混入土。
4層 黄白褐色土。ロームブロックの混入層。
29号土坑 L=62.00m
1層 黄褐色土。直径0.5~2cmのロームブロック、白色鉱物、炭化物粒子を含む。
2層 ローム混入土。

図177 C類の土坑



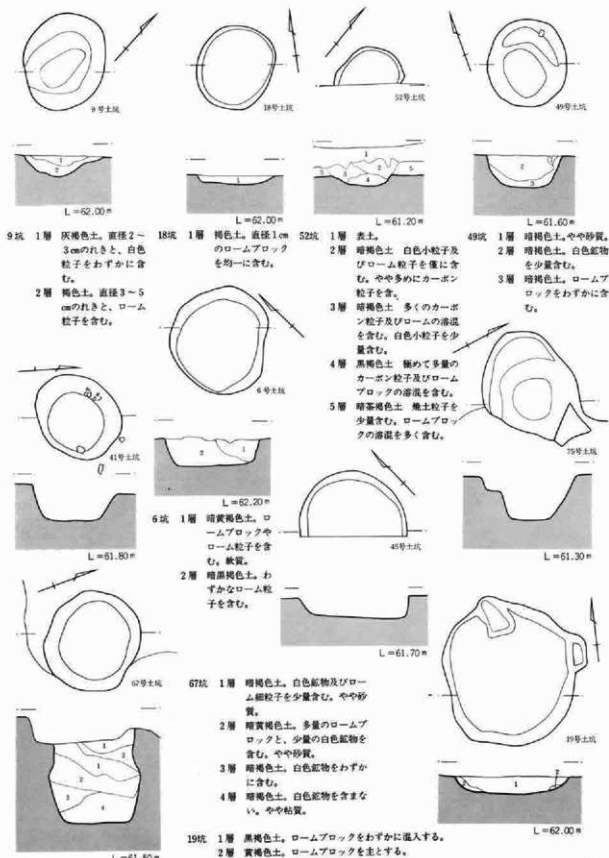


図178 D類の土坑(1)



杯形土器がいずれも埋没土中位で出土している。

Db類 直径60～70cmの円形で、深さが20～30cmの土坑である。a類よりやや大きい。44号土坑、65号土坑、68号土坑、73号土坑、74号土坑が分類された。断面形は台形を呈する。68号土坑の埋没土に、焼土粒を含むのは49号住居のカマドとの重複の結果であると思われる。したがって68号土坑の出土遺物も49号住居のものと考えたい。74号土坑からはボタン状のつまみを持つ須恵器蓋形土器が出土している。

Dc類 b類と同様に直径60～70cmであるが、深さが10～16cmの断面形が皿形を呈する土坑である。10号土坑、46号土坑、66号土坑が含まれる。埋没土の観察では共通点は認められなかった。出土遺物は、66号土坑から土師器破片が検出されたのみである。

Dd類 直径が1m前後で、40cm以上のやや深い円形の土坑である。断面形は41号土坑、75号土坑が台形を呈しているのに対して、67号土坑は断面下位が膨らんでいる特徴的な形態を示している。67号土坑の埋没土は最下位にやや粘質の暗褐色土があり、その上に暗黄褐色土と暗褐色土の互層が二段のっているというものであった。この土坑は、39号住居南隣に重複している。

41号土坑からは、内斜口縁の土師器杯形土器、内外面磨き土師器鉢形土器が出土している。この土坑と重複している30号住居は8世紀代の須恵器が掘り方埋没土中に入っていることからそれ以降の住居と考えられるから、41号土坑は、30号住居に先行する古墳時代の土坑と考えられる。75号土坑からは土師器破片が13点出土したのみである。

De類 やはり直径が1m前後であるが、断面形が皿形、あるいは浅い箱形を呈する土坑を本類とした。埋没土の状況は図179に示したとおりである。明確な共通性はみられない。出土遺物はいたって少なく、49号土坑で8世紀頃と思われる土師器杯形土器の破片が出土しただけである。

E類の土坑 以上の四分類にあてはまらない不定形なものを分類した。深さ、断面形も様々である。埋没土も、57号土坑のように焼土粒を含むものや、17号土坑や59号土坑のようにロームブロックと褐色土の堆積が風倒木底を思わせるものも検出された。小型の57号土坑は隅丸長方形を呈し、深さ34cmとやや深い。埋没土をみると、住居のそれに近似しており、何等かの遺構と考えられるが、出土遺物もなく、空間的にもその性格を特定できる情報は調査からは得られていない。54号土坑は、隅丸の台形を呈しているが、埋没土のロームブロック、ローム粒子を多く含む褐色土はA類の土坑の埋没土に似ている。したがって埋め戻した埋填の可能性があり、出土遺物も土坑の時期を示すとは言いがたい。58号土坑は56号住居と重複しているが、埋没土層断面図でも明らかなように58号土坑が56号住居に後出する。この土坑は北壁が膨らんで断面が袋状になっているのが特徴的である。底部糸切り離しの須恵器杯形土器が出土している。59号土坑は52号住居と重複している。埋没土の観察から59号土坑が52号住居に先行する。遺物は少なからず出土しているが、高台付須恵器椀形土器や刷毛目整形の土師器胴部破片などが混在していることから、59号土坑の時期を決定するには至っていない。

3. 土 坑

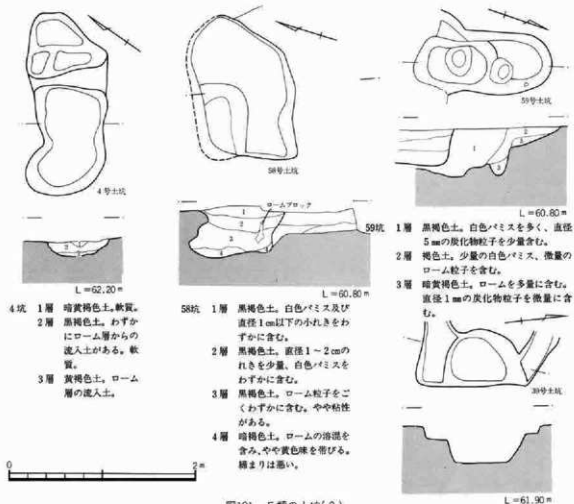


図181 E類の土坑(2)

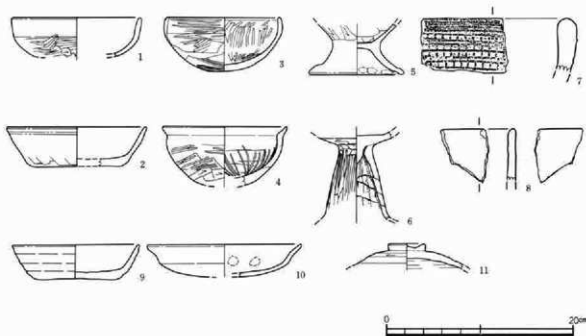


図182 土坑の出土遺物

II 検出された遺構と遺物

土坑出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1 16土坑	土師器 杯	口～底部1/5残 口(13.7cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面横方向丸削り。部分的に丸磨き。内面まで。口縁部内外面横まで。
2 21土坑	須恵器 杯	口～底部1/3残 口(15.0cm) 底(9.2cm) 高4.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②黄灰2.5YR6/1	右回転クロコ成形。底部回転切り難し。無調整。内外面回転まで。
3 42土坑	土師器 杯	口～底部1/2残 高5.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	外面丸削りの後、横方向丸磨き。内面までの後、放射状の丸磨き。口縁部内外面横まで。外面のみ横方向丸磨き。
4 42土坑	土師器 杯	1/4残存 口(13.4cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	底部外面丸削り。体部外面丸削り後、横方向丸磨き。内面までの後、放射状丸磨き。口縁部内外面横まで。
5 32土坑	土師器 台付甕	台部残存 底10.0cm	埋没土中	①微細砂、雲母、角閃石を含む。 ②橙5YR6/8	胴部最下端縦方向丸削り。台部外面横まで。台部内面横まで。踵部付近に指痕がある。
6 51土坑	土師器 高杯	胴部1/3残存	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にぶい赤褐6YR5/4	外面縦方向丸削り。内面切り目、粘土帯が顕著に残る縦方向丸磨まで。杯部を接合した突出部が内面に残存している。
7 23土坑	軟質陶器 香伊?	口縁部破片	埋没土中	①白色粒子を含む。直径5cmほどの軽石を含む。	断面の色調は、淡黄色と黄褐色が層状をなす。器表は黒色。口縁部外面に格子状の押印文を施す。
8 27土坑	陶器 碗	口縁部破片	埋没土中	①淡黄色で緻密。 ②釉は納物。 ③硬質	口縁部にウノフ輪を流す。鉤輪には貫入がある。「尾呂茶碗」と呼ばれる碗の口縁部破片である。瀬戸・美濃系。18世紀。
9 71土坑	須恵器 杯	1/2残存 口13.6cm 底4.0cm 高3.7cm	埋没土中	①微細砂、白色網粒物を含む。 ②灰白10Y7/ ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難し後、底部外面全面回転丸削り。内外面回転まで。
10 72土坑	土師器 杯	口～底部1/4 口(16.5cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR7/6	内外面とも摩耗が激しく整形痕が観察できない。
11 74土坑	須恵器 壺	天井部残存	埋没土中	①粗砂を含む。 ②灰白5Y7/1 ③還元焰	外面回転丸削り。内外面回転まで。

4. 溝

本遺跡で検出された溝状遺構は、人工的に掘られたものと自然の流路と考えられるものがある。1号溝や17号溝は埋没土下半は小礫と砂であり、自然の流路と考えられる。人工の溝は比較的小規模のもので、流水の痕跡もなく、土地の区割りの為の溝と考えられる。

1号溝

50ラインから64ラインにわたって検出された大きな自然流路である。最下層には砂利層の堆積が、中位には暗褐色土と砂のラミナ堆積がみられることや、西から南へ大きく膨らみながら東へ蛇行しながら流れる形態から自然流路と判断した。Jライン付近の最も広くなったあたりで20.8m、最も細くなる60ライン付近で7.2mを計る。深さは北端で0.9m、南端で0.4mである。

埋没土は北端の土層断面で観察した。埋没土最下層には先述したように砂利層が堆積している(図183-6層)が、これが確認できるのは東側の幅4mほどである。最初の流路はこの幅であったのであろう。さらに幅10m以上にわたって白色細粒物を含んだ暗褐色土(図183-5層)で埋積されるようである。この土層の西の立ち上がりは発掘区域外のため確認できなかったが、全体で幅20mほどになるとと思われる。さらに西端の幅4mほどの間が落ち込みになっている。この層(図183-4層)にはラミナ堆積が確認でき、再び流路となったことを示している。さらに、この流路部分にのみ上層に浅間B軽石の純堆積層が検出された。浅間B軽石の堆積は南方向へ向かい、一度発掘区域外へでてから、また58ラインあたりに戻って東へ向かっている。この浅間B軽石の帯状の堆積範囲が、一度埋積された流路を再び侵食しラミナ堆積で埋積された本流を示している。この流路が埋積された時点で浅間B軽石が降下していることから、流路の時期は12世紀初頭以前といえる。さらに幅20mほどの帯状のくぼみ全体を浅間B軽石を含んだ黒褐色土が埋積している。この断面観察からも、1号溝が侵食と埋積を繰り返して形成された自然流路であることがわかる。

積は南方向へ向かい、一度発掘区域外へでてから、また58ラインあたりに戻って東へ向かっている。この浅間B軽石の帯状の堆積範囲が、一度埋積された流路を再び侵食しラミナ堆積で埋積された本流を示している。この流路が埋積された時点で浅間B軽石が降下していることから、流路の時期は12世紀初頭以前といえる。さらに幅20mほどの帯状のくぼみ全体を浅間B軽石を含んだ黒褐色土が埋積している。この断面観察からも、1号溝が侵食と埋積を繰り返して形成された自然流路であることがわかる。

1号溝には重複する遺構がいくつか検出された。3号住居は、遺構確認の時に1号溝を埋積する5層の上面に住居の平面形を確認できたので、1号溝埋積以降の住居と考えられる。ただし、浅間B軽石の堆積のない部分であったので、このテフラとの関係はわかっていない。75号住居は、1号溝埋没土上面でその平面形を確認できなかった住居である。カマド等の住居施設も壊されている。1号溝に先行する住居と考えられるが、埋没土中のどこに掘り込み面があるかは明らかでない。3号住居も75号住居も出土遺物が少なく、住居の資料から年代を確定することができないので、住居との関連からも1号溝の変遷は概略が把握できるだけである。3号井戸も同様に溝の埋没土上面では確認できなかった遺構である。3号井戸の最上層には浅間B軽石のブロックが混入しており、軽石降下以降、溝埋積以前の遺構と考えられる。

出土遺物には、1300片余りの土器破片が検出されている。なかには刷毛目整形痕のある土器破片に混じって、施軸陶器片も出土している。自然流路という遺構の性格からも遺物の一括性は期待できない。図示した

遺物は実測可能な遺物のなかから、流路継続の幅を示すような遺物を選択したものである。

3・4・5号溝

これら三条の溝は、1号溝でつくられた自然地形の縁にそって、ほぼ平行に掘られている。走向はほぼ東西方向を示すが、これらに直行する方向で土坑A類が掘られているのが興味深い。地割りに関連する溝群であることも考えられる。

3号溝、4号溝は、59～66ラインに検出された。3号溝は幅0.72～1.0m、深さ0.35mほどの細い溝である。断面形は台形を呈する。中央部よりやや西では南側に掘り直しと考えられる溝が併走する。64ライン付近で4号溝と重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物は、ほとんど小破片で、高杯形土器や埴輪に混じって須恵器高台付椀形土器などが出土している。4号溝は幅1.0～1.8m、深さ0.2～0.54mを計り、やや3号溝より大きな溝である。ほぼ直線に掘られている。埋没土はやや粘質の黒褐色土であり、底部には大形の円礫がある。断面形は台形を呈する。出土遺物は土師器破片160点余、須恵器破片20点ほどが検出されている。両溝とも掘削時期は明確でない。

5号溝は、61～69ラインに検出された。幅0.3～0.8m、深さ30cmほどの溝である。中には大形の円礫を詰め込んでおり、暗褐色土がその隙間を埋めていた。暗渠と考えられる。100点ほどの土器破片が出土しているが、埴輪や須恵器高台付椀形土器が混在している。

6・7号溝

6号溝、7号溝はJ・K-63グリッドに検出された。6号溝は10号住居に後出して掘られている。両溝ともに幅0.4～0.6mを計り、深さは6号溝が0.18～0.22m、7号溝は25cm前後である。走向は6号溝はL字形にまがり、7号溝はほぼまっすぐになっているが、先述した3～5号溝と同様に南北、東西方向を意識している。遺物は、7号溝で土師器破片が20片ほど出土したのみである。

10・11号溝

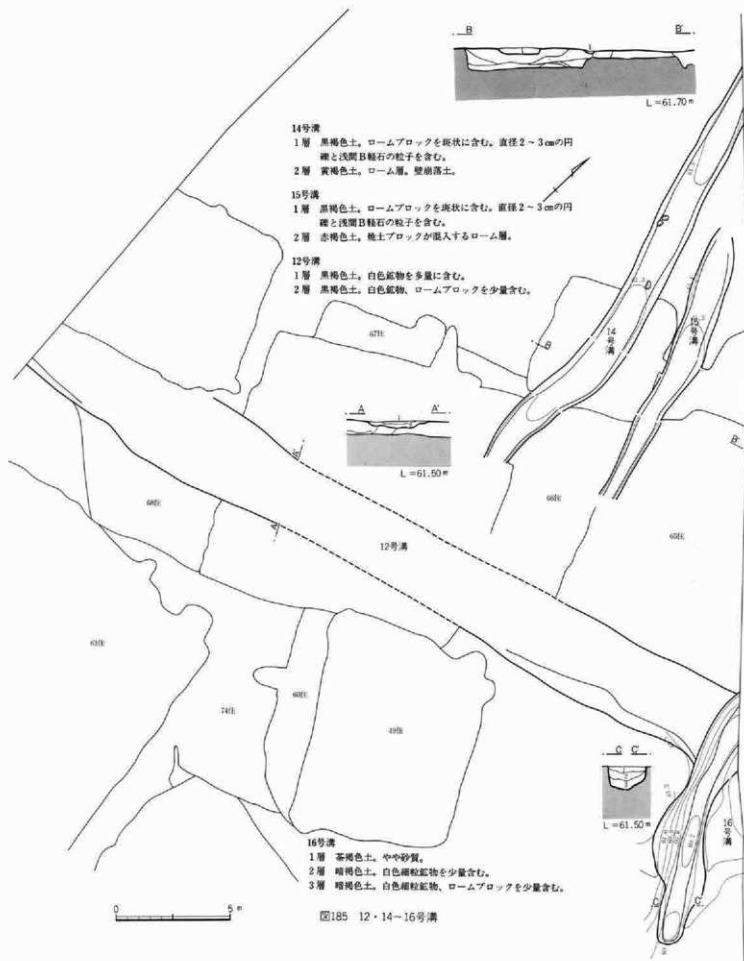
64～69ラインで検出された。住居や土坑の密集のなかにあり、遺構の全体を把握することが困難であった。

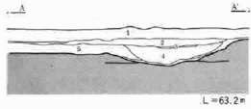
10号溝は東端で幅0.73m、深さ0.18mを計るが、西側は底面近くが辛うじて残っていただけであった。走向はほぼ東西である。底面レベルは西端が61.45m、東端が61.35mとなっており、西から東へ傾斜している。11号住居、12号住居、16号住居と重複するが、11号住居の埋没土断面に10号溝の埋没土の落ち込みが確認できないことから、これら住居に先行するものと考えられる。しかし、出土遺物の中には土師器、須恵器の破片に加えて陶器の破片も出土しており、10号溝も掘削時期を確定できない。

11号溝は、10号溝に平行してJ-67グリッド内だけ検出された。幅0.68m、深さ0.15mを計る。出土遺物は土師器の細片だけである。

12号溝

74・75ライン付近で検出された。住居の密集部分に位置するが、いずれの住居の床面も壊されていることから住居に後出する新しい溝であることが判明した。しかし、12号溝の埋没土と住居埋没土との識別が困難で、12号溝の形態を明確にすることはできなかった。土師器杯形土器、高杯形土器や須恵器変形土器など出土しているが、これらは溝が填している住居の遺物と思われ、溝の掘削時期は明らかでない。





1号溝

- 1層 耕作土
- 2層 褐色土。浅層Bチツクを含む。
- 3層 浅層Bチツク純層層。
- 4層 暗褐色土。クミシ状層が一部に見られる。
- 5層 暗黄褐色土。白色細粒灰物を含む。
- 6層 砂礫層。握り拳大から砂粒まで混在している。

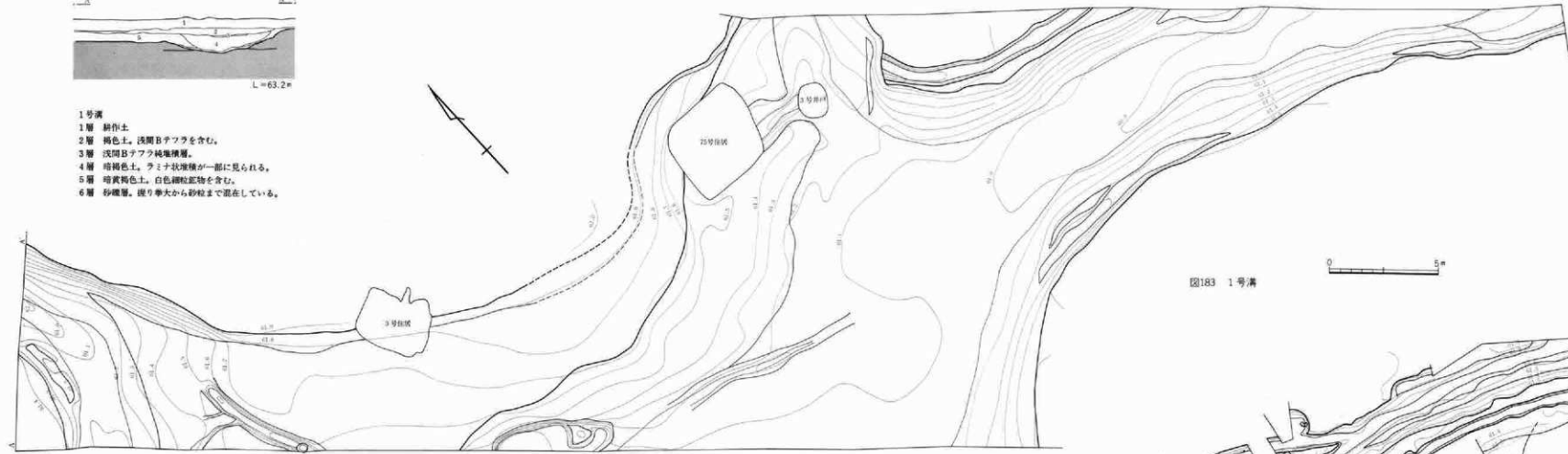


図183 1号溝

4号溝

- 1層 黄褐色土。粘性をもち、小礫を少し含む。底面には大形の円礫が入っている。

5号溝

- 2層 暗褐色土。大形の円礫を詰め込んでいる。暗黒か?

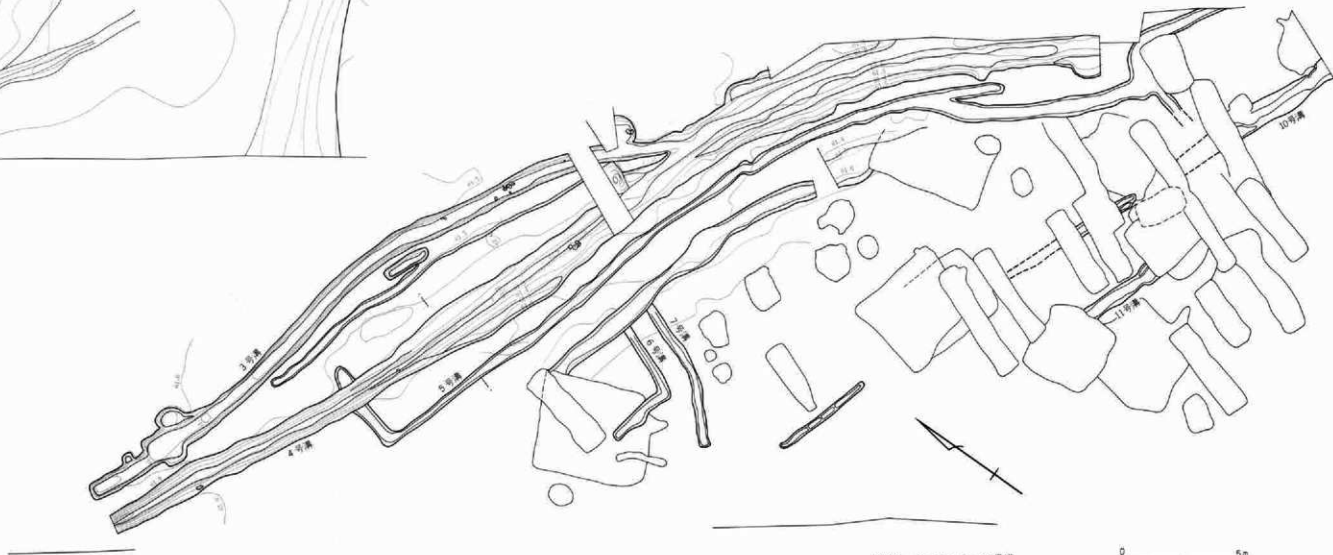
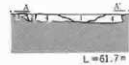


図184 3・7・9・11号溝

14・15号溝

72～74ラインで検出された。39号住居、64号住居、72号住居に後出することは判明しているが、61号住居、65号住居以南では住居埋没土との識別が困難であり、溝を検出することはできなかった。走向はほぼ南北方向であり、先述した3～5号溝とは直角に近い角度で発掘区域外で交わる関係にある。方形区画が想定でき、その区画内にのみ土坑A類が分布する。

14号溝は、幅0.5～0.8m、深さ0.1～0.13mを計る。ロームブロックや直径2～3cmの円礫、浅間B軽石を混じる褐色土で埋没している。遺物は土師器二片が出土したのみである。

15号溝は、14号溝よりやや小さく、幅0.4～0.7m、深さ7～15cmを計る。本溝も14号溝と同様の埋没土であった。出土遺物はない。

16号溝

N-75グリッドで検出された。幅0.8～1.2m、深さ0.5mを計る。ロームブロックと白色細粒物を含んだ暗褐色土で埋まっており、断面観察から13号溝に後出することがわかっている。溝の性格等は不明である。出土遺物はほとんどなく、土師器が6片出土したにすぎない。

13号溝

76～78ラインで検出された。36号住居、63号住居、1号井戸、4号井戸に後出し、2号井戸に先行する。上幅2.5～3.0m、下幅0.8～1.0m、深さ0.6mを計る。断面形は台形を呈し、底面はほぼ平坦である。本遺跡内では大規模でしっかりした人工掘削の溝である。走向はN19°Eを示し、他の溝とは関連性があまり見られない。底面のレベルに一定の傾斜が見られないことや、埋没土に水成堆積の様子が看取できないことから、流水はなかったと考えられる。

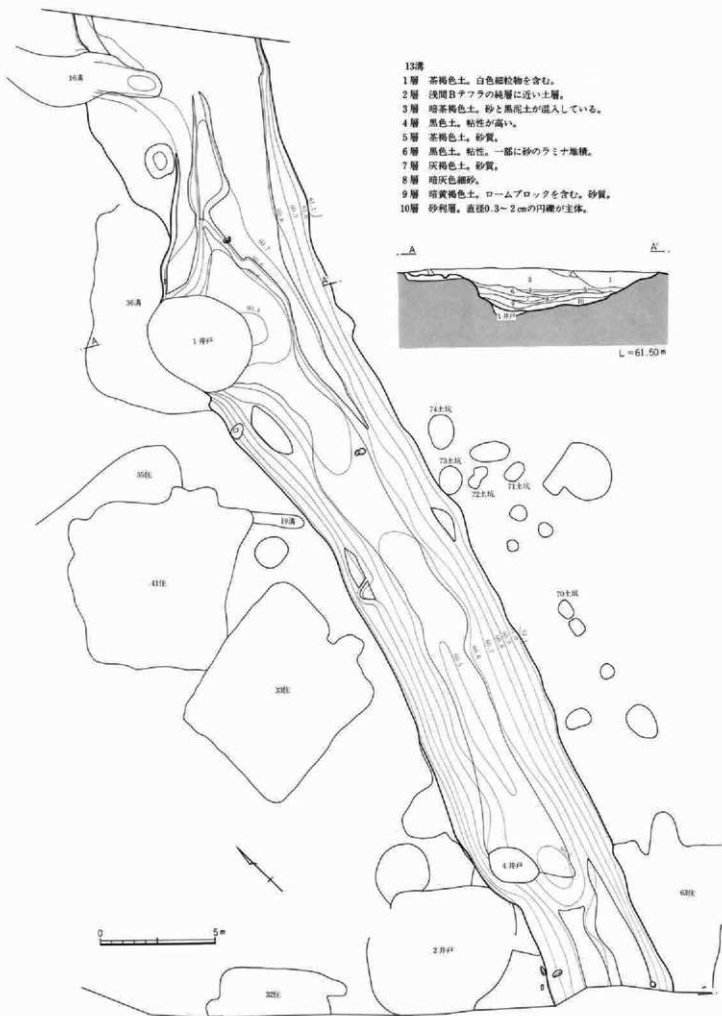
L-77グリッドでは、本溝の両側の法面中位の相対する位置に段が見られ、構造物があったことも考えられる。しかし、柱を建てたようなピット状の遺構の検出はしていない。これに関連して本溝の東側には溝に沿って小ピットが並ぶような傾向を見せる。中には調査時に土坑として扱ったものも含めて、槽状の構造を考慮する必要がある。

出土遺物は1500片余の土師器と180片ほどの須恵器が検出された。図示した遺物の他に回転糸切り簾しの須恵器杯形土器破片や、コの字口縁の土師器変形土器の破片もまじっているが、大勢は図示したような古墳時代から奈良時代の土器である。

17号溝・18号溝

17号溝は78ラインから85ラインに検出された自然流路である。北東から南へ勾配があり、溝内の凹凸や砂礫の堆積から水流が激しかったことを想起させる遺構である。東流した1号溝が発掘区北東部に大きくまわりこんで再び発掘区内で検出されたものと、1号溝の走向から考えられる。1号溝、17号溝ともに埋没土の上層に浅間B軽石が挟在していることから、同一の流路であることが推定される。幅は現況で10mから18mを計り、一定でない。底面の凹凸や、帯状の小流路痕をみると、逐次流路が変化していたことがわかる。深さは南端の最深部で0.72mを計る。

埋没土には、先述したように浅間B軽石の純堆積層が掘り込み面近くで、ほぼ水平に堆積しているのがみられ、12世紀初頭には17号溝もほとんど埋積されていたことがわかる。埋積は、ほとんど砂、砂利、礫の互



- 13溝
- 1層 茶褐色土。白色細粒物を含む。
 - 2層 浅間Bテフラの純層に近い土層。
 - 3層 暗茶褐色土。砂と黒泥土が混入している。
 - 4層 黒色土。粘性が高い。
 - 5層 茶褐色土。砂質。
 - 6層 黒色土。粘性。一部に砂のラミナ堆積。
 - 7層 灰褐色土。砂質。
 - 8層 暗灰色細砂。
 - 9層 暗黄褐色土。ロームブロックを含む。砂質。
 - 10層 砂利層。直径0.3~2cmの円礫が主体。

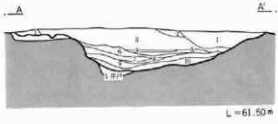
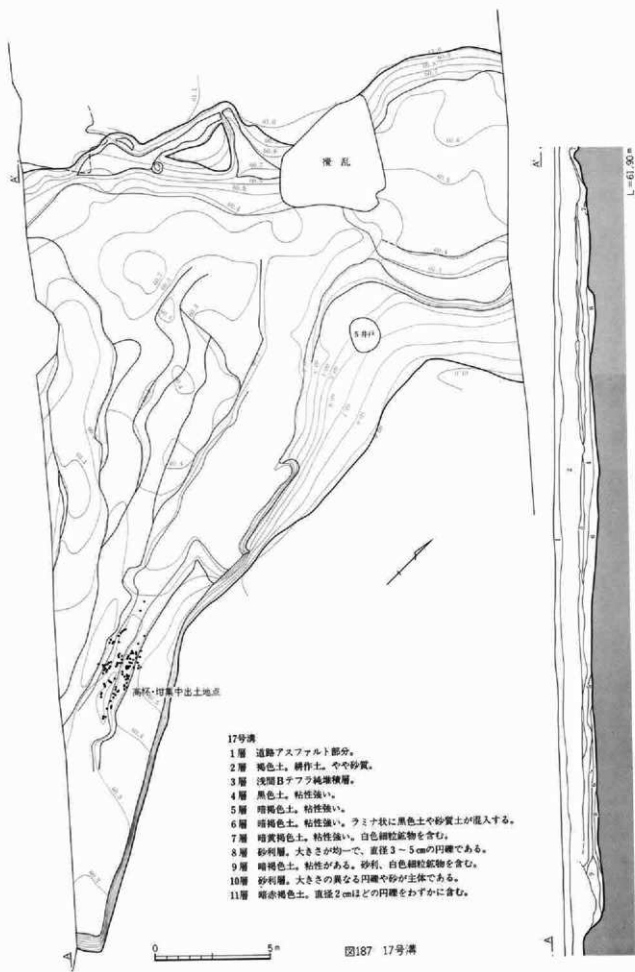


図186 13号溝



II 検出された遺構と遺物

層や、ラミナ状堆積によって行なわれている。それらの単位を抽出することによって、流路の変遷や埋積の順序を理解することができる可能性がある。

今回の調査では、埋設土に含まれる遺物に偏在が認められたことから、流路の変遷の一端を確かめることができた。南東部の埋設土(図187-8層)は直径3~5cmの大きさの均一な円礫からなる砂利層である。この層中にはいわゆる和泉式、鬼高式土器といった古墳時代の土器が多く混入しており、最も東側は古墳時代の流路と考えられる。この流路のJ・K-82グリッドでは、溝底面直上に和泉式でも古い段階の高杯形土器と多数の小形丸底土器がまぎらって出土した。祭遺物の一括廃棄と考えられ、この時期の集落を考える上で重要である。また南西部の埋設土(図187-10層)は、砂、砂利、円礫など不均一な二次堆積土で、須恵器、土師器を混入する。これらの土師器はいわゆる真間式、国分式土器と呼ばれる奈良・平安時代の土器が中心であった。このことから、西側の底面の凹凸に現れた流路は、奈良・平安時代の流路変遷の繰り返しによって形成されたものと考えられる。したがって、17号溝全体でみれば、東から西へ漸次流路が変遷したものと推定できる。K・L-78グリッドに検出された18号溝は、この流路変遷の中で、西側に大きく膨らんだ部分と考えられる。

したがって、出土遺物には古墳時代から奈良・平安時代までのものが先述したようなある程度の偏在をみせながら、混在している。出土総数は須恵器367片、土師器2457片に及ぶ。今回の報告では、溝の継続の幅を示せるような遺物を選択して図示している。18号溝の出土遺物はない。

19号溝

19号溝は、J-92グリッドで検出された。発掘区の隅で検出されたため、南側法面だけ記録することができた。したがって規模等の詳細は不明である。わずかに確認した底面までの深さは、0.91mである。60号土坑と重複するが、土坑より後出する。出土遺物は須恵器1片、土師器39片と少なく、細片のため図示できるものはなかった。掘削時期も特定することができない。

20号溝

20号溝は幅1.2m、深さ25~30cmを計る断面皿形の溝である。走向はN7°Eで、ほぼ東西方向を示す。50号住居、51号住居と重複するが、いずれにも本溝が後出する。出土遺物は、須恵器4片、土師器58片で、破壊した50号住居、51号住居の時期に一致している。20号溝掘削の時期は不明である。

21号溝

21号溝は、20号溝の南側に平行して検出された。幅0.8~1.0m、深さ2~4cmで極めて浅い溝である。底面近くのみ検出したものであろう。50号土坑、53号土坑、55号土坑と重複するが、埋設土の観察から50号土坑に先行することがわかっている。出土遺物はない。

22号溝

22号溝は、L-93・94グリッドに検出された。N25°Wを計り、北端は21号溝南縁まで確認できた。幅30~40cm、深さ10~13cmで、小規模な溝である。56号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物は土師器の細片が33片出土したのみで、溝の掘削時期を特定できない。

20号溝

- 1層 暗褐色土。耕作土。直径5mmの小礫を多く含む。非常に固く締まっている。
- 2層 黒褐色土。直径5mm前後の礫をやや多く含む。
- 3層 黒褐色土。直径10cmほどの礫を含む。直径1~5cmほどの小礫を少量含む。しまり悪い。
- 4層 黒褐色土。ローム粒子を少量含む。しまりは悪い。

21号溝

- 1層 褐色土。ロームブロックを多く含む。白色細粒物をごくわずかに含む。締まりは悪い。

22号溝

- 1層 黒褐色土。直径1~5cmの礫を含む。締まりは強い。
- 2層 黒褐色土。1層より黒い、また1層よりきわめて軟質。

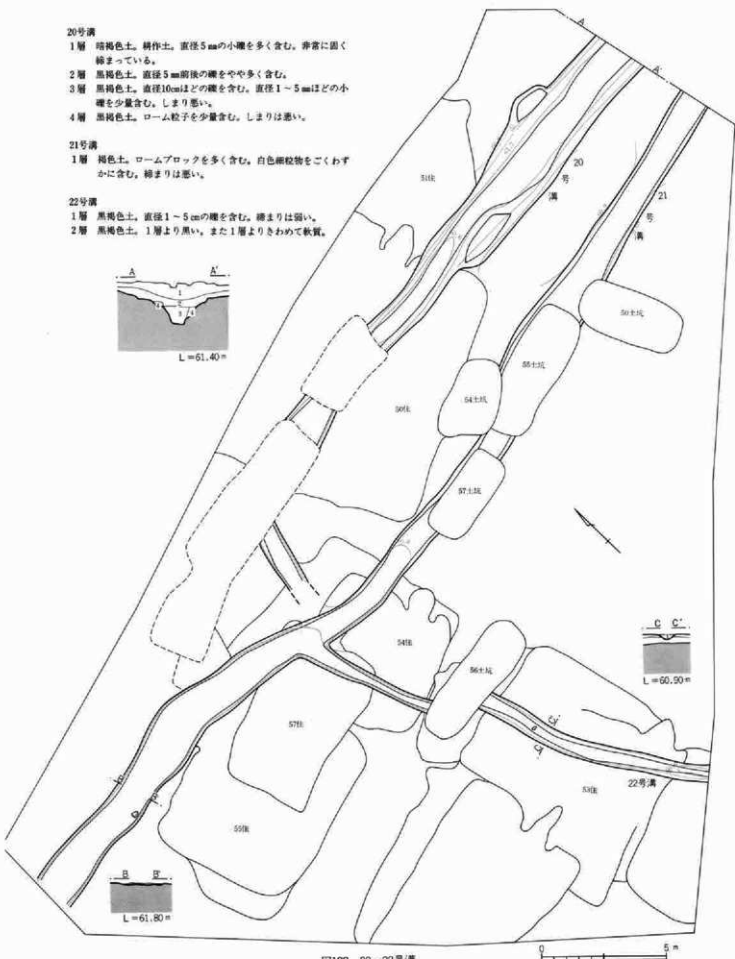
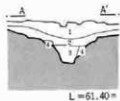


図188 20-22号溝

II 検出された遺構と遺物

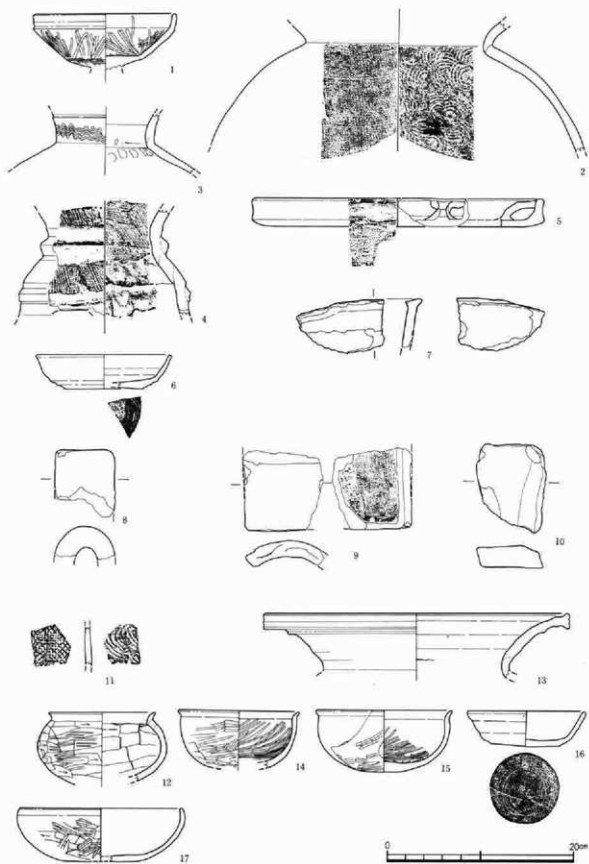


図189 溝の出土遺物〔1〕 1～13溝

1号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 高杯	杯部3/4残存 口(15.0cm)	埋没土中	①微細砂、石英、角閃石、 赤色細粒物を含む。 ②焼2.5YR6/8	杯部縦方向筒周りの後、横方向なで、放射状の荒磨き。 杯部底面外面横方向筒周りを、横方向荒磨き、内面丁 軍なでの後、放射状の荒磨き。口縁部内外面横なで。
2	須恵器 甕	頸部～体部上位 1/5残存	埋没土中	①麻密 ②赤灰10R5/2 ③還元焰、硬質。	外面縦方向平行叩き目文。数cmおきに横方向の沈線が 2条看取できる。内面同心円状叩き目文が残る。断面 は赤褐10R5/4を呈する。

3号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
3	須恵器 甕	頸部1/4残存	埋没土中	①白色細粒物を含む。 ②灰10Y5/1 ③還元焰、硬質	内外面横方向なで。頸部内面には指痕状が残る。口縁 部外面には一条の帯描成状文が施されている。
4	埴輪 朝顔形	上半部破片	埋没土中	①赤色細粒物を含む。 ②焼5YR6/6	外面縦方向刷毛目整形。内面上半部縦方向刷毛目整形。 下半部には輪組み痕が残る。

4号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	ほうろく 鍋	口縁～底部破片 口(30.6cm) 底(26.7cm) 高 3.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふい焼7.5YR7/4	内外面ともなで。内耳縁合部は部状工具でなで付けて いる。底面には砂の圧痕がのこっている。
6	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口(14.6cm) 底(8.6cm) 高 3.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰	左?回転クロコ成形。底部糸切り難し。無調整。内外 面回転なで。杯部下半強く押えられている。
7	焼締陶器 摺鉢	口縁部破片	埋没土中	①直径1cm以下の硝を多く 含む。 ②明褐色 ③良好	口縁端部は平坦に造り、幅広く浅い弁口を有する。
8	羽口	破片	埋没土中	①麻密。 ②青灰5B6/1 ③還元焰	内外面なで。金属締は付着していない。
9	丸瓦	破片	埋没土中	①中砂を含む。 ②灰7.5Y4/1 ③やや軟質	内面に布目圧痕が残る。
10	石製品 不明	破片	埋没土中		片面に磨り面がある。

5号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
11	須恵器 甕	破片	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にふい焼7.5YR6/3 ③還元焰	外面格子叩き目文、内面には同心円叩き目文が残る。

II 検出された遺構と遺物

12号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
12	土師器 瓶	口縁～体部下位 1/4残存 口 (11.4cm)	埋没土中	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤陶2.5YR5/6	体部横方向広がり、後横方向広がり、内面横方向広がり、口縁部内外面横なり。

13号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
13	須恵器 甕	口縁部1/4残存 口 (32.5cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰10Y4/1 ③硬質	口縁上端部には鋭い稜がつくり出されている。断面は赤褐10R5/4を呈する。
14	土師砂 杯	口縁～底部1/4残 口 (12.8cm)	埋没土中	①赤色細粒物を含む。 ②により橙7.5YR7/4	底部外面横方向広がり。体部横方向なでの後、横方向広がり。内面丁字なでの後、放射状の細い発着き。
15	土師器 杯	口縁～底部残存 口 (14.5cm) 高 6.4cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	底部外面横削り。体部外面なでの後、斜方向発着き。内面丁字なでの後、細い放射状の発着き。14と同巧であると考えられる。
16	須恵器 杯	ほぼ完形 口 12.5cm 底 7.4cm 高 4.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②黄次2.5Y6/1 ③還元焼	右回転コクロ成形。底部切り離し技法不明。底部切り離した後、底部外面全面回転削り。内外面回転なり。
17	土師器 瓶	口縁～底部破片 口 (17.4cm)	埋没土中	①微細砂、金雲母を含む。 ②により橙7.5YR6/3	体部から底部外面横方向、斜方向削り後、部分的に斜方向発着き、内面横方向なり。口縁部内外面横なり。

17号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 埴	ほぼ完形 口 9.3cm 底 3.1cm 高 10.3cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②橙5YR6/8	底部外面横方向削り。内面横方向広がり、その他の部分は専断が激しく、整形痕は観察できない。
2	土師器 埴	口縁1/4～底部残 口 (8.8cm) 底 1.9cm 高 8.9cm	埋没土中	①中砂、石英を含む。 ②橙5YR6/8	底部から体部下外面横方向削り。体部内面横方向広がり。本資料も専断が激しい。
3	土師器 埴	口縁～体部3/4残 口 9.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/8	口縁部から体部上半横方向削り。体部下半横方向削り。内面指押さえ。口縁部内外面横なり。
4	土師器 埴	頸部～底部3/4残 割 9.0cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②橙2.5YR6/8	体部外面横方向削り。内面指押さえ。
5	土師器 広口埴	口縁部1/3欠損 口 10.0cm 底 2.7cm 高 9.6cm	埋没土中	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5YR6/6	底部外面斜方向削り。体部中位横方向削り。体部上位から口縁部まで。内面横方向削り。口縁部内外面横なり。

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
6	土師器 大口壇	口縁一体部1/4残 口 (10.6cm)	埋没土中	①赤褐色を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	体部外面横方向荒削り。体部上半などで、口縁部外面までの横、縦方向荒磨き。底部内面縦方向指などで、体部内面には指頭痕が顕著に残る。口縁部内面横などで、口縁外面端部には一糸の沈線が走る。

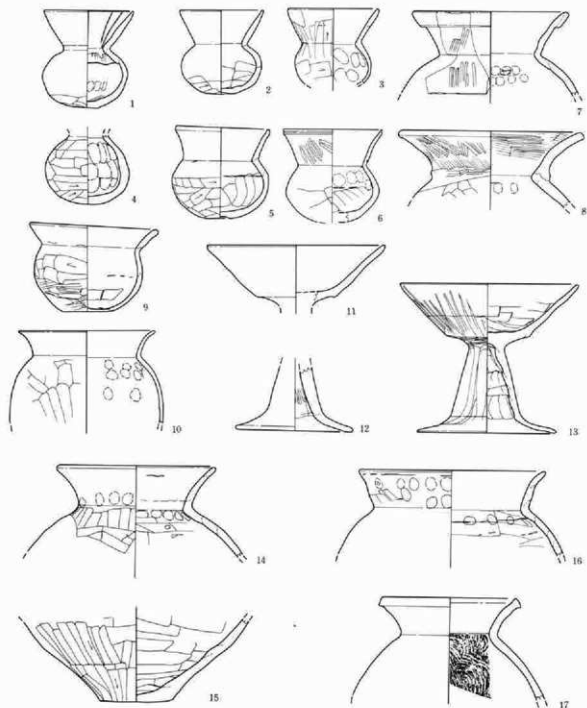


図190 溝の出土遺物(2) 17号溝

0 20cm

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成り整形の特徴
7	土師器 壺	口縁部破片 口 (16.2cm)	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②橙5YR7/6	外面縦方向寛磨き、体部内面には指頭痕が顕著に残る。口縁部は幅の狭い折り返し口縁である。
8	土師器 甕	口縁部破片 口 (19.0cm)	埋没土中	①微細砂、輝石、赤色細粒物を含む。 ②にぶい赤褐2.5YR5/4	体部外面縦方向寛磨きで、内面まで。口縁部外面横磨きで、縦方向寛磨き。口縁部内面横磨きで、横方向寛磨き。口縁部外面にやや丸い面とりがされている。
9	土師器 広口壺	3/4残存 口 13.4cm 底 5.2cm 高 9.2cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙7.5YR7/6	底部外面縦磨り。体部外面横方向縦磨り。下半には部分的に横方向寛磨き。内面横磨きで、肩部外面から口縁部にかけて横磨き。
10	土師器 甕	口縁～体部破片 口 (14.4cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6	体部外面縦方向縦磨り。内面指頭痕が残る。口縁部内外面横磨き。
11	土師器 高杯	杯部1/3残存 口 (19.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/8	内外面とも摩耗が激しく、整形痕は観察できない。
12	土師器 高杯	脚部残存 底 12.5cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②橙2.5YR6/8	外面摩耗が激しく整形痕は観察できない。内面には絞り痕が顕著に残っている。
13	土師器 高杯	4/5残存 口 19.0cm 底 14.9cm 高 15.8cm	埋没土中	①緻密。 ②橙7.5YR6/6	杯部外面横方向での後、縦方向寛磨き。内面横方向寛磨き。口縁部横磨きで、脚部外面縦方向縦磨り。内面粘土粒巻き上げ痕が顕著に残るが、指頭で押さえている。脚端部横磨き。
14	土師器 甕	口縁～体部上位 1/3残存 口 (16.7cm)	埋没土中	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6	肩部外面上位縦方向縦磨り後、下位横方向縦磨り。内面横方向寛磨きで、指頭痕が顕著に残る。口縁部内外面横磨き。外面には指頭痕が残る。
15	土師器 甕	体部下位～底部 1/2残存 底 (8.0cm)	埋没土中	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5YR5/6	外面縦方向縦磨り。内面横方向寛磨きで、底部外面縦磨り。
16	土師器 甕	口縁～頸部残存 口 19.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	肩部外面横方向で、口縁部横磨き。指頭痕が残る。肩部内面横方向縦磨り。指頭痕が残る。口縁部内面横磨き。
17	須恵器 甕	口縁～体部破片 口 (14.4cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰白5Y7/1 ③還元焰	体部外面丁寧な磨きで、体部内面同心円状の引き目文。口縁部内面横磨き。
18	土師器 杯	定形 口 11.2cm 高 3.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/8	底部外面縦磨り。内面横磨きで、指頭痕が残る。口縁部内外面横磨き。
19	土師器 杯	1/3残存 口 (10.7cm) 高 3.3cm	埋没土中	①緻密。 ②橙5YR6/6	底部外面縦磨り。内面横磨きで、指頭痕が残る。口縁部内外面横磨き。
20	土師器 杯	底部欠損 口 12.0cm	埋没土中	①微細砂、石英を含む。 ②明赤褐2.5YR5/4	内外面とも摩耗が激しく整形技法の単位等不明である。
21	須恵器 平瓶	口縁～体部 1/4残存 口 (8.5cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰白N5/ ③還元焰	体部外面右回転クロコ磨り。内面には接合部に指頭痕が残る。
22	須恵器 長頸壺	体部～頸部1/4残	埋没土中	①緻密。 ②黒褐7.5YR3/1 ③還元焰。硬質。	体部下部左回転クロコ磨り。肩部外面丁寧な磨きで、内面横磨きで、底部外面摩耗が激しくクロコ切り難し技法不明。付け高台。

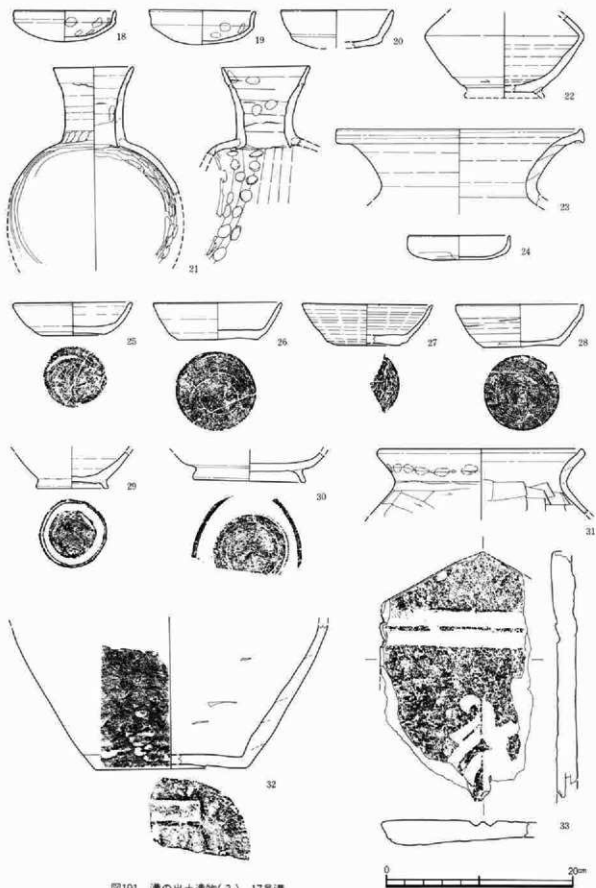


図191 溝の出土遺物(3) 17号溝

II 検出された遺構と遺物

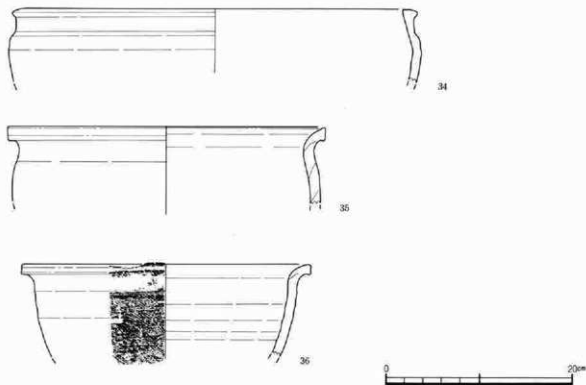


図192 溝の出土遺物(4) 17号溝

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
23	須恵器 甕	口縁～頸部破片 口 (26.5cm)	埋没土中	①黒色細粒物を含む。 ②灰白7.5YR7/1 ③還元焼	粘土組織み上げ成形。内外面回転製なで。
24	土師器 杯	口縁～底部3/4残 口 (10.7cm) 高 2.6cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②橙5YR7/6	底部外面磨削。内面および口縁部内外面備なで。
25	須恵器 杯	1/3残存 口 (12.8cm) 底 6.5cm 高 3.5cm	埋没土中	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5YR5/1 ③還元焼	右回転ロクロ成形。回転赤切り難し後、中央部をわずかに残して底部外面回転磨削。杯部内外面回転なで。
26	須恵器 杯	1/3残存 口 13.8cm 底 8.5cm 高 3.9cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②にょい黄橙10YR7/3 ③酸化焼。軟質。	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。底部切り難し後、底部外面全面回転磨削。杯部内外面丁寧なで。
27	須恵器 杯	口縁～底部1/4残 口 (14.0cm) 底 (7.2cm) 高 4.2cm	埋没土中	①緻密。 ②明赤褐5YR5/6 ③酸化焼。軟質。	右回転ロクロ成形。底部赤切り難し後、底部外面磨削のみ回転磨削。内外面なで。
28	須恵器 杯	2/3残存 口 13.4cm 底 8.0cm 高 4.6cm	埋没土中	①緻密。 ②灰N6/ ③還元焼。硬質。	右回転ロクロ成形。底部切り難し技法不明。切り難し後、内外面回転なで。底部外面全面から杯部外面下半部回転磨削。内外面なで。

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
29	須恵器 高台付椀	体部下位～底部残 底 7.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白7.5YR7/3 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部回転糸切り難し。付け高台。 内外面丁寧なで調整。
30	須恵器 鉢	底部3/5残存 底 12.2cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰	右回転クロコ成形。底部切り難し技法不明。底部外面 全面荒削り。付高台。体部内外面回転なで。
31	土師器 甕	口縁～体部上位 1/4残存 口 (20.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰5YR6/8	胴部外面横方向荒削り。内面横方向荒なで。口縁部内 外面横なで。口縁部外面には指痕が残る。
32	須恵器 甕	体部下半～底部 1/4残存 底 (16.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白2.5Y7/1 ③還元焰	粘土結核み上げ成形。体部外面縦方向刷毛目整形後。 なで。最下部横方向荒削り。内面横方向横なで。底部 外面なで。荒削りが残る。
33	板碑	上端部破片 横 (22.0cm) 厚 2.7cm	埋没土中	緑泥片岩	表面外縁部は面とりをしている。表面は無調整。
34	須恵器 鉢	破片 口 (40.6cm)	埋没土中	①緻密。細砂を少量含む。 ②灰白N6/ ③還元焰。硬質。	体部外面刷毛目状の平行条線の整形痕が除去できる。 口縁部外面から内面は横方向なで。
35	須恵器 鉢	口縁～体部上位 1/9残存 口 (34.2cm)	埋没土中	①緻密。 ②灰白10YR7/1 ③還元焰	内外面とも横方向なで。
36	須恵器 甕	口縁～体部上半 破片 口 (30.8cm)	埋没土中	①白色細粒物を含む。 ②灰5YR5/1 ③還元焰	体部外面斜方向平行引き目文。口縁部外面から体部内 面横方向の丁寧なで。

20号溝出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁～底部1/4残 口 (13.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰黄7.5YR4/2	底部外面荒削り後、部分的に細かい荒削り。杯部内面 から口縁部内外面横なで。

番号	器種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	絵付の特徴
2	磁器 徳利	底部破片	埋没土中	①白色 ②透明に近い青緑釉 ③普通	高台端部は無釉。砂が少量付着する。胴部と高台の境 には、具柄による黒線を巡らす。伊万里系。17世紀後 半～18世紀。
3	磁器 湯呑	体部破片	埋没土中	①白色 ②透明釉 ③普通	コバルトで桜枝様の文様を二ヶ所に描き、一方の先端 にくすんだ金色の下絵を施す。伊万里系。20世紀。
4	磁器 湯呑	体部破片	埋没土中	①白色 ②内面透明釉。外面青緑釉 の掛け分け。 ③良	文様は輪下飾。黒はくすんだ金色。他は濃い緑色である。 伊万里系。20世紀。
5	磁器 皿	破片	埋没土中	①白色 ②透明釉 ③普通	内面はすべて上塗りである。口縁部は赤色で緑釉を描 く。体部は赤色で花弁風の文様を縁取り。その中と下 は黄緑色を入れていたと思われる。他には黒色の縁線が 認められる。胴部外面は具柄（コバルト？）により二 重黒線を施す。

II 検出された遺構と遺物

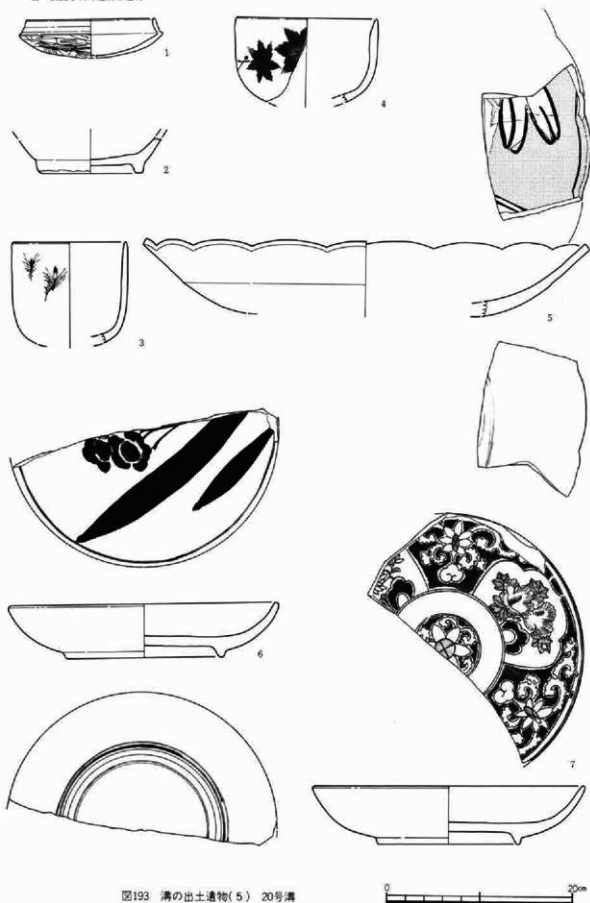


図193 溝の出土遺物(5) 20号溝

番号	器 種	量 目	出土位置	①胎土②胎調③地成	給 付 の 特 徴
6	磁器 皿	1/2残存	埋没土中	①白色 ②透明釉 ③良	輪下形で水仙を描く。葉と花弁はコバルト、他はクロムを使用したと思われる。伊万里系。20世紀。
7	磁器 皿	1/2残存	埋没土中	①白色 ②透明釉 ③良	銅版による下絵付。藍色の発色は非常に強い、明治～大正時代。

5. 井 戸

1号井戸

1号井戸は、L・M-76グリッドに検出された。13号溝と重複しており、埋没土の観察から1号井戸が先行することがわかった。平面形は長径2.28m、短径1.84mを計る楕円形を呈する。底面は、基盤の扇状地礫層まで掘り込んでおり、深さは遺構確認面から73cmである。後出する13号溝に切られているために、埋没土は最も下位の層しか確認できなかった。溝埋没土の砂り層とは対象的な砂質の黒褐色土である。直径10cm程の円礫を少量含んでいるが、これは水流によるものではなく、基盤の礫層に起因するものと思われる。また、本井戸は36号住居とも重複している。住居との新旧関係は井戸が住居の床面を破壊していることから、1号井戸が後出することは明らかである。これらの遺構の関係を整理すれば、36号住居→1号井戸→13号溝ということになる。

1号井戸からは、土師器200片余、須恵器30片余が出土している。ほとんどが破片であるなかで図示しえた遺物は、底面全面回転彫削調整の須恵器杯形土器や、体部が丸く口縁部が内湾する土師器杯形土器などで、時期が限定できそうな遺物である。しかし、それは36号住居と近接した時期であることから、井戸掘削時に住居の遺物が混入したとも考えられ、井戸の時期を先述した相対的年代以上に特定することは困難である。なお、現在での湧水はない。

2・4号井戸

2・4号井戸は、隣接して掘られている。同一地点で掘り直された可能性もある。J-77グリッドで検出された。2号井戸は、長径3.5m、短径3.2mの楕円形に近い形態を呈し、中央に湧水部を掘っている。深さは遺構確認面から2.5mを計る。最深部は基盤の礫層を掘り抜いている。4号井戸は、直径2.5mのほぼ円形を呈する。4号井戸も深さは2.5mで、最深部は基盤の礫層まで掘っている。

これらの井戸は重複しており、さらに4号井戸は13号溝とも重複している。埋没土断面からみると、4号井戸→13号溝→2号井戸という新旧関係が判明している。2号井戸からは出土遺物がなかったが、4号井戸から数片の土師器破片とともに盤状の杯部をもつ須恵器高杯形土器がほぼ完形で出土している。

II 検出された遺構と遺物

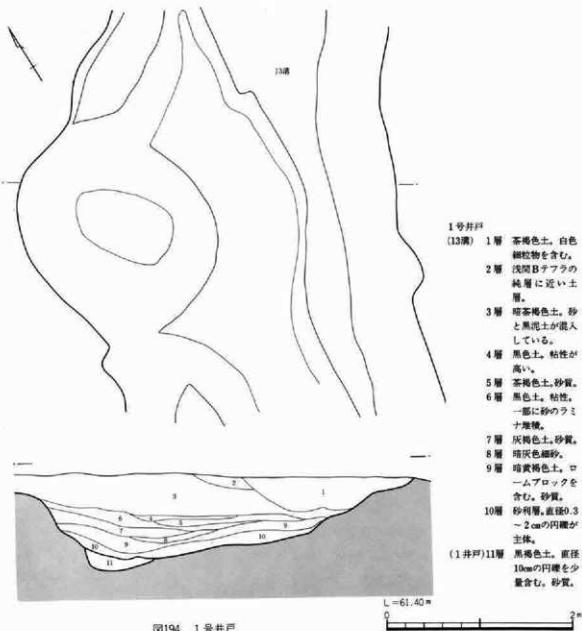


図194 1号井戸

3号井戸

L・M-63グリッドに1号溝と重複して検出された。本井戸は直径2mほどの円形を呈し、深さは遺構確認面から1.84mを計る。出土遺物はない。この井戸の平面形は1号溝を掘りきった状態で確認できたので、3号井戸は1号溝に先行する。

5号井戸

M-79・80グリッドに17号溝と重複して検出された。長径1.4m、短径1.2mを計る楕円形を呈する。深さは1.7mほどまで調査したが、下部にいくにしたがって径が0.8mと細くなるので、掘ることができなくなり、最深部を確認するにいたっていない。

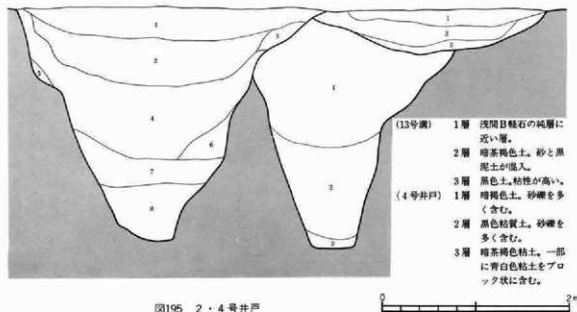
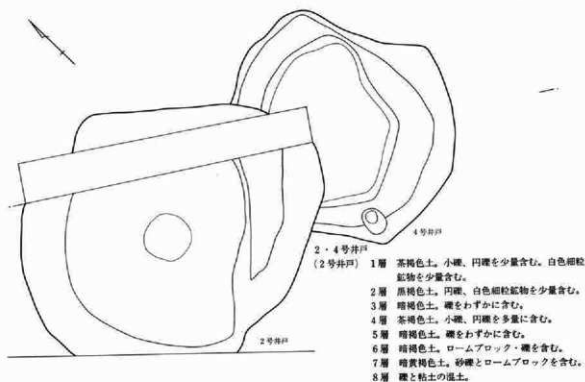


図195 2・4号井戸

4号井戸出土遺物観察表 (図197・P236)

番号	砂種	量目	出土位置	①粘土②色調③焼成	成・整形の特徴
5	須恵砂 台付蓋	口縁部1/2及び脚 端部欠損	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰白10YR7/1 ③焼元弱	右回転クワ成形。盤底部外面中央部回転削り。馬 蹄から内面回転模など。脚部内外面回転模など。

II 検出された遺構と遺物

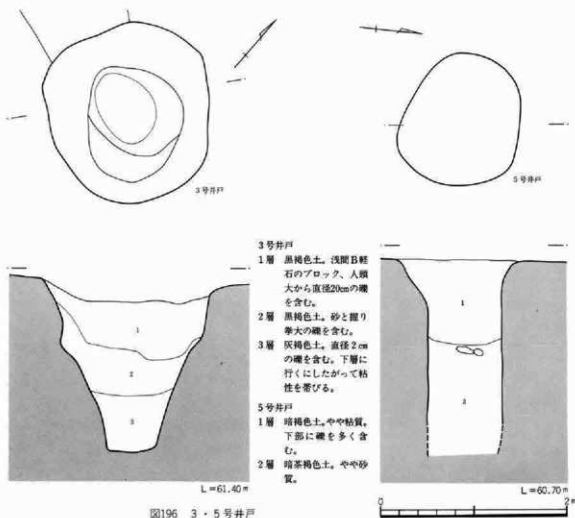


図196 3・5号井戸

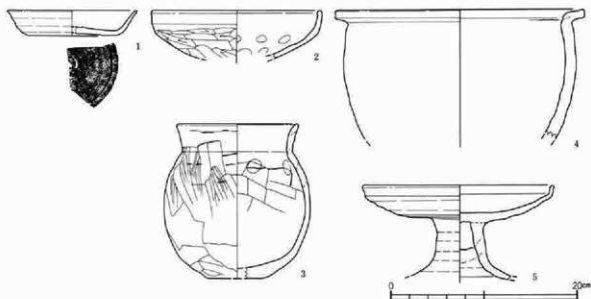


図197 井戸の出土遺物

1号井戸出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	須恵器杯	口縁～底部1/4残口 (13.8cm) 底 (9.8cm) 高 2.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰。硬質。	右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。切り離した後、底部外面全面回転磨削り。内外面横なで。
2	土師器杯	口縁～底部1/4残口 (18.0cm)	埋没土中	①微細砂、金雲母を含む ②橙5YR6/6	底部外面縦方向磨削り。杯部内面から口縁部内外面丁寧な横方向なで。外面中位には無調整部分が帯状に残る。
3	土師器甕	口縁～底部1/2残口 (12.7cm) 底 (6.4cm) 高 16.5cm	埋没土中	①中砂を含む。 ②橙5YR6/6	体部外面縦方向磨削り。部分的に縦方向磨き。内面横方向磨なで。底部下には指頭痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部外面中位には輪積み痕が一条残る。
4	須恵器甕	口縁～体部上半破片 (26.4cm)	埋没土中	①粗密 ②灰N5/ ③還元焰。硬質。	内外面横なで。

6. 遺構外の出土遺物

遺構確認作業時等に遺構に伴わない形で幾つかの土器が出土している。

遺構外の出土遺物観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴
1	土師器甕	口縁～底部1/4残口 (12.8cm)	表探	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/6	体部外面斜方向磨削り後、横方向磨き。内面なで。口縁部内外面横なでの後、体部内面放射状の磨き。
2	土師器杯	1/3残存口 (13.7cm) 高 5.5cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②明赤褐2.5YR5/8	底部外面磨削り。内面剥落が激しいが磨きが施されているのは奪取できる。口縁部内外面横なで。
3	土師器埴	胴～底部3/4残別 14.6cm	K・L-52G 表探	①微細砂・石英を含む。 ②橙5YR6/6	体部外面横方向磨削り。上半丁寧なで。下半横方向磨き。内面横方向磨なで。輪積みが顕著に残り、指頭の圧痕が付されている。
4	土師器鉢	口縁～底部2/3残口 (13.7cm) 底 5.5cm 高 8.7cm	表探	①微細砂、角閃石、石英、雲母を含む。 ②明赤褐2.5YR5/6	体部外面横方向磨削りの後、横方向磨き。内面磨なで後、縦方向磨き。口縁部内外面横なで。
5	土師器杯	口縁～底部1/3残口 (12.7cm)	表探	①粗密。 ②明赤褐2.5YR5/6 硬質	内外面とも丁寧になられた後、横方向磨き。

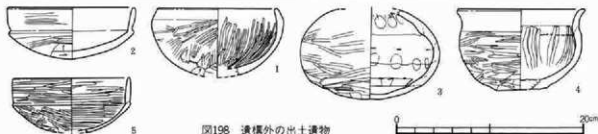


図198 遺構外の出土遺物

III 調査の成果と今後の課題

1. 周辺の地形と遺跡

今回調査した成塚石橋遺跡は、大間々層状地南東末端部に立地する古墳時代以降の集落遺跡である。大間々層状地に現流河川がなく、低台地化しており、現在は畑地や桑園に利用されている。調査区は現況ではほとんど平らであったが、調査では発掘区内を大きく蛇行する流路址が検出された。今回の調査では1号溝、17号溝と呼んでいるが、人工の溝でなく、自然の流路と考えられる。これらの溝へのローム層の堆積状況を見ると、ローム層が流れこんでいる部分があり、これらの流路は層状地形形成時に層状地表面に残された古い流路の痕跡と考えられる。これらの凹地は現在では埋積されているものが多いが、層状地地域内には現存するものもある。隣接する県企業局の調査区でも同様の流路跡が検出されており、網状に小規模な流路が扇端部に残されているものと考えられる。

古墳時代中期には、これらの流路に小さな流水があったことが調査で判明した。1号溝の底面には薄い砂利層が堆積している。また、底面近くで出土した遺物の中には摩耗したものが少なくなかった。したがって集落の中を小川が流れていたことになり、これらの流路は、集落内において景観的にも機能的にも重要な位置を占めるものと考えられる。また17号溝では古墳時代中期の埴形土器や高杯形土器が完形に近い形で底面に集中して出土した地点があり、いわゆる集落内祭祀の行われた可能性もある。この流路址は、昭和63年度調査地区でも連続して調査されており、さらに多くの土器が集中して出土している。住居と流路の関係を集落構造と関連させて考えていく好材料となると思われる。また、県企業局調査地区で検出された方形環濠集落の環濠は南東側の隅がなく、同様な小規模流路で斜めに区切られている。(文献20) 本地域の集落構造を考えていくうえでこの小規模流路は不可欠の要素と言えるだろう。

その後、この流路は埋積されていくが、土層断面をみると浅間Bテフラの降下する頃(12世紀初頭)にはまだ凹地として残っていた。今回の調査で検出された奈良・平安時代の遺構もほとんど重複することなく分布していることからもうなづける。埋積小規模流路については、昭和63年度調査の際にその形成の時期や過程については不完全ながら調査したので、続刊の報告書のなかでまとめていきたいと考えている。

2. 成塚遺跡群の分析に向けて

昭和61・62年度の調査で住居址105軒、土坑72基、溝22条、井戸5基が検出された。住居の時期は、5世紀中頃から9世紀後半までであり、7世紀頃の住居が少ないが、ほとんど継続した集落であることがわかる。特に北側の一部を除いて遺構の重複が激しいことから、間断なく集落が継続したことを窺わせる。この遺構の重複状況は発掘区北東の隣接する県企業局発掘区へも広がっている。

特に今後成塚周辺の遺跡群を考えていくうえで課題の一つとなるのは、5世紀の集落構造であろう。企業局調査区の一部には5世紀前半と考えられている方形環濠集落がある。方形区画内だけに環濠と同時期のカマドがまだ付設されない住居が分布している特徴的な集落である。今回事業団で調査した発掘区でも一部にカマドの付設していない住居が検出されているが、企業局発掘区の方形環濠集落内の住居との比較検討が

今後必要と考えられる。事業団調査区では5世紀後半と考えられるカマドの付設された住居が道路沿いに検出されているのが特徴的である。周辺の古墳時代前期の住居は、数百m離れた企業局調査区東半にある。事業団発掘区はこの伝統集落の周辺拡大地域といえようか。

5世紀の成塚地域は、桂甲を出土した鶴山古墳などがつくられており、集落の発展が看取できる。生産の基盤は、八王子丘陵と大間々扇状地との間の沖積地から扇状地南側の広い沖積地にかけての地域と考えられる。欠水性の扇状地地域の初期農耕集落は、自然湧水を容易に水源とすることができる小河川沿いに一定間隔をもって立地する。(文献21) 5世紀以後、集落は周辺に拡大し始めるが、その背景には生産域＝水田を支える用水の確保が不可欠であった。能登健氏によれば、大間々扇状地の湧水池の立地と形態にはI～IVの4つのパターンがあり、それぞれが遺跡の分布と関連しているという。(文献22) 自然湧水池(パターンI)に加えて人工湧水池(パターンII)が登場する時期が5世紀と考えられ、集落の動向と一致する。成塚石橋遺跡の農耕集落の実態は未解明であるが、成塚地域全体の地域発達を横軸に据えた分析視点が必要になると考えられる。

3. 出土遺物について

39号住居は、完形の遺物が床面直上あるいは若干浮いた形で大量に出土した。これらの土器には時間差は看取できず、一括資料と考えられる。それらの中にはカマド支脚になっているものや貯蔵穴内に落ち込んでいたものもあり、これらの土器群は居住に伴うものと判断した。

古墳時代中期の土師器を嗣年した坂口一氏は、須恵器との共伴関係を整理する中で実年代の比定にまで迫っている。氏は杯形土器の丸底化、高杯形土器の短脚化、甕形土器の長脚化を5世紀後半の土器の様相であると、この頃には既に住居にカマドが付設されているとした。(文献1) 本遺跡39号住居の出土遺物はちょうど坂口嗣年のⅢ期に近い土器群にあたると考えられる。1、2のような杯形土器は古い様相を残しているが、新しい形態の土器群は既に先述したような変化を遂げつつある。3の完全な丸底の杯形土器や、27の短脚化した高杯形土器はやや新しい様相を示し、坂口Ⅳ期の土器に近いと考えられる。

また、39号住居からは丸底の甕形土器が2個体出土している(図78-49・50)。丸底の甕形土器は関東地方の一般的な器種ではないことは明白であり、他地域からの外来性の高い土器である。胎土はほかの甕形土器のものとは少し異なるように見え、今後関東地方での類例に注意しなければならない。細部の器形や、整形技法に相違点がみられるものの、いわゆる「右留系甕」の系譜上にある土器と考えられる。

一方、89号住居からは銅鐸形の土製品が出土している。遺構確認時に埋没土上面から出土したが、確認面からの壁高は最も深いところで13cmであり、この遺物が住居に伴うかどうかの判断は困難である。89号住居は他の出土土器から5世紀前半の住居と考えられる。類例の集成作業は行っていないが、大阪府の瓜生堂遺跡、亀井遺跡で弥生時代中期の例がある。(文献23・24)

参考文献

1. 坂口 一・三浦京子 1986 「奈良・平安時代の土器の編年・住居の重複と併存関係による土器組列の検討」 群馬県史研究24
坂口 一 1987 「群馬県における古墳時代中期の土器の編年・併存関係による土器式組列の検討」 研究紀要4 群馬県縄文・土器文化財調査事業団
2. 群馬県教育委員会 1974 「太田市八幡遺跡発掘調査報告」
3. 尾崎孝佐雄 1951 「群馬県太田市鷲山古墳」『日本考古学年報』一 日本考古学協会
4. 群馬県歴史編纂委員会 1981 『群馬県歴史』資料編3 古墳
5. 文献4に同じ
6. 梅沢重昭 1967 「太田の古墳」『金山』 県立太田高等学校同窓会誌
7. 新田町教育委員会 1984 「重殿遺跡一市前は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報」 新田町文化財調査報告書第5冊
8. 新田町誌編纂委員会 1984 『新田町誌』第四巻
9. 新田町教育委員会 1984 「市野井赤城南遺跡（生品中学校校庭遺跡）」 新田町文化財調査報告書第4冊
10. 清水潤三 1951 「群馬県新田郡二ツ山古墳」『日本考古学年報』一 日本考古学協会
11. 新田町教育委員会 1981 「入谷遺跡 律令期の瓦葺建築遺構の調査」 新田町文化財調査報告書第3冊
1985 「入谷遺跡II」 新田町文化財調査報告書第5冊
1987 「入谷遺跡III」 新田町文化財調査報告書第8冊
12. 群馬県教育委員会 1983 『歴史の道調査報告書 東山道』 群馬県歴史の道調査報告書第十六巻
13. 尾崎孝佐雄 1967 「群馬県新田郡別所茶臼山古墳」『日本考古学年報』一五 日本考古学協会
14. 尾崎孝佐雄 1953 「横穴式古墳地無型石室の研究」『群馬大学紀要—人文科学編』第三巻
15. 小暮仁一 1973 「東浦古墳群」『日本考古学年報』二四 日本考古学協会
16. 文献4に同じ
17. 文献4に同じ
18. 太田市教育委員会 1973 『群馬県太田市堂原遺跡発掘調査報告書』
19. 文献4に同じ
20. 宮塚義人 1988 「17. 成塚遺跡」『弥生時代の環境をめぐる諸問題』埋蔵文化財研究会 東海埋蔵文化財研究会
群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会・群馬県歴史博物館 1988 『古代東国の王者 三ツ寄塚とその時代』
21. 小島敦子 1986 「初期農耕集落の立地条件とその背景—地形復元を前提にした遺跡分布の分析—」 群馬県史研究24
22. 綿登 健 1984 「新田荘成立前の人々の生活」『新田町誌』第四巻 新田町誌編纂委員会
23. 大阪府教育委員会・動大阪文化財センター 1980 『瓜生堂 近畿自動車天理—吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報報告書』
24. 動大阪文化財センター 1980 「亀井・城山・羅屋川南郡虎城下水道事業長青ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書』

写 真 图 版



1. 免郷区通景 治郎門橋駅から東を望む



2. 免郷区全景 東南から



1. 発掘区全景 北から



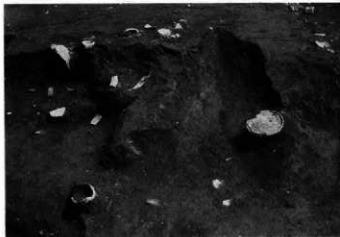
2. 企業用調査区を望む



1. 1・2・5号住居全景 西から



2. 1号住居カマド



4. 5号住居カマド



3. 1号住居全景



5. 5号住居貯蔵穴遺物出土状態



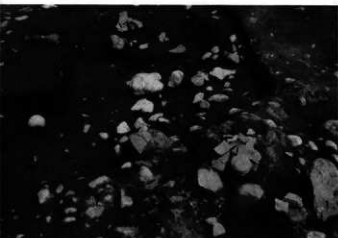
1. 1号住居遺物出土状態



2. 3号住居カマド



3. 3・4号住居全景



4. 4号住居全景



5. 4号住居貯蔵穴



1. 6号住居全景



2. 7号住居全景



3. 8号住居全景



1. 8号住居遺物出土状態



2. 9号住居全景



3. 9号住居カマド



4. 9号住居掘り方



5. 9・10号住居周辺の遺構分布



6. 10号住居全景



7. 10号住居カマド



8. 13号住居全景



1. 11・12号住居全景



2. 14号住居全景



3. 15号住居全景



4. 16号住居カメラ



5. 16号住居全景



1. 17号住居全景



2. 18号住居カマド



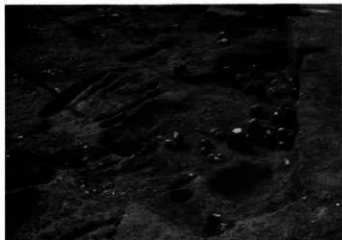
3. 18号住居全景



4. 18号住居掘り方



5. 18号住居断面遺物出土状態



1. 19号住居全景



2. 19・20号住居重積土層



3. 20号住居全景



4. 20号住居カマド



5. 21号住居全景



6. 21号住居カマド



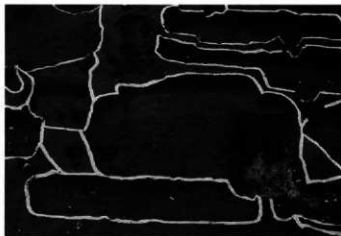
7. 22号住居全景



8. 22号住居掘り方



1. 23号住居のマフ



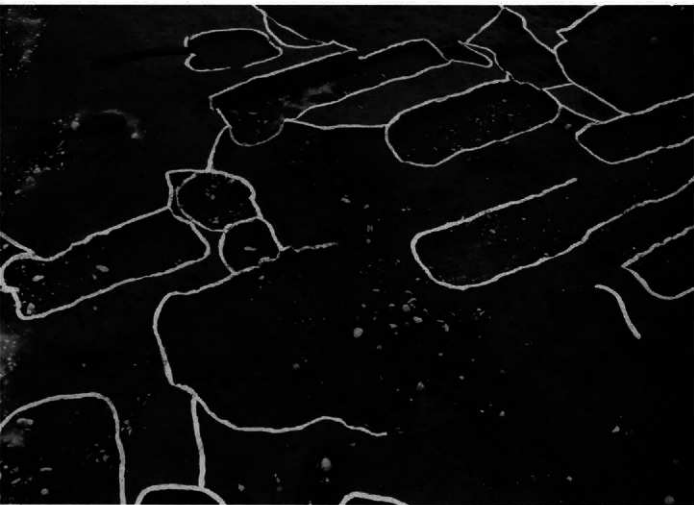
2. 24・25号住居全景



3. 24・25号住居掘り方



4. 26号住居全景



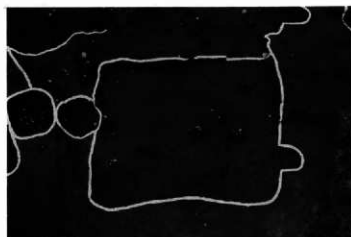
5. 28号住居全景



1. 29号住居



2. 29号住居カマド



3. 30号住居全景



4. 32号住居全景



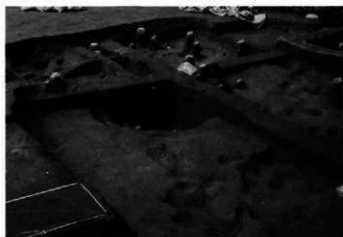
5. 33号住居全景



1. 34号住居全景



2. 34号住居周辺の遺構分布



3. 34号住居掘り方



4. 35号住居全景



5. 35号住居カマド



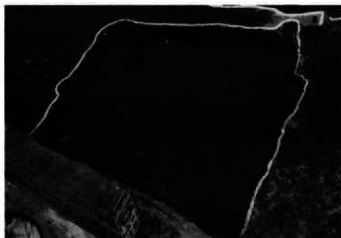
1. 36号住居全景



2. 37号住居カマド



3. 37号住居全景



4. 37号住居掘り方



5. 36号住居全景



1. 39号住居全景



2. 39号住居カマド



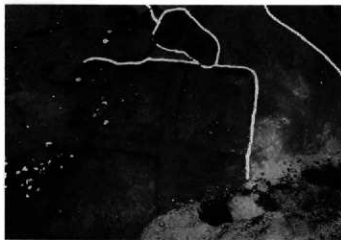
3. 39号住居カマド周辺



4. 39号住居東隅遺物出土状態



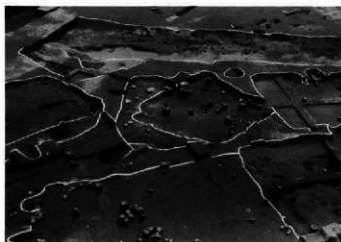
5. 39号住居南隅遺物出土状態



1. 40号住居全景



2. 41号住居全景



3. 41号住居周辺の遺構分布



4. 43号住居全景



5. 44号住居全景



6. 45号住居全景



7. 46号住居全景



8. 47・48号住居全景



1. 49・60号住居全景



2. 49号住居カメラ



3. 50号住居全景



4. 50号住居カメラ



5. 51号住居全景



6. 51号住居カメラ



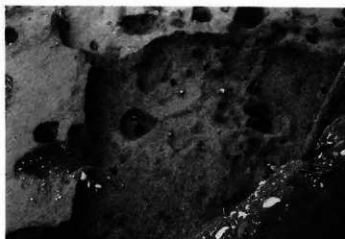
7. 52号住居全景



8. 52号住居カメラ



1. 52B号住居全景



2. 52・52B号住居掘り方



3. 53・59号住居全景



4. 53号住居カマド



5. 54・56号住居全景



6. 54号住居カマド



7. 54号住居掘り方と56号住居



8. 56号住居全景



1. 55号住居全景



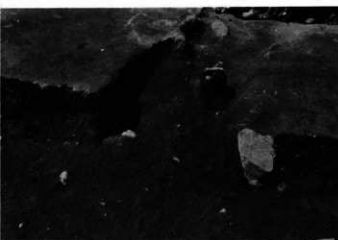
2. 55号住居カマド



3. 55号住居掘り方完填土



4. 55号住居掘り方



5. 56号住居カマド



6. 56号住居カマド掘り方



7. 57号住居カマド



8. 57号住居掘り方



1. 57号住居全景



2. 58号住居全景



3. 59号住居全景



4. 61・67号住居全景



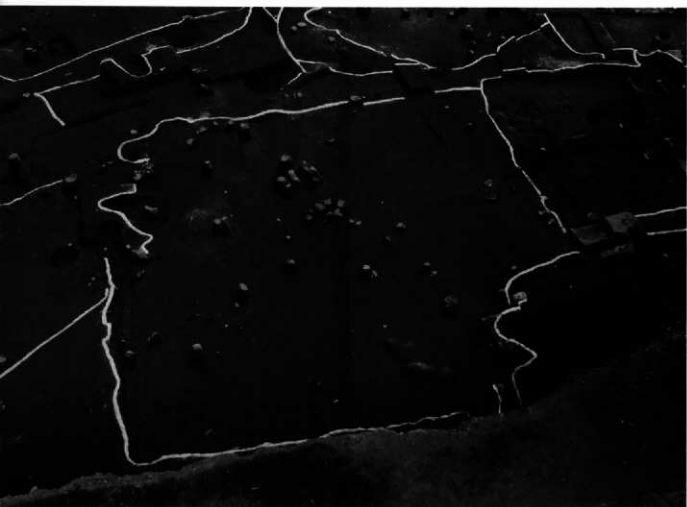
5. 61・67号住居掘り方



1. 61号住居カマド



2. 62号住居カマド



3. 62・73号住居全景



4. 62・73号住居掘り方



5. 63号住居



1. 64号住居全景



2. 64号住居カマド



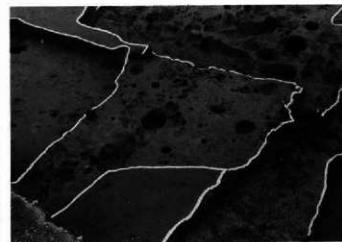
3. 65号住居全景



4. 66号住居全景



5. 68号住居全景



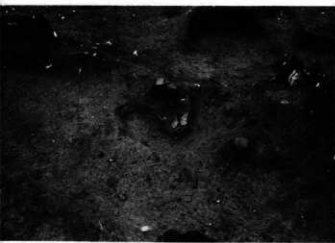
6. 68号住居掘り方



7. 70号住居カマド



8. 70号住居掘り方



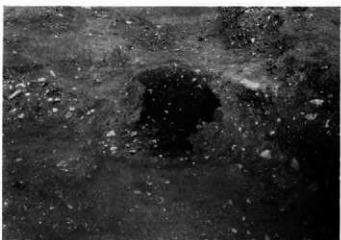
1. 71号住居カマド



2. 71号住居周辺の遺構分布



3. 75号住居全景



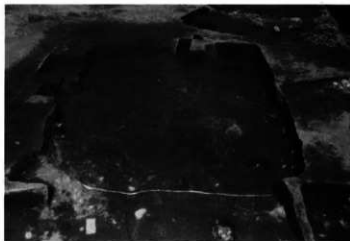
4. 75号住居カマド



5. 77号住居全景



1. 76号住居カマド



2. 79号住居全景



3. 80号住居全景



4. 81号住居全景



5. 83号住居全景



6. 81号住居遺物出土状態



7. 82号住居全景



8. 82号住居カマド



1. 84号住居全景



2. 84号住居カマド



3. 85号住居全景



4. 85号住居カマド



5. 86号住居全景



6. 87号住居全景



7. 88号住居全景



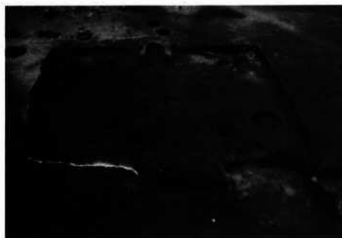
8. 89号住居全景



1. 90号住居全景



2. 91号住居全景



3. 92号住居全景



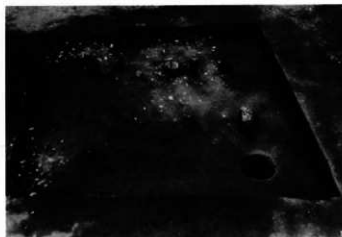
4. 93号住居全景



5. 94号住居全景



6. 94号住居遺物出土状態



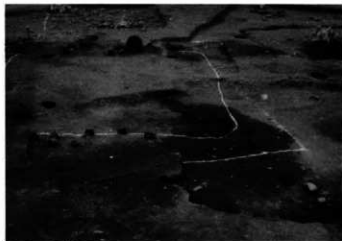
7. 95号住居全景



8. 96号住居全景



1. 97·98号住居全景



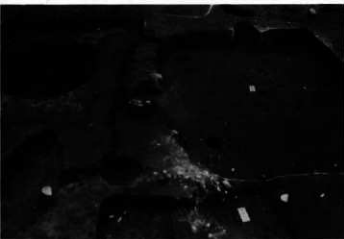
2. 99·103号住居全景



3. 100号住居全景



4. 103号住居遺物出土状態



5. 102号住居全景



6. 104号住居全景



7. 105号住居全景



8. 105号住居全景



11号土坑



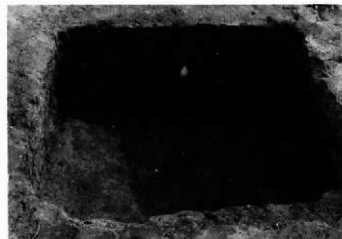
23号土坑



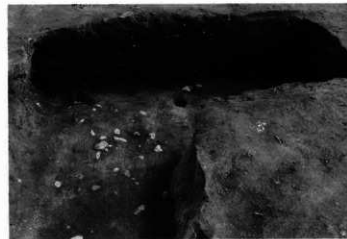
15号土坑



15号土坑



24号土坑



25・26号土坑



22～25号土坑周辺



32号土坑



27号土坑



32号土坑



33号土坑



土坑群出状況



34号土坑



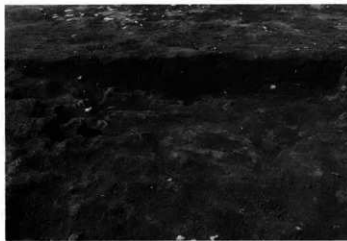
35号土坑



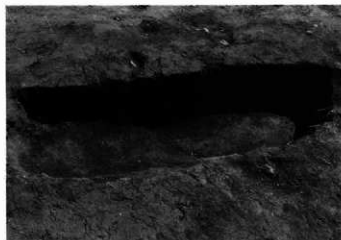
群在す6A類土坑



35号土坑



36号土坑



37号土坑



60号土坑



5号土坑



5号土坑



50号土坑



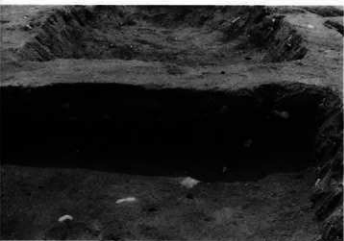
50号土坑



53号土坑



55号土坑



56号土坑



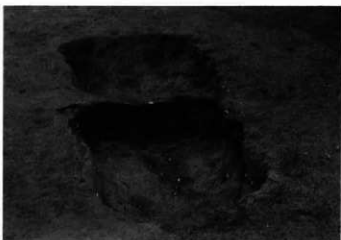
56号土坑



B類土坑の埋没土断面と全景(1)



1号土坑



1号土坑



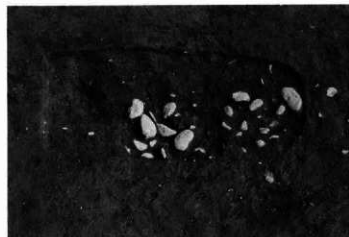
2号土坑



2号土坑



3号土坑



3号土坑



7号土坑



7号土坑



30号土坑



30号土坑



8号土坑



8号土坑



16号土坑



16号土坑



29号土坑



29号土坑



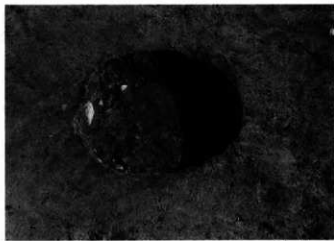
26号土坑



26号土坑



6号土坑



6号土坑



9号土坑



9号土坑



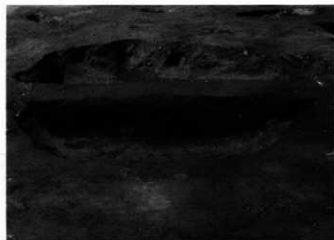
10号土坑



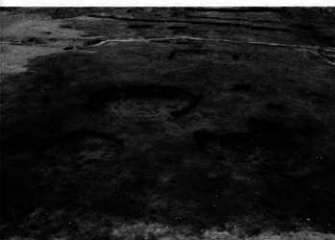
10号土坑



18号土坑



19号土坑



17・18・19号土坑



52号土坑



67号土坑



67号土坑



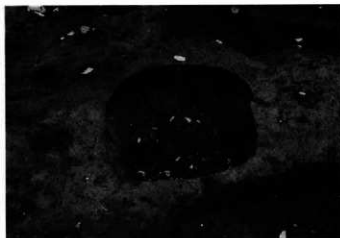
13号土坑



13号土坑



31号土坑



31号土坑

E類土坑の埋没土断面と全景(1)



1号土坑



17号土坑



14号土坑



14号土坑



20号土坑



51号土坑



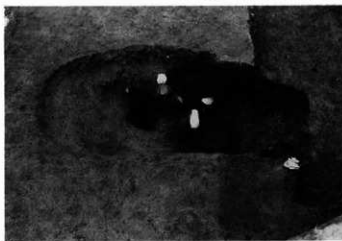
21号土坑



21号土坑



54号土坑



59号土坑



57号土坑



57号土坑



58号土坑



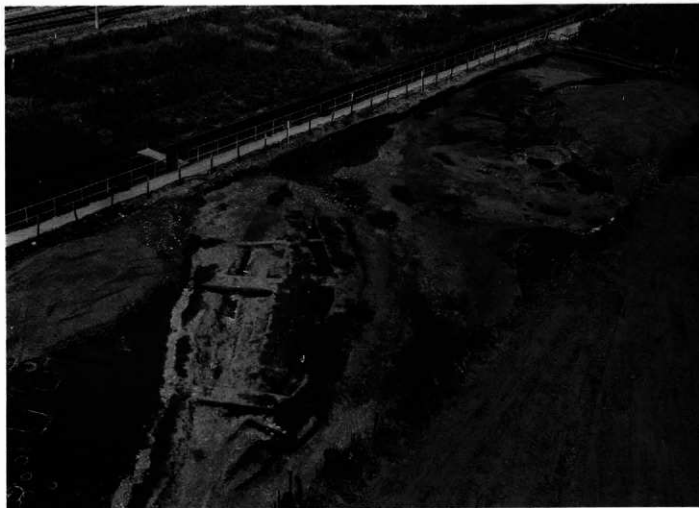
58号土坑



56・59・60号坑周辺



53・54・56・58号土坑周辺



1. 1—5号洞全景



2. 3—5号洞全景



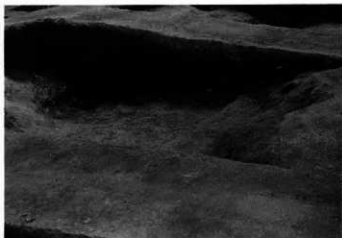
3. 10号洞埋没土断面



4. 14·15号洞全景



1. 12号溝全景



2. 13号溝埋没土断面



3. 13号溝全景



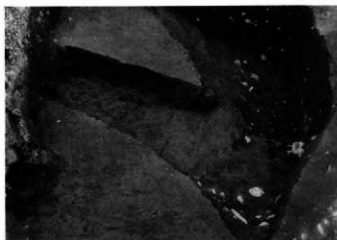
4. 17・18号溝全景



1. 17号溝埋没土断面



2. 17号溝遺物出土状態



3. 19号溝埋没土断面



4. 20号溝埋没土断面



5. 20・21号溝全景



6. 22号溝全景



1. 1号井户全景



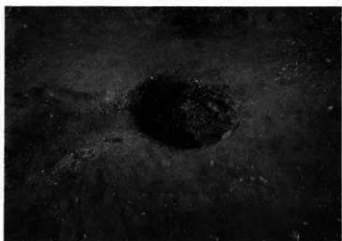
2. 1号井户埋没土断面



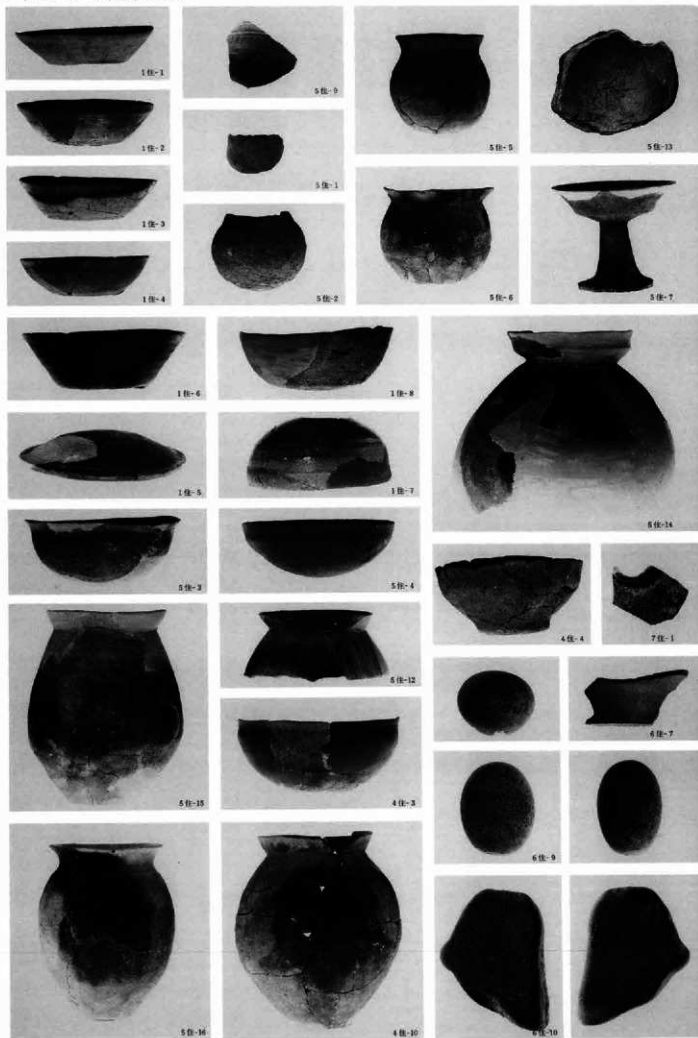
3. 2・4号井户

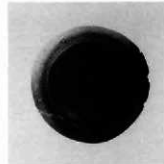
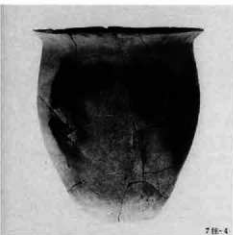


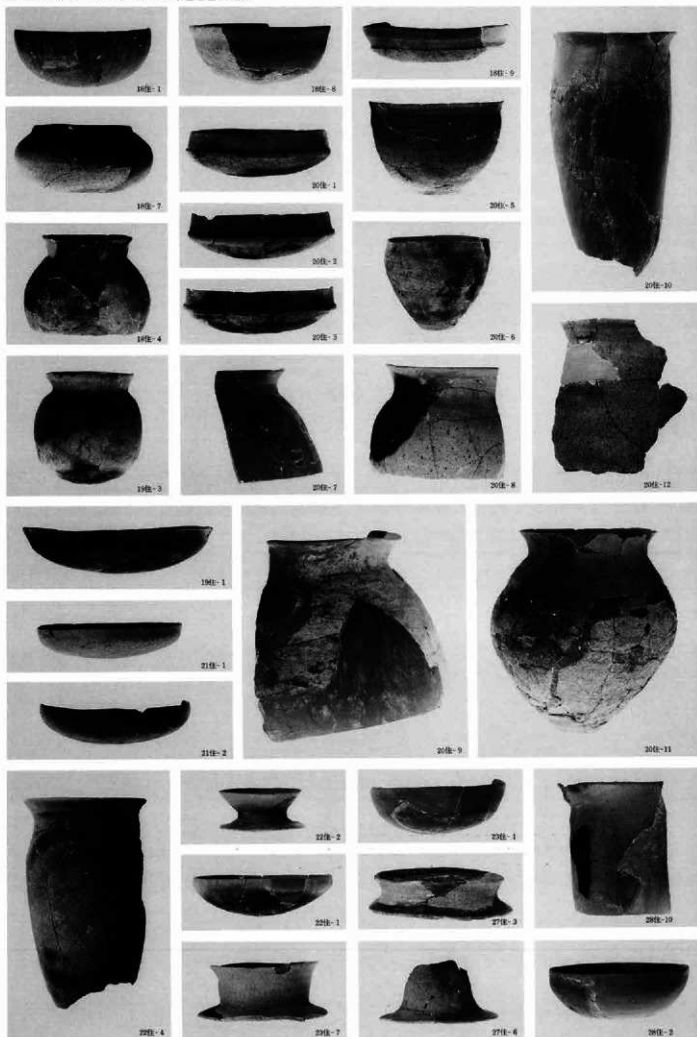
4. 3号井户埋没土断面

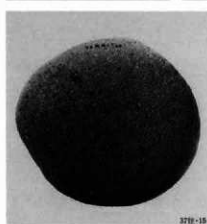
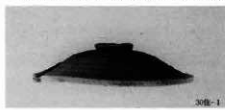
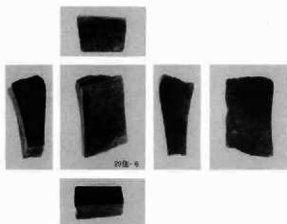
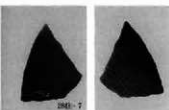


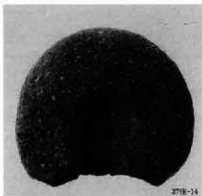
5. 3号井户全景











37B-14



38E-1



38E-2



38E-4



38E-7



38E-9



38E-10



38E-1



38E-30



38E-5



38E-6



38E-2



38E-7



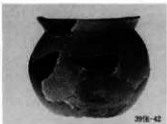
38E-10



39E-27



39E-40



39E-42



39E-33



39E-24



39E-14



39E-45



39E-36



39E-25



39E-34



39E-35



39E-29



39E-30



39E-48



39E-40



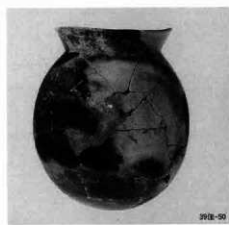
39E-37



39E-47



39E-49



39E-50



39E-53



41E-6



49E-8



41E-7



43E-1



47E-1



41E-14



49E-7



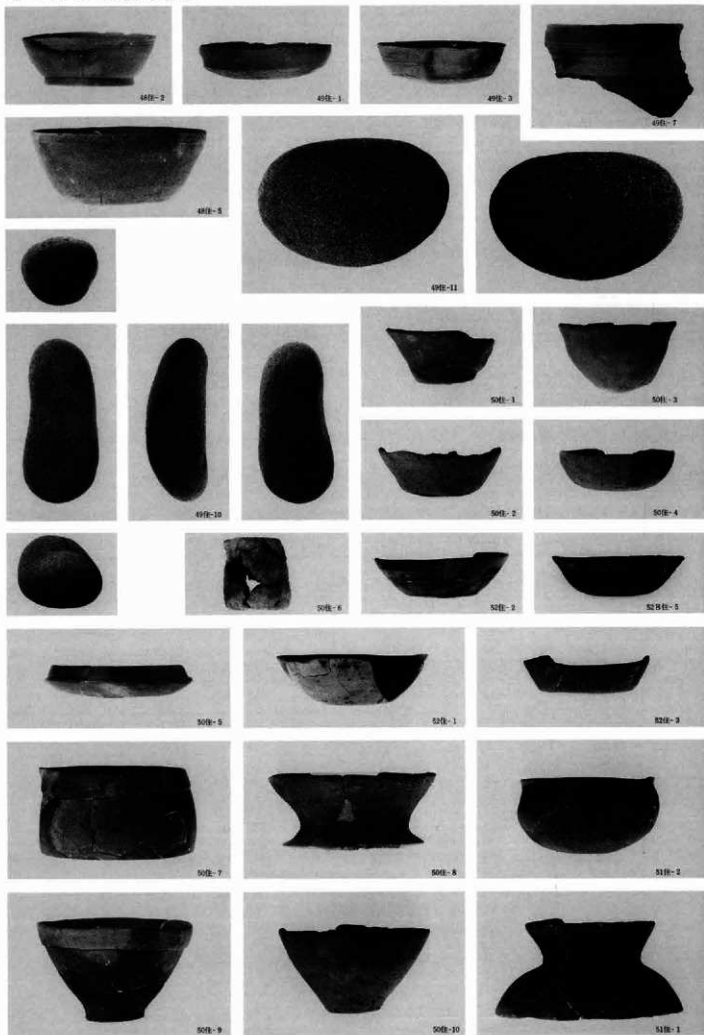
43E-2

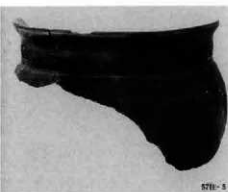
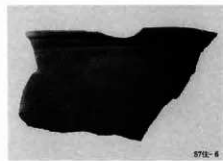


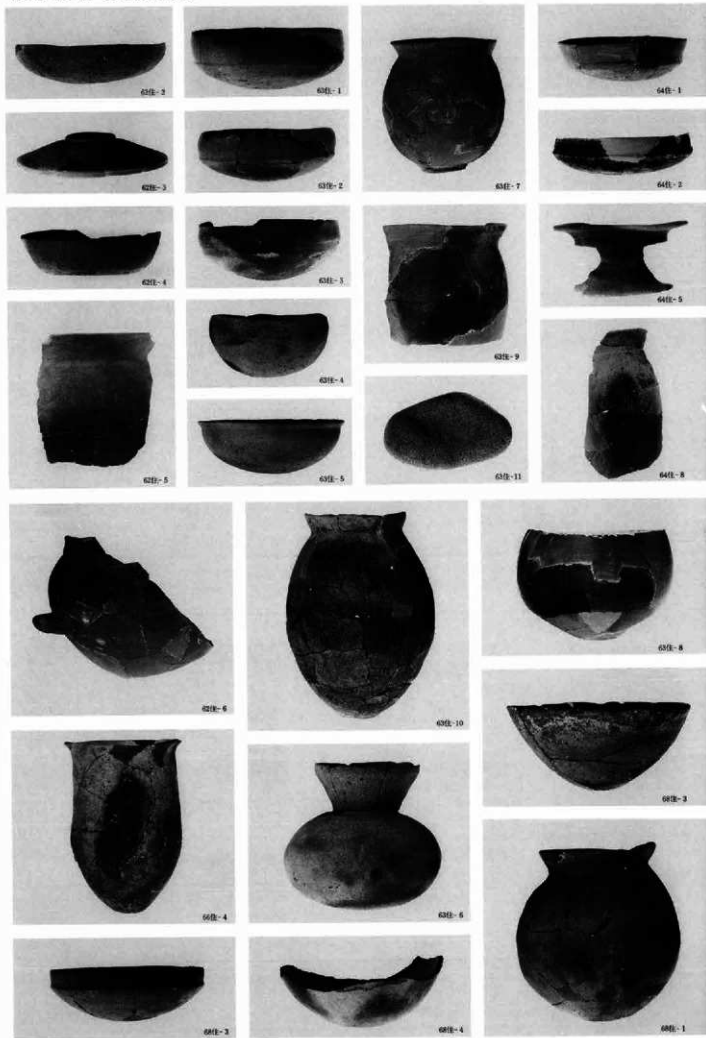
49E-1



49E-3









74B-1



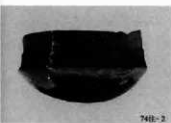
74B-8



76B-1



78B-3



74B-2



77B-4



77B-5



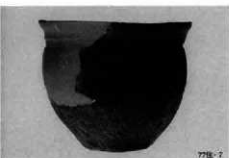
74B-3



77B-3



77B-11



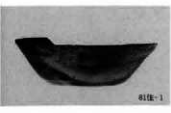
77B-7



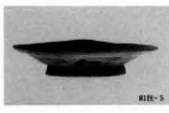
77B-9



81B-9



81B-1



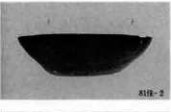
81B-5



82B-1



82B-4



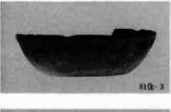
81B-2



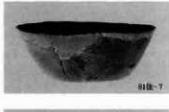
81B-6



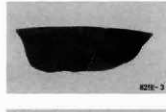
82B-2



81B-3



81B-7



82B-3



81B-10



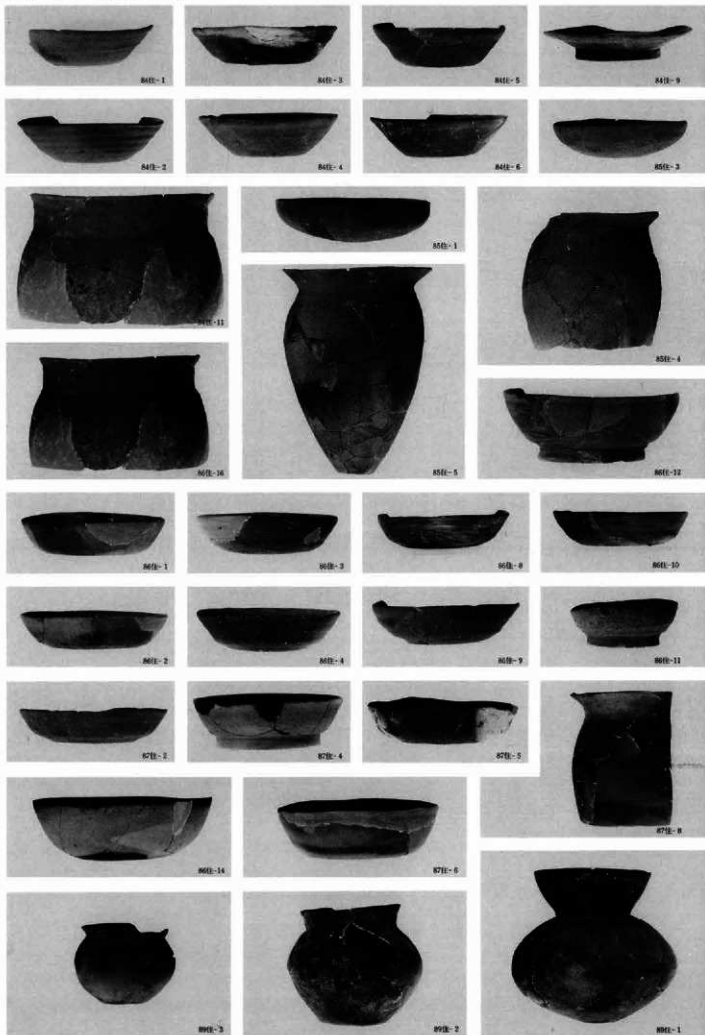
83B-2

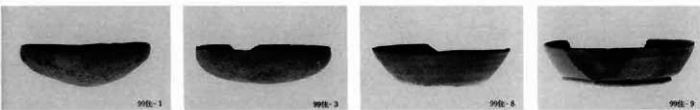
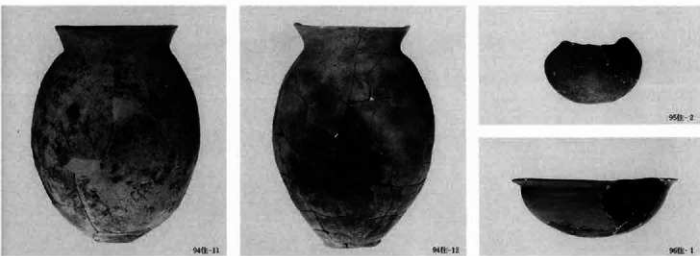
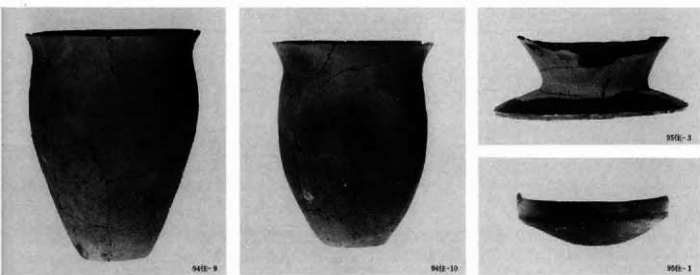
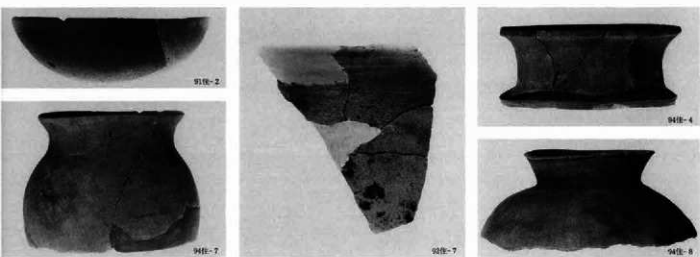
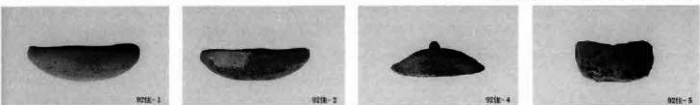


83B-6



83B-5









2-91A



7-298A



9-73A



11-745A



3-422A



4-422A



6-515A



5-322A



1-1A



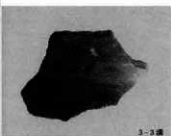
6-5A



9-5A



12-12A



3-3A



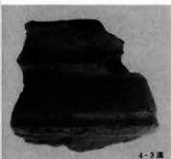
7-5A



9-5A



10-5A



4-3A



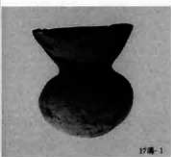
12-12A



16-12A



17-13A



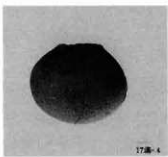
17高-1



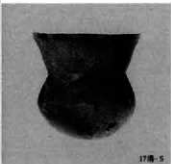
17高-2



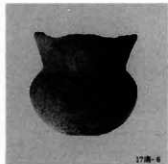
17高-3



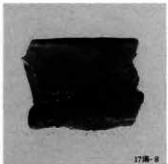
17高-4



17高-5



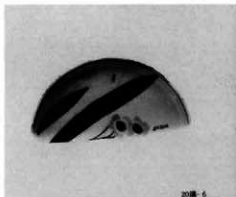
17高-6

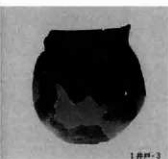


17高-8



17高-9





成塚石橋遺跡

一級河川荒川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

昭和63年12月20日 印刷

昭和63年12月24日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

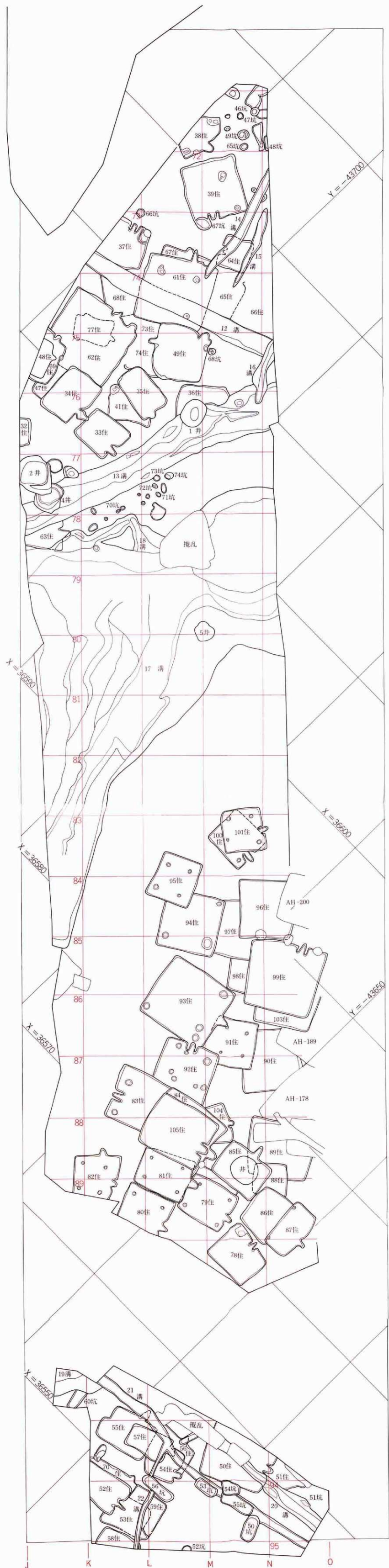
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社



付図 成塚石橋遺跡遺溝全体図

